

2021年度 学生生活実態調査

集計結果

—グラフ資料—

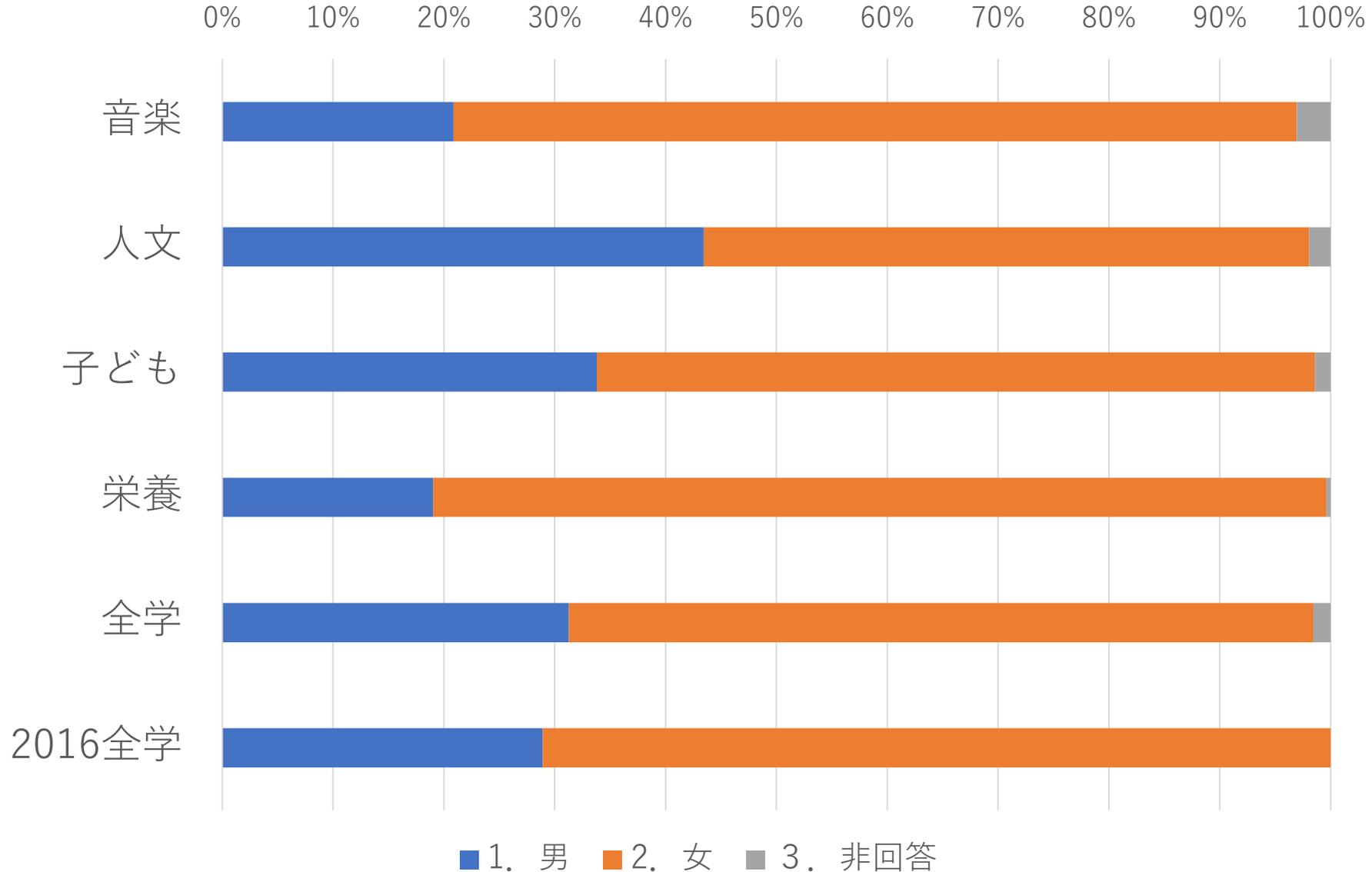
調査概要

- 調査時期 2021(令和3)年 7月
(2020年実施予定を1年遅れて実施)
- 調査対象 相愛大学に所属する全学生 回答数:1020
- 調査方法 自記式アンケート・無記名
マークシート方式 (一部、自由回答を含む)
- 調査内容
基礎情報、正課外活動、情報機器、
満足度・充実度、コロナ禍の状況 など

質問Q1~Q7

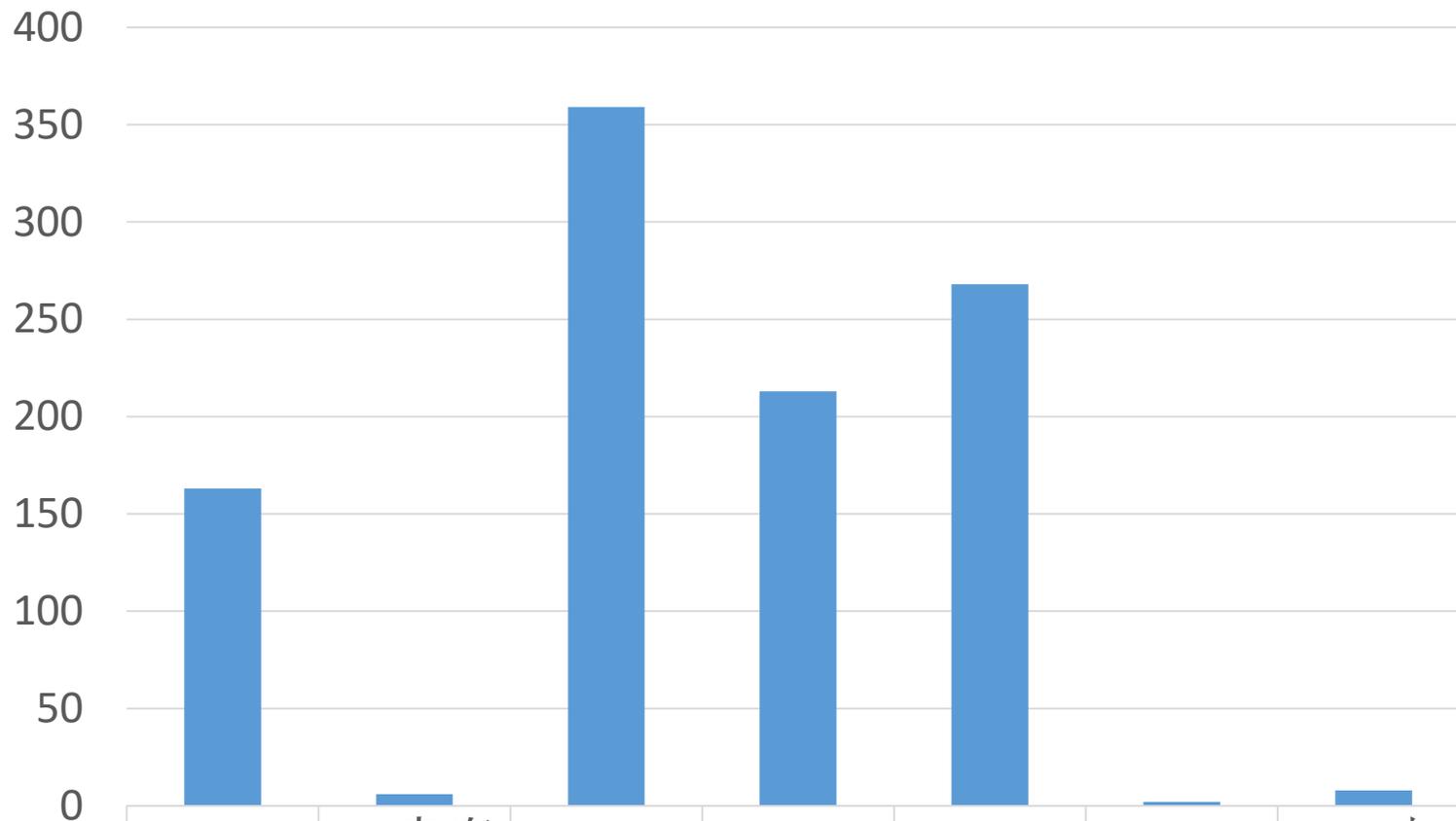
基礎・概要

Q1. 性別



全体の数値は、男子学生が31.3%、女子学生が67.2、となっている。前回2016年と比較するとわずかに男性が増えている

Q2. 所属学部・学科



■ 学生数

163

6

359

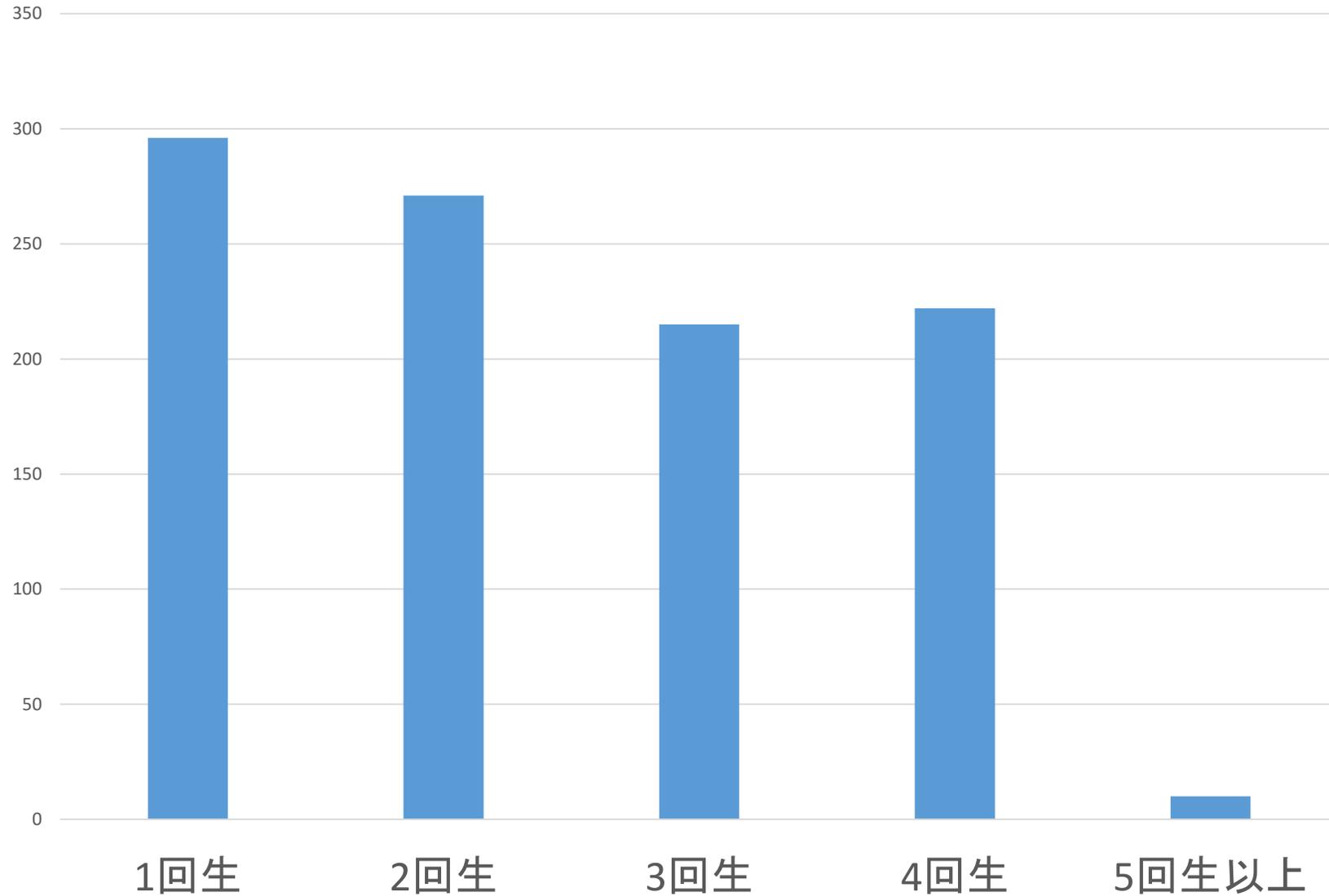
213

268

2

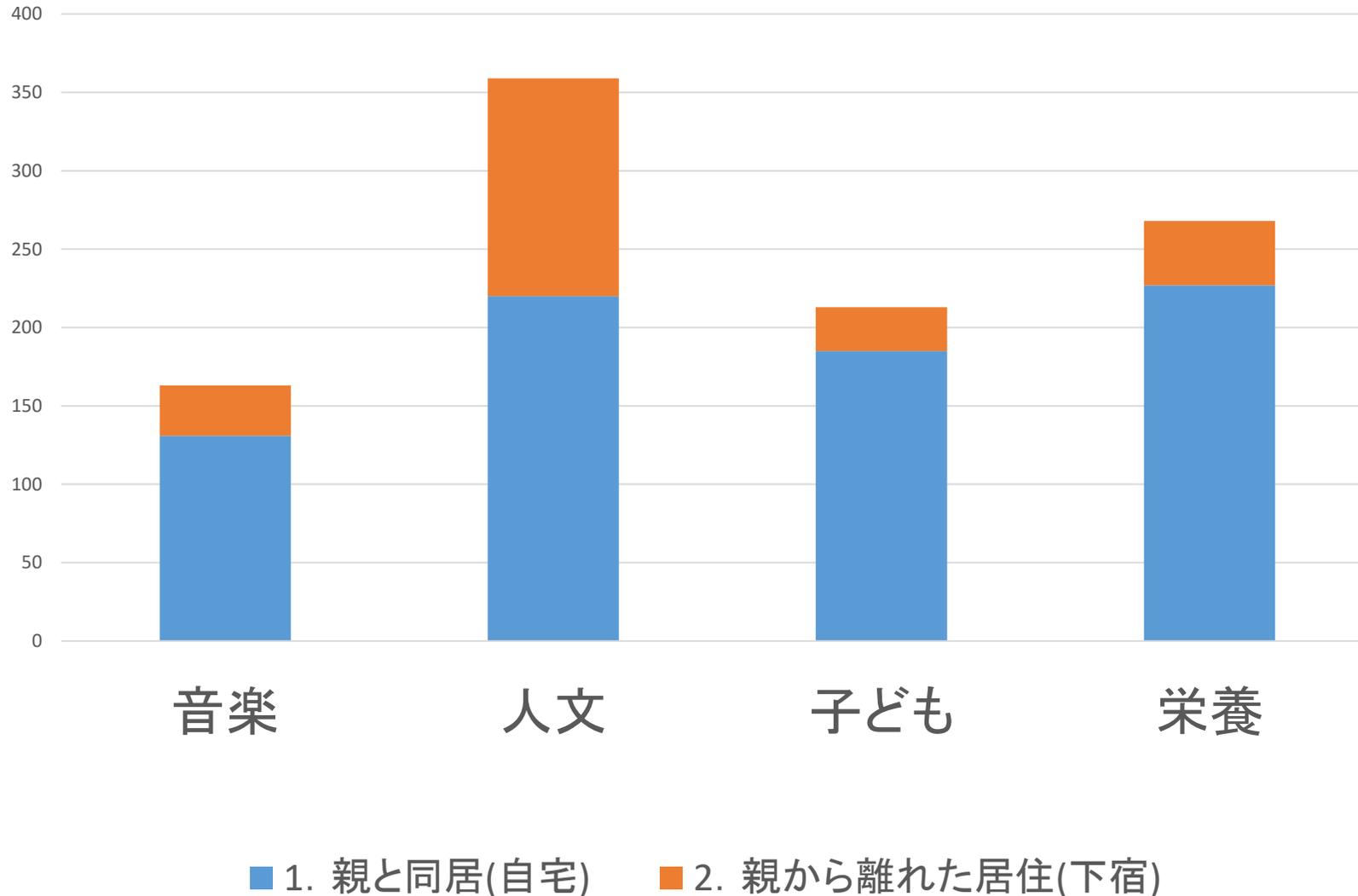
8

Q3. 入学年度



2019年入学者(3回生)が最も少なく、その後の20年度(2回生)、21年度(1回生)と増加傾向にある。

Q 5. 現在の居住形態

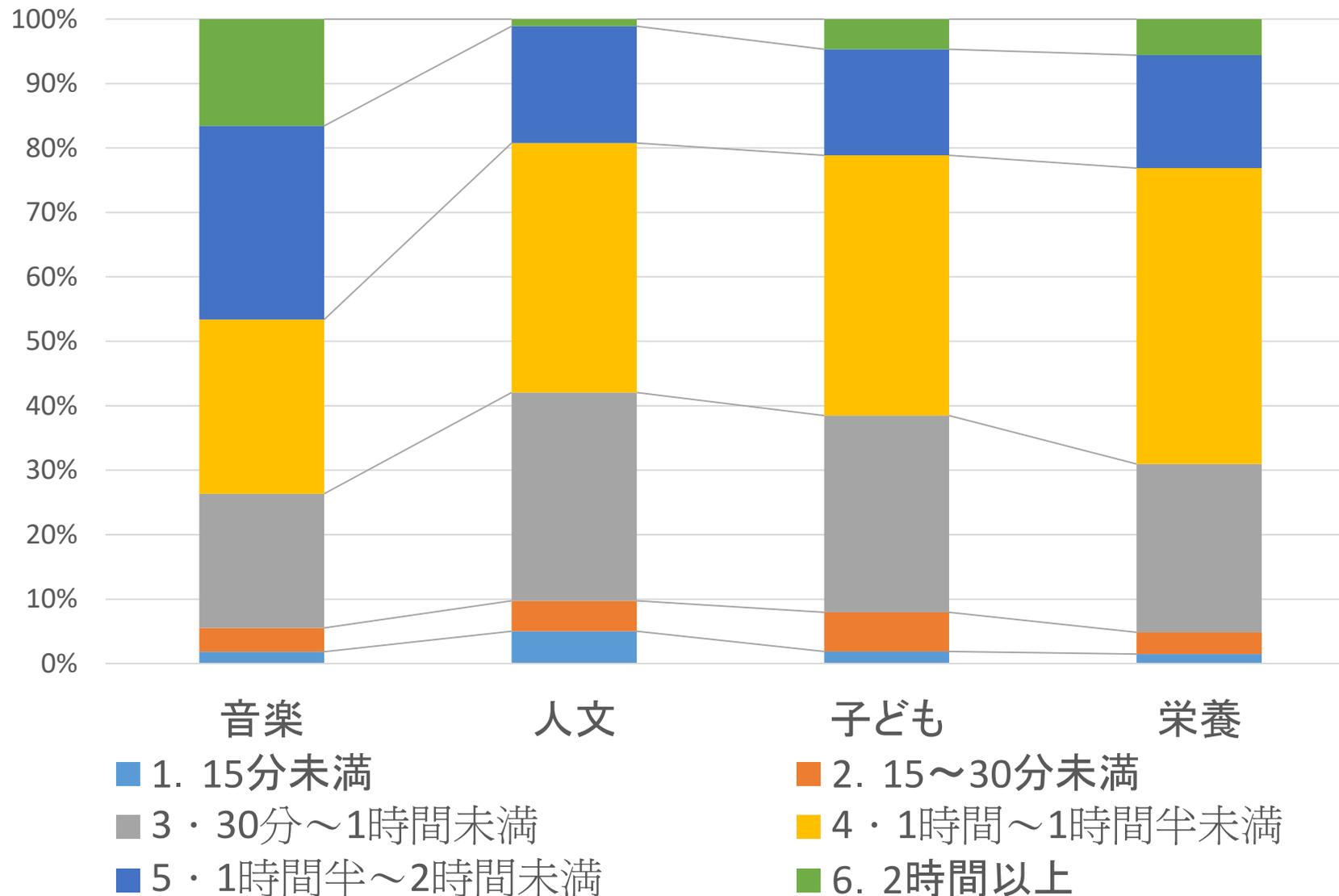


全体では、自宅：76.3%、
下宿：23.7%となっている。
前回2016年（自宅：75.1%、
下宿：24.9%）とほぼ同水
準となっている。

人文学部の下宿率が高く
なっているのは、留学生の
比率が多いためと考えられ
る。

Q 6. 通学に要する時間

(自宅または下宿を出てから大学に到着するまでの所要時間)

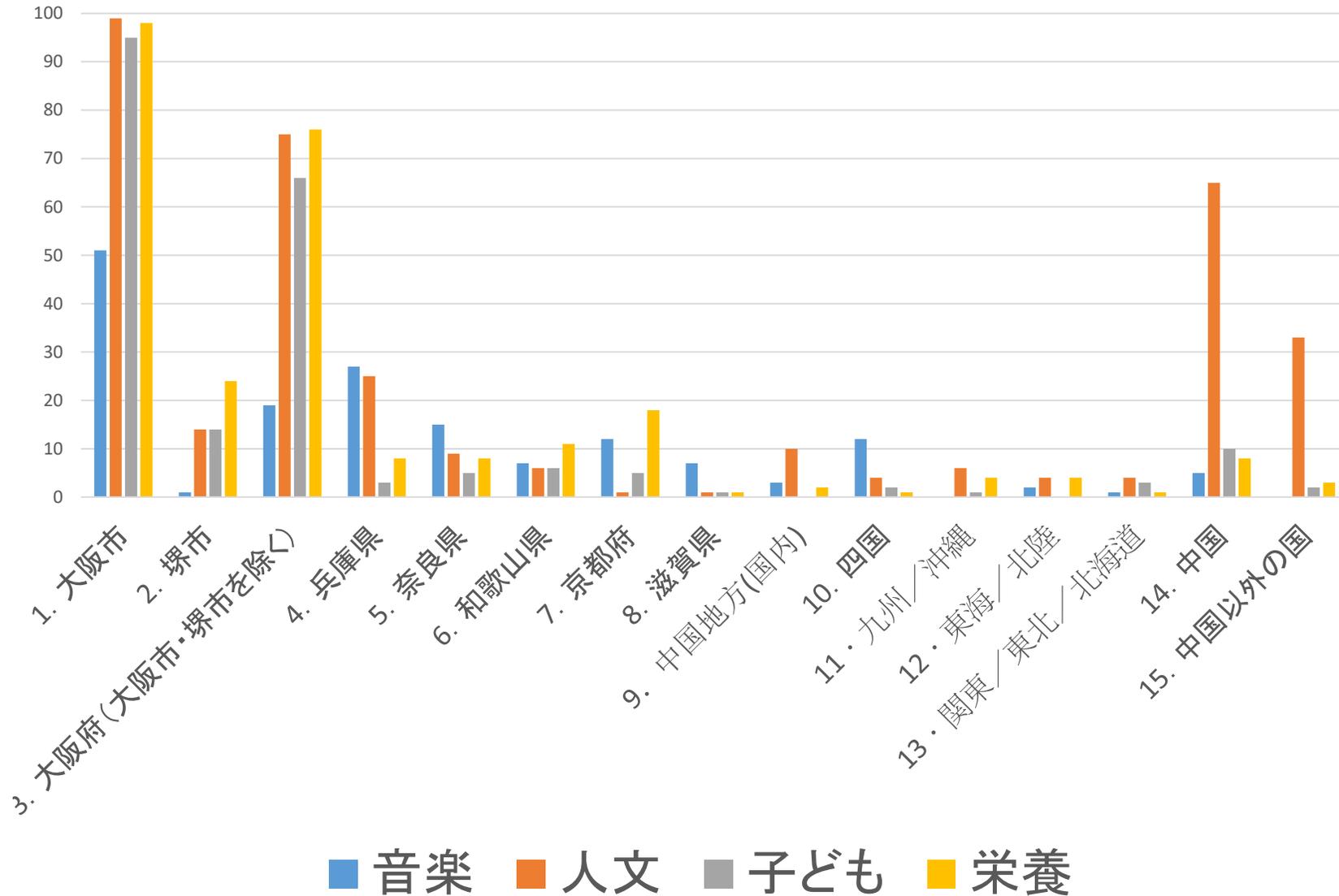


音楽は1時間半～2時間以上の割合が高い。

人文学部は、短時間の学生の割合が多い。

1時間以内の学生が多いのは人文学部 > 子ども発達学科 > 発達栄養学科の順である。人文学部の短時間通学の割合が高い理由として、留学生・下宿学生が多いことが考えられる。

Q 7. 出身高校の所在地

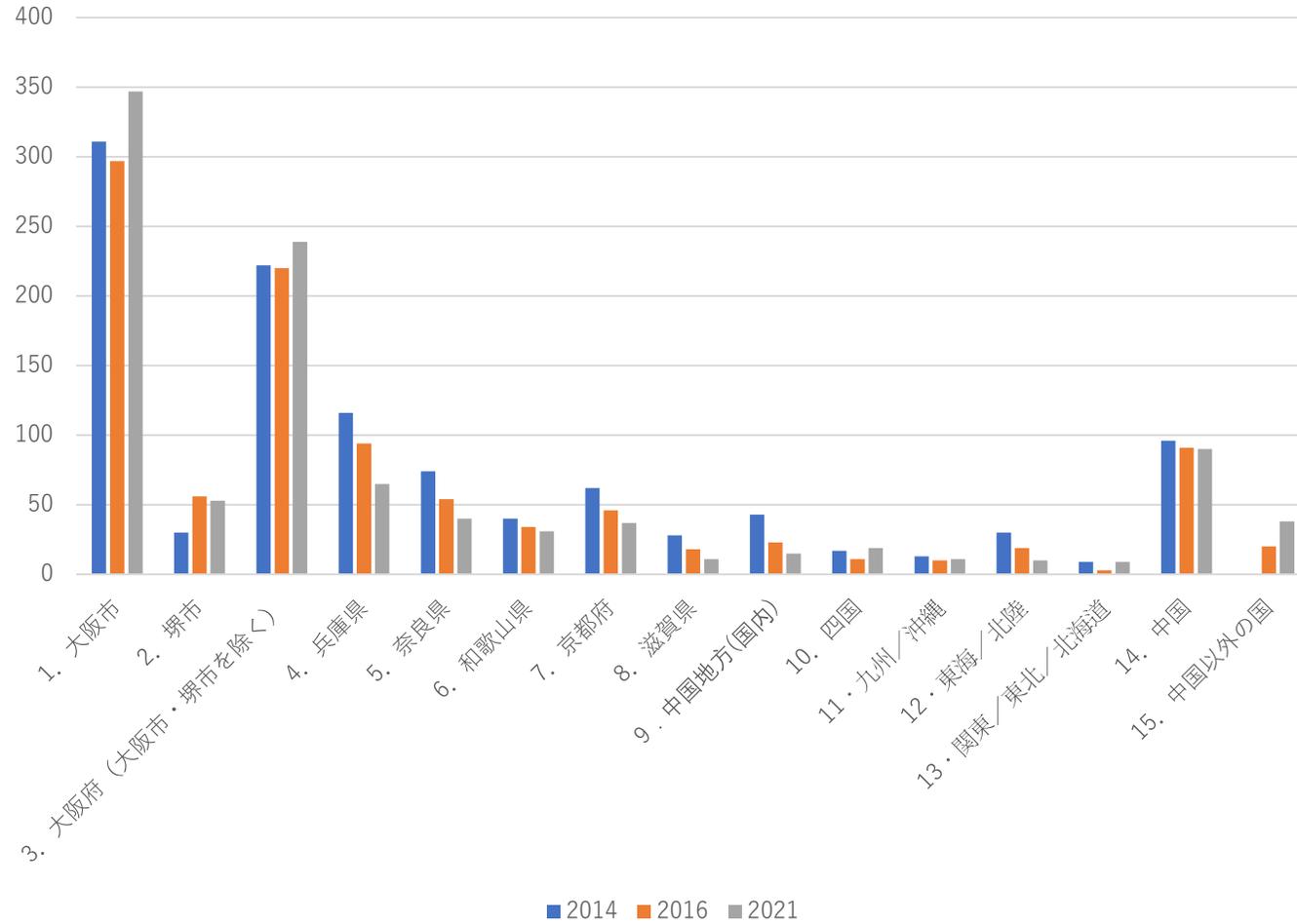


大阪市内/大阪府下の割合が高い。

全体の数値を前回2016年と比較すると、大阪市内が増加(29.6→34.2%)し、その分、近隣の各地域が微減となっている。(兵庫のみ微増)留学生は中国以外の国の割合が増加している。

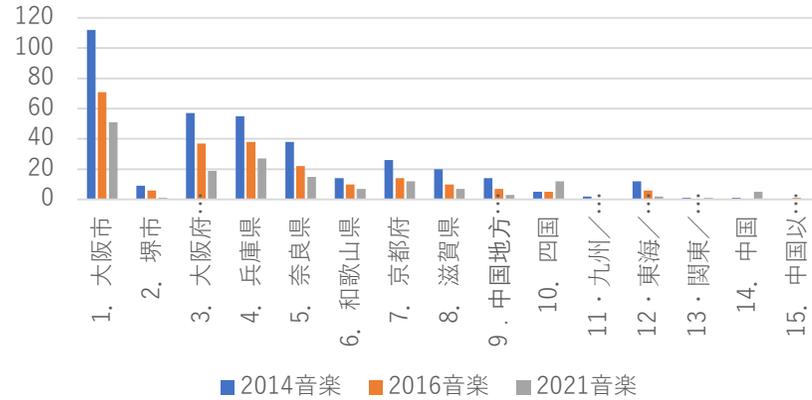
Q7. 出身高校の所在地

府県別出身高校所在地

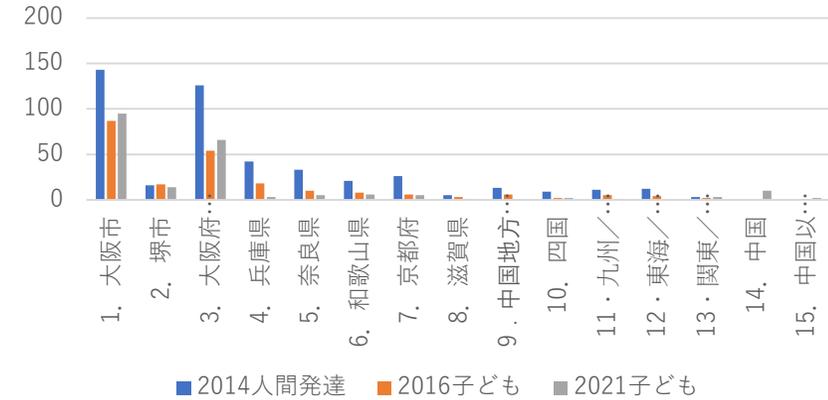


Q7. 出身高校の所在地

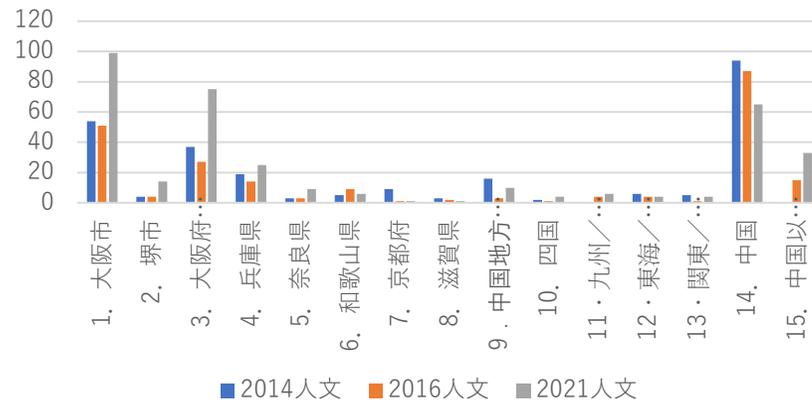
府県別出身高校所在地（音楽学部）



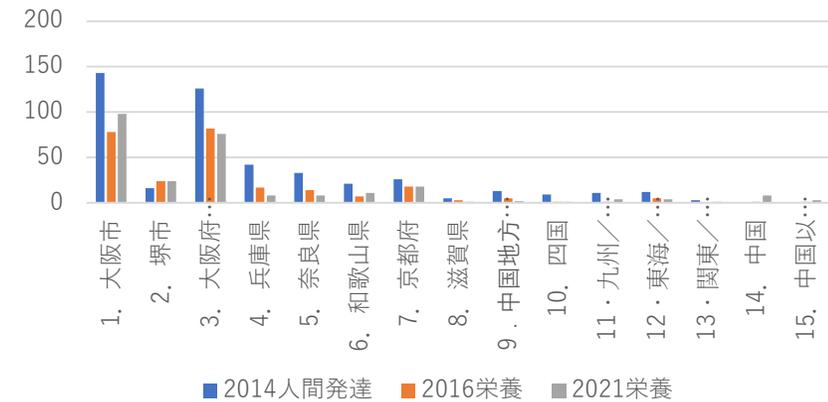
府県別出身高校所在地（子ども）



府県別出身高校所在地（人文学部）



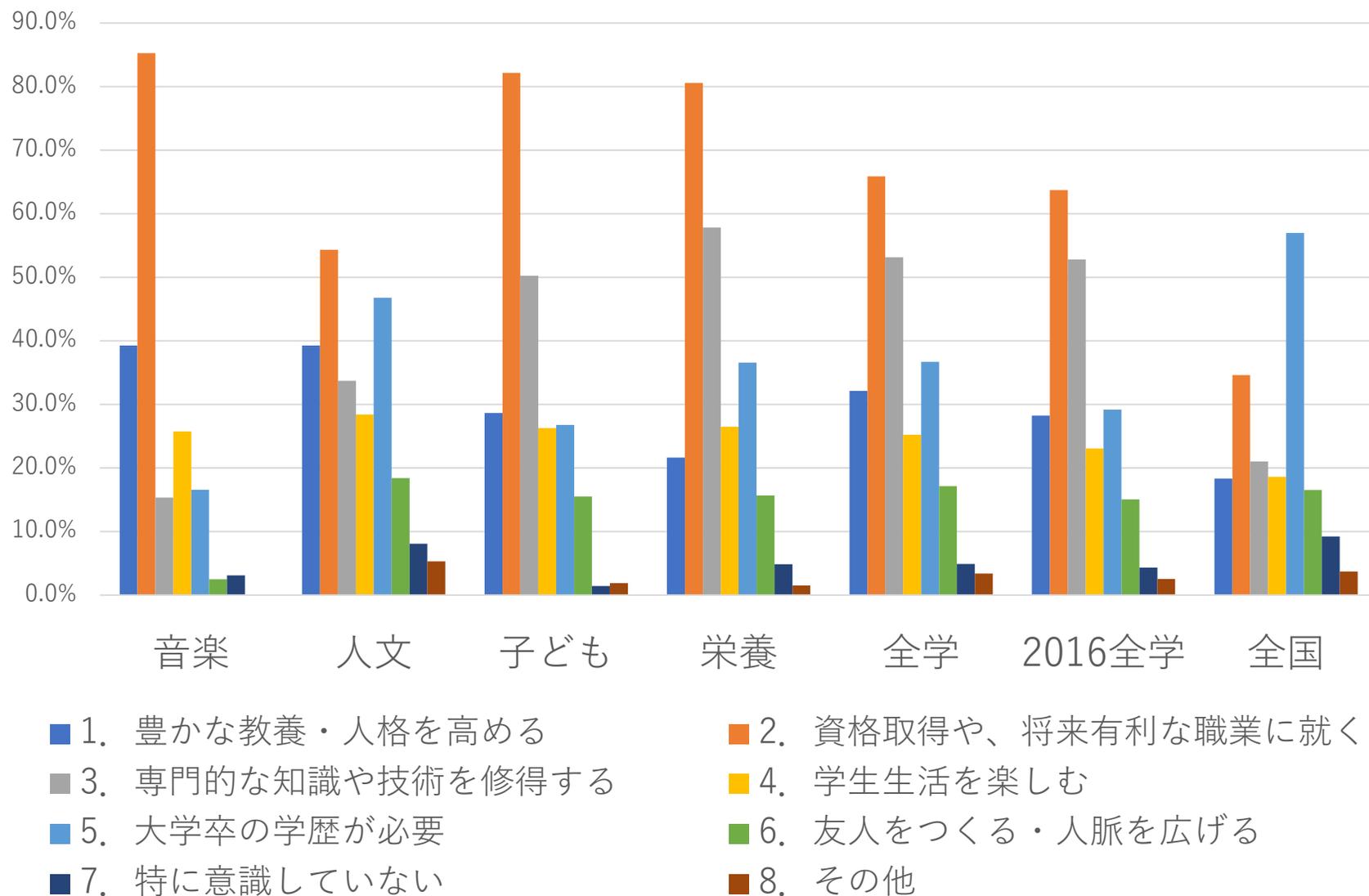
府県別出身高校所在地（栄養）



質問Q8～Q14

学修への意識・姿勢

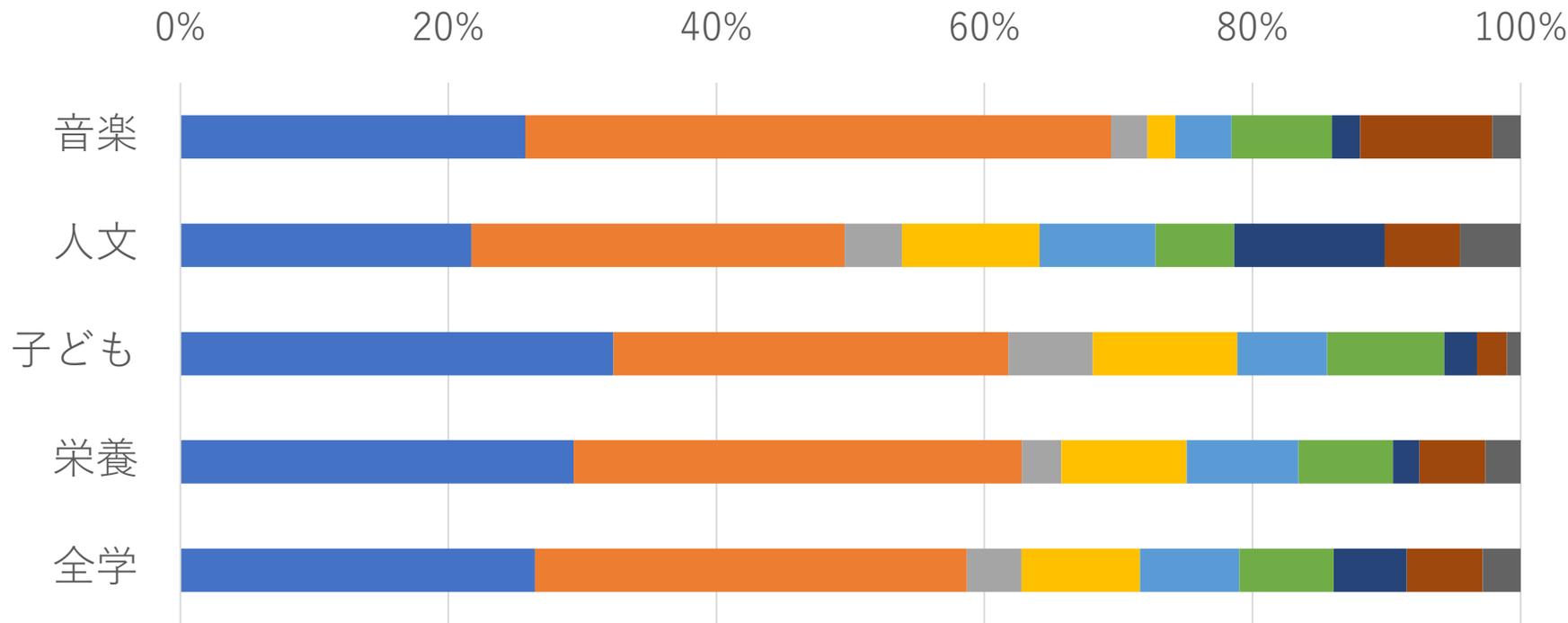
Q8. 大学生生活の目的 (複数回答・3つまで)



「資格取得・職業」は全学科でもっとも票が投じられた項目。全国の大学と比較しても、本学では「資格取得・職業」を目的に入学してくる学生がいかに多いかがわかる。特に、音楽・子ども・栄養は、他の項目を引き離しダントツ1位である。子どもや栄養では次に「専門知識・技術」が多く、「資格取得と職業」と「専門知識・技術」との結びつきが感じられるが、音楽では「専門知識・技術」が低い値になっており、音楽の学生は「職業」と「専門知識・技術」とを結びつけて考えていないように思われる。人文学部では多くの項目に回答が分散しているが、「大学卒の資格が必要」が2番目に多かったことは他学科との比較において特徴の一つと言える。子どもや栄養では「豊かな教養・人格」は音楽と人文より少なかったことから、より実学的志向性が高いことがうかがい知れる。

Q9. 大学に入ってよかったと思う点

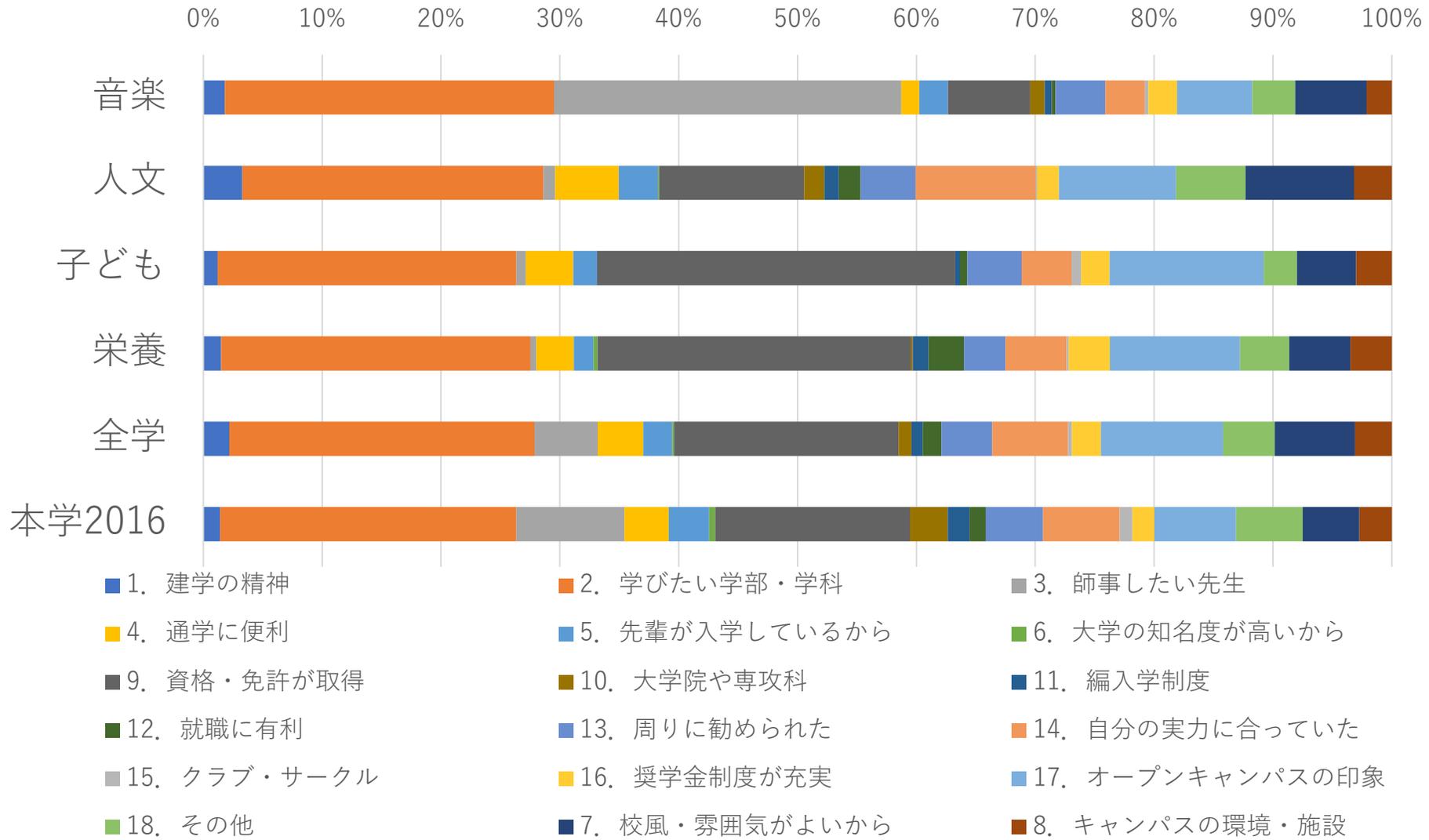
(3つまで複数)



- 1. 友人を得た
- 2. 知識や技術が身についた
- 3. クラブ・サークル等
- 4. 遊べる時間が持てたこと
- 5. アルバイトができたこと
- 6. 大学祭・ボランティア活動
- 7. 本を読む機会が増えたこと
- 8. 先生と親しくなれたこと
- 9. その他

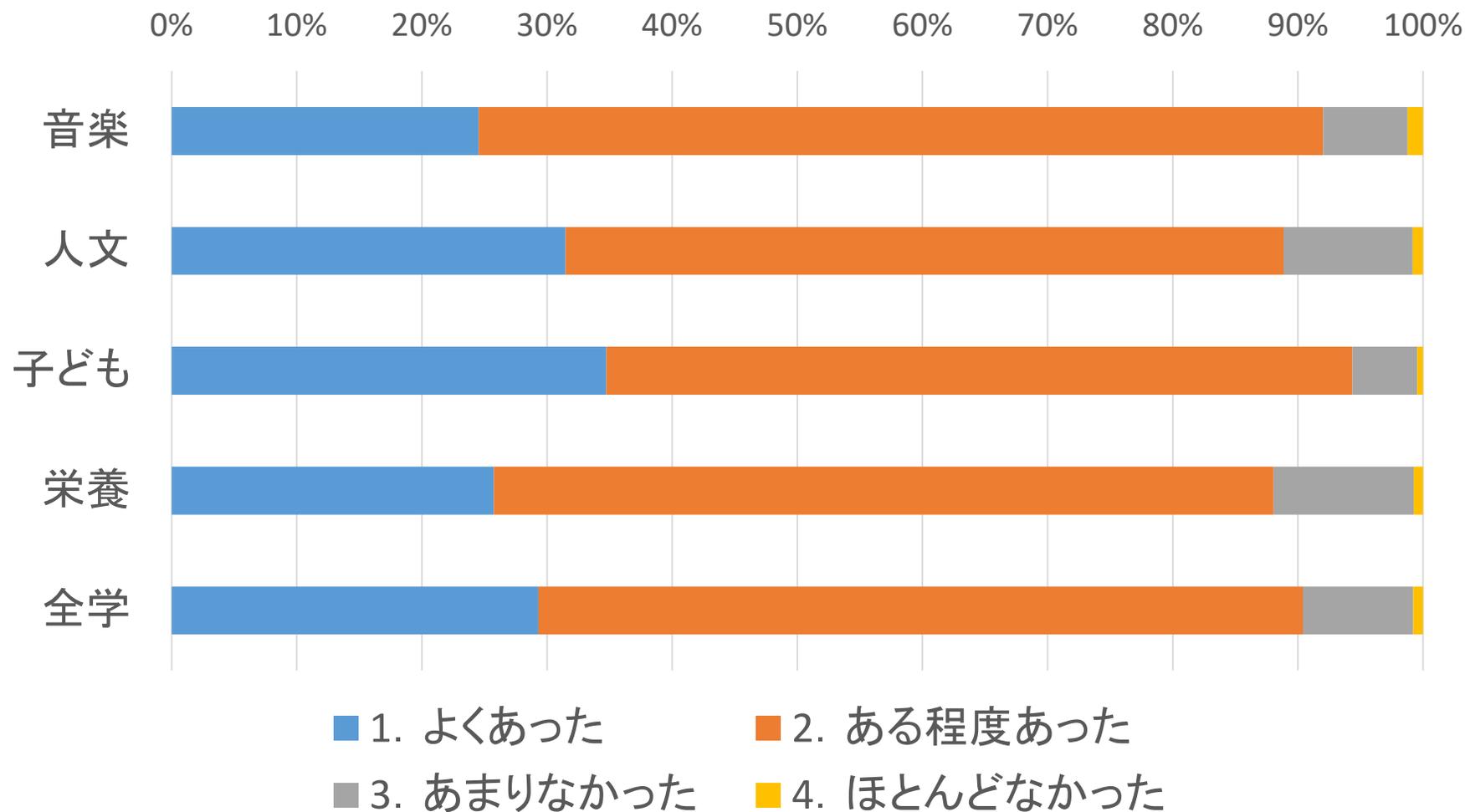
「知識/技術の習得」への投票が多いが子どものみ、「友人を得た」の値が若干上回っている。音楽では「遊べる時間が持てた」と「アルバイトができた」が他学科に比べて極端に少ない。人文は「友人」「知識技術の習得」の合計とそれ以外の項目との割合が半々になっており、他学科に比べて選ばれている項目が分散している。その中では「本を読む機会が増えた」の回答が多めである。子どもは他学科に比べて「大学祭・ボランティア活動」が多めになっている。

Q10. 相愛大学を選んだ理由は何ですか (3つまで選んでください)



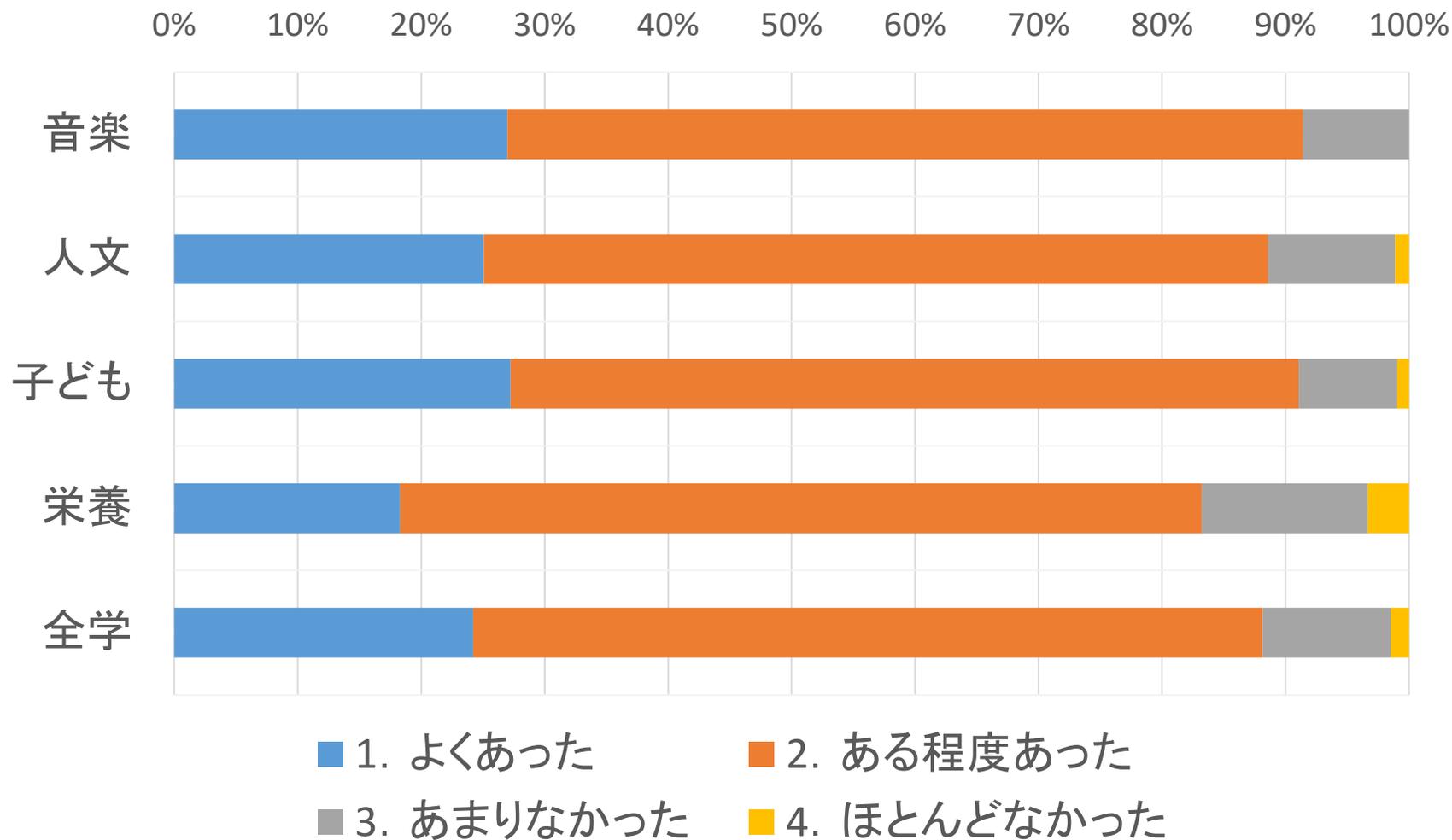
音楽は「師事したい先生」が多い。人文は多様な意見が見られるが、他学科に比べ「校風/雰囲気」「実力に合っていた」などが比較的多めであった。子どもと栄養は「資格/免許」が多く、子どもは「オープンキャンパスの印象」が音楽・人文と比較して多めになっている。栄養の方でも、学科内の回答では「オープンキャンパスの印象」への選択が多かった。「オープンキャンパスの印象」は全学的にも2016と比較すると増加している。

Q11-1. 授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた



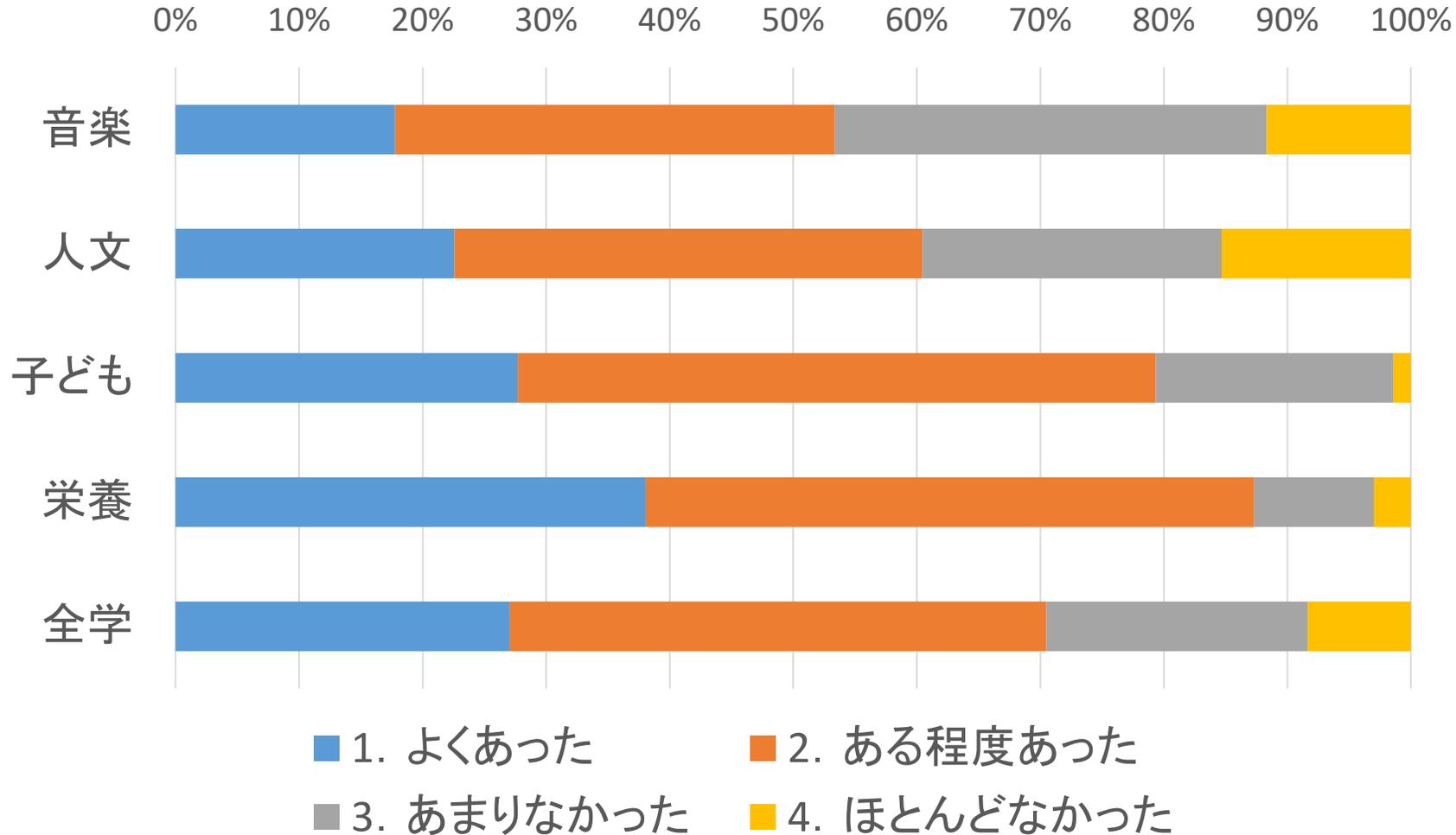
全学的に肯定的な評価となっているが、音楽と子どもが高く、人文と栄養がやや低めの数値となった。

Q11-2. 理解がしやすいように教え方が工夫されていた



全学的に肯定的な評価となっているが、学科の比較では、栄養が低めの数値となっている。

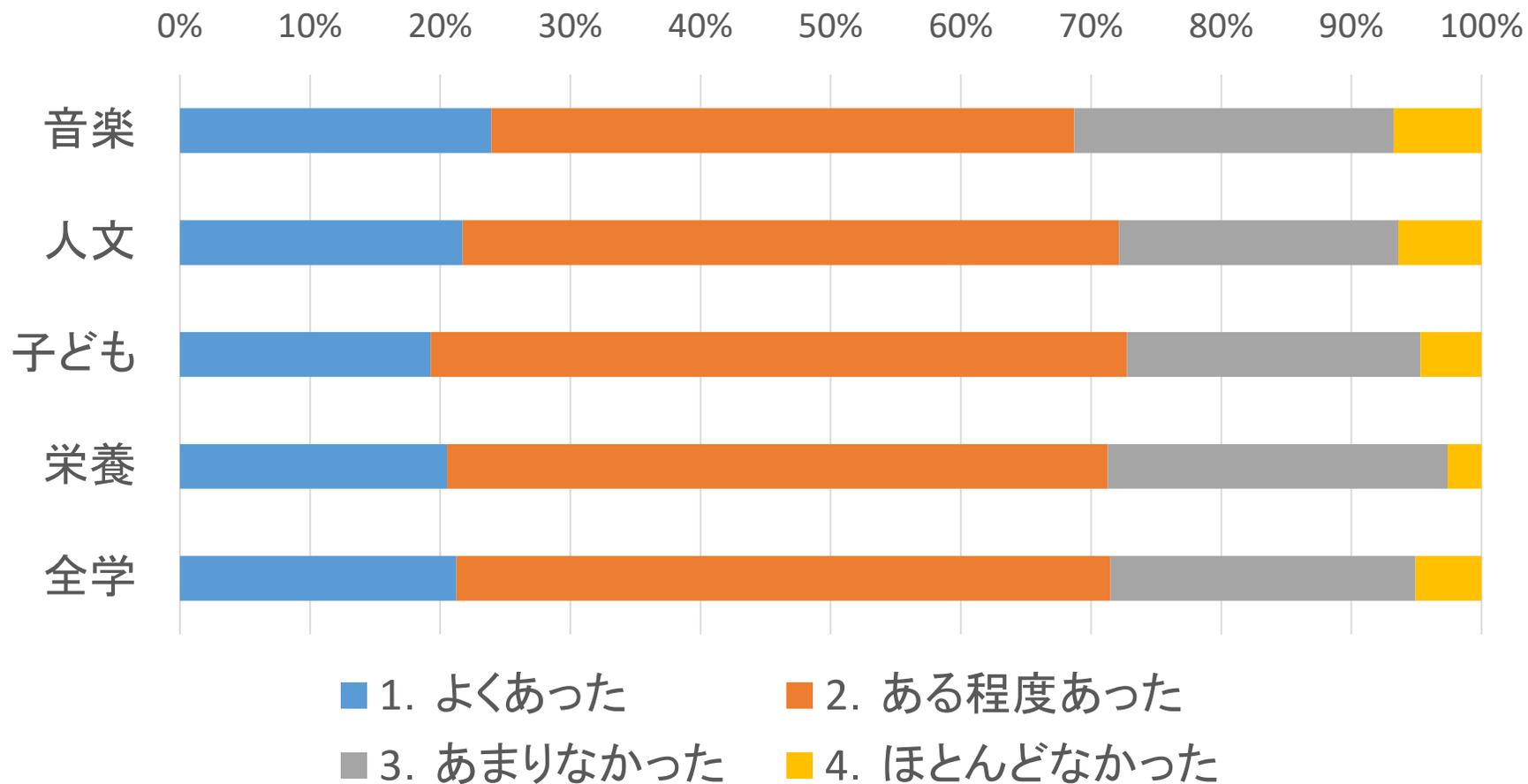
Q11-3. 教員以外の者（TAなど）が配置 されており、補助的な指導があった



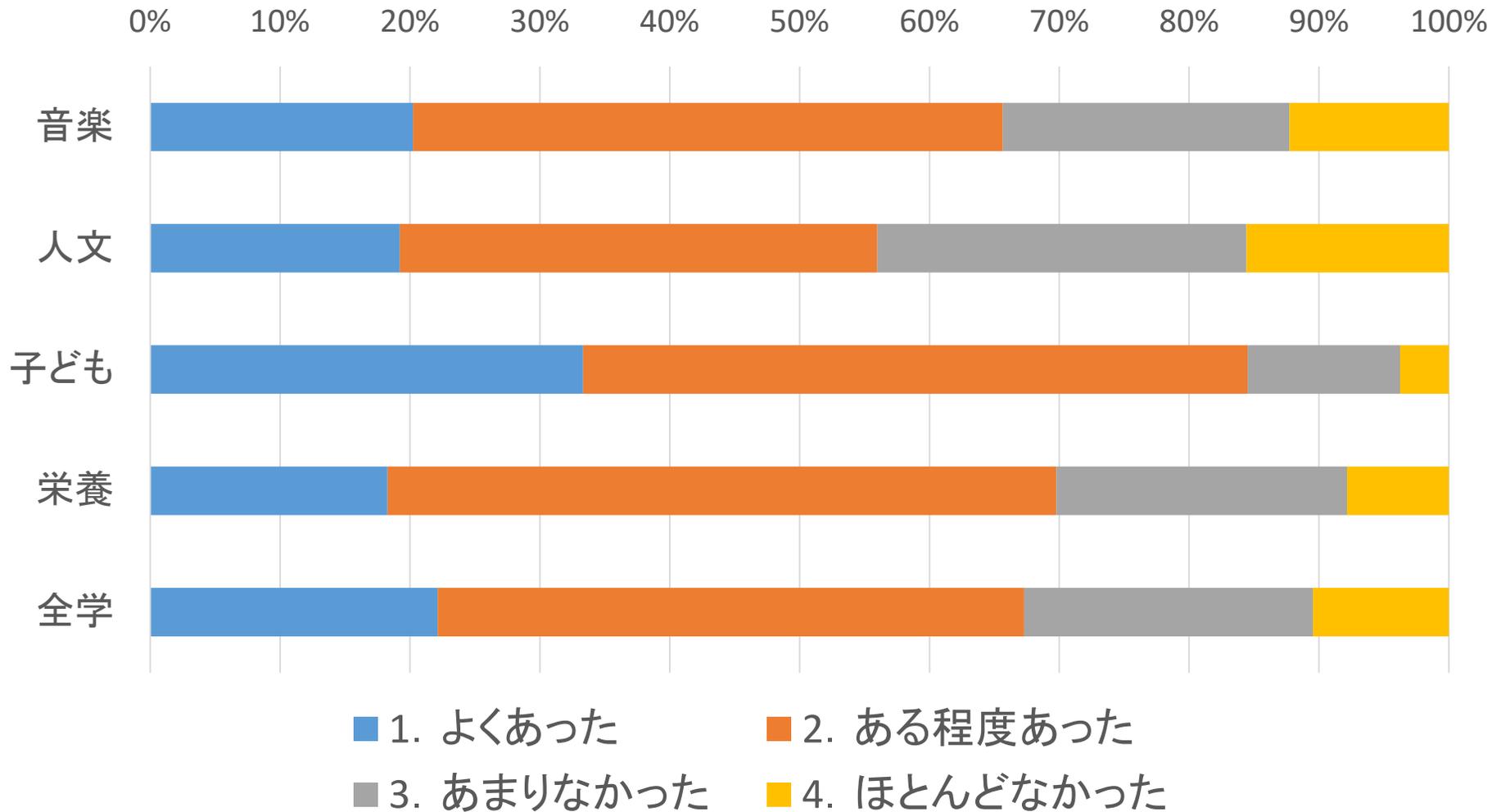
栄養が最も高く、次いで子どもとなっている。両学科はTA等を積極的に活用していることがわかる。音楽が低めとなっているが、TA等の補助的指導ではなく、教員による指導を重視する教育内容の影響が大きいと思われる。ただし人間発達学部ではTAに相応するものはSAと呼ばれている。人間発達2学科は多い値になっているが、栄養の方では、助手をTAと捉えた可能性がある。

Q11-4. 小テストやレポートなどの課題が出され
(期末テストは除く)、適切なコメントが付さ
れて課題などの提出物が返却された

この質問については、
学科間の差異はほとん
ど見られなかった

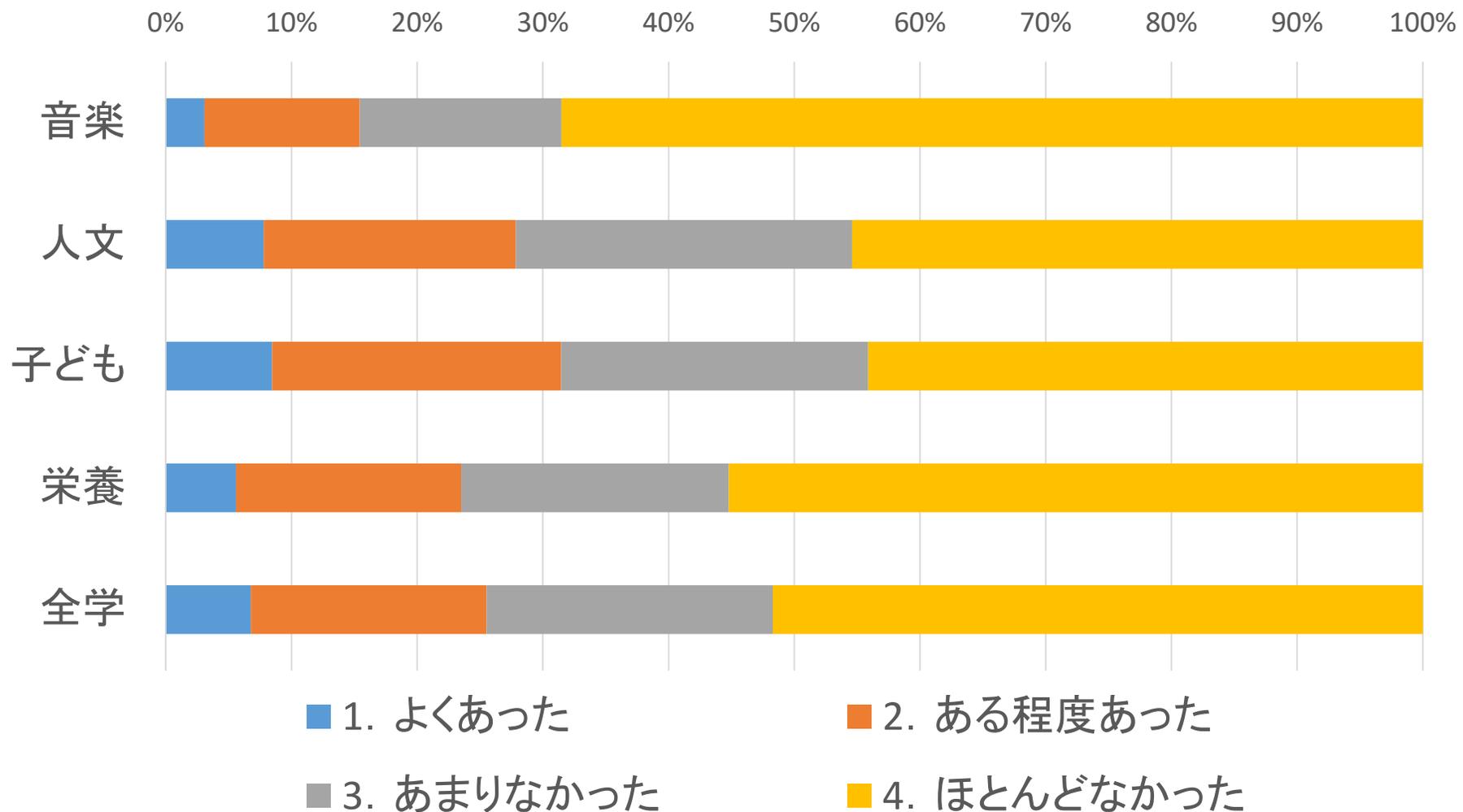


Q11-5. グループワークやディスカッションの機会があり、教員から意見を求められたり、質疑応答の機会があった



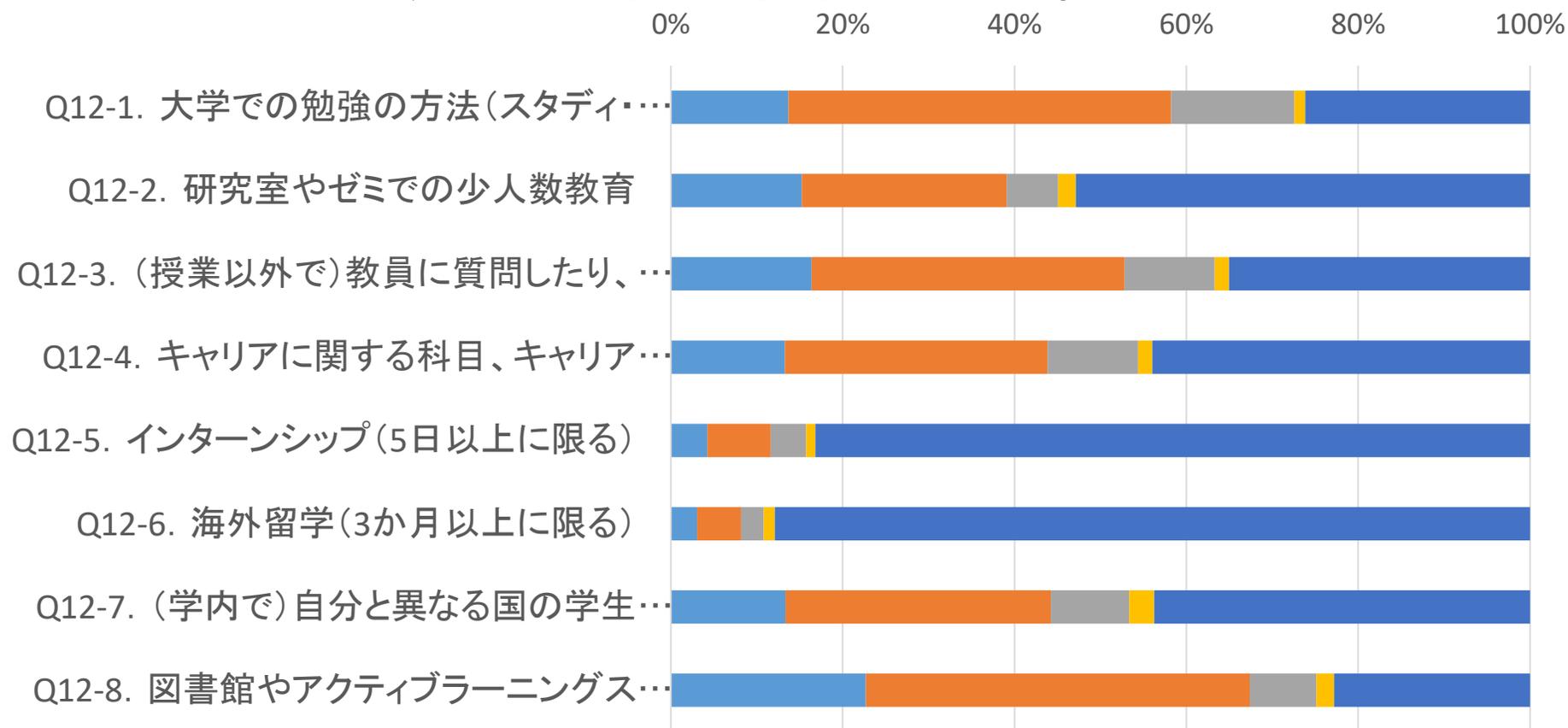
子ども次いで栄養の数値が高い。アクティブラーニング形式で授業が行われることが多いことによるのではないかと思われる。人文は、講義形式の座学が多いためか数値が低めとなっている。

Q11-6. 主に英語で行われる授業 (語学科目は除く) があった



人文・子どもで数値が高めとなった。人文では国際コミュニケーションコース、子どもでは英語の授業が関連しているとみられる。

Q12. 大学に入ってから次のような経験はありましたか、その経験は有用でしたか。

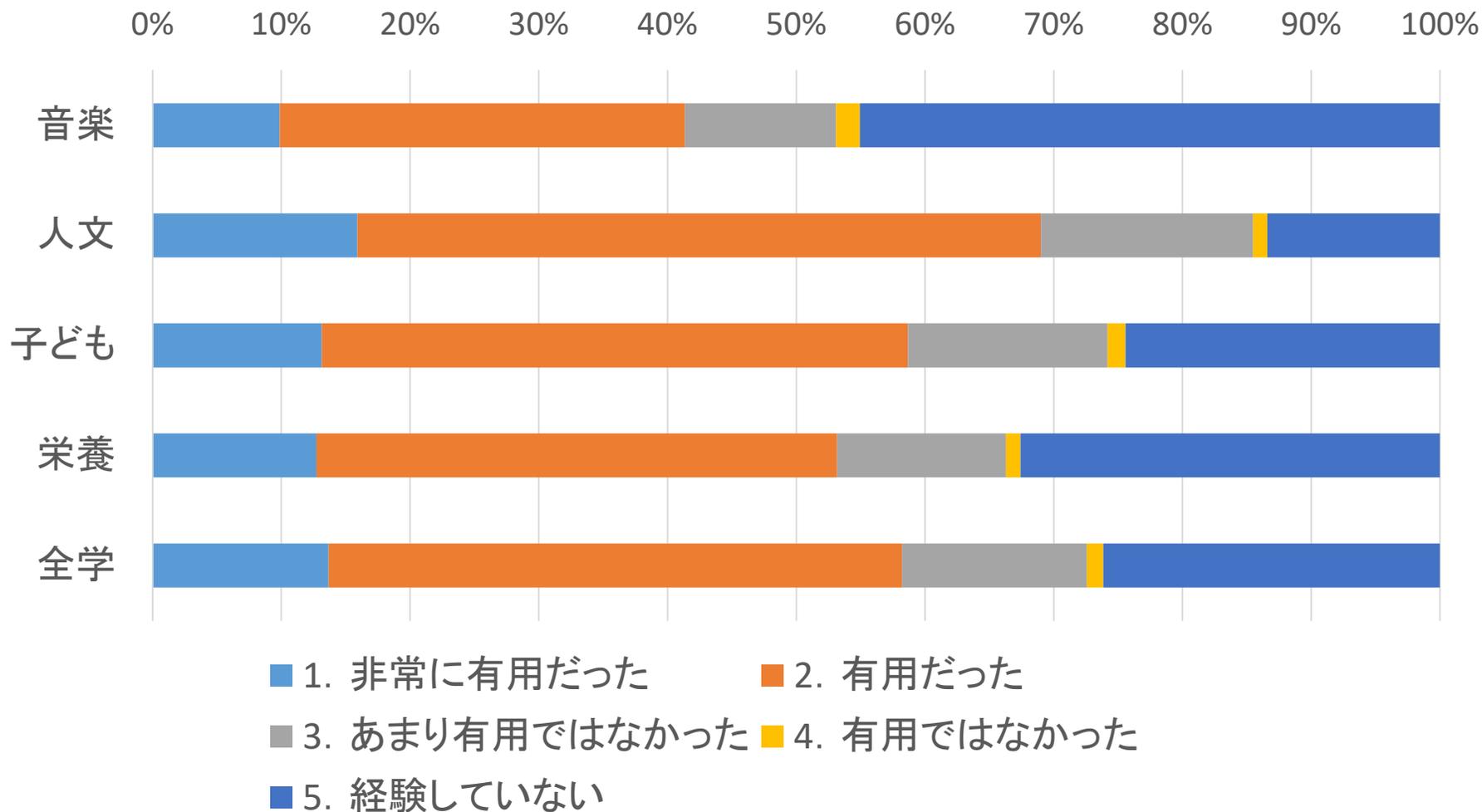


海外留学・インターンシップの2項目が低くなっている。

- 1. 非常に有用だった
- 2. 有用だった
- 3. あまり有用ではなかった
- 4. 有用ではなかった
- 5. 経験していない

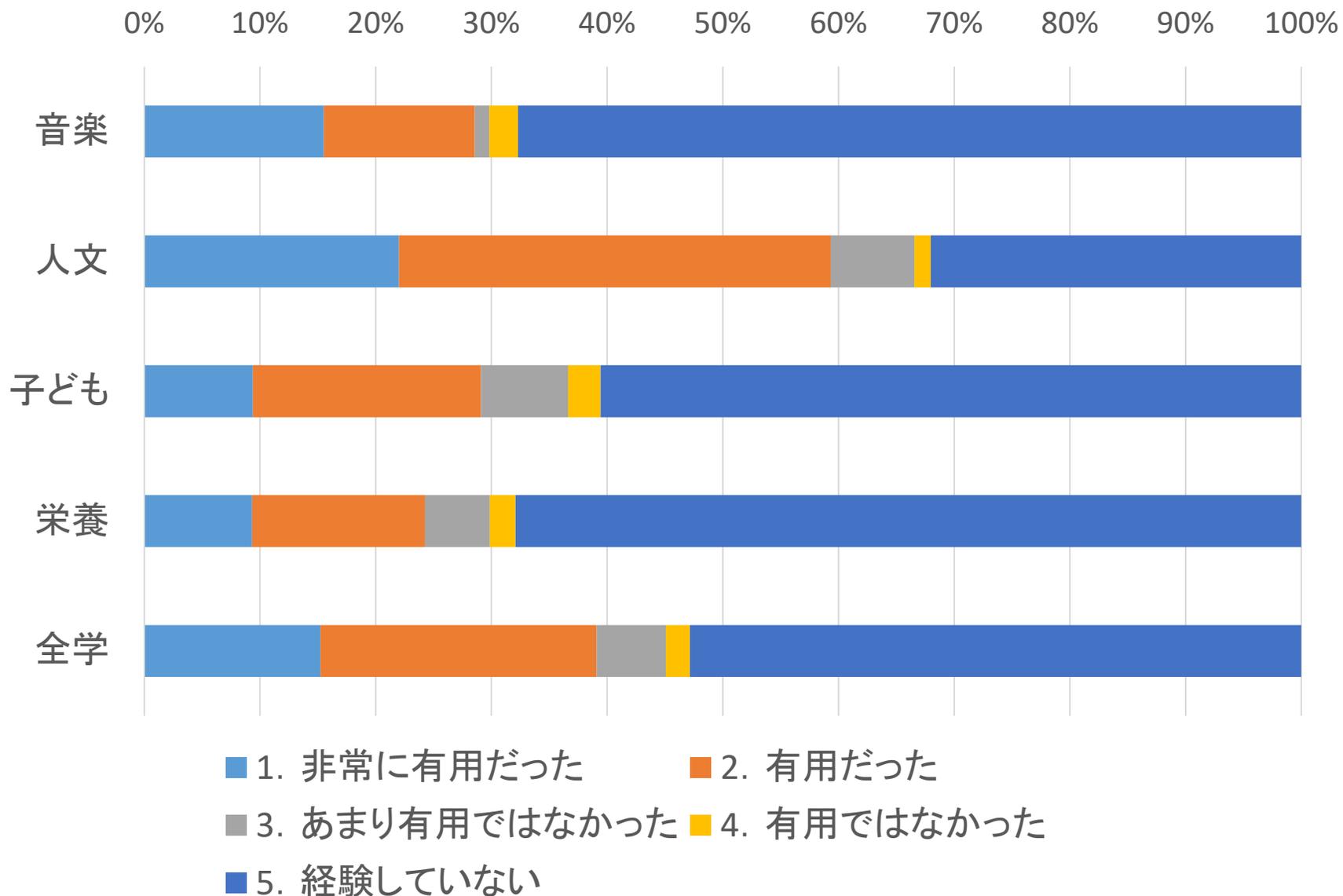
Q12-1. 大学での勉強の方法

(スタディ・スキル) を学ぶ科目



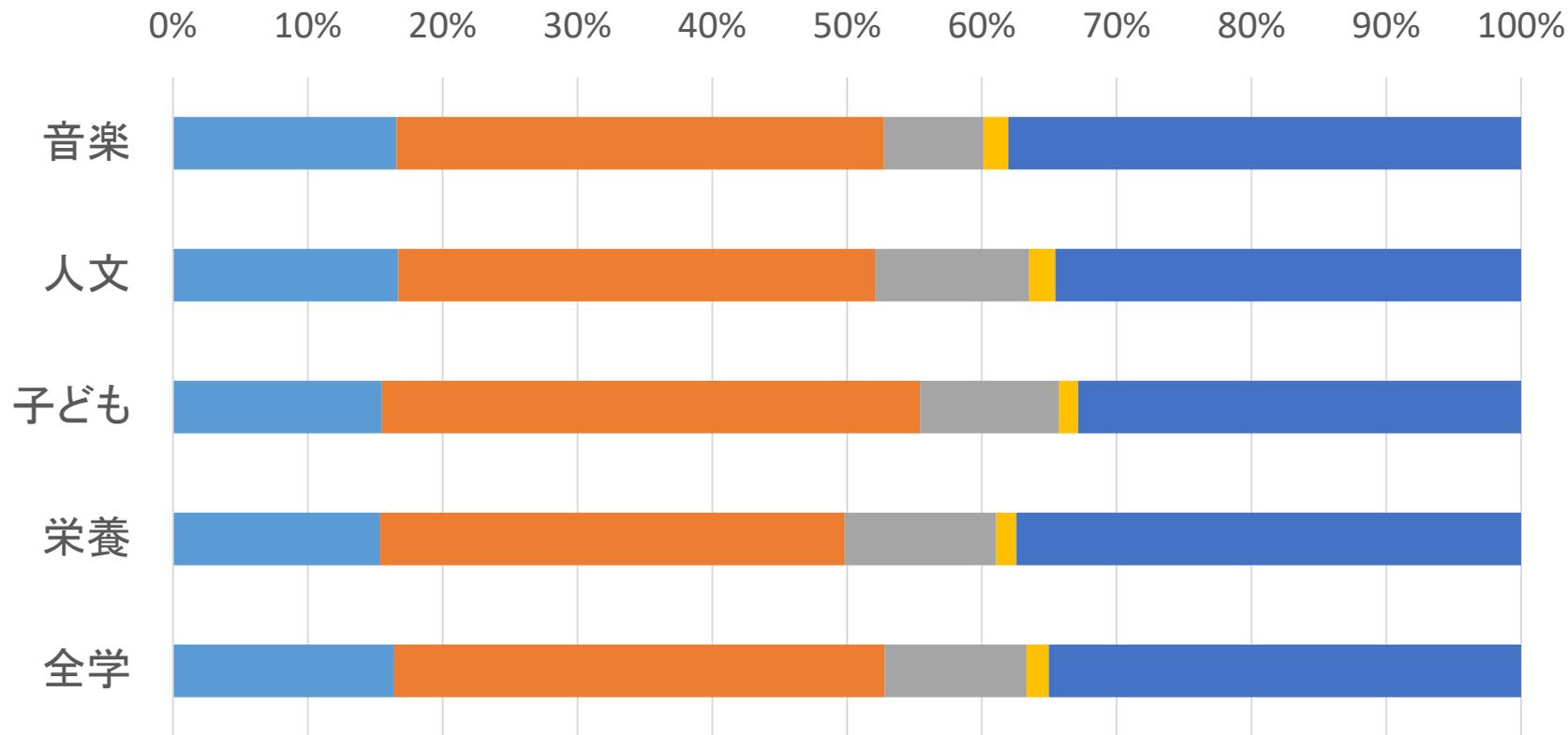
大学での勉強の方法（スタディ・スキル）を学ぶ科目を「有用（以上）」と回答した数は、人文が高め、音楽が低めになっている。ただし「経験ない」と回答した数を除くと「有用（以上）」の値は変化すると考えられる。また「経験ない」と回答した学生が一定数おり、その数は音楽で45%にのぼっているが、各学科で行われている、スタディー・スキルを学ぶ初年次教育が、この質問項目に該当する科目であること回答者には把握できていなかった可能性がある。

Q12-2. 研究室やゼミでの少人数教育



ゼミや少人数教育を経験していないと感じている学生が大半となっている。ここでは音楽のレッスンなども少人数教育の一種としていたが、設問の「少人数教育」という言葉が何を指すのか理解されていなかった可能性がある。

Q12-3. (授業以外で) 教員に質問したり、勉強の仕方を相談する機会

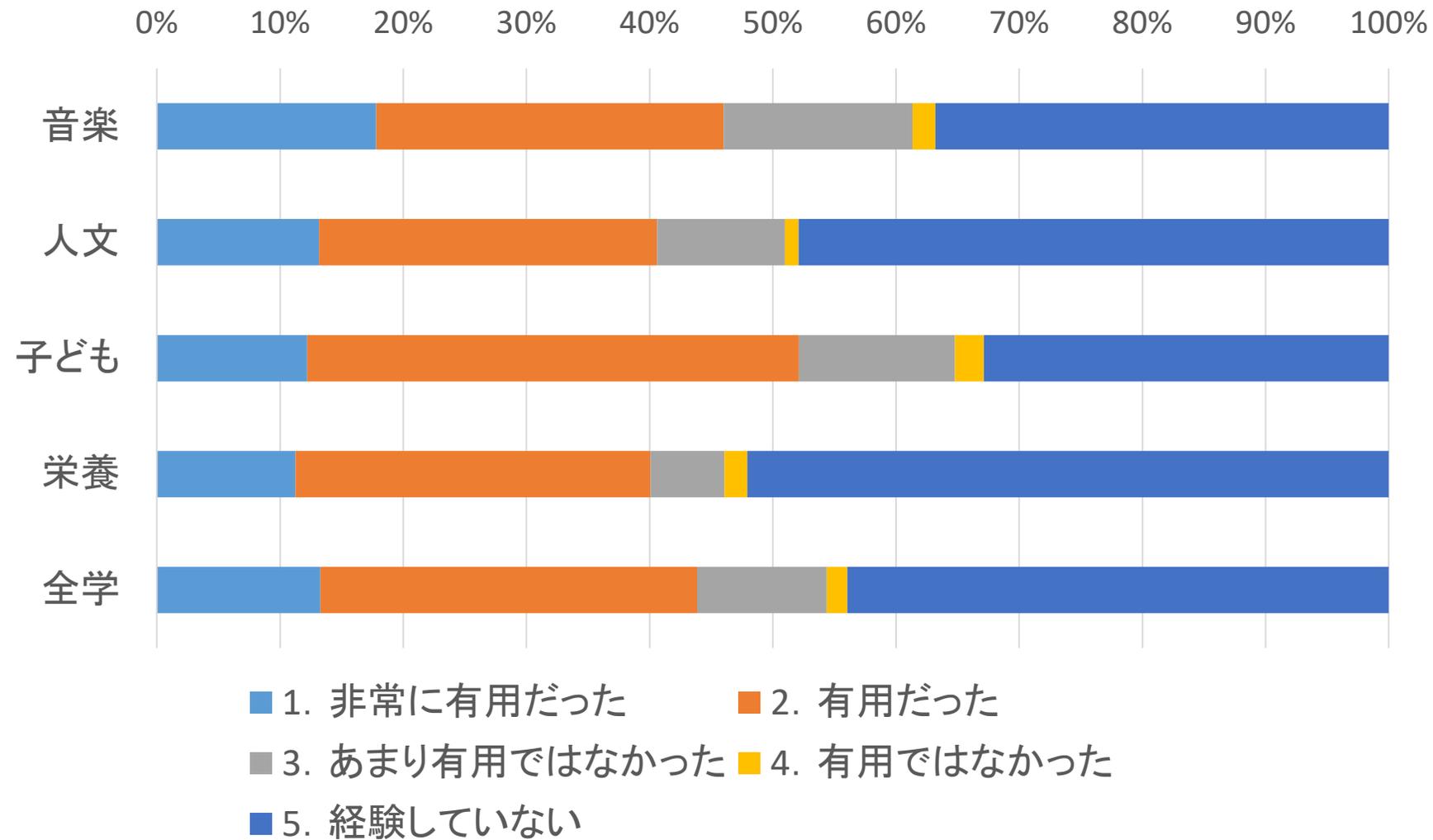


各学科間に大きな差異がなかった。

約半数が積極的に質問・相談をしている一方で、全体の約35%が「経験していない」と回答している。学生の主体的な学びをサポートするためにも、質問相談のしやすさを改善していく必要があると考える。

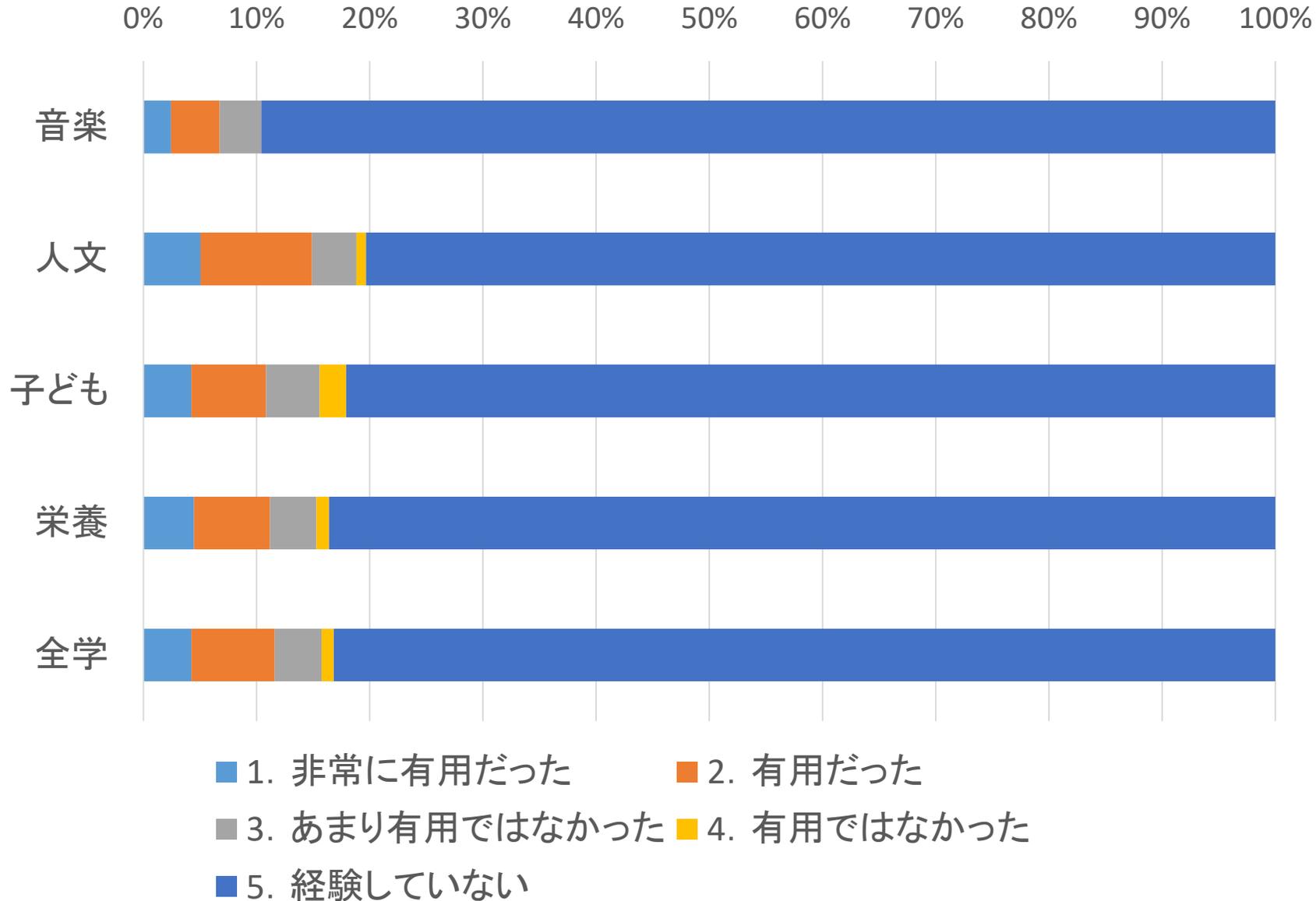
- 1. 非常に有用だった
- 2. 有用だった
- 3. あまり有用ではなかった
- 4. 有用ではなかった
- 5. 経験していない

Q12-4. キャリアに関する科目、 キャリアカウンセリング



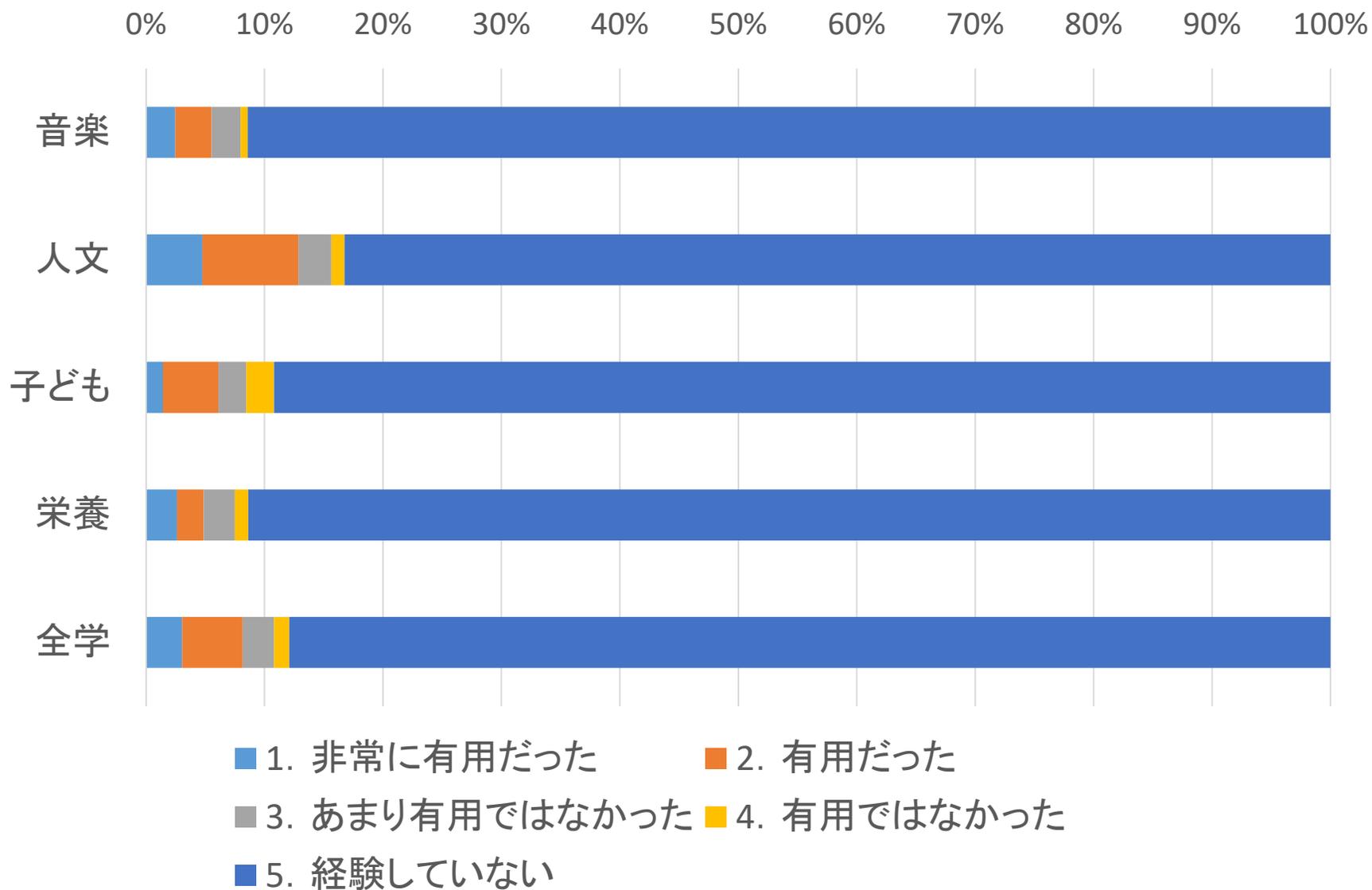
半数近くが「経験していない」という回答となった。子どもがもっとも高く、続いて音楽、人文と栄養は低めである。栄養でもキャリア教育は、いろいろな授業内で行われているが、それがキャリア教育と学生には認識されていない可能性がある。

Q12-5. インターンシップ



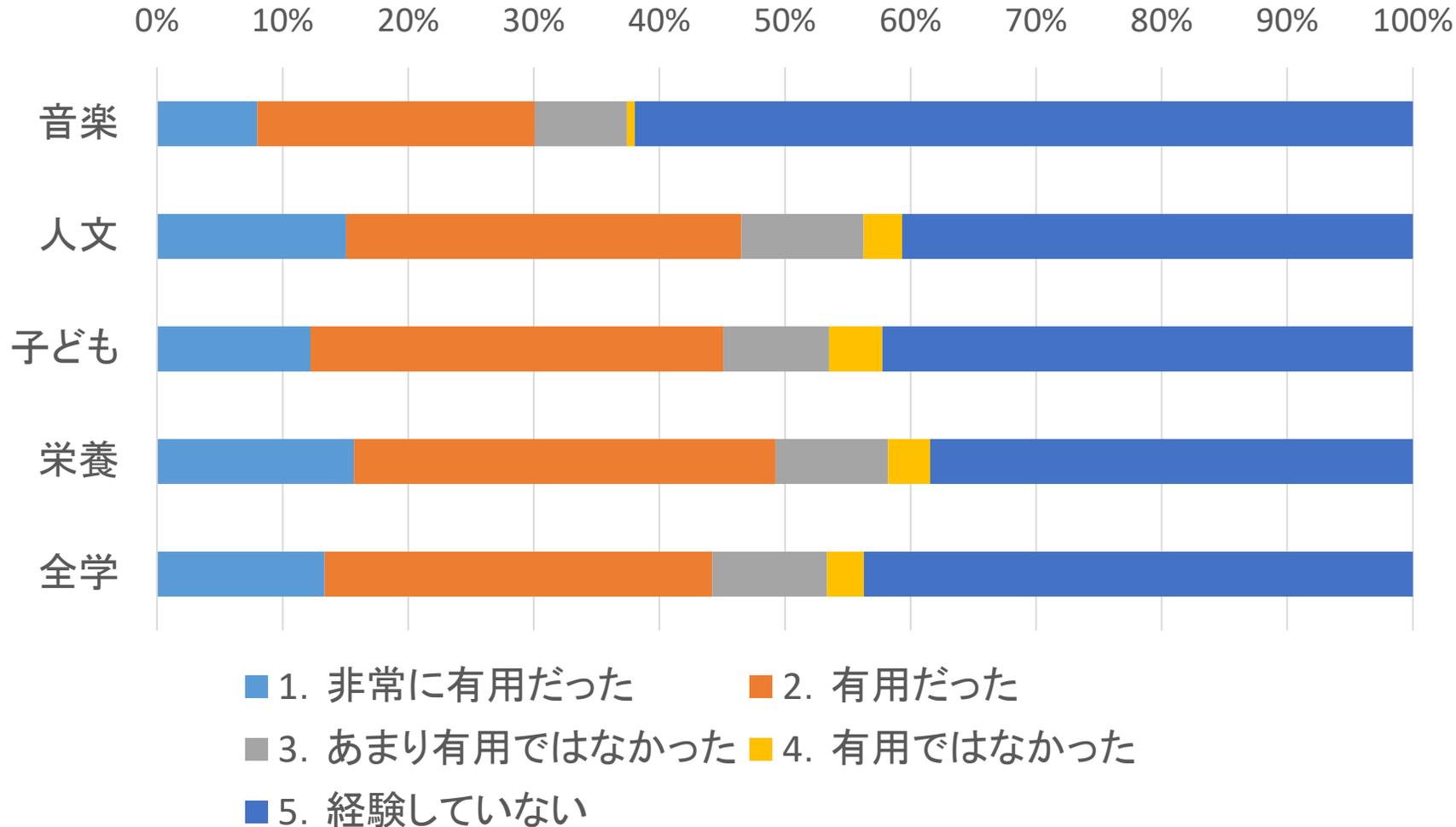
各学科間に大きな差異がなく、8割以上が「経験していない」という回答となった。

Q12-6. 海外留学



各学科間に大きな差異がなく、9割以上が「経験していない」という結果となった。

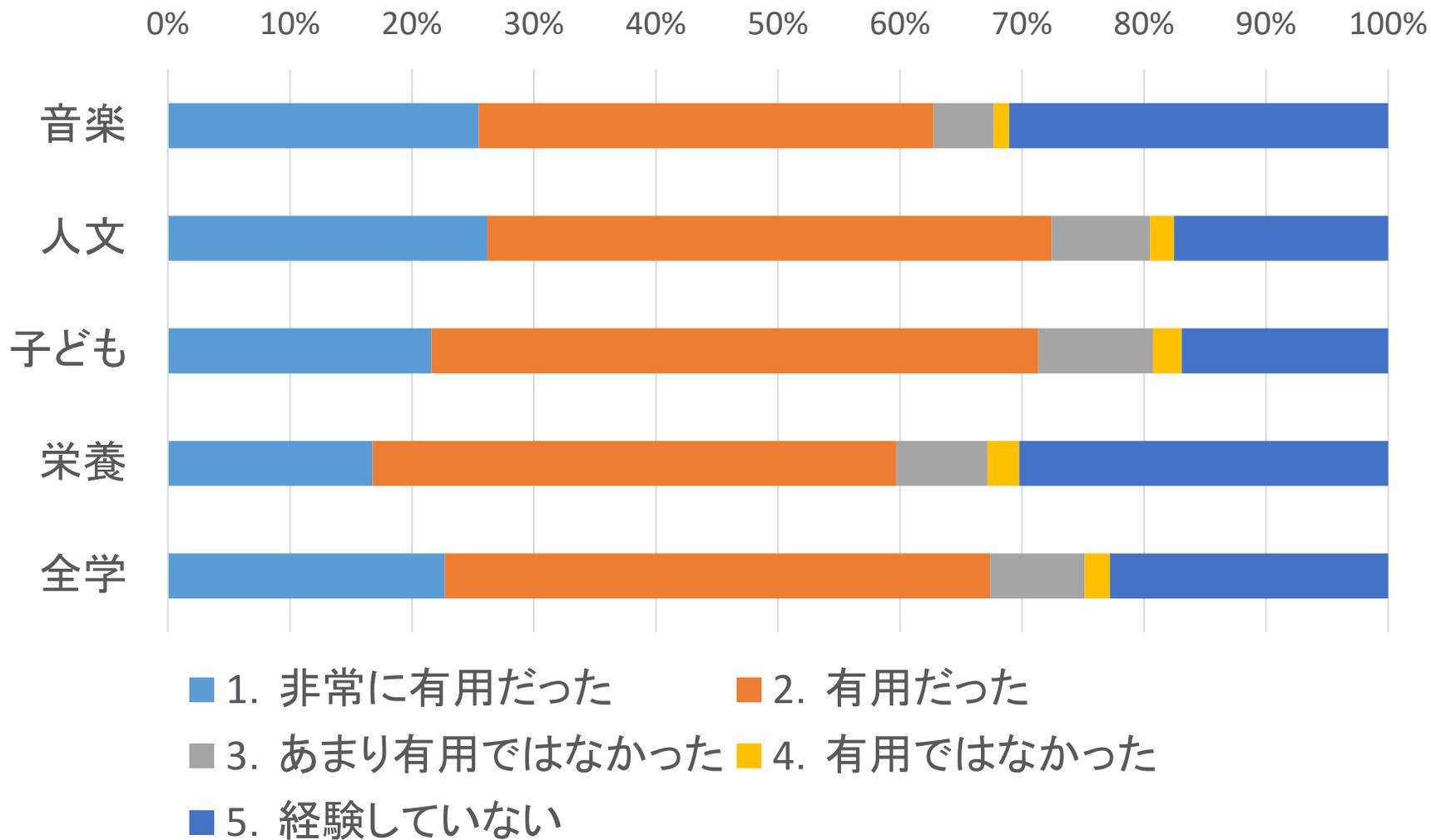
Q12-7. (学内で) 自分と異なる国の 学生との交流



音楽学部のみが低めとなっている。

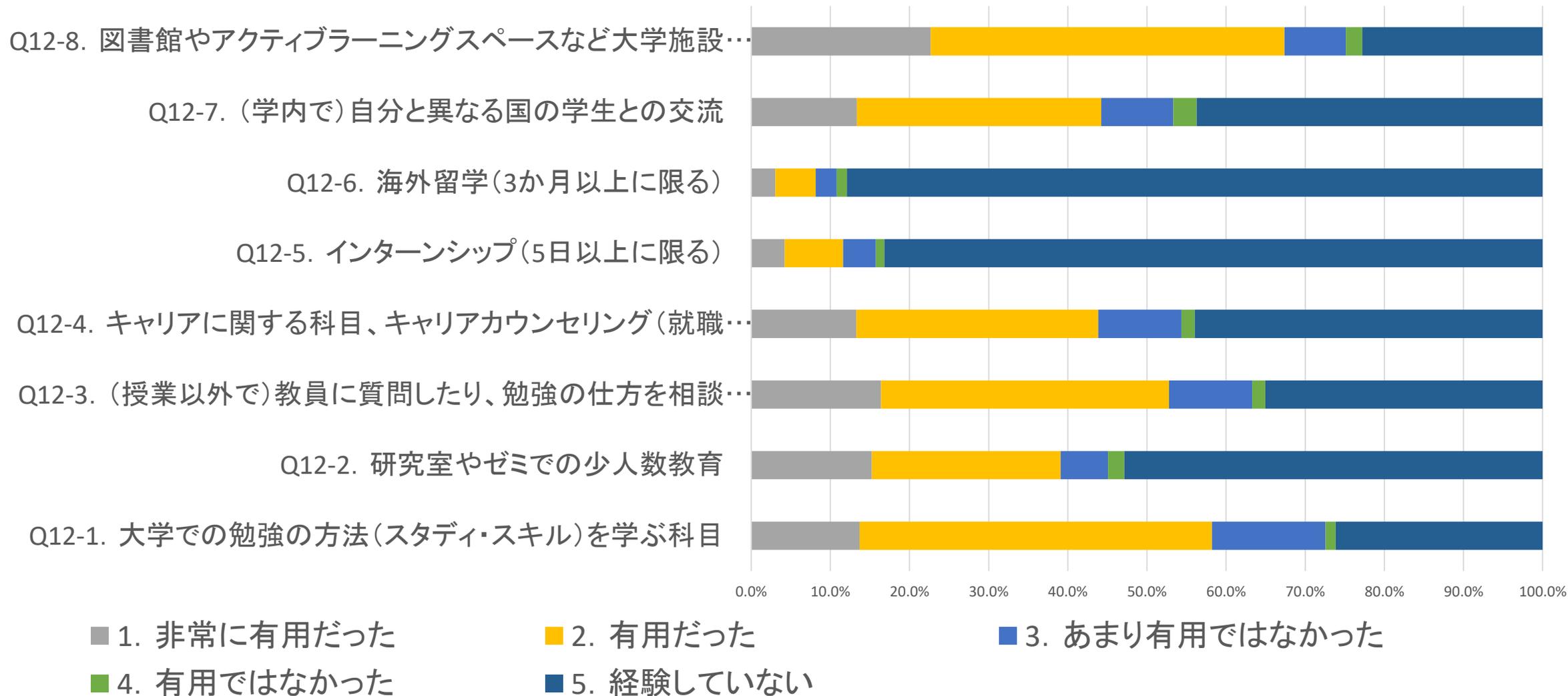
また、留学生が多いはずの人文の数値が人間発達の両学科と大差がない。コロナ禍で対面授業が少なかった影響で、日本出身者と留学生の交流が停滞してしまった可能性がある。

Q12-8. 図書館やアクティブラーニング スペースなど大学施設を活用した学習



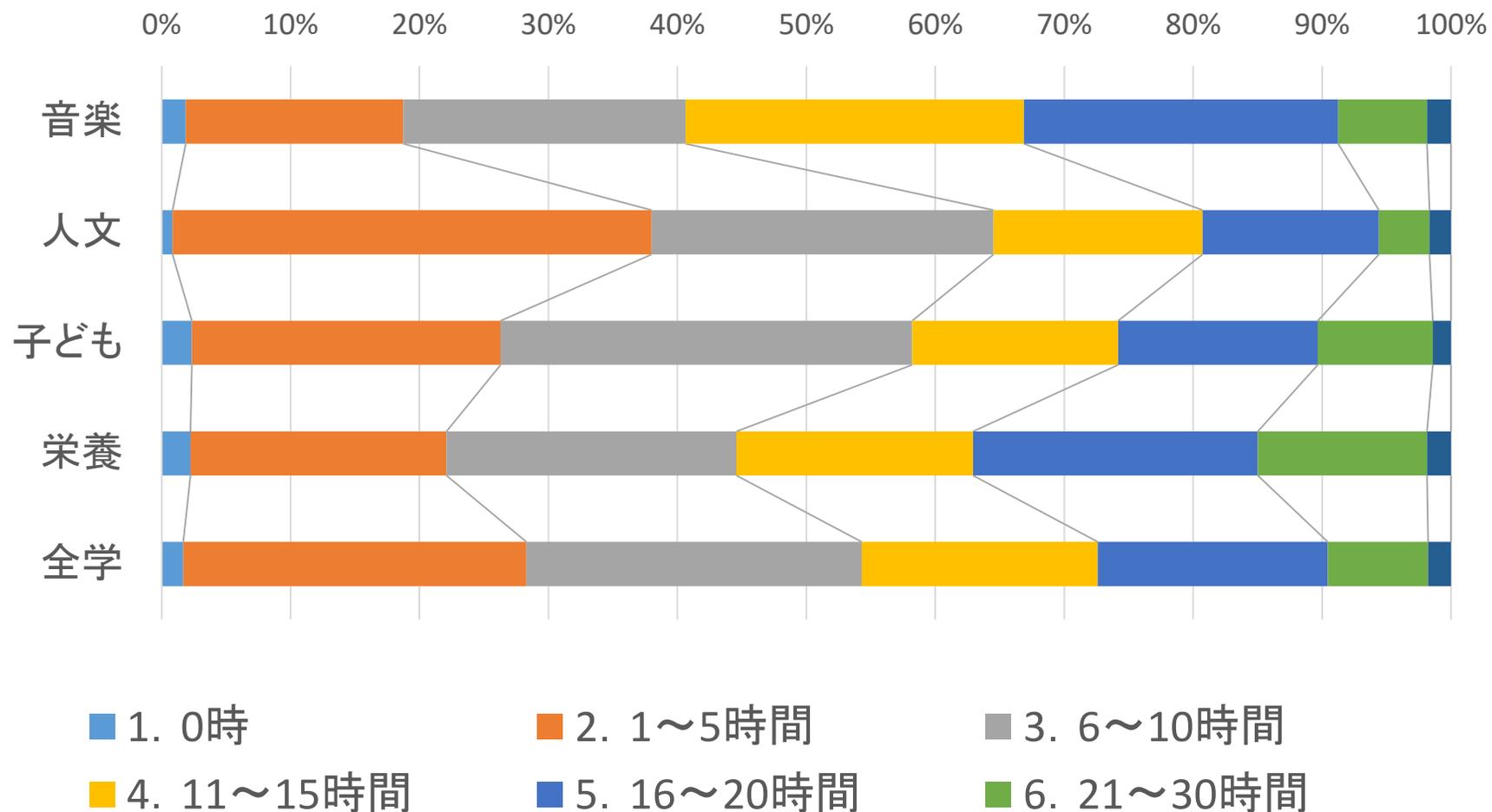
栄養・音楽がわずかに低い値となっている。音楽では実技レッスンが多く、栄養もアクティブラーニング形式のディスカッションが行われてはいるが、ほとんどが実験室（教室）で授業が行われるため、その用途で図書館やアクティブラーニングスペースを使う必要性が少ない。

Q12. 大学に入ってから次のような経験はありましたか。その経験は有用でしたか。



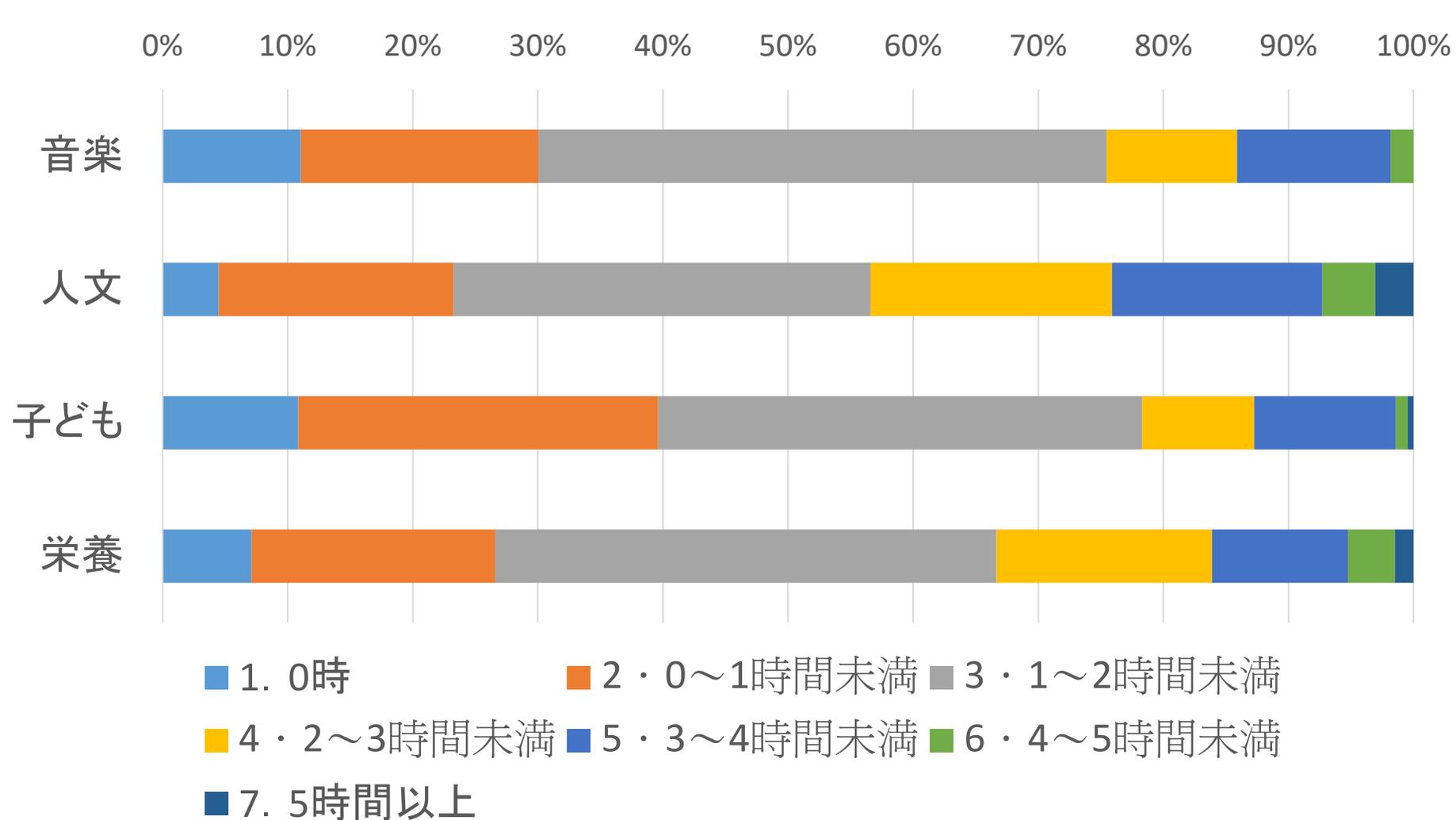
授業期間中の平均的な生活時間

Q13-1. 時間：授業への出席（1週間）



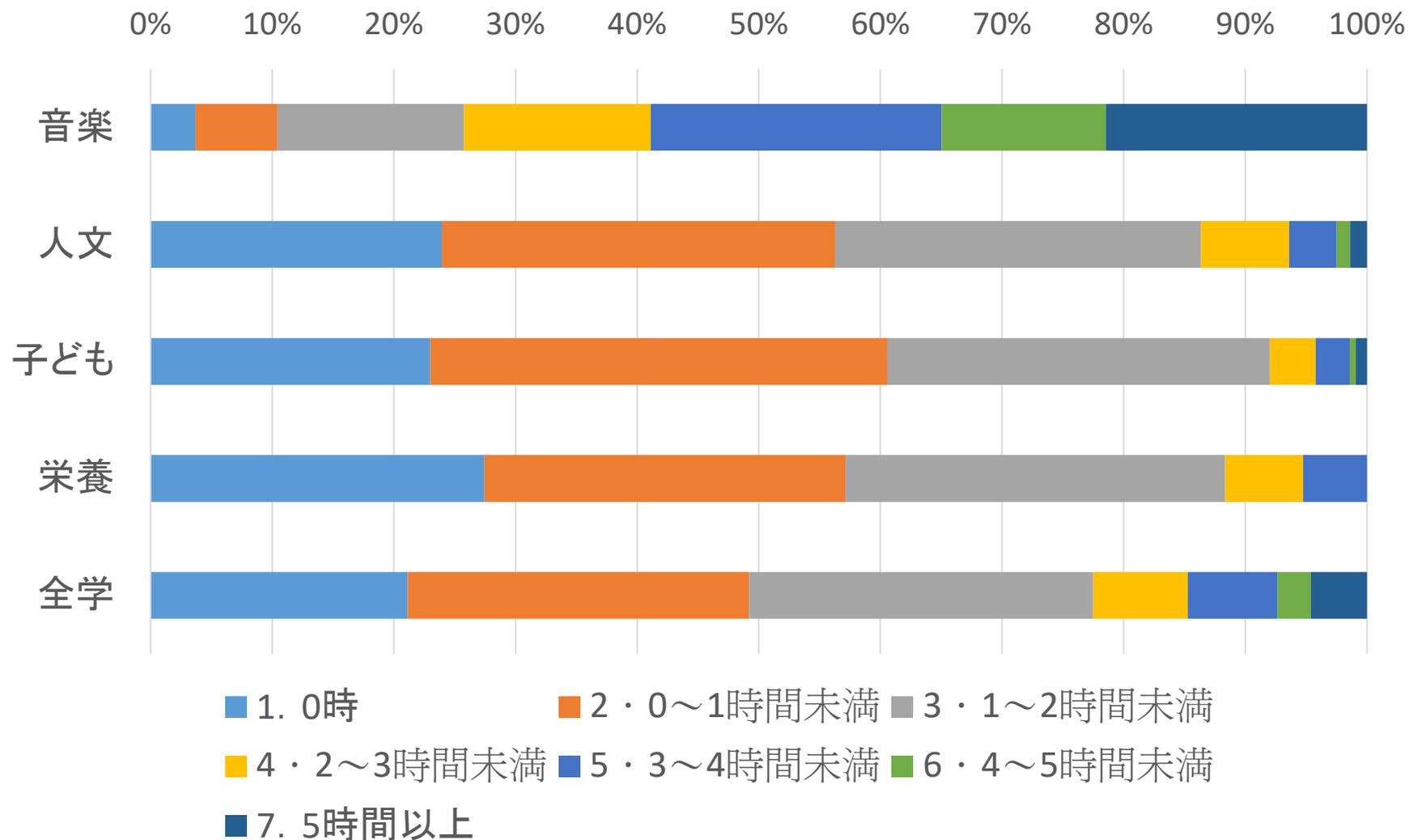
人文学部が、授業時間数が少なめとなっている。人文学部は、コロナ禍でのリモート授業が多め（実習/実技等が少なめ）の傾向があったと思われる。対面の場合の出席でいいのか？また時間数は1時間=60分or1コマの90分、音楽学部は時間の単位が異なる

Q13-2. 予習・復習・課題など授業に関する学習 (音楽練習は含まない) (1日の時間)



Q13-3. 授業以外の学習

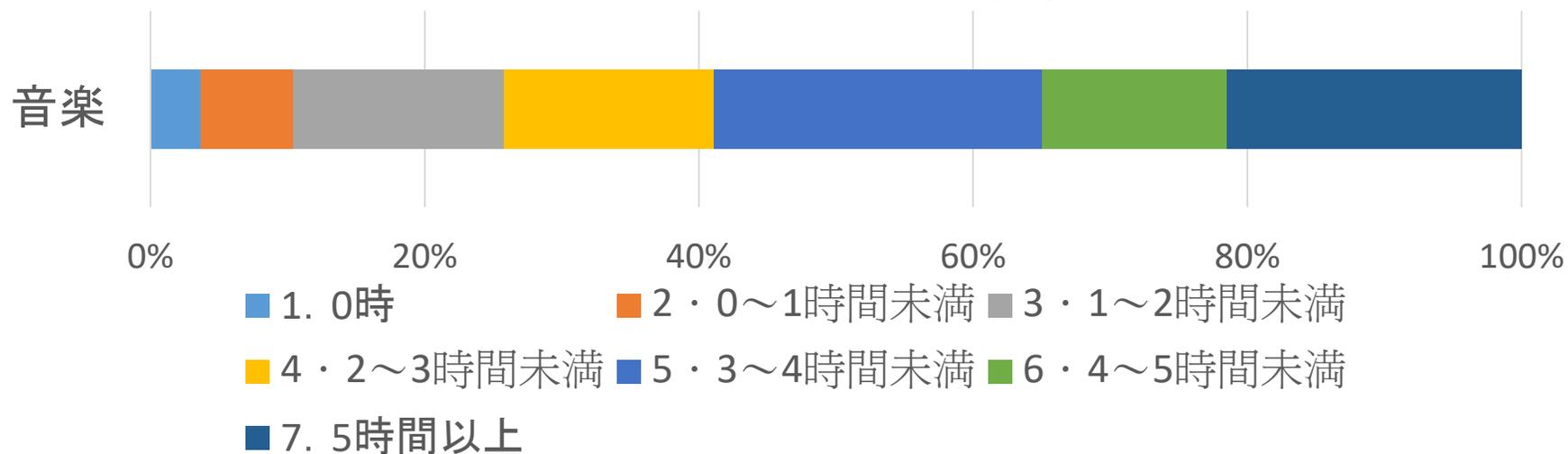
(音楽練習を含む) (1日の時間)



この問いの学習時間は、授業の予復習を含まないもので、自主的な勉強に相当する。音楽は、2時間以上の回答を合計すると全体の7割を超える。非常に積極的に取り組んでいることがわかる音楽学部以外は「0時間」と「1時間未満」が目立つ。主体的な学習を積極的に取り組む姿勢が弱いとも捉えられるが、前の質問との違いを理解していなかった可能性がある。

Q13-3. 授業以外の学習

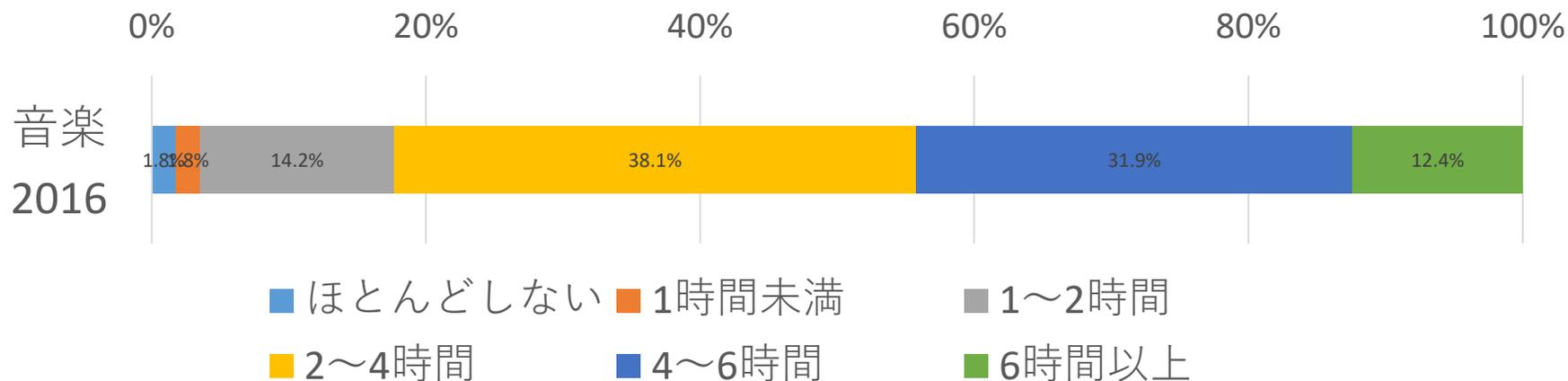
(音楽練習を含む・1日) **音楽学部のみ**



音楽学部の練習時間を前回調査と比較した。

選択肢の時間の区分が異なるため直接の比較はできないが、4時間を超える回答の合計は、今回が35.0%、2016年は44.3%だった。

【2016年データ】 Q10.練習時間 **音楽学部のみ**

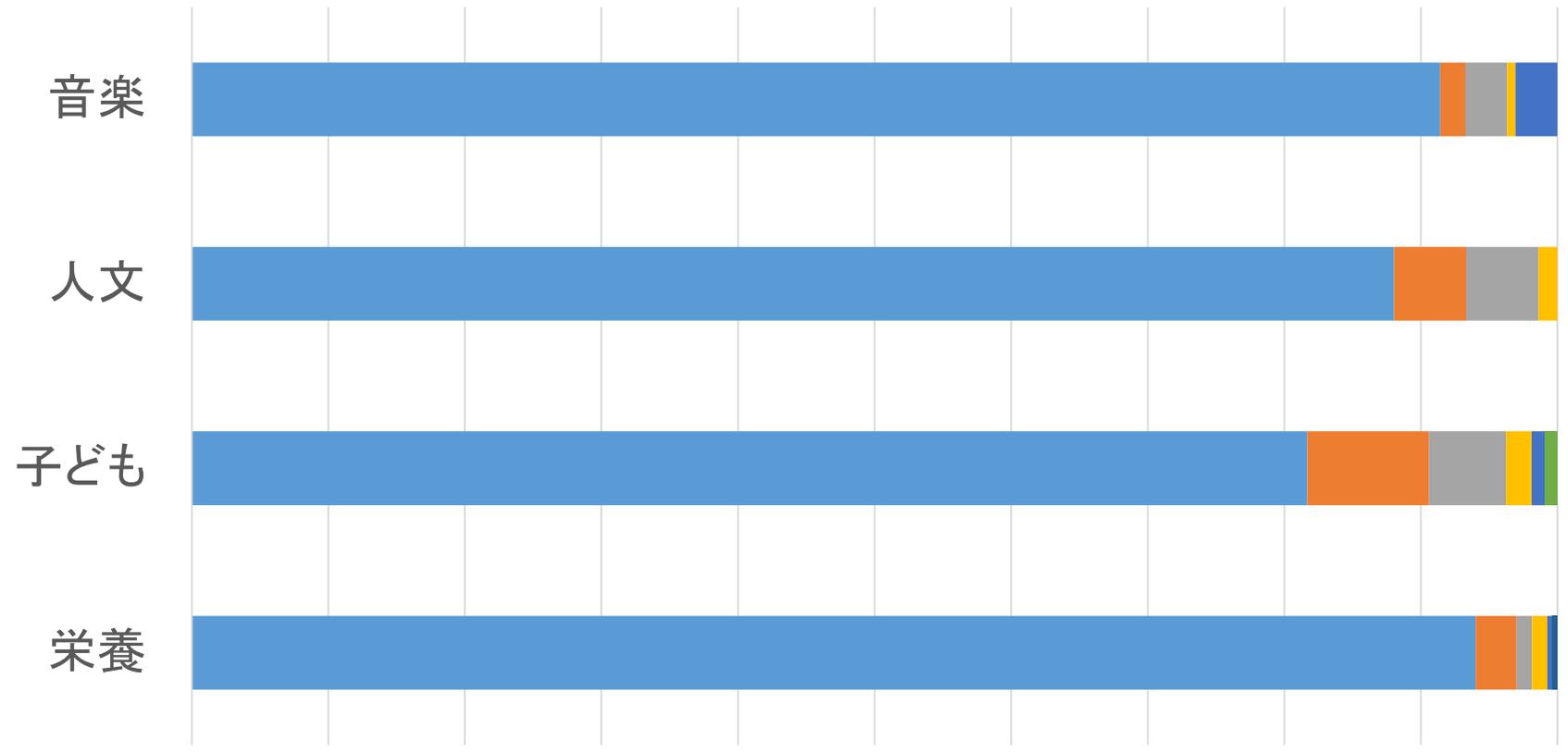


2時間以上の回答の合計は今回が72.4%、2016年が82.4%であった。

減少の傾向がみられるがコロナ禍でも依然として多くの時間を維持している。

Q13-4. クラブ・サークル活動（1日の時間）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



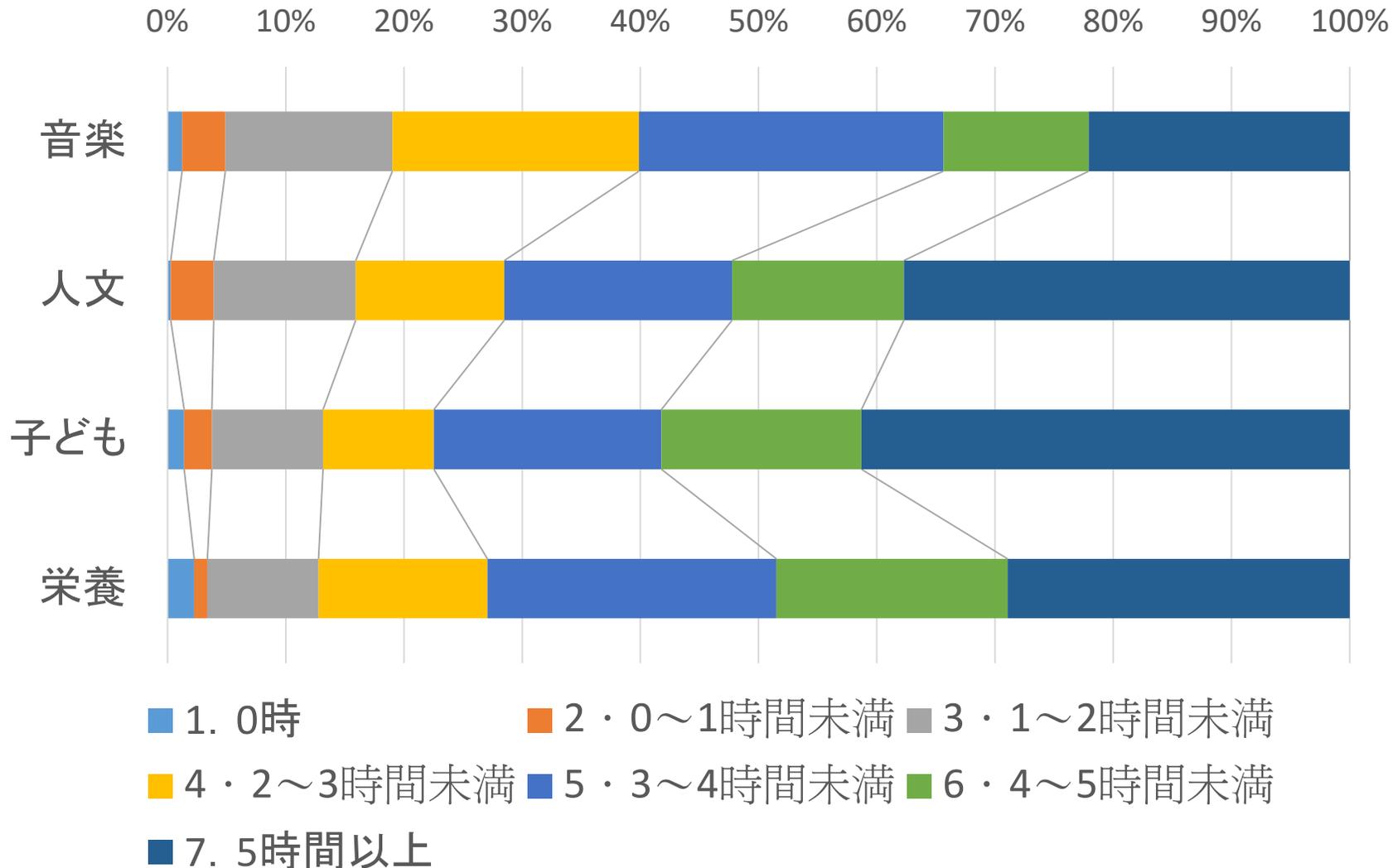
- 1. 0時
- 2. 0~1時間未満
- 3. 1~2時間未満
- 4. 2~3時間未満
- 5. 3~4時間未満
- 6. 4~5時間未満
- 7. 5時間以上

コロナ感染対策としてクラブ活動の自粛期間となっていたため、ほとんど活動がおこなわれていない。

活動がわずかに見られるのは、学外での自主的な活動と思われる。

Q13-5. スマートフォンの使用

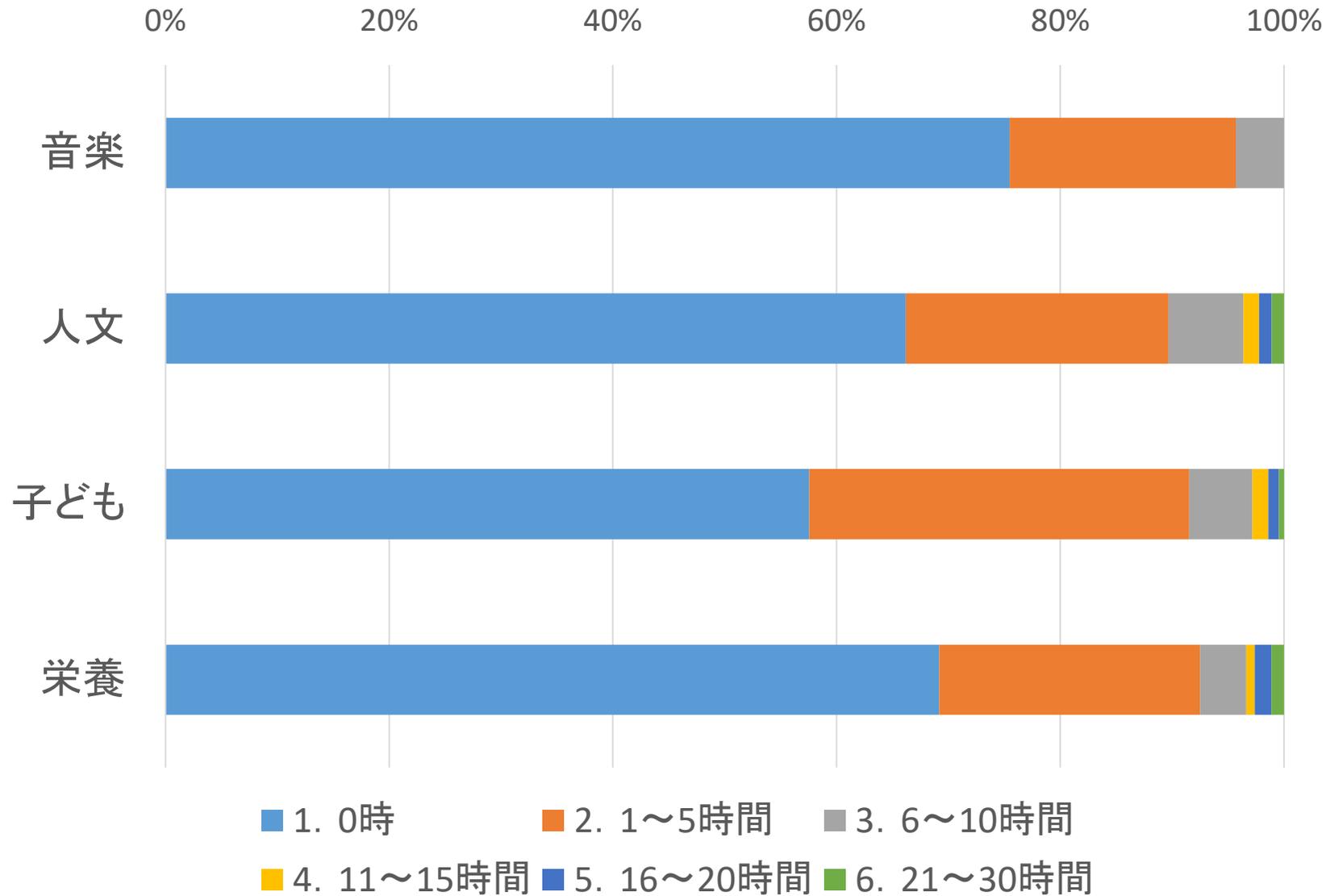
(※学修のための使用は除く) (1日の時間)



スマートフォンの使用時間は、3時間以上が大半を占めており、5時間以上という回答も人文、子どもでは4割近くに上っている。

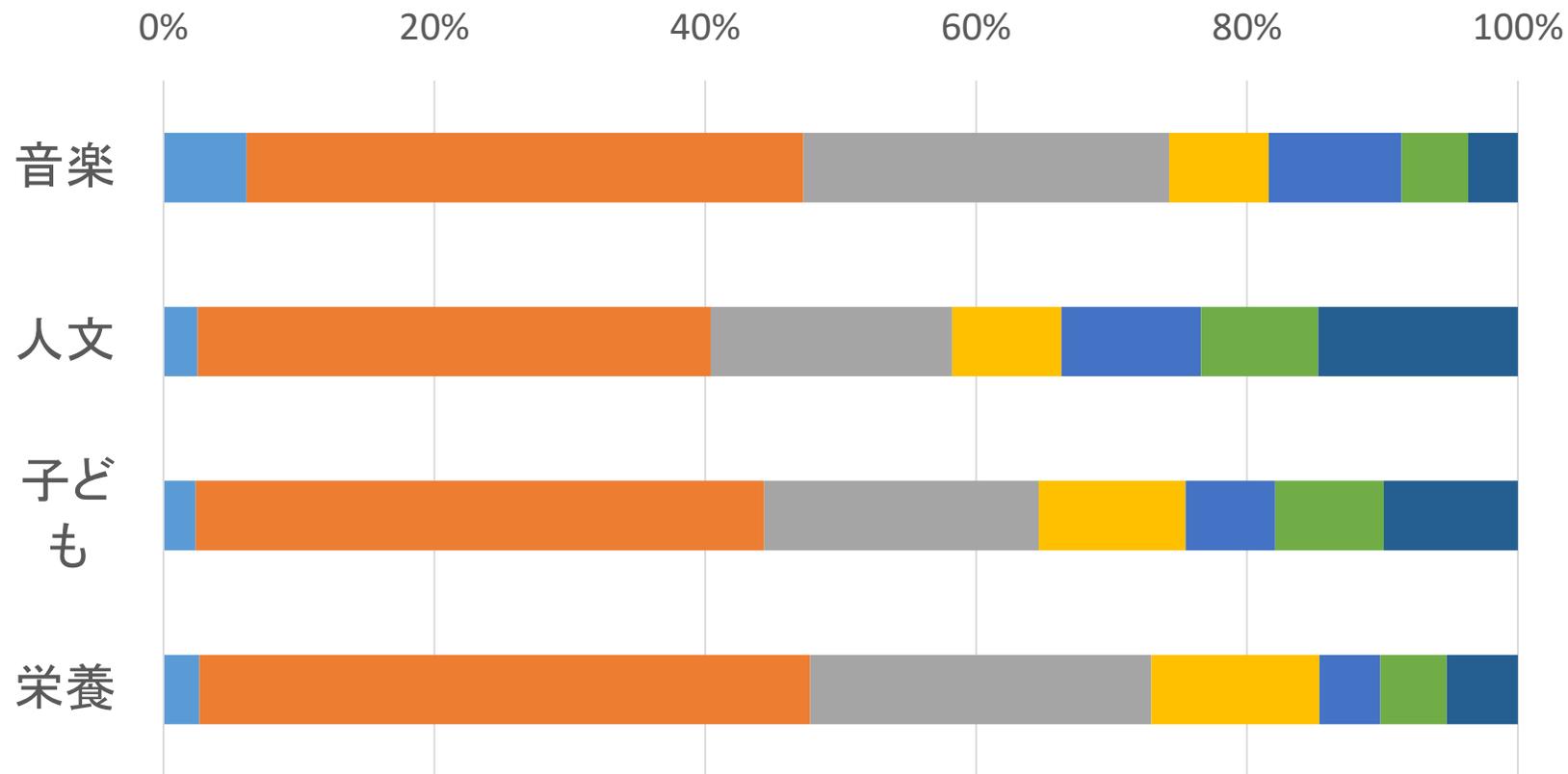
コロナ禍による外出自粛などもあり、長時間の使用となっている。コミュニケーション・情報収集・娯楽・暇つぶし…など多様な活動がスマホ経由でおこなわれているとみられる。

Q13-6. 就職に関する活動（1週間の時間）



全学生の回答を集計しており、1, 2回生も含まれているため、多くの回答は「0時間」である。子ども発達の数値が比較的長めとなっている。

Q13-7. 趣味・娯楽・交友（1週間）

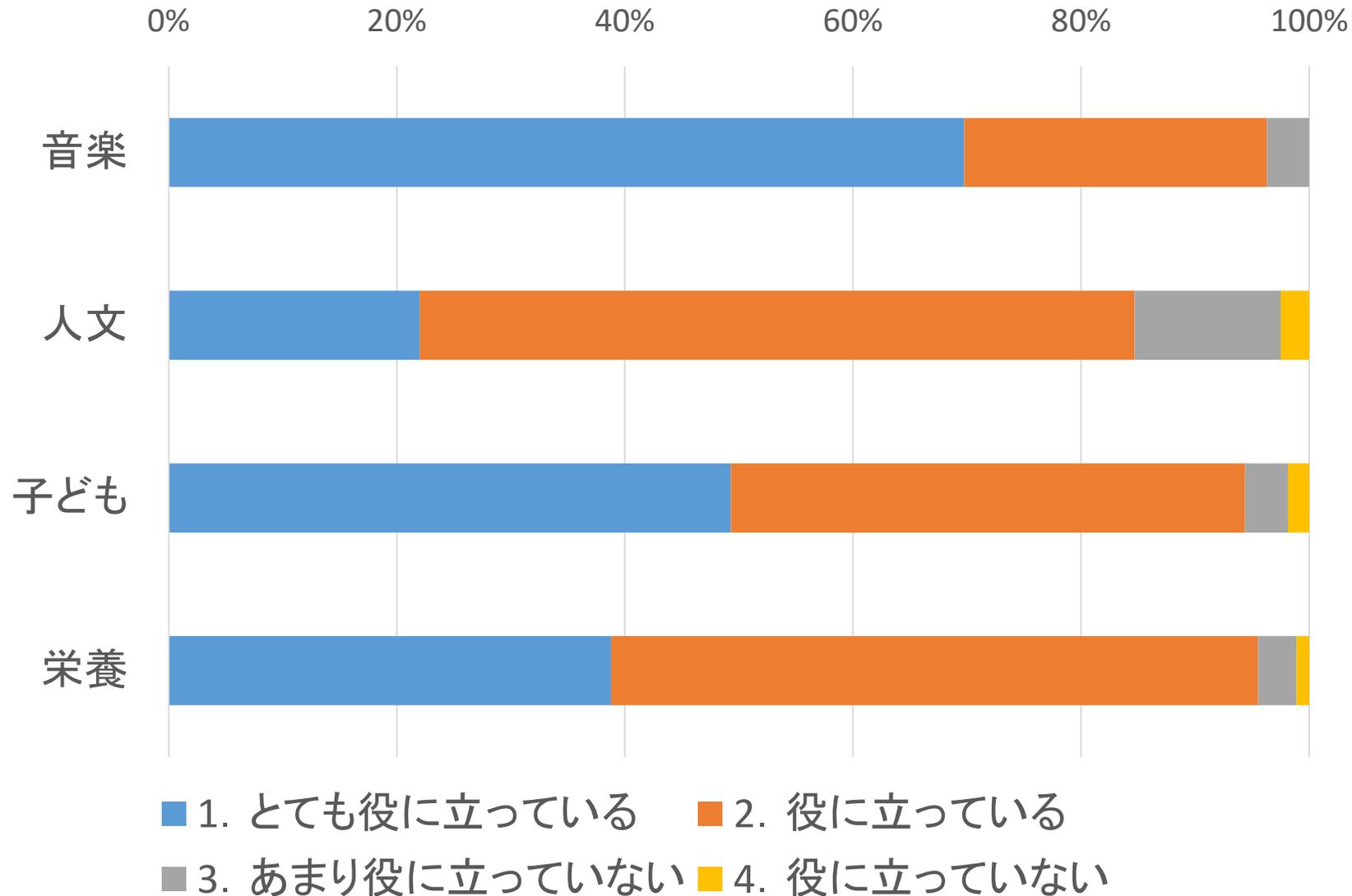


各学科間の差異は小さいが、人文学部に比較的、長時間の回答が多く見られる。

（要検討。①留学生が多いことで交友の時間を多くとっている。②歴史サブカルの影響で学生がゲーム/アニメ等の趣味に没頭している、などの可能性がある。）

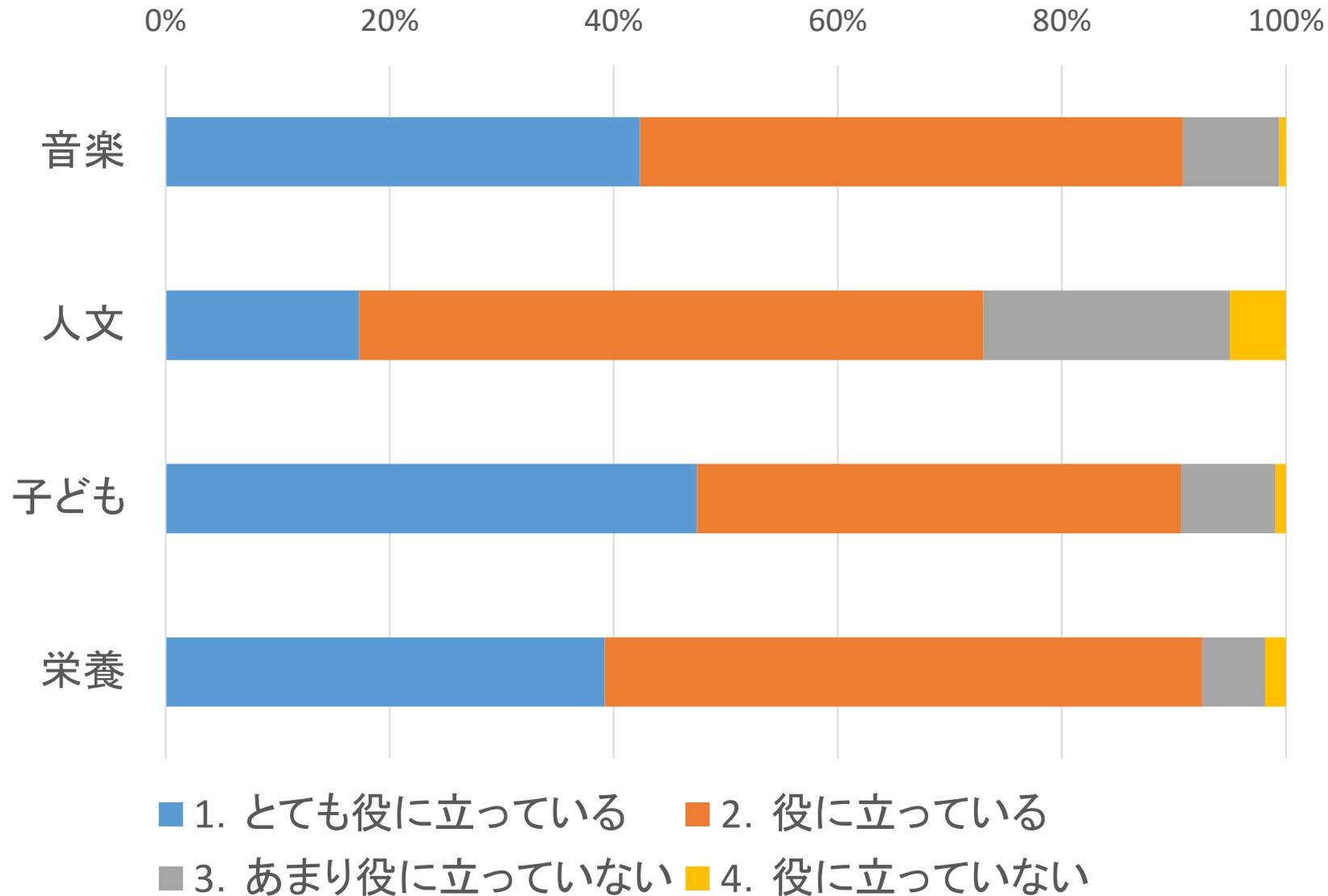
- 1. 0時 ■ 2. 1～5時間 ■ 3. 6～10時間 ■ 4. 11～15時間
■ 5. 16～20時間 ■ 6. 21～30時間 ■ 7. 31時間以上

Q14-1. 専門分野に関する知識・理解



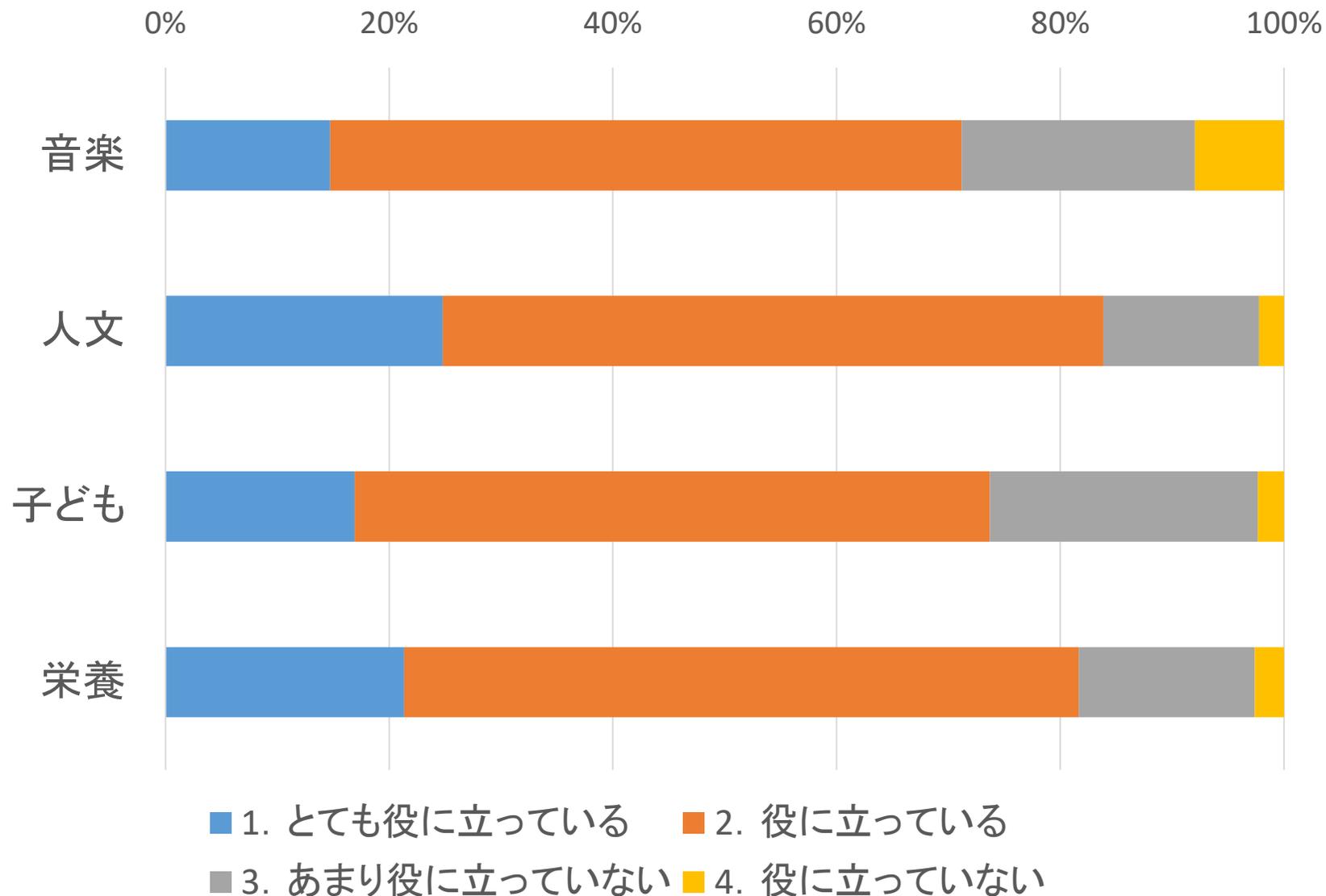
「役に立っている」までを含めると肯定的な回答は80%を超えている。これに関しては、Q9の「大学に入ってよかったと思う点」で「知識や技術が身についた」への選択が過半数を超えていたこととも連動しているとも考えられる。

Q14-2. 将来の仕事に関連しうる知識・技能



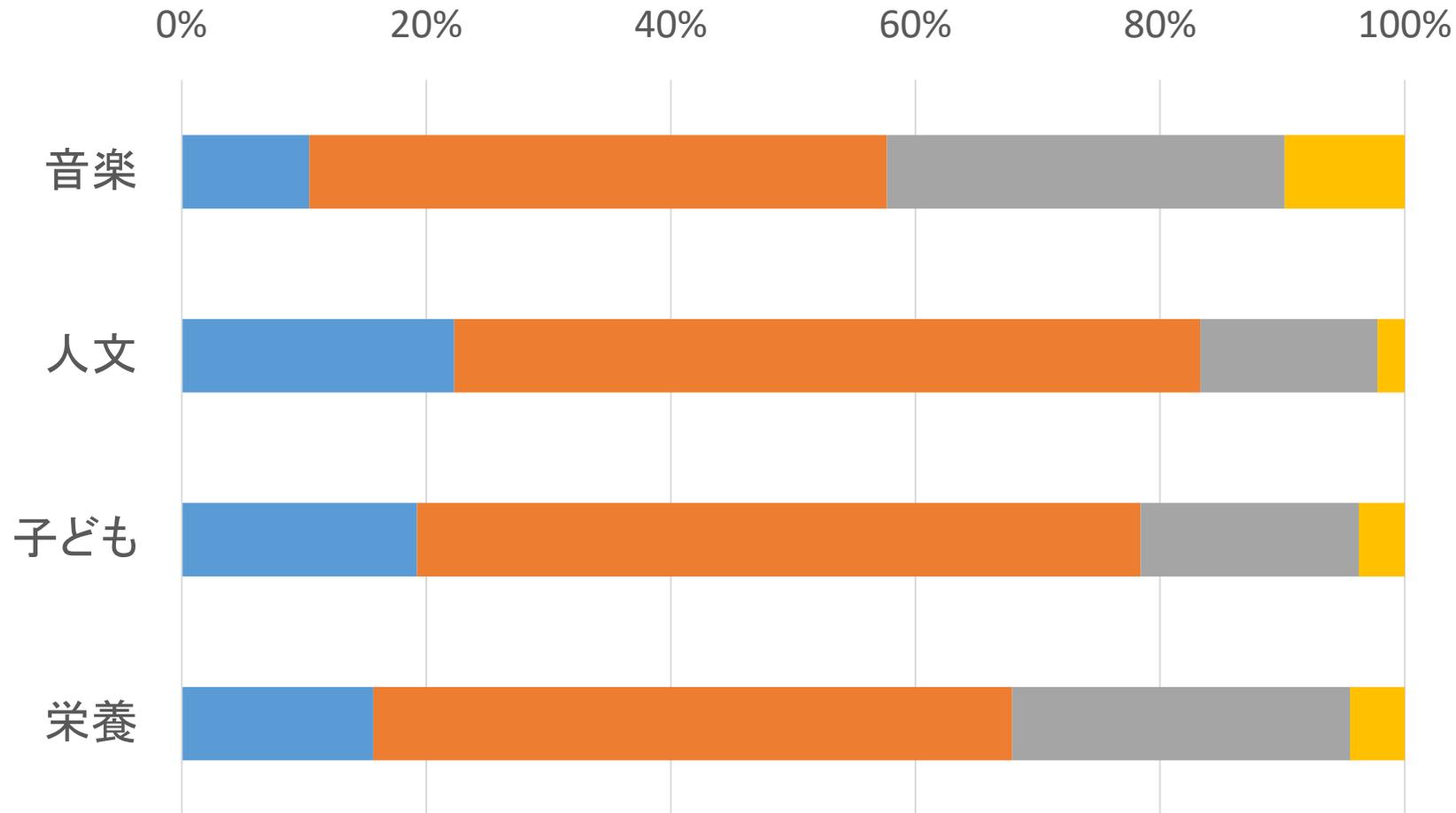
総じて高めの数値となっているが、人文では、他学科と比べて「将来の仕事」に結びついていないと感じる傾向が見られる。

Q14-3. 文献・資料・データを収集分析する力



7割以上の学生が情報収集・分析の力が「役に立っている」という意識を持っている。人文と栄養が比較的高くなっている。人文では文献資料に接する機会が多く、栄養でも、文献や資料などで、科学的データを扱う授業が多いことなどが影響しているとみられる。

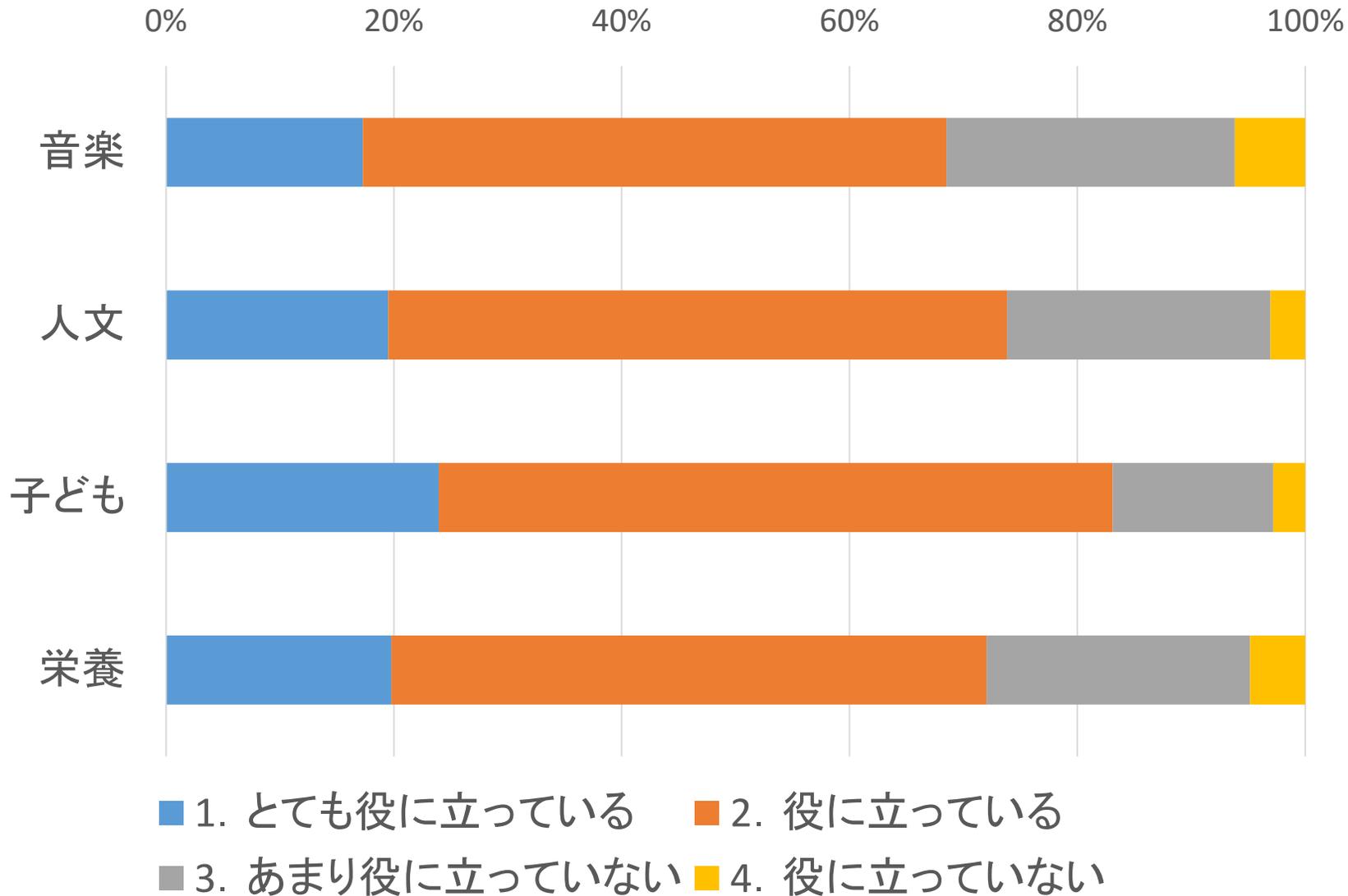
Q14-4. 論理的に文章を書く力



人文と子どもが他の2
学科より高い。

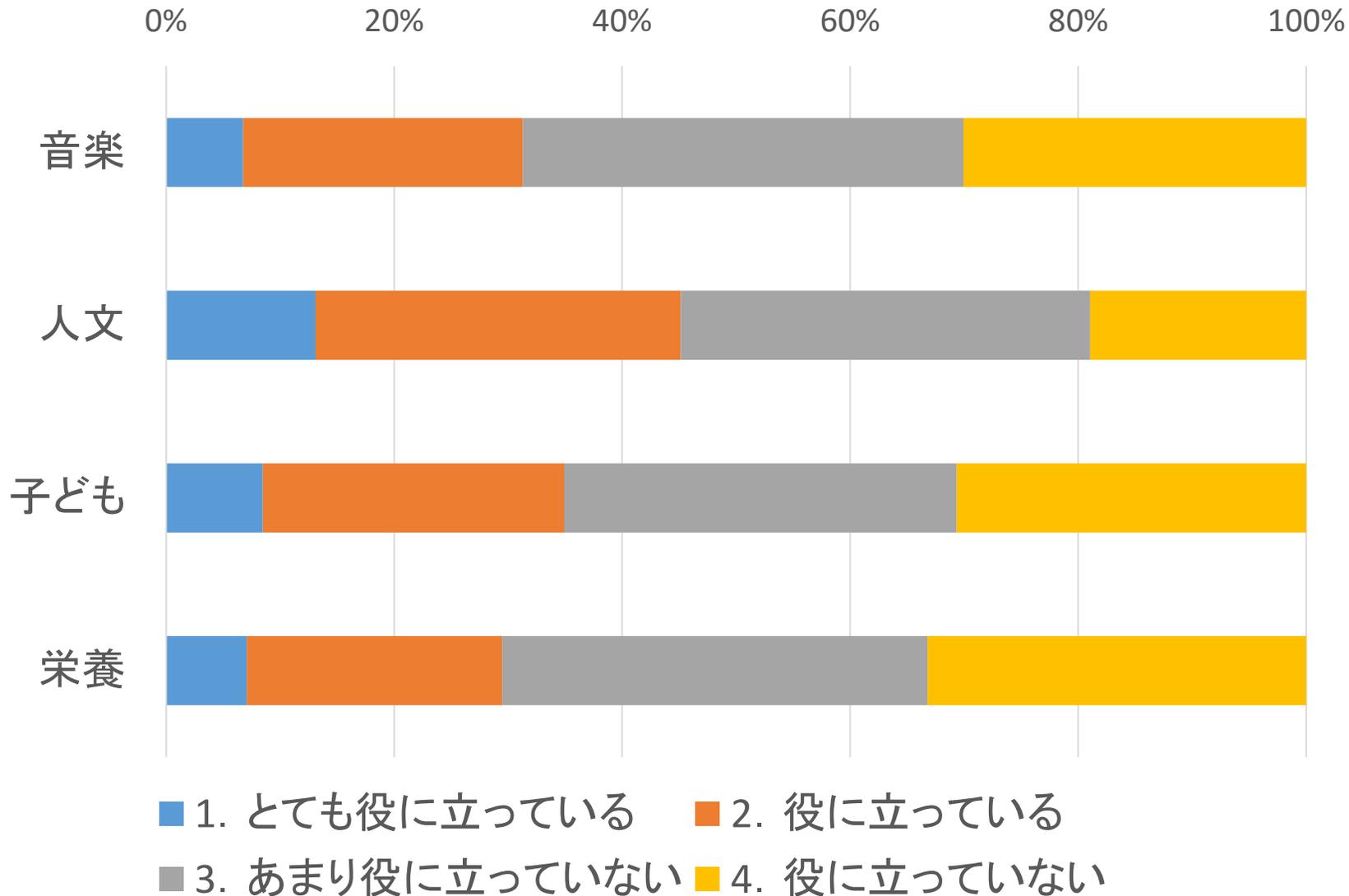
- 1. とても役に立っている
- 2. 役に立っている
- 3. あまり役に立っていない
- 4. 役に立っていない

Q14-5. 人にわかりやすく話す力



子どもが他の学科より高い。「人にわかりやすく話す力」は、学科の専門性の点で重要なコミュニケーションスキルの一つであり、獲得できていることを示唆する結果である。

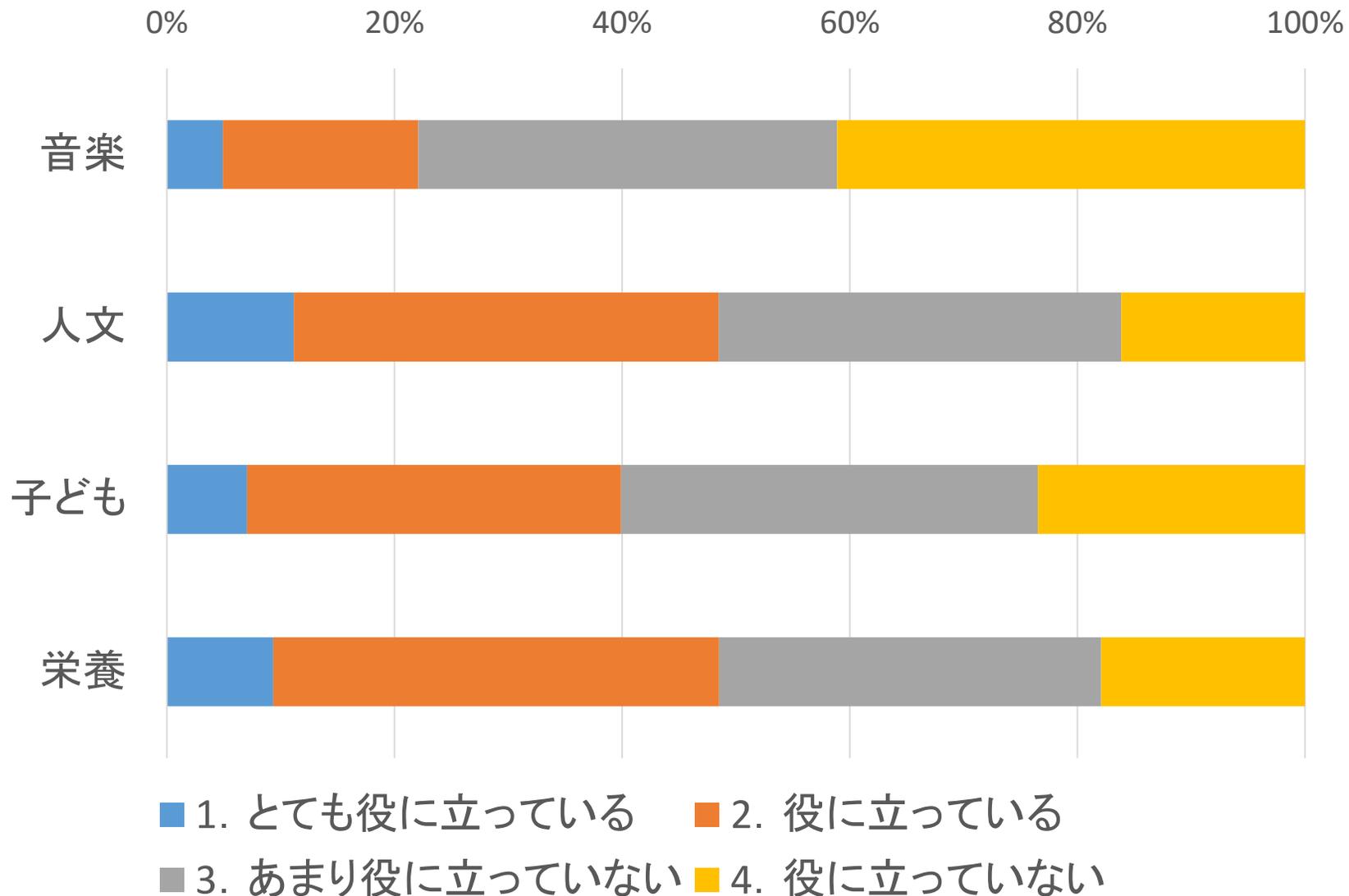
Q14-6. 外国語を使う力



人文が比較的高目となっている。

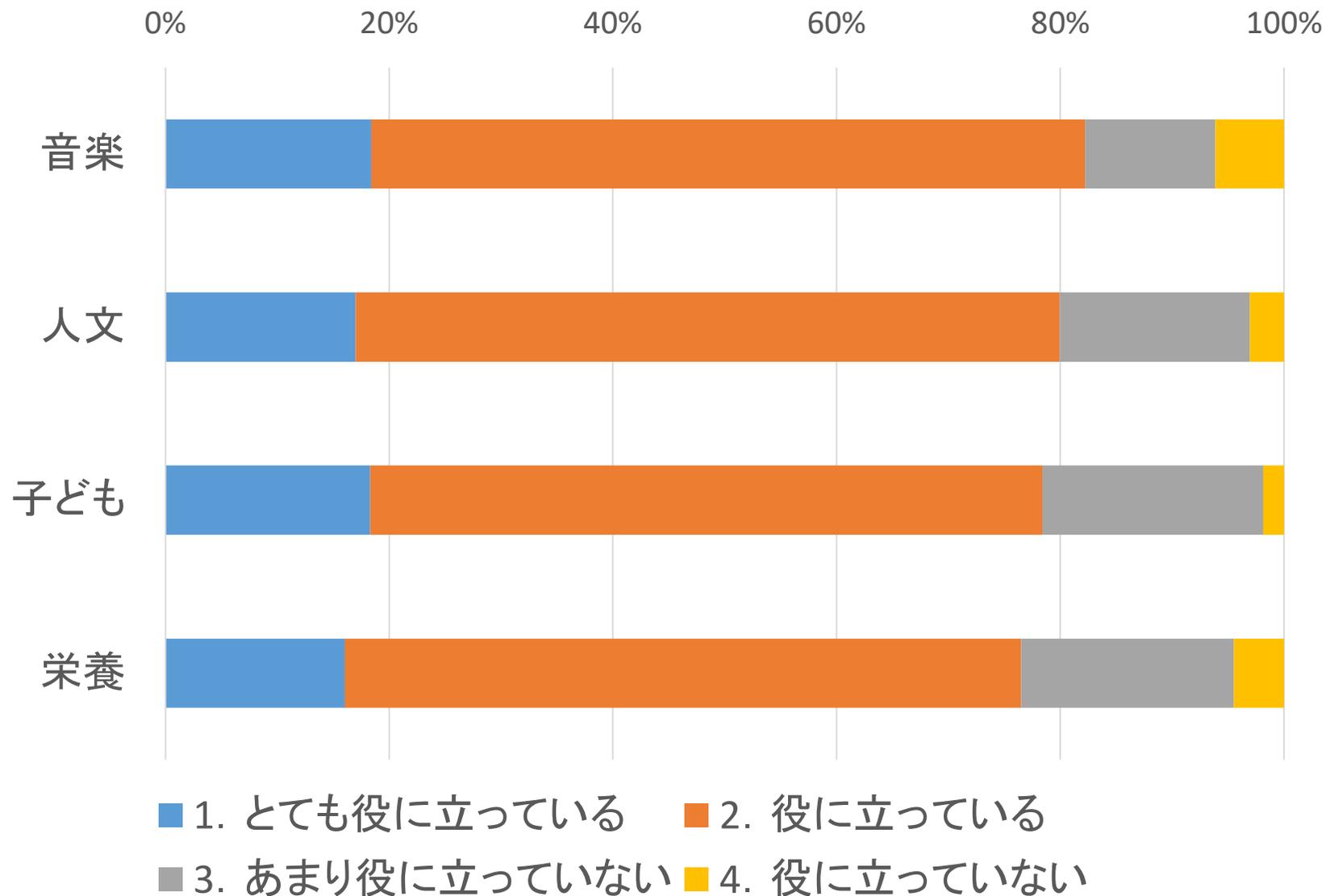
これは国際コミュニケーションコースでの英語・外国語に関する授業の存在と、留学生にとっては日本語が「外国語」であることが影響していると考えられる。

Q14-7. 統計数理の知識・技能



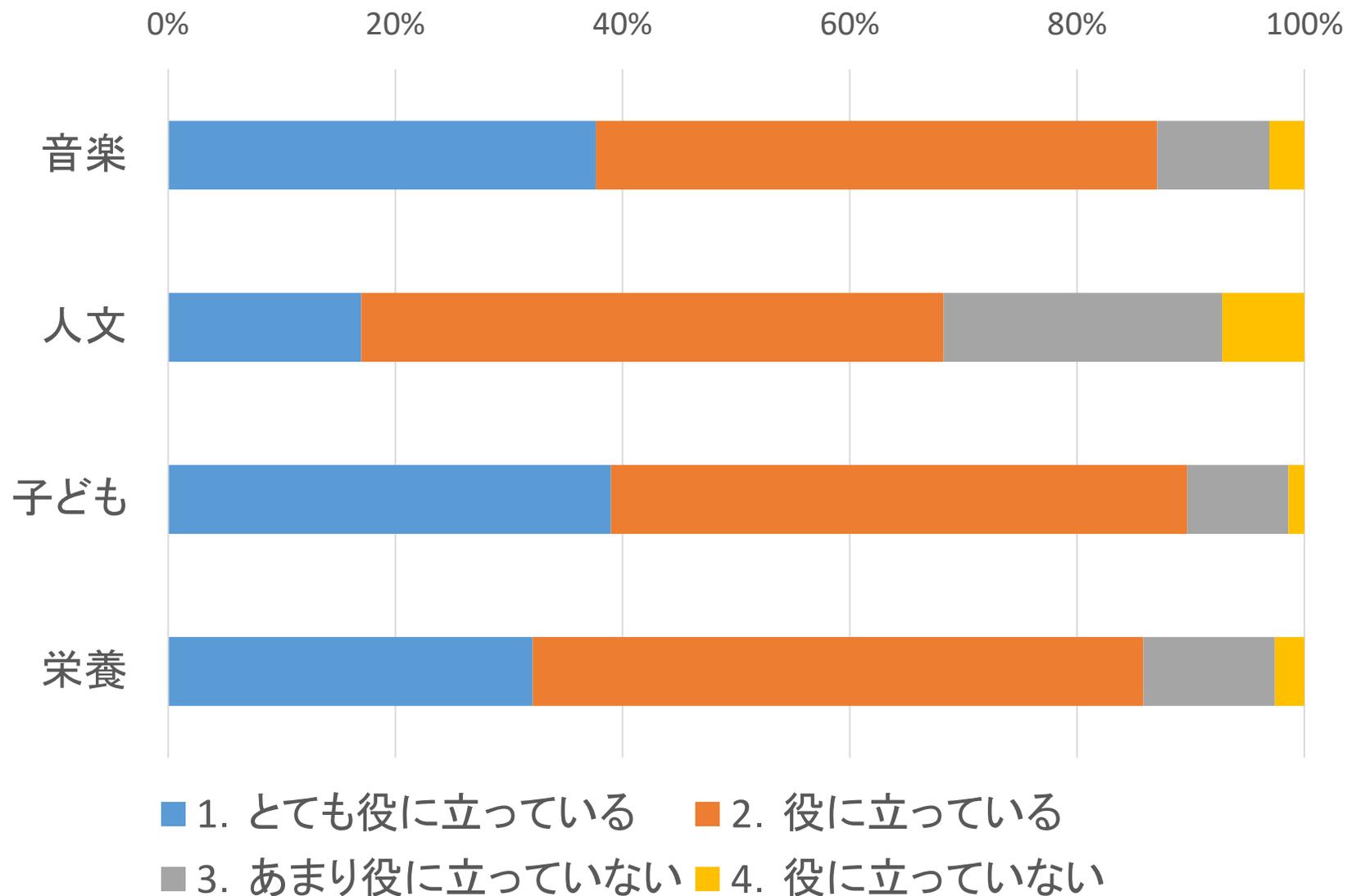
音楽が特に低い結果となっている。音楽学部では授業・レッスン・音楽練習の中で数学・統計学の知識を用いることが少ないため「役に立っている」という実感を持つ学生が少なかったと考えられる。

Q14-8. 問題を見つけ、解決方法を考える力



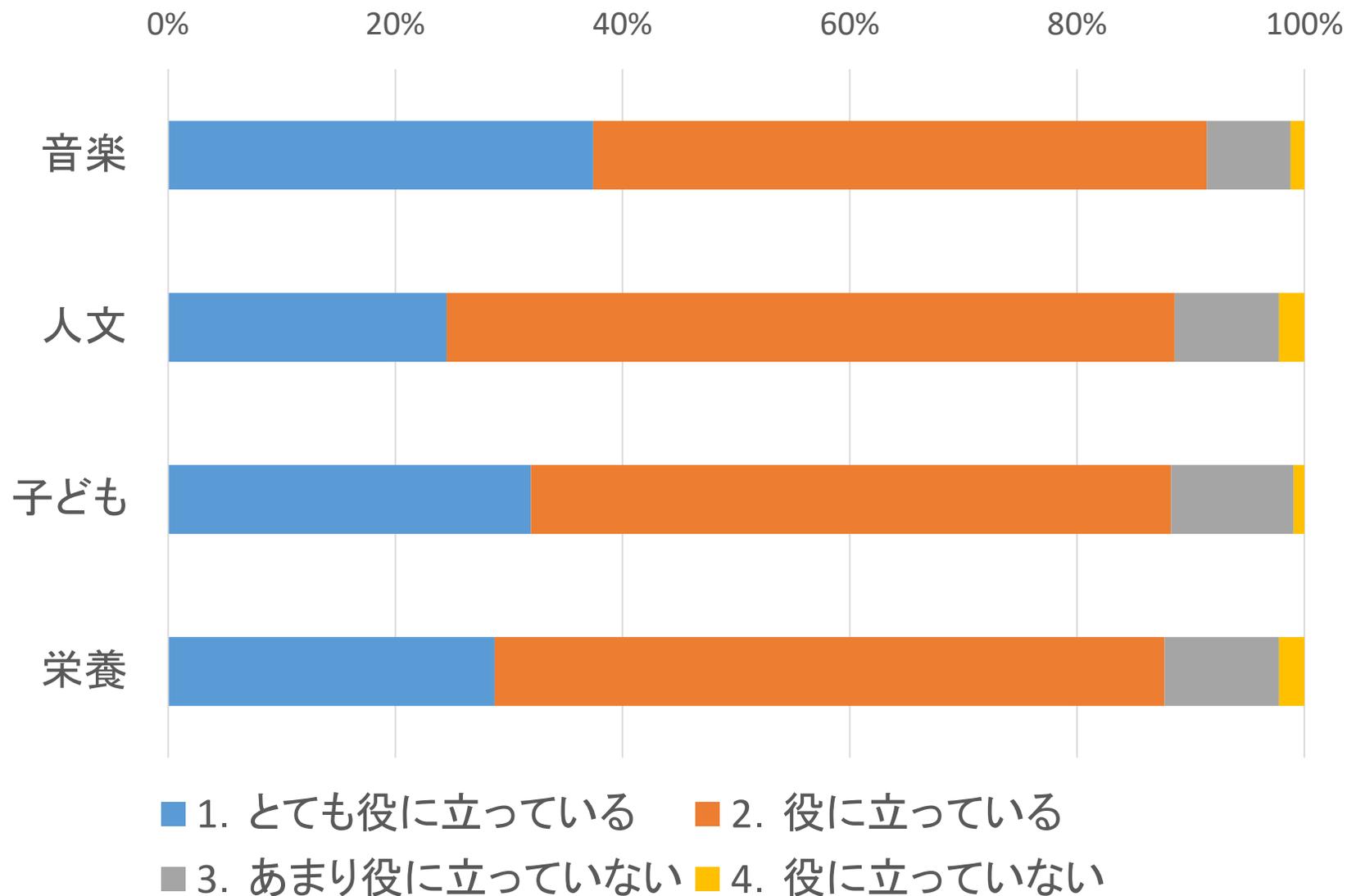
この問いは、学科間の差異がほとんど見られなかった。各学科のカリキュラムの違いはあれど、それぞれの分野で課題発見と解決方法の探求の力を磨いていることがわかる。

Q14-9. 多様な人々と協働する力



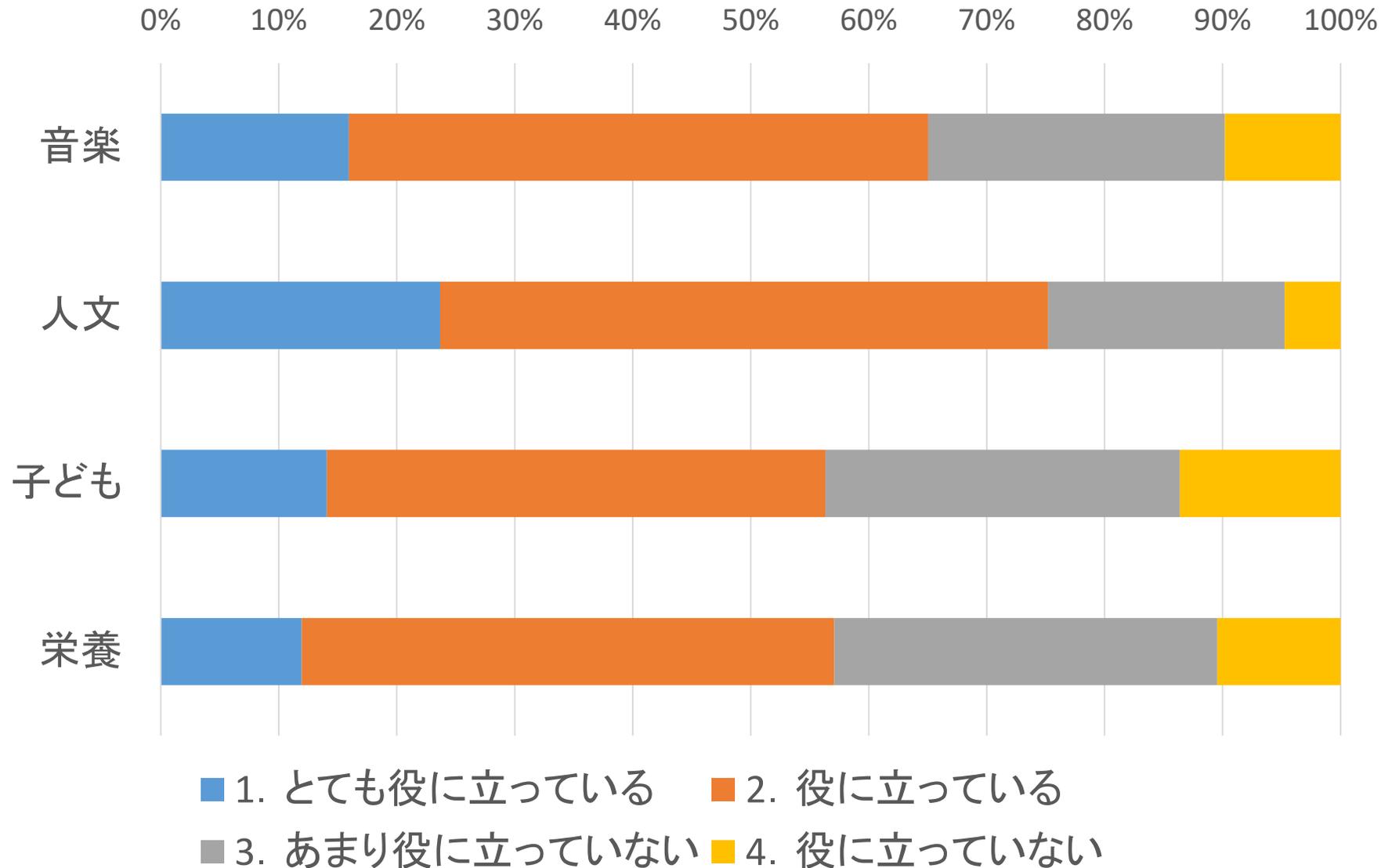
人文が低めの数値となっている。グループでの共同作業や協調性が必要となるカリキュラムが他学部よりも少ないことが影響しているとみられる。

Q14-10. 幅広い知識、ものの見方



あまり差異は見られないが、人文学部の「とても役に立っている」の回答は少なめとなっている。人文学部の6専攻のカリキュラムは幅の広い見方を養うものだが、学生にとって「役に立っている」感覚を持たせることにつながっていないと見られる。

Q14-11. 異なる文化に関する知識・理解



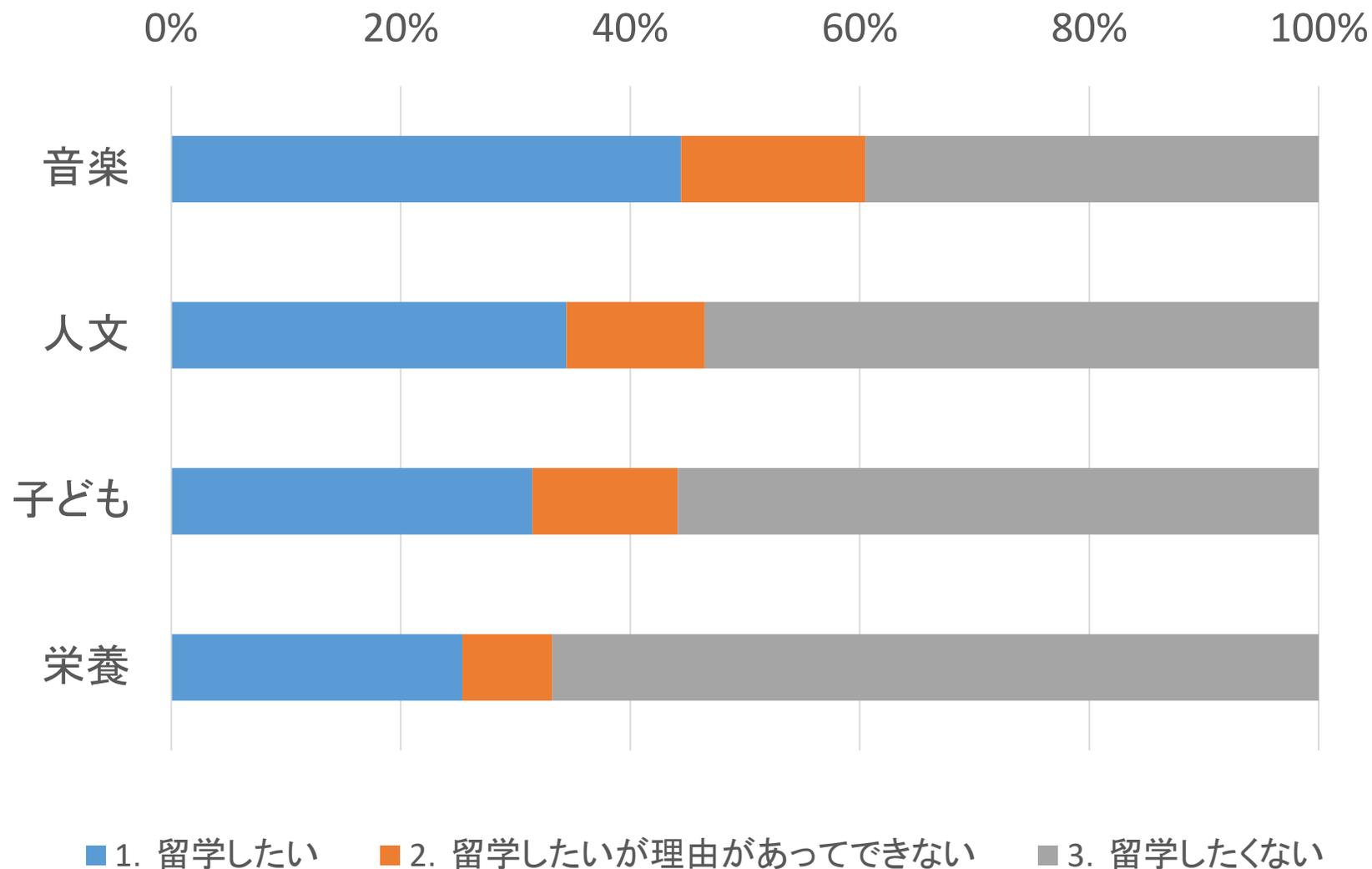
Q14-10の「幅の広い見方」とは異なり、人文学部が若干高めとなっている。

人文の学びが「異文化の理解」という点では、小幅であるが有効であるといえる。

質問Q15～Q28

課外活動

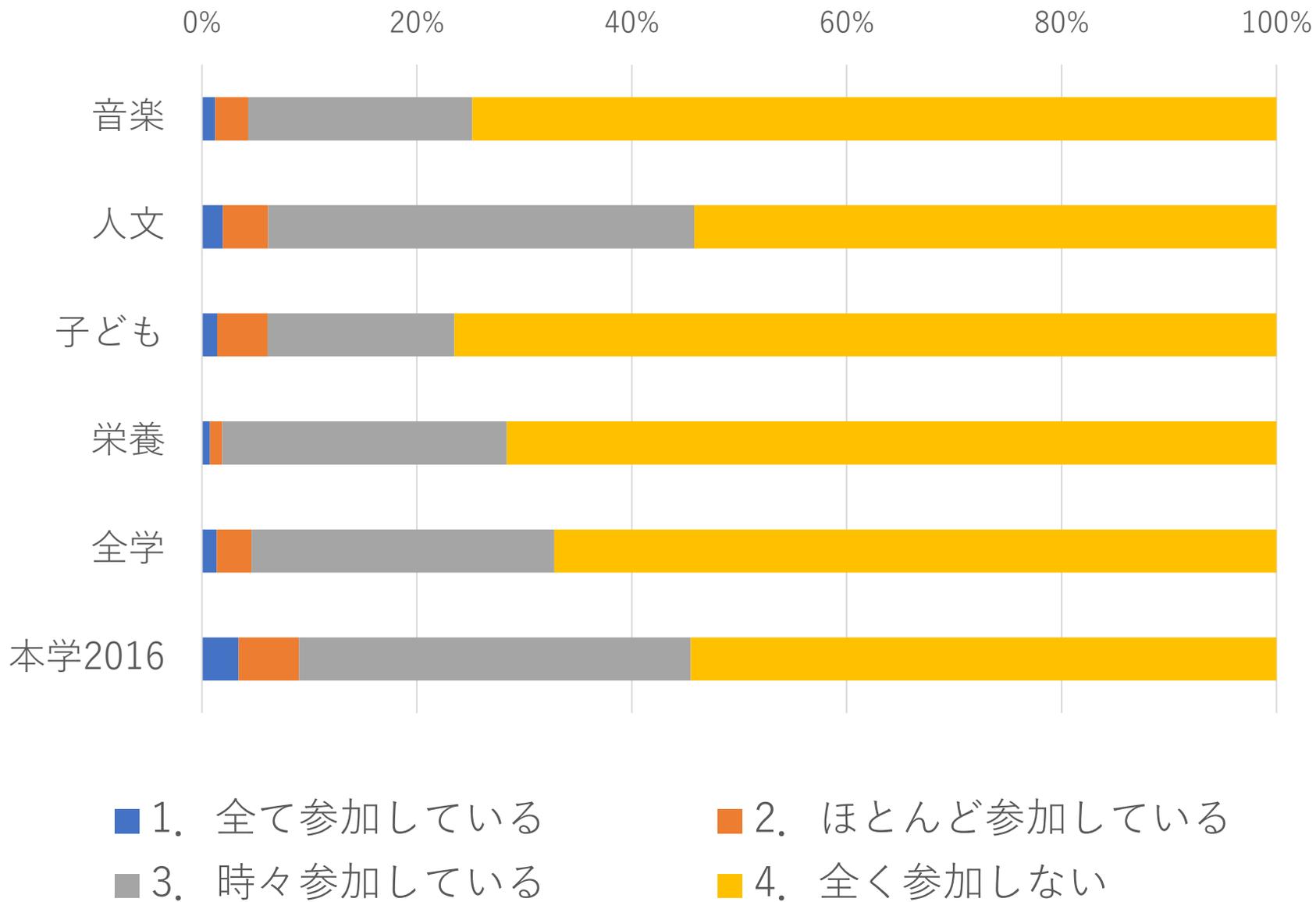
Q15. 海外留学したいと思いますか



音楽学部が高め、栄養が低めの数値となっている。

音楽の分野では、海外で学ぶことがイメージしやすく、一方、栄養の分野では海外での学びがイメージしにくいことが影響していると考えられる。

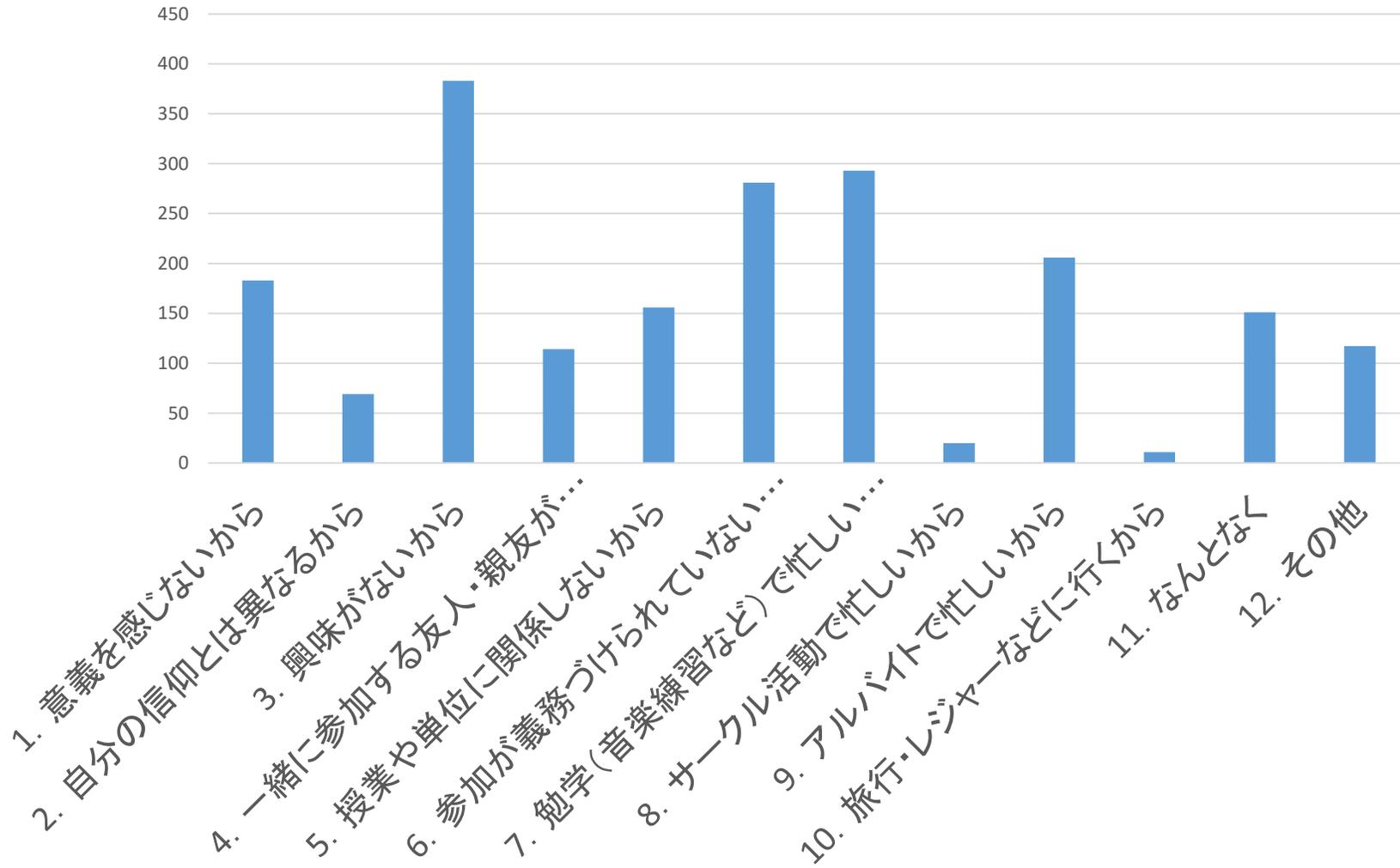
Q17. 宗教行事にどの程度参加していますか



消極的な数値となっている。人文が少し数値が高めになっているのは、仏教文化専攻の教員がいることで、多少、宗教行事に親しみやすいことが影響しているとみられる。全学を2016年と比較すると「すべて参加」「ほとんど参加」が大きく減少している。コロナ禍で通学機会が減少していることも影響しているとみられる。

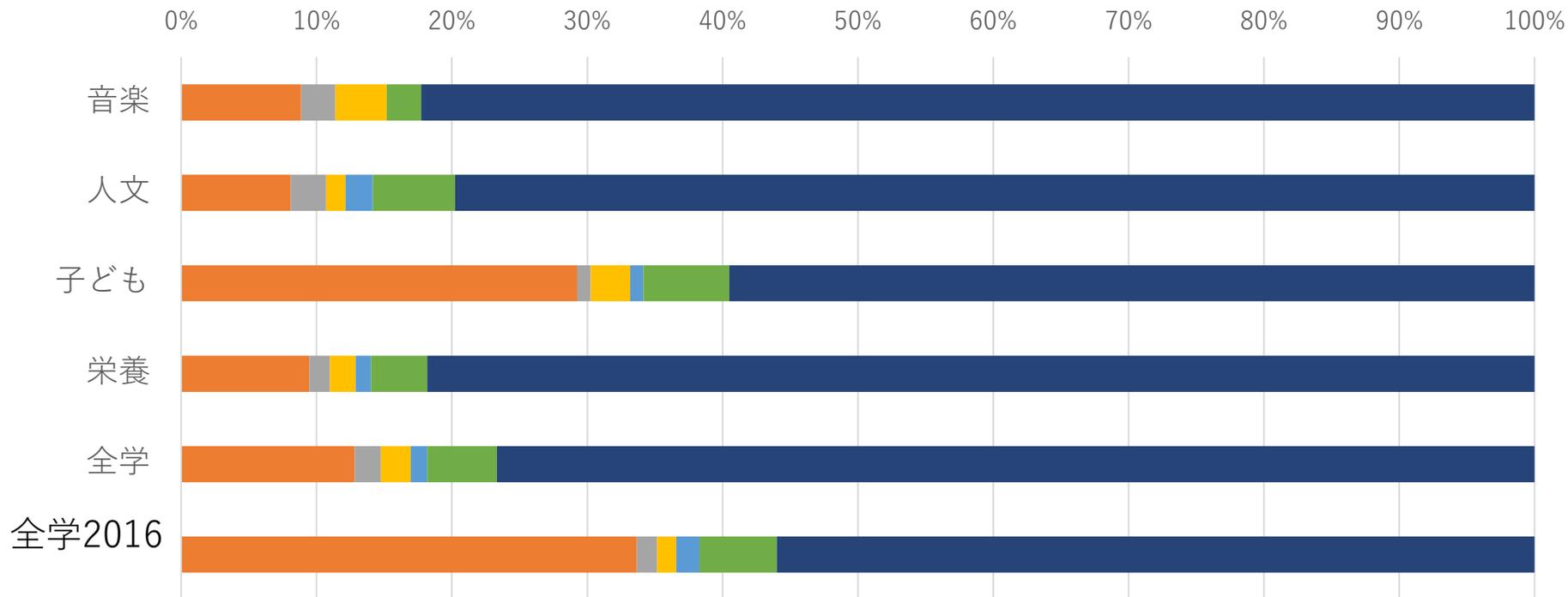
Q19. 宗教行事に参加しないときの理由

(3つまで複数可)



宗教行事不参加の理由は、順に興味がないから、勉強（音楽練習など）が忙しい、義務づけられていない、アルバイトで忙しいからが多く、2016年（別表参照）を比較すると「興味がない」が減少している。

Q20. あなたは、クラブ活動やサークル活動に参加していますか

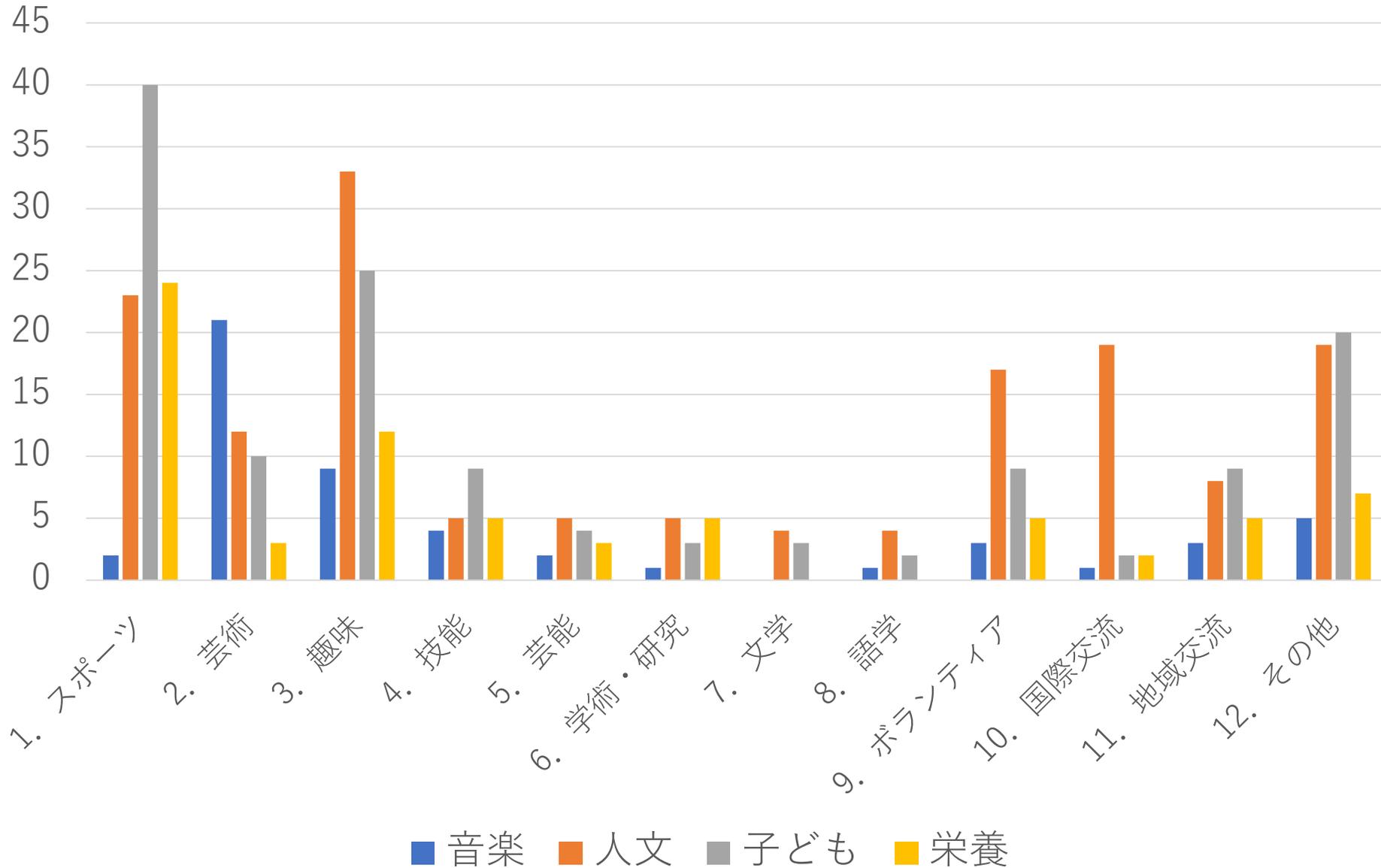


子ども発達に比較的多くのクラブ活動参加者がいるものの、他の3学科は低調となっている。2016年と比較すると全体的に参加数は低調となっている。コロナ禍で活動休止・新規勧誘の停止となっている影響が大きい。

- 1. 学内のクラブ・サークル活動に参加している
- 2. 複数大学の学生が参加するサークル活動に参加している
- 3. 地域等のクラブ・サークル活動に参加している
- 4. 学内および学外のクラブ・サークル活動両方に参加している
- 5. 以前は参加していたが、今は参加していない
- 6. 参加していない

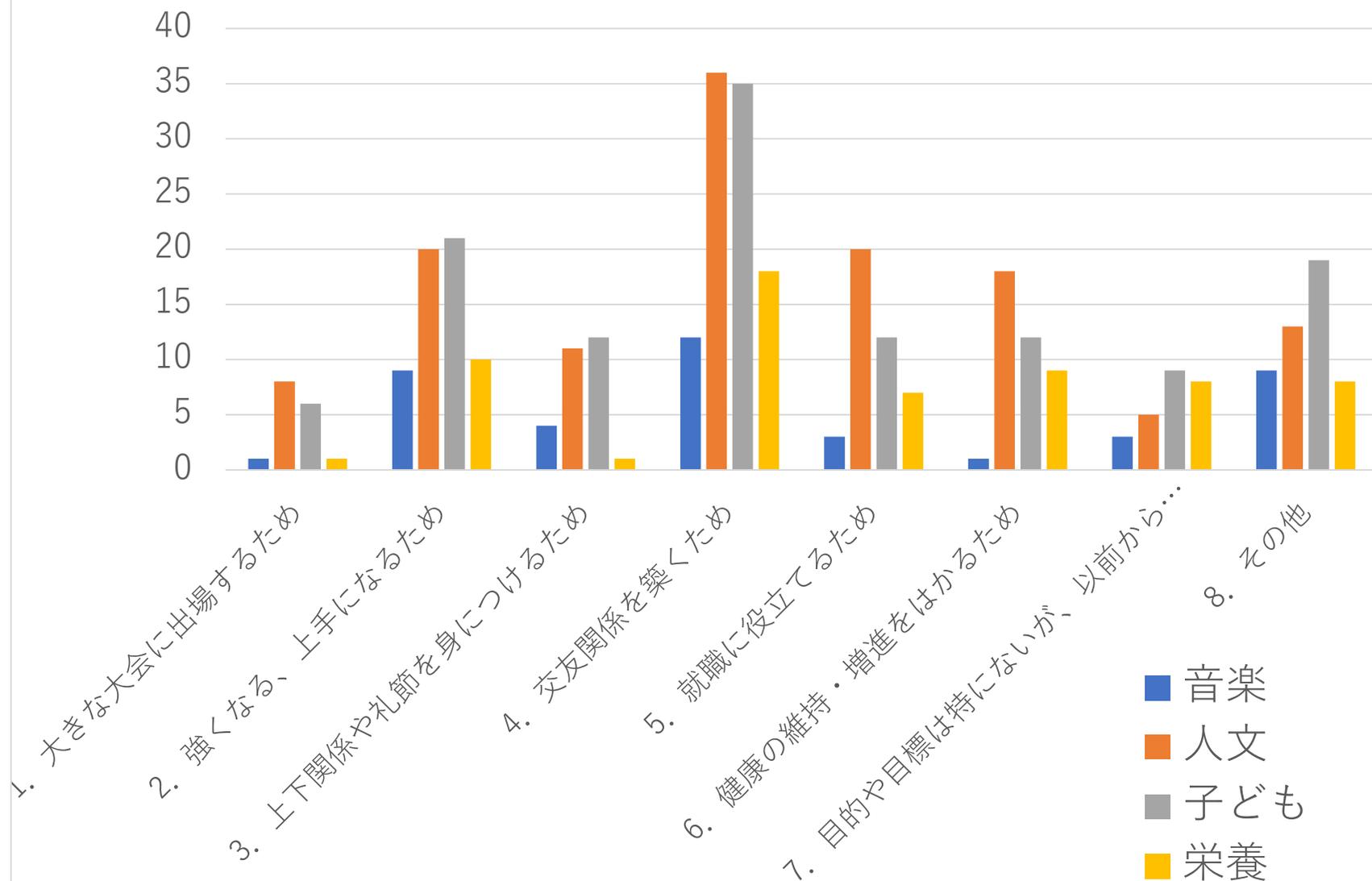
Q21. 活動の内容は何ですか (3つまで選んでください)

スポーツ、趣味、
芸術の順に多い。



Q22. 学内のクラブ・サークル活動を行う目的

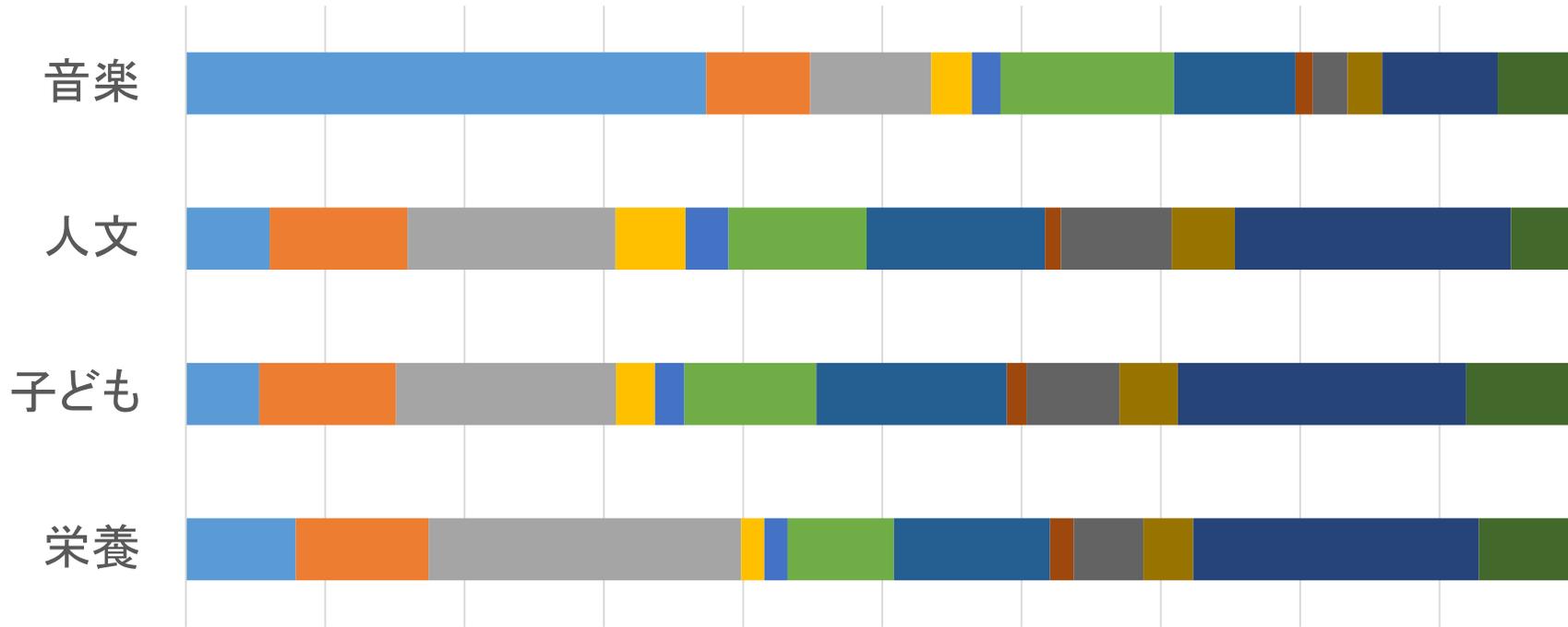
または目標は何ですか (該当する項目をすべて選んでください)



「交友関係を築く」、「強くなる、上手になる」、「就職に役立てる」、「健康の維持、増進」の順に多い。2016年と比較すると、その目的とするところは大きく変化している。すなわち、2016年は「大きな大会に出場する」「上下関係や礼節を身につける」「強くなる、上手になる」の順で、目的が明確であったことが特徴としてあげることができる。

Q23 クラブ・サークル 参加しない理由

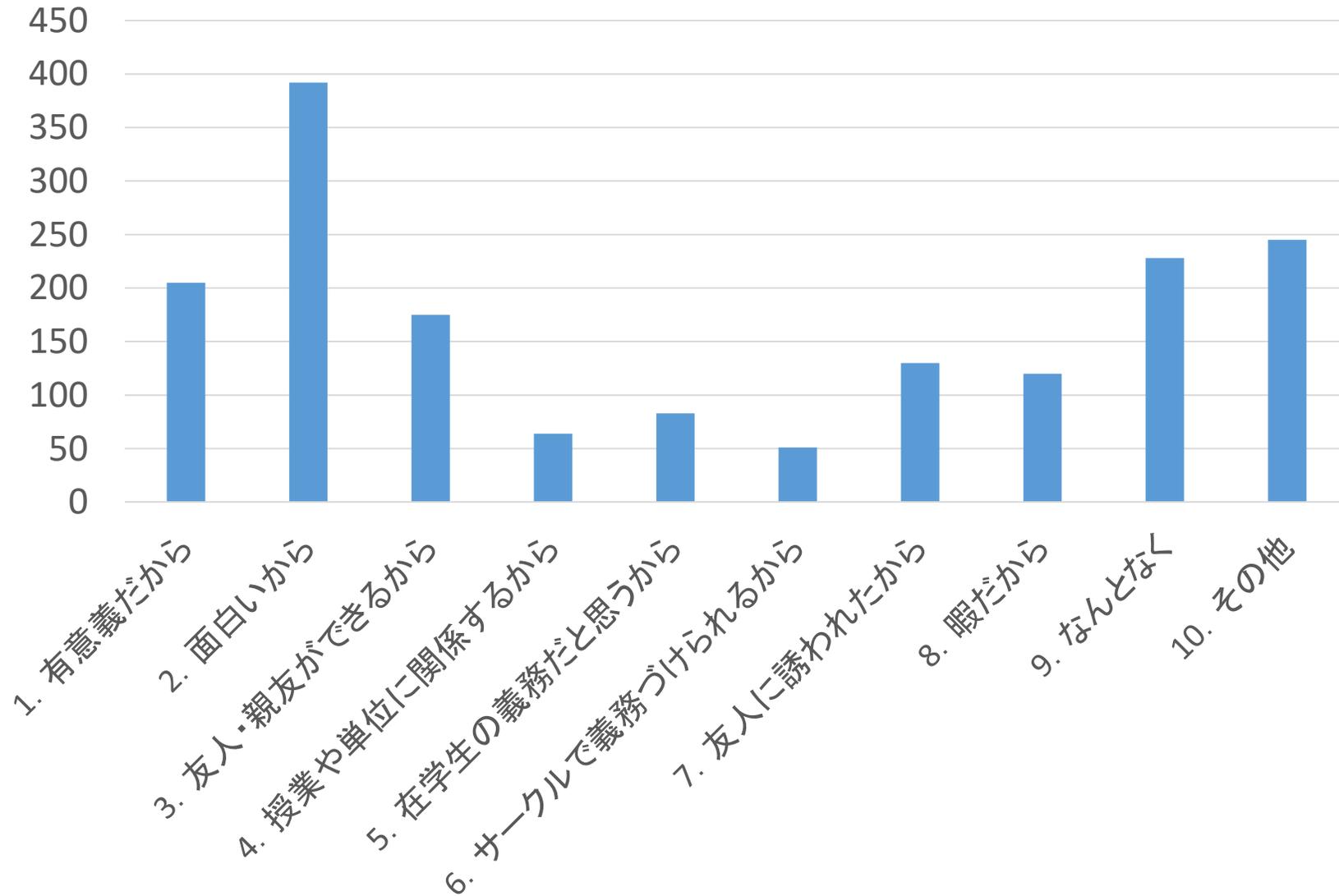
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



音楽楽部では勉学に打ち込みたいという理由が大きい。その他の学科では、「活動が停止されている」という理由は大きいですが、「アルバイトのための時間」を優先したい傾向がある。

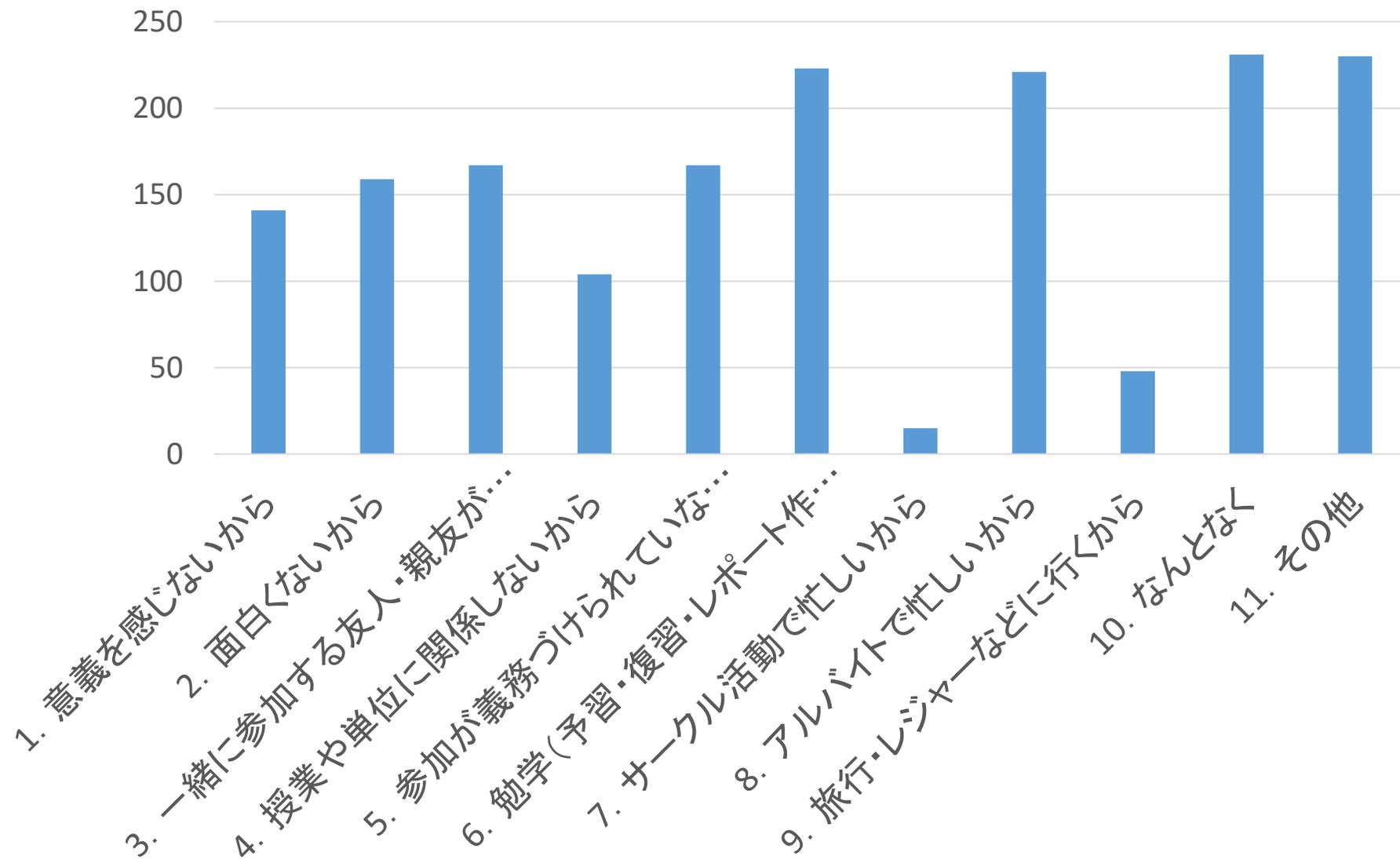
- 1. 勉学(実技練習)に打ち込みたい
- 2. 通学に時間を取られる
- 3. アルバイトのための時間
- 4. 他人に拘束されるのがいや
- 5. 上下の人間関係がいや
- 6. 他にやりたいことがある
- 7. 自分の関心に合うものがないから
- 8. 費用がかかり過ぎるから
- 9. 参加するきっかけを逸した
- 10. 参加の手続きがわからなかった
- 11. 活動が停止されているから
- 12. なんとなく

Q24. 大学祭・体育祭等の参加の動機



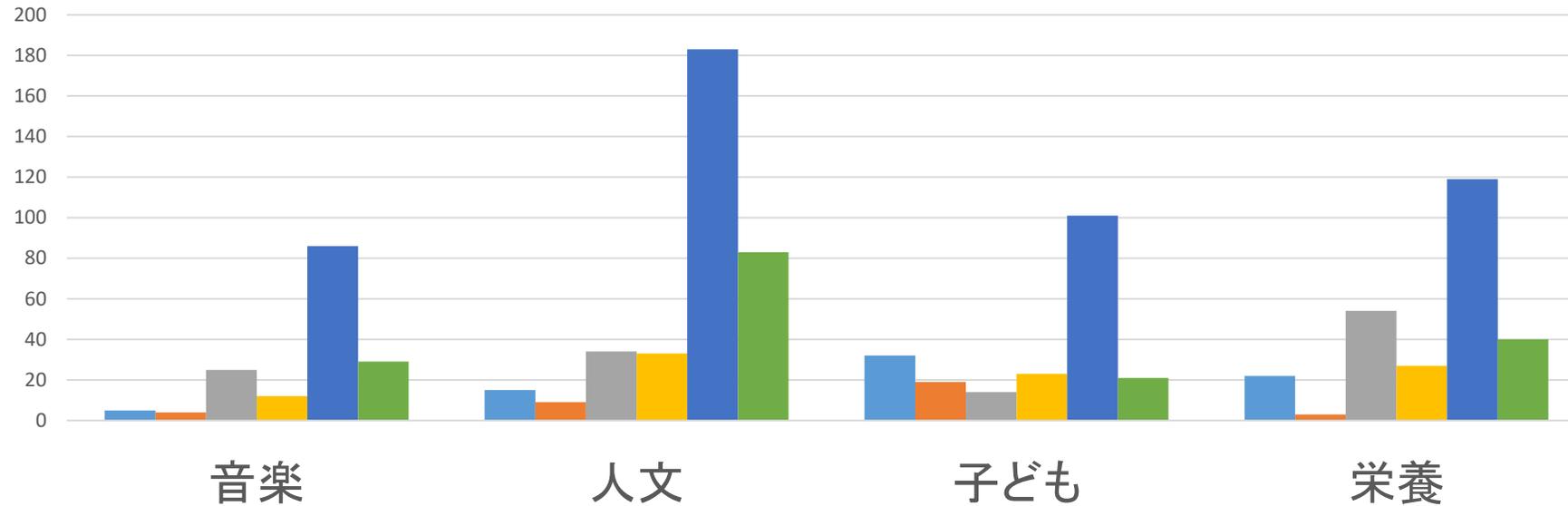
「面白いから」がもっとも多い。2016年と比較すると、コロナ禍での活動停止の影響で、「サークルで義務づけられている」が大きく減少した。

Q25. 大学祭、体育祭等の不参加の理由



「なんとなく」理由が多いが、「勉強で忙しいから」「アルバイトで忙しいから」も多く、Q19の宗教行事に参加しない理由やQ23のクラブ・サークルに参加しない理由と重なってきており、特にクラブ・サークルに入っていることと大学祭、体育祭の関連が強いと思われる。

Q26. 大学でボランティア活動をしたことがあるか

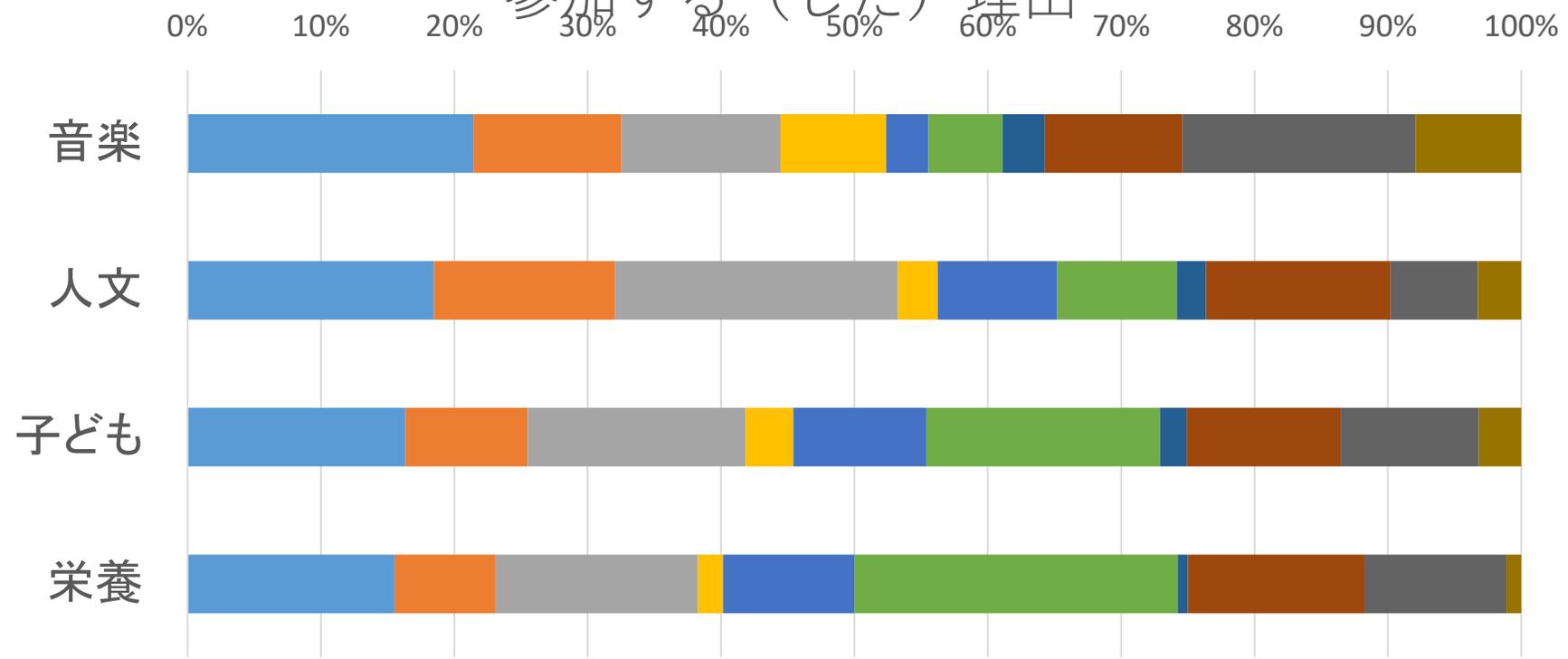


- 1. 現在、参加して報酬を受けている
- 2. 現在、参加しているが報酬は受けていない
- 3. 過去に参加したことがあり、報酬を受けていた
- 4. 過去に参加したことはあるが、報酬は受けていなかった
- 5. 興味はあるが参加したことはない
- 6. 興味もないし参加したこともない

2016年との比較では、選択肢を変更したため直接比較はできないが、「興味はあるが参加したことがない」という回答が過半数近くとなった。人文に「参加したことがない」さらには「興味もない」という学生が突出して多いことが読み取れる。

Q27. ボランティア活動に

参加する(した)理由

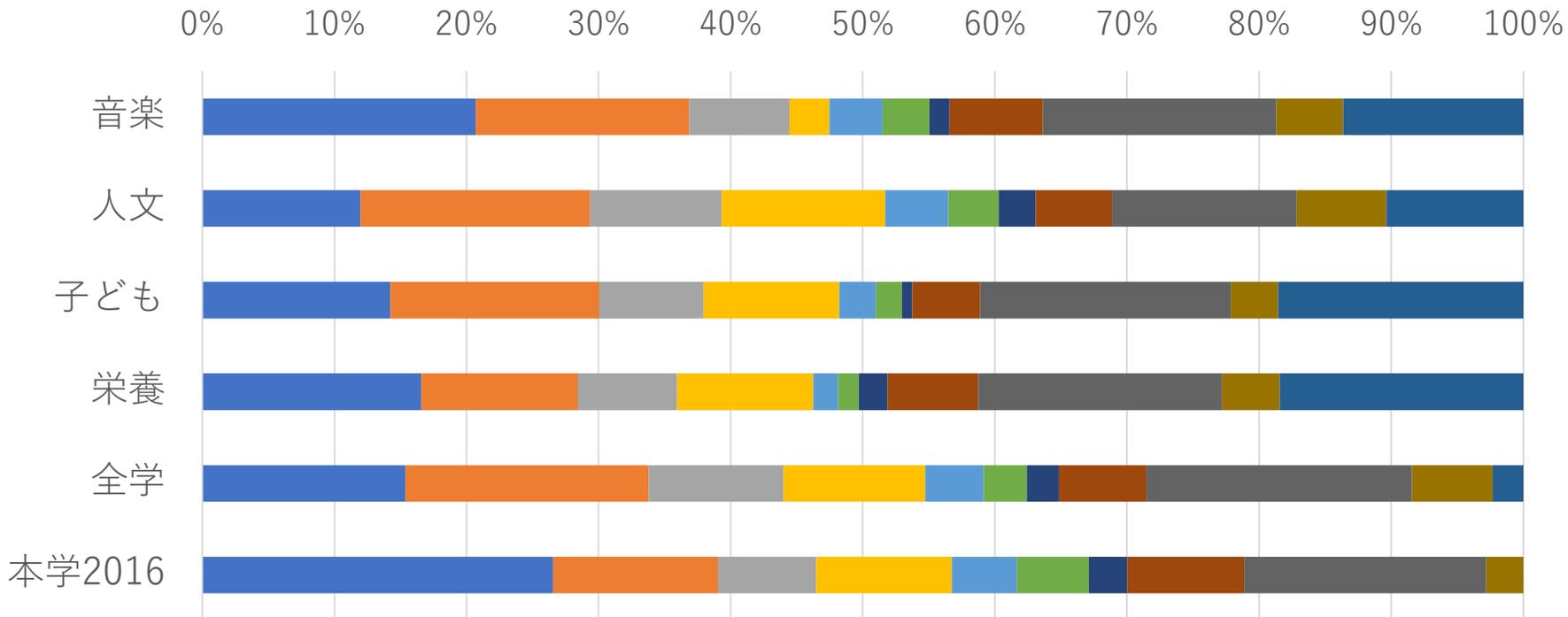


音楽では「教職員・友人に誘われた」が他の学科より多めとなっている。子ども・栄養では「就職に役だつ」、人文では「新しい出会い・経験」の項目が多めとなっている。

- 1. 誰かの役に立ちたい
- 2. 自分の見聞を広めたい
- 3. 新しい出会いや経験をしたい
- 4. 得意なことを生かしたい
- 5. 大学生活を充実させたい
- 6. 就職に役立つと思った
- 7. 授業(単位が認定される)
- 8. 社会勉強だと思った
- 9. 教職員や友人に誘われた
- 10. その他

Q28. ボランティア活動に参加しない理由は何ですか

(該当する項目をすべて選んでください)



- 1. ボランティアをしている時間がないから
- 2. 参加するチャンスやきっかけがないから
- 3. どのように参加すれば良いかわからないから
- 4. 一人で参加する気にはなれないから
- 5. 体力に自信がないから
- 6. 経済的余裕がないから
- 7. 誰かと何かを一緒にやるのが苦手だから
- 8. 参加したいと思える活動がないから
- 9. 特に理由はない
- 10. その他
- 11. 参加したことがある

参加しない理由はチャンスがない・時間がないという回答が目立った。2016年と比較すると、時間がないという回答が大幅に減少し、チャンスやきっかけがない、どのように参加すれば良いかわからない、という回答が増えた。参加に戸惑う意見が多くなっていることがわかる。コロナ禍でボランティア活動の募集停止や規模縮小が相次いだことが影響していると考えられる。

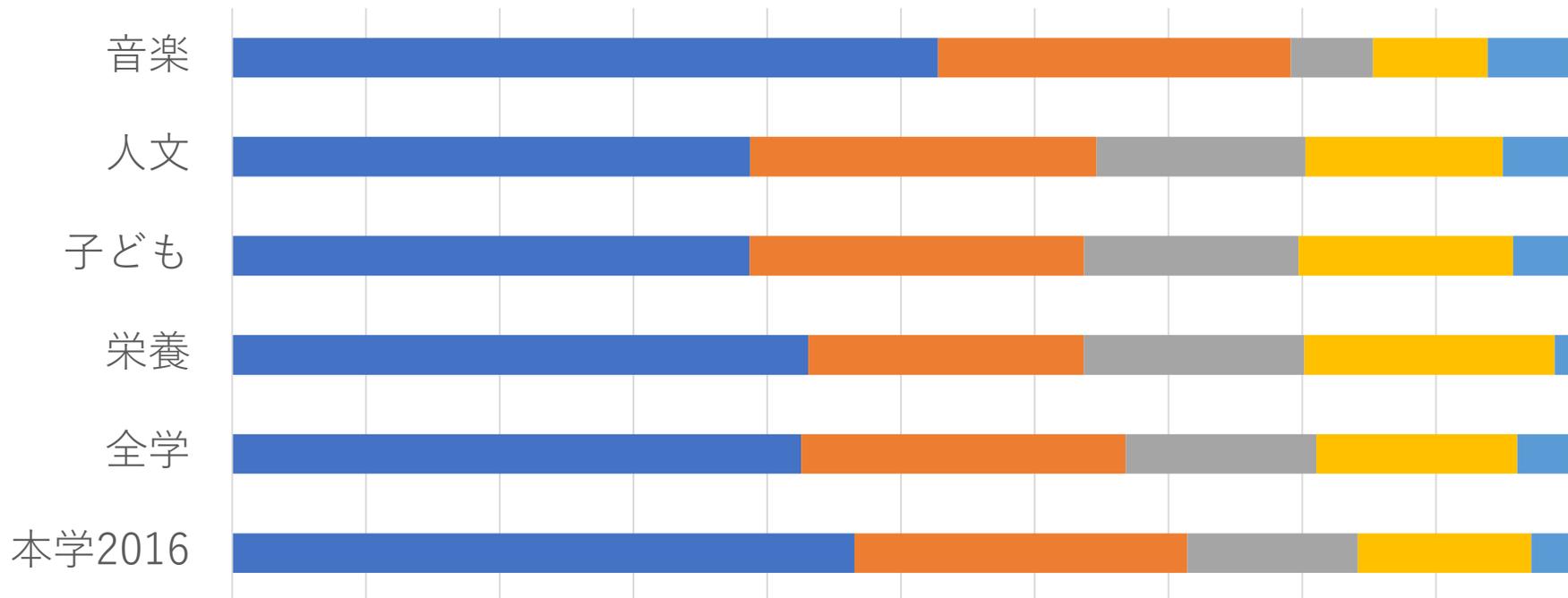
質問Q29～Q37

經濟

Q29. 学費はどのように払っていますか

(1つだけ選んでください)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



- 1. 全額親や保護者など
- 2. 親や保護者などが主で、不足分を奨学金やアルバイトで
- 3. 奨学金やアルバイトが主で、不足分を親や保護者など
- 4. 全額奨学金やアルバイトでまかなう
- 5. その他

音楽学部は、比較的、保護者が全学払うという学生が50%を超えており、他学科と比較して多い。

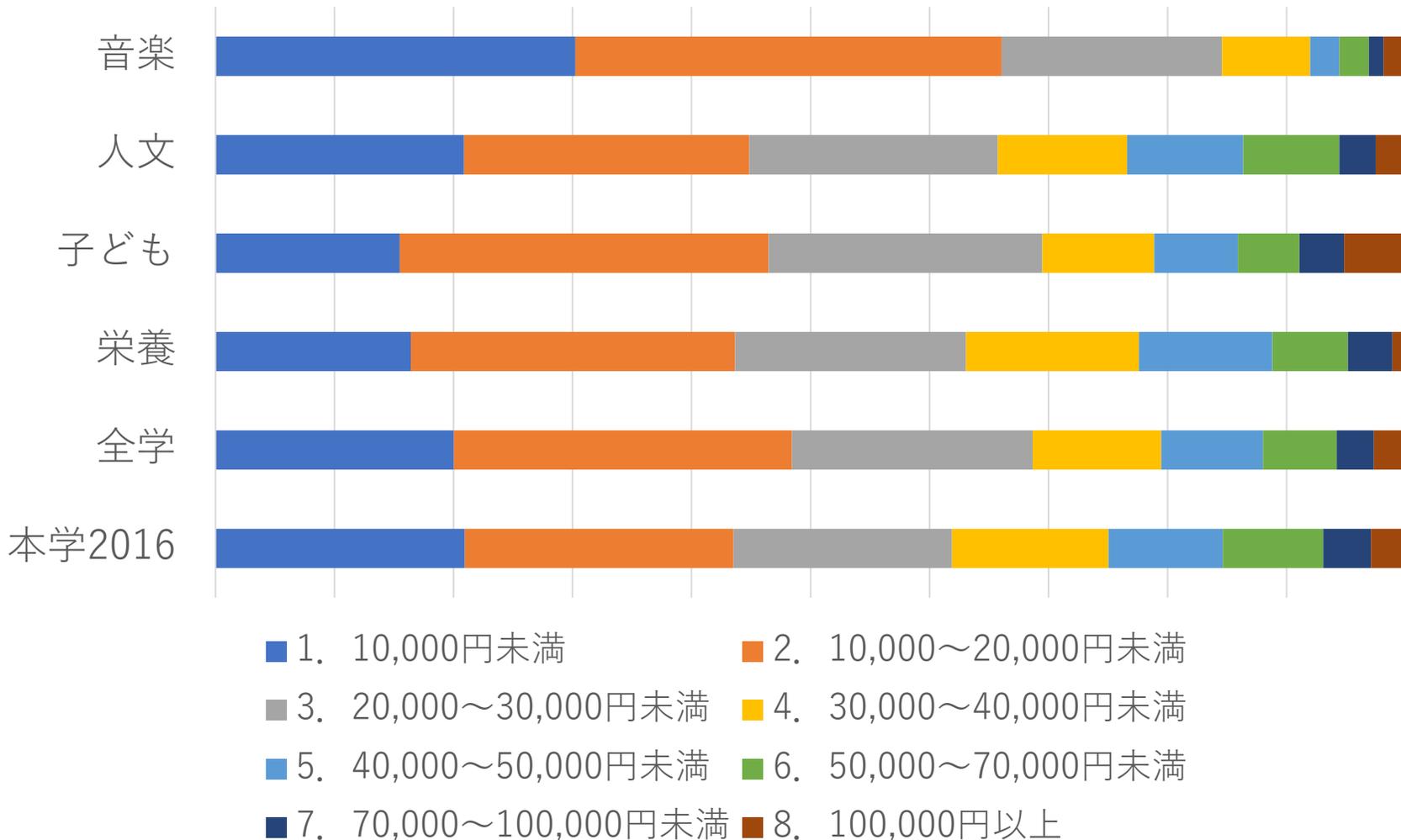
他の学科は、40%が保護者となっており、ほぼ同様の傾向が見られる。

全学・2016年のデータも似た傾向を示している。

Q30. 1ヶ月に自由に使えるお金はどのくらいで

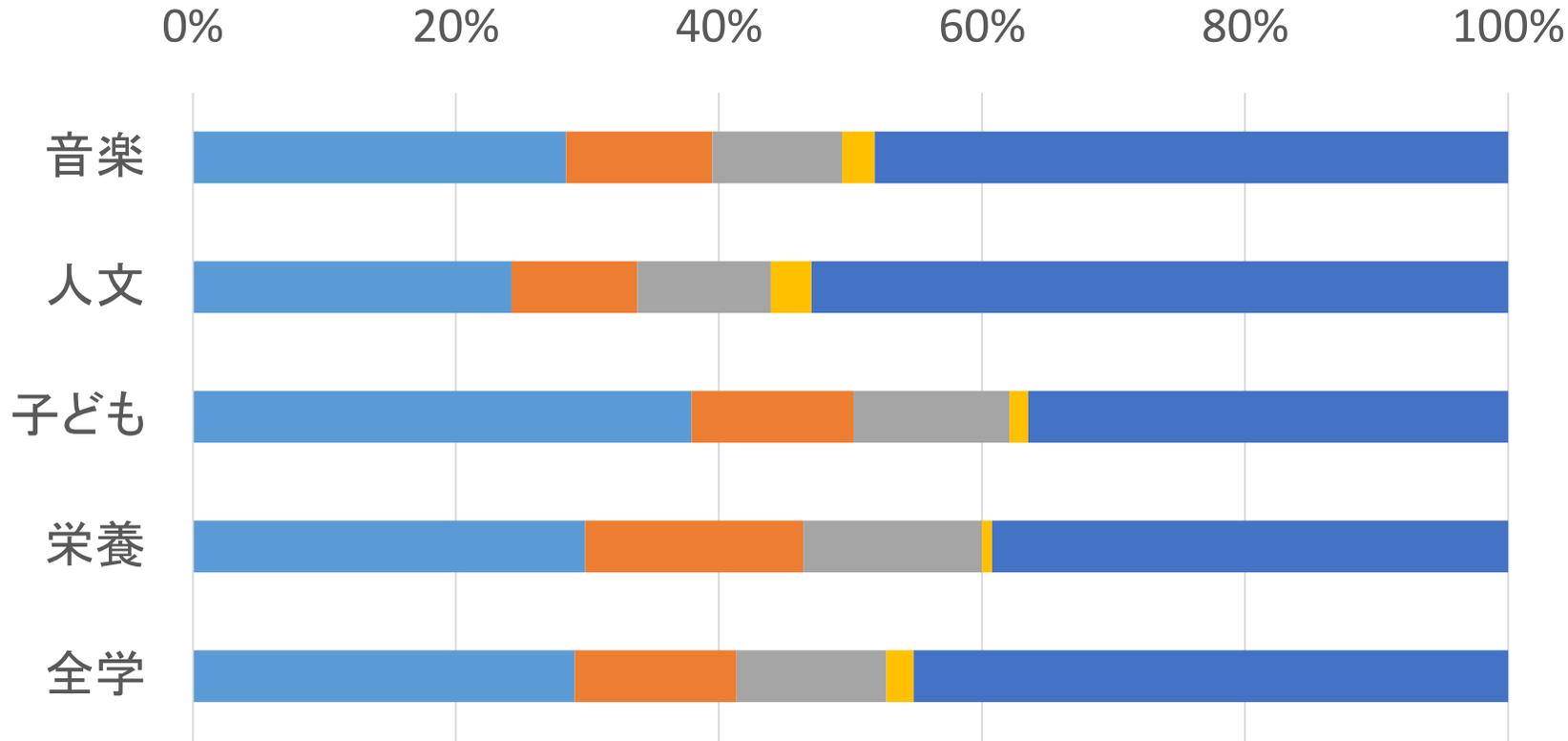
すか（住居費・光熱費、食費を除く）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



音楽は、比較的少ない金額の回答が多い。その他の学科はほぼ同様の傾向を示している。音楽では10,000円未満と答えた学生が多かったが、Q35でアルバイトをしている学生が少ない傾向であったことが、一因であると考えられる。2016年と比較すると全体的に金額大きい回答がやや少なくなっている。

Q31. 奨学金を受給していますか



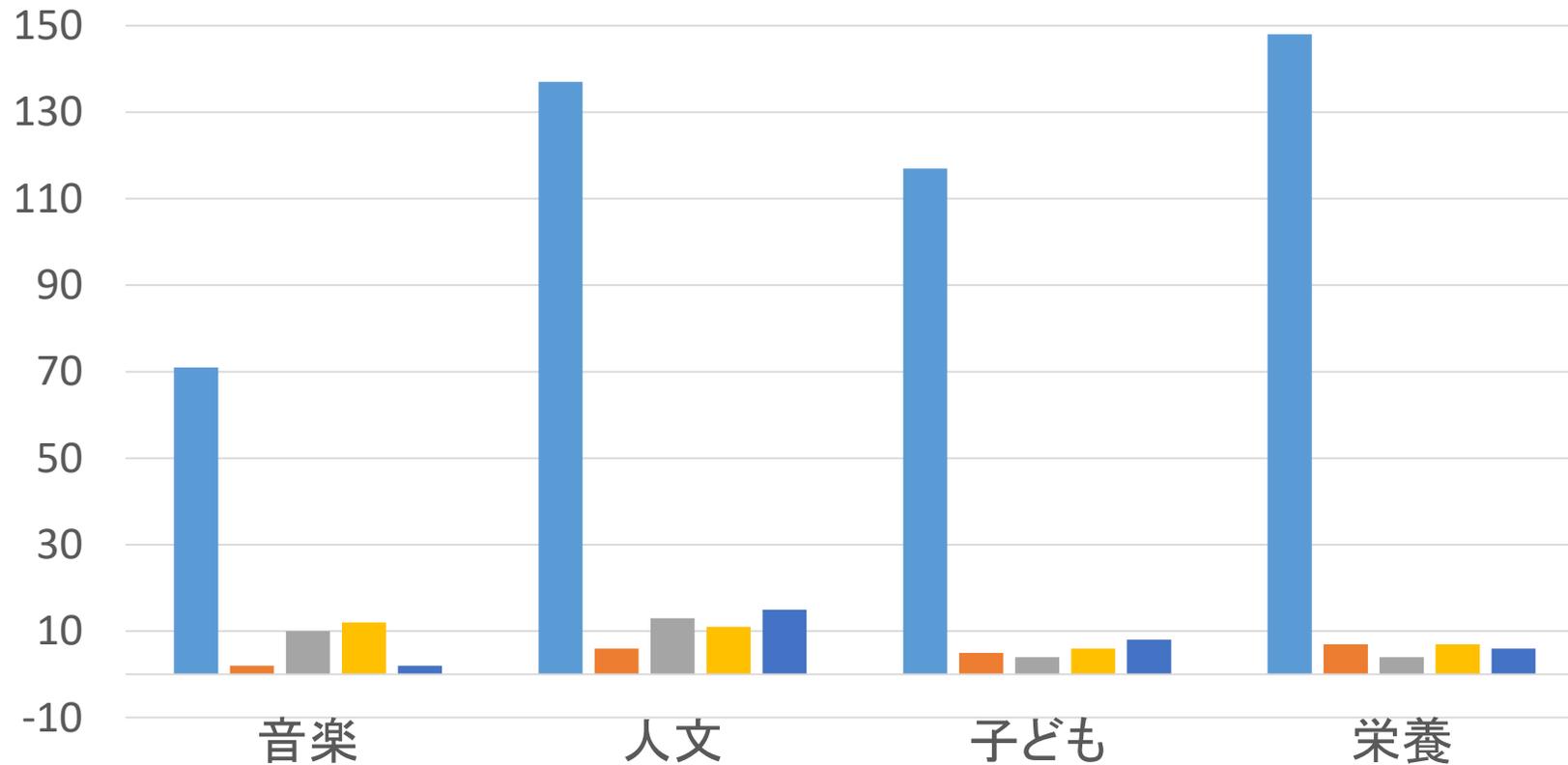
- 1. 貸与型奨学金を受給している
- 2. 給付型奨学金を受給している
- 3. 貸与型と給付型両方の奨学金を受給している
- 4. 奨学金を受給したことがあるが、現在は受給していない
- 5. 受給していない(Q35へ)

奨学金利用者は、人文と音楽が比較的少なくなった。

人文は年間の学費が多少抑えられているための結果とみられる。

音楽で、学費が高めであるにもかかわらず、奨学金受給が少ないことは、経済状況にゆとりがある家庭が多いことが予想される。

Q32. どの奨学金を受給されていますか (受給されていきましたか)

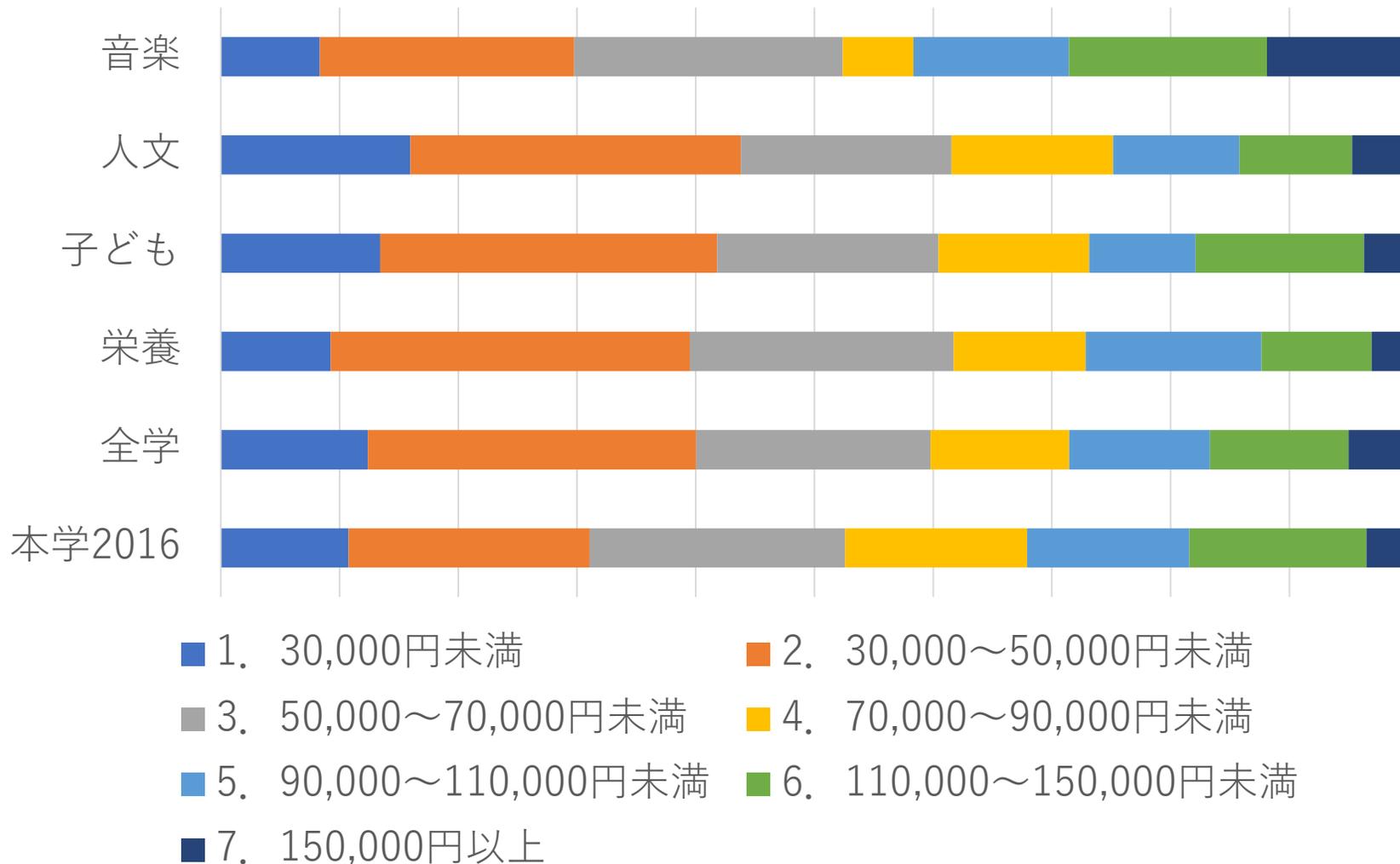


各学部学科とも日本学生支援機構の奨学金がダントツ多い。音楽は他学科に比べて少ない傾向にある。

- 1. 日本学生支援機構
- 2. 地方公共団体
- 3. 財団や企業による奨学金
- 4. 大学独自の奨学金
- 5. その他

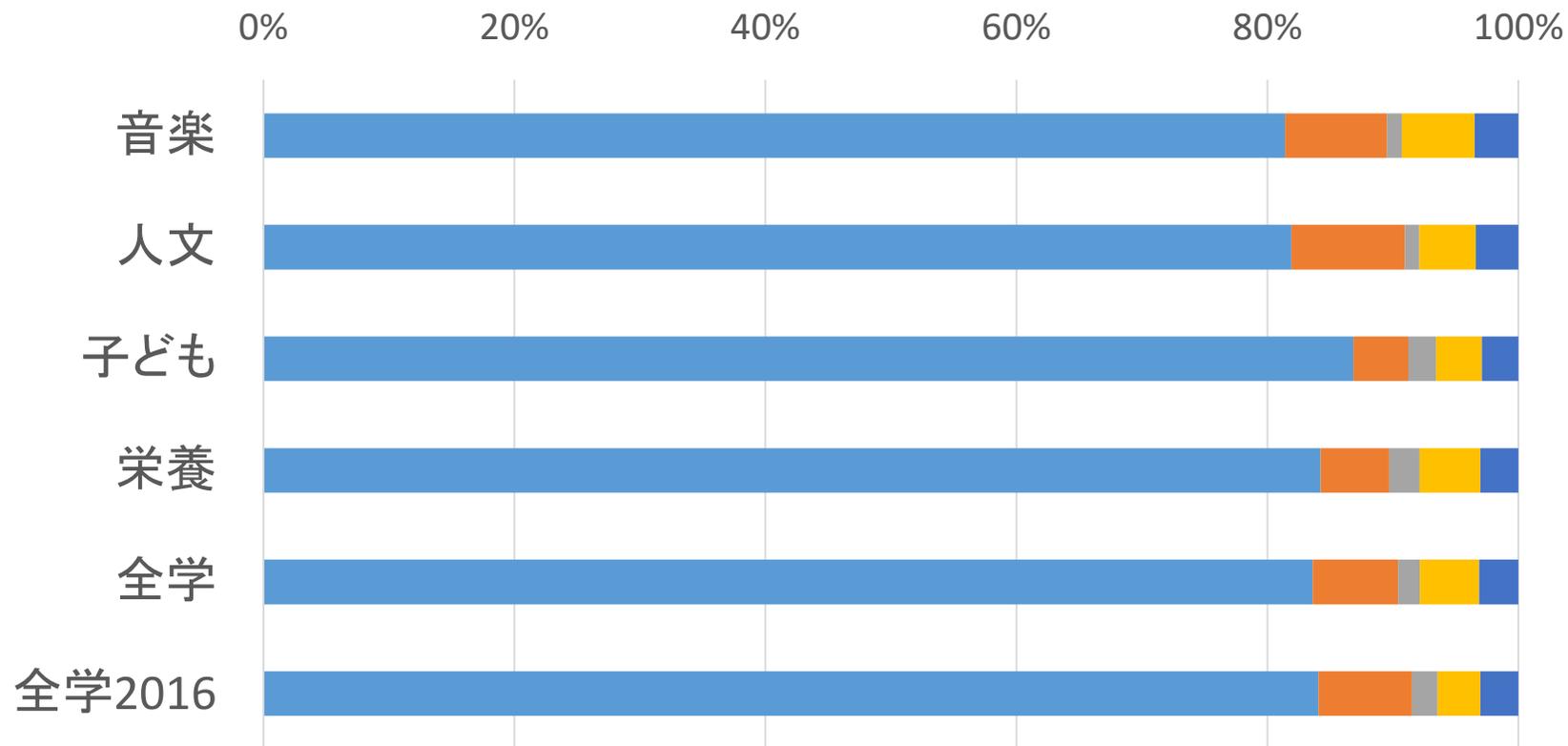
Q33. 1ヶ月あたりの奨学金受給金額の合計額は はいくらですか

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



全学を2016年データと比べると、50,000円未満が微増している。

Q34. 奨学金を主に何に使っていますか

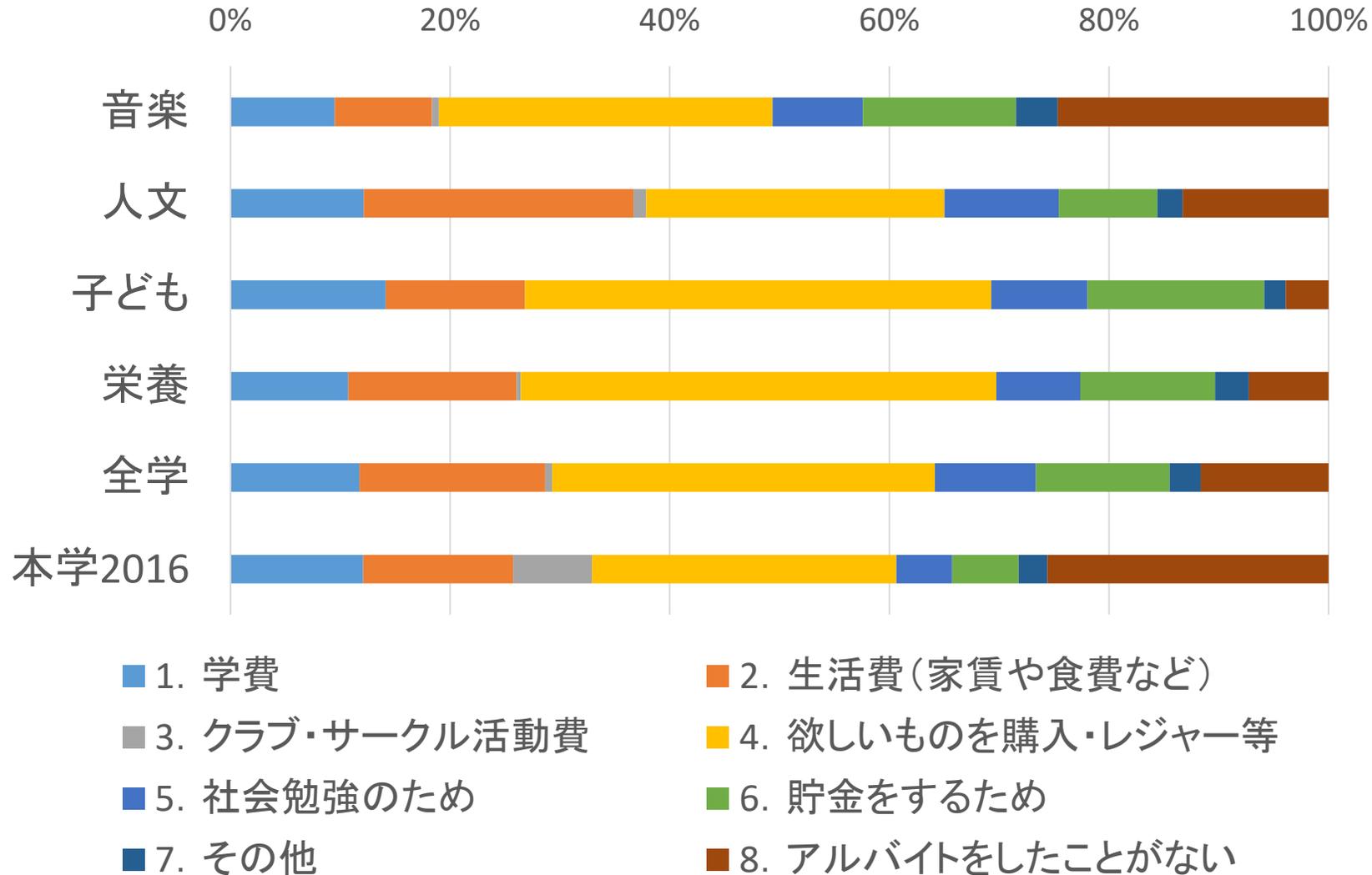


奨学金の用途については、学費が80%を超え、その他の用途についての差異も学部間で小さくなっている。

- 1. 学費
- 2. 生活費(家賃や食事代など)
- 3. 娯楽、嗜好品
- 4. 貯金
- 5. その他

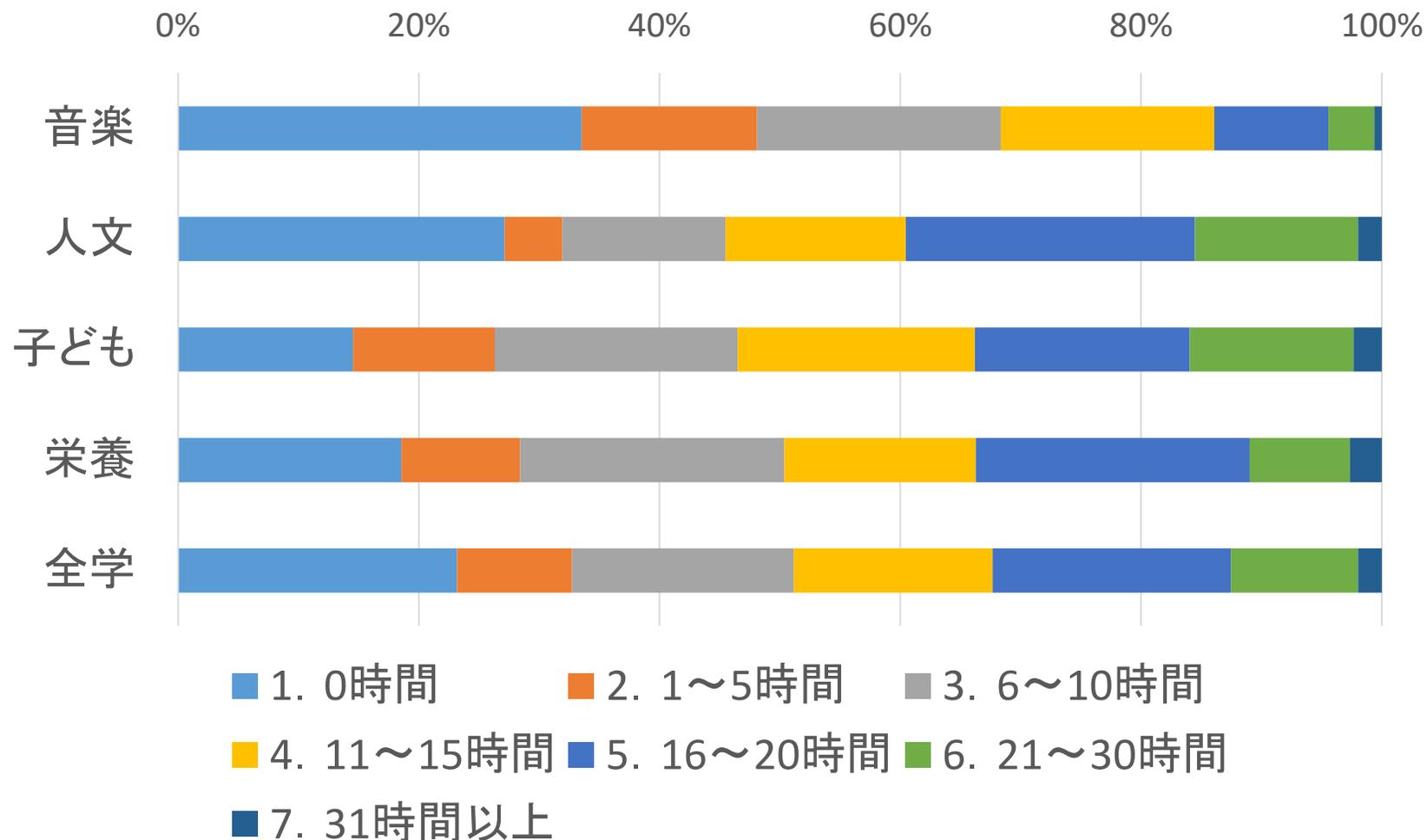
Q35. アルバイトをする最も大きな

理由は何ですか



人文学部では、生活費の回答が多めとなった。これは留学生が含まれていることが影響を与えている（生活費のためにアルバイトをせざるを得ない）反対に音楽では、アルバイトをしたことがない学生が多い。演奏・練習に力を入れていることや経済状況が影響を及ぼしているとみられる。子どもや栄養は他の学科に比べて、「欲しいものを購入やレジャー等」が多い。

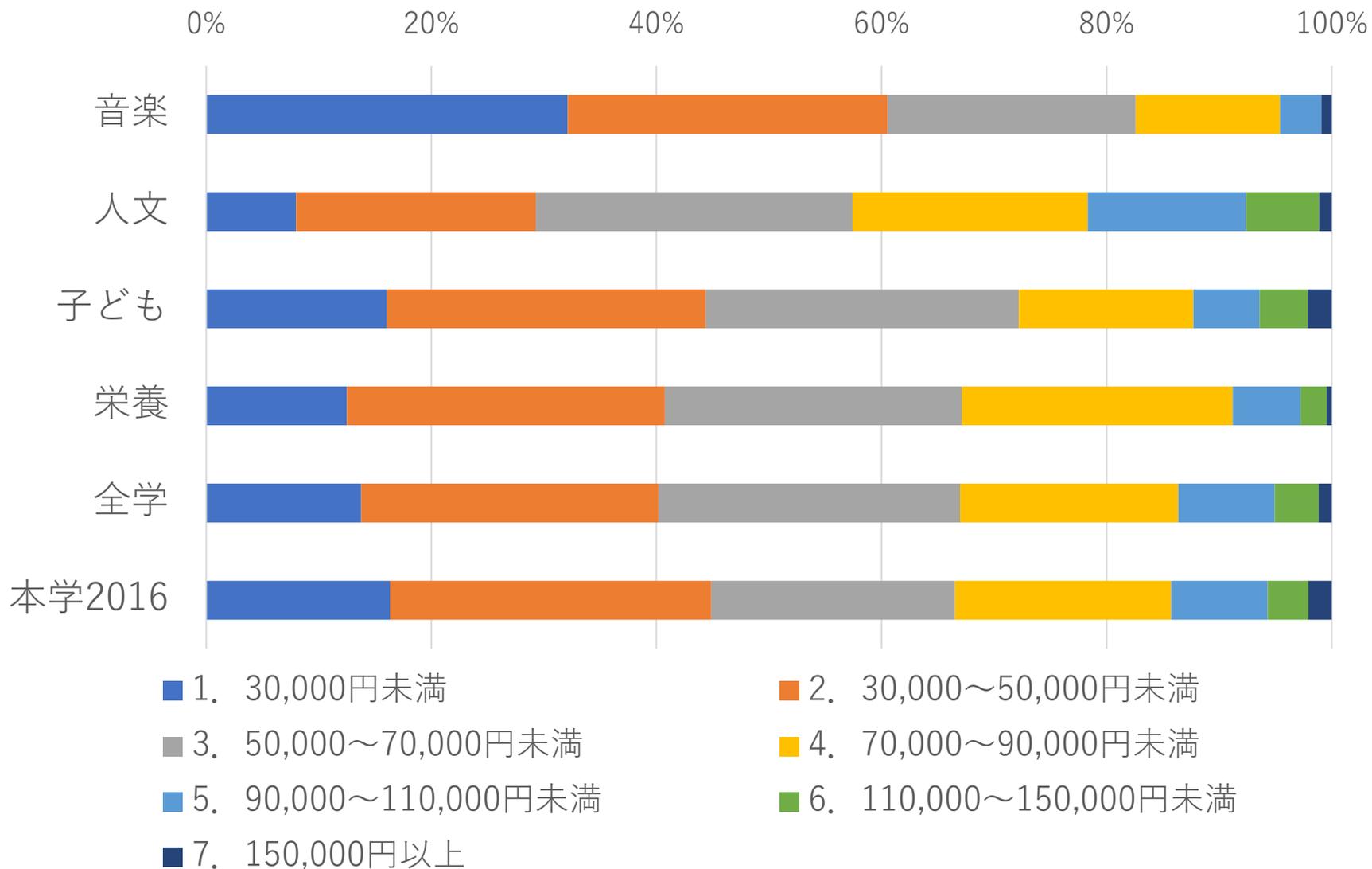
Q36. アルバイトを週に何時間くらい していますか



「0時間」という回答が多いのが音楽と人文となっている。

一方、「16~20時間」「21~30時間」の長時間の学生の割合は、子ども・栄養・人文で多くなっている。

Q37. 1ヶ月のアルバイトにおける平均収入は どのくらいですか



人文で、多くの収入を得ている学生の割合が多めになっている。

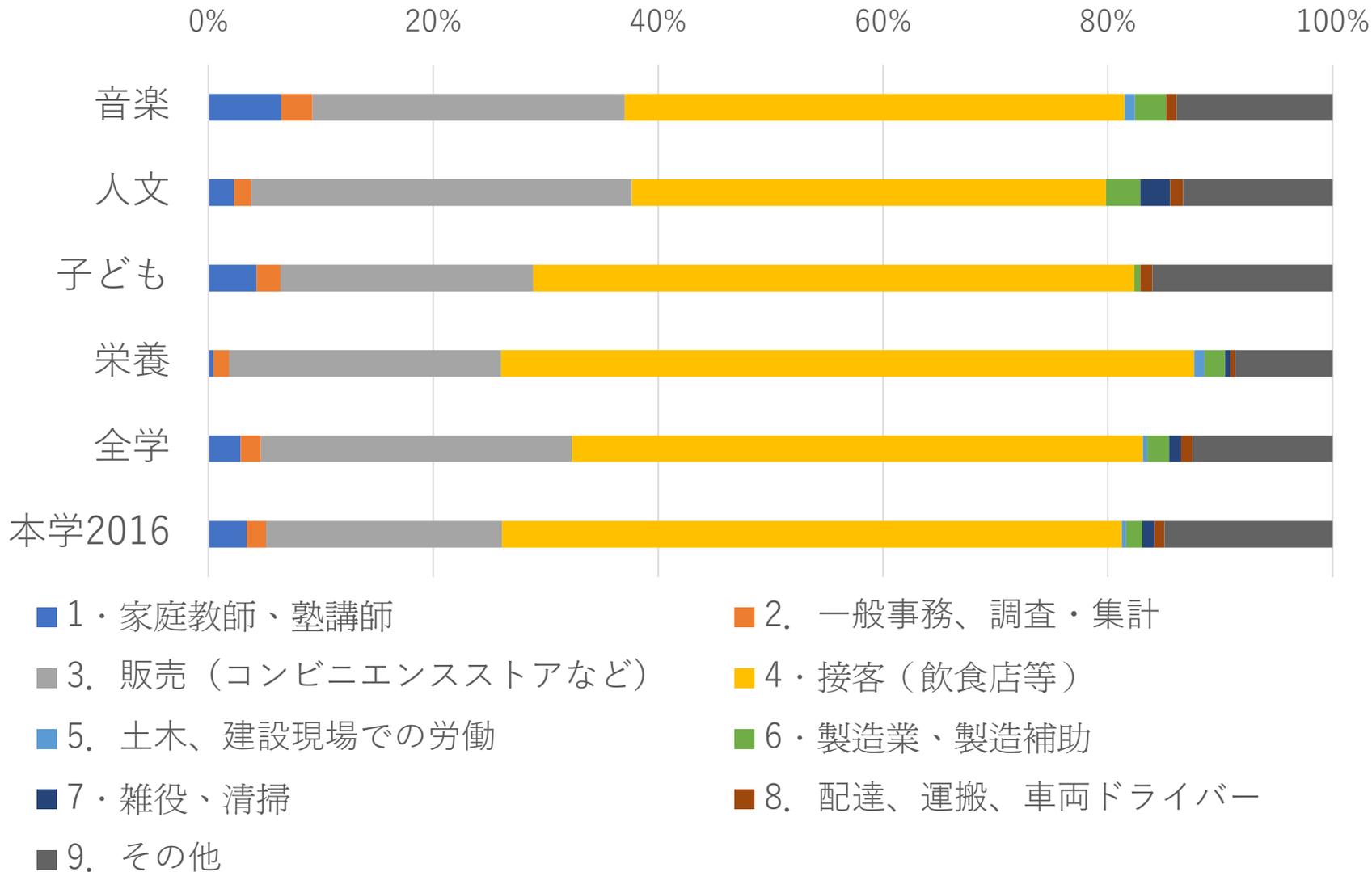
留学生が生活費や学費を捻出使用としていることが背景にあるとみられる。

ただQ36のアルバイトの「時間」では人文と他学科の差が見られないのに対して、収入では差が見られる。理由は要検討。

2016年との比較ではあまり差が見られない。

Q38. アルバイトの主な職種は何ですか

(1つだけ選んでください)

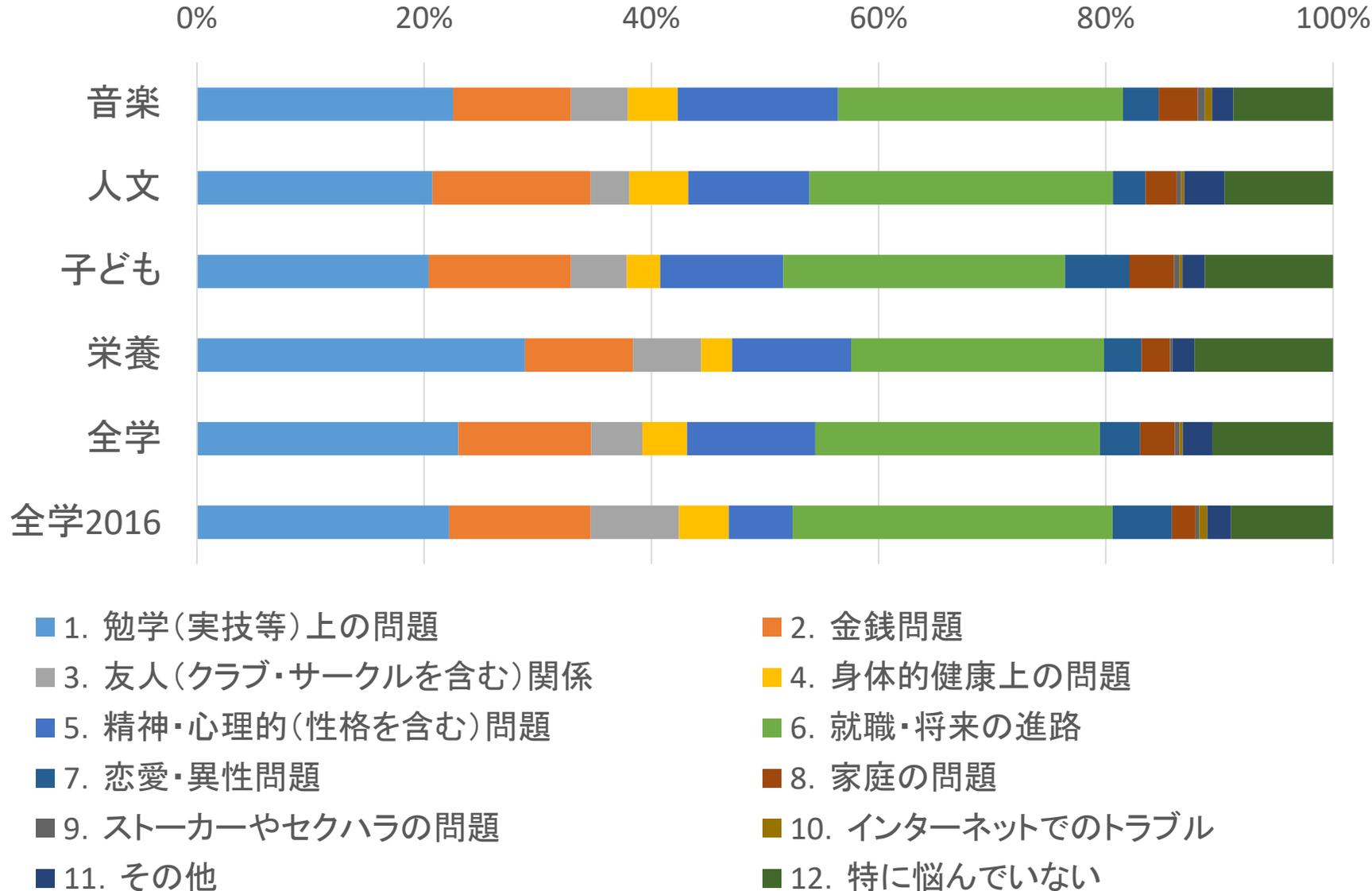


販売と接客が大半を占めた。子ども・栄養では接客が多め、人文では販売が多めの傾向となった。留学生は日本語に不安があるため、会話の多い接客よりも販売業の方に多くの雇用があるためと思われる。栄養の学生はほとんどが調理かホールで働いていて専門の強みを活かしている。2016年と比較すると、販売が減少し、飲食店等の接客はわずかに増えている。

質問Q39～Q51

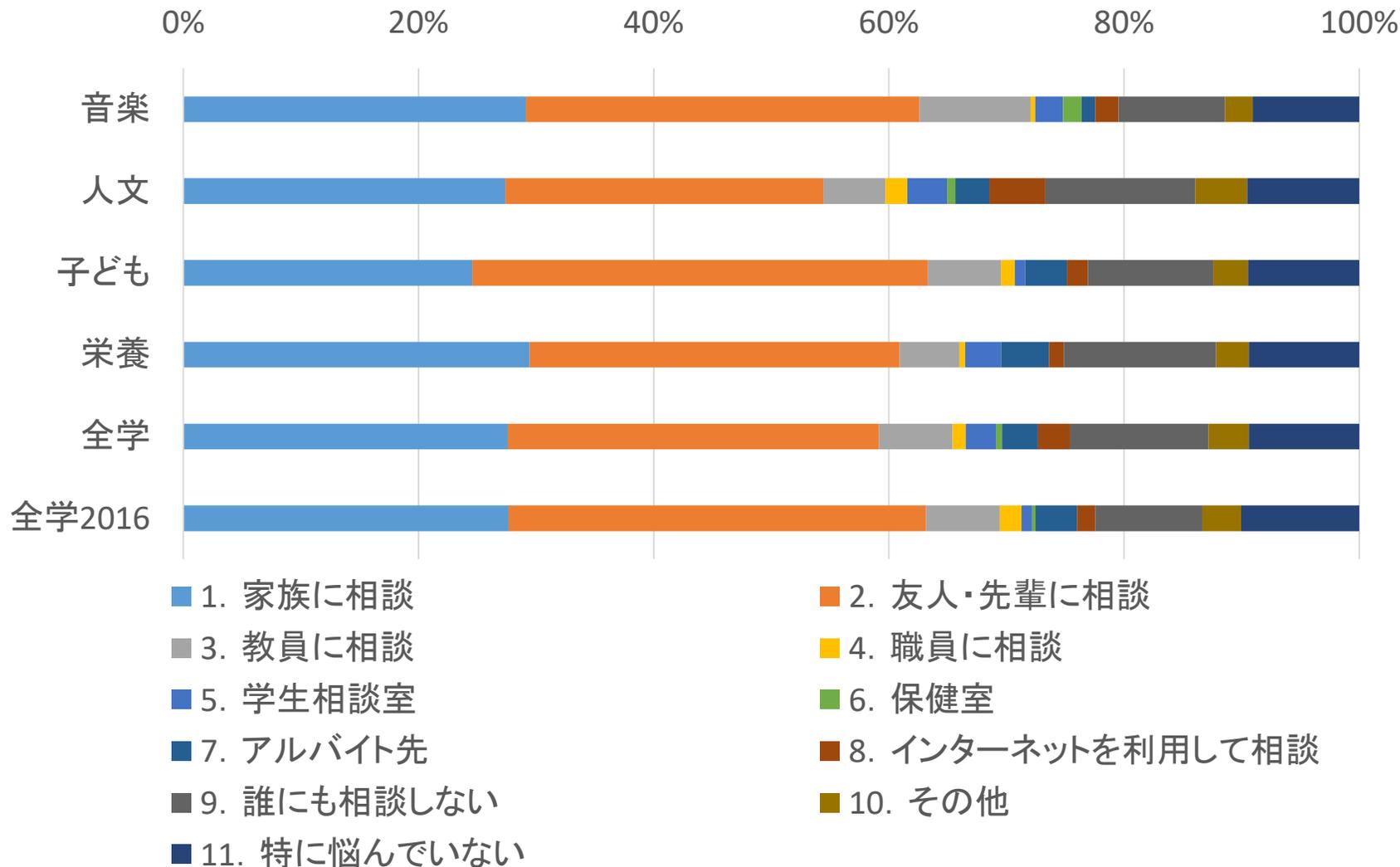
悩み・健康問題

Q39. 現在抱えている悩みや問題



「勉学上の問題」「就職/将来の進路」「金銭問題」「精神/心理的問題」が多くを占めた。「勉学上の問題」は他学科に比べ栄養で多い。国家試験について不安を感じているものと考えられる。他の項目については、各学科で多少の多寡はあるものの、総じて似た傾向を示している。2016年と比較すると精神・心理的問題の回答が約2倍に増えている。コロナ禍の影響がここにもみられる。

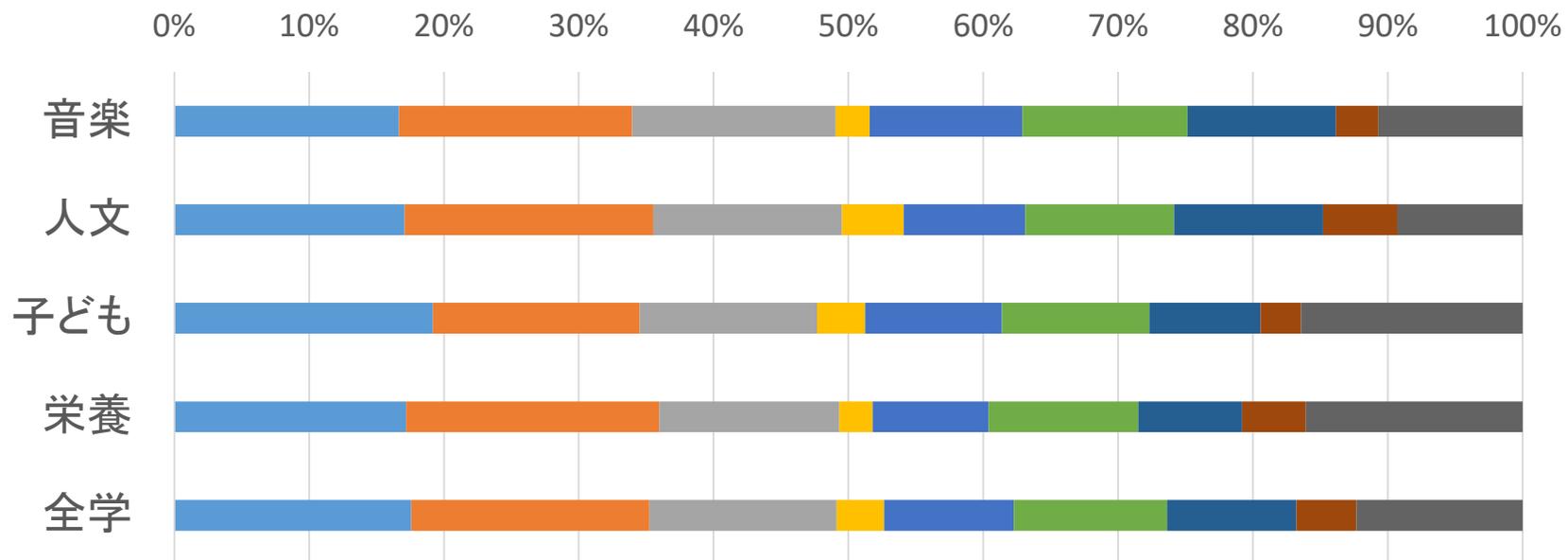
Q40. 学生生活上の悩みや問題は、誰に相談していますか（3つ以内）



学科間での差異はあまりみられず、「友人/先輩」「家族」が主な相談先となった。次いで「誰にも相談しない」という回答も1割近くを占める。この回答は悩みや問題の受け皿がないことを意味しており、悩みの深刻化・長期化につながりやすい。この層に訴えかける何らかの対応が必要といえる。2016年との変化はほとんど見られない。子どもでは「友人・先輩に相談」への回答が他学科に比べて多かった。Q20クラブ活動やサークル活動への参加率が高かったことにも関連しているとも考えられる。

Q41. 他人とのコミュニケーションを取る上で

苦痛とを感じる点は何ですか (いくつでも可)



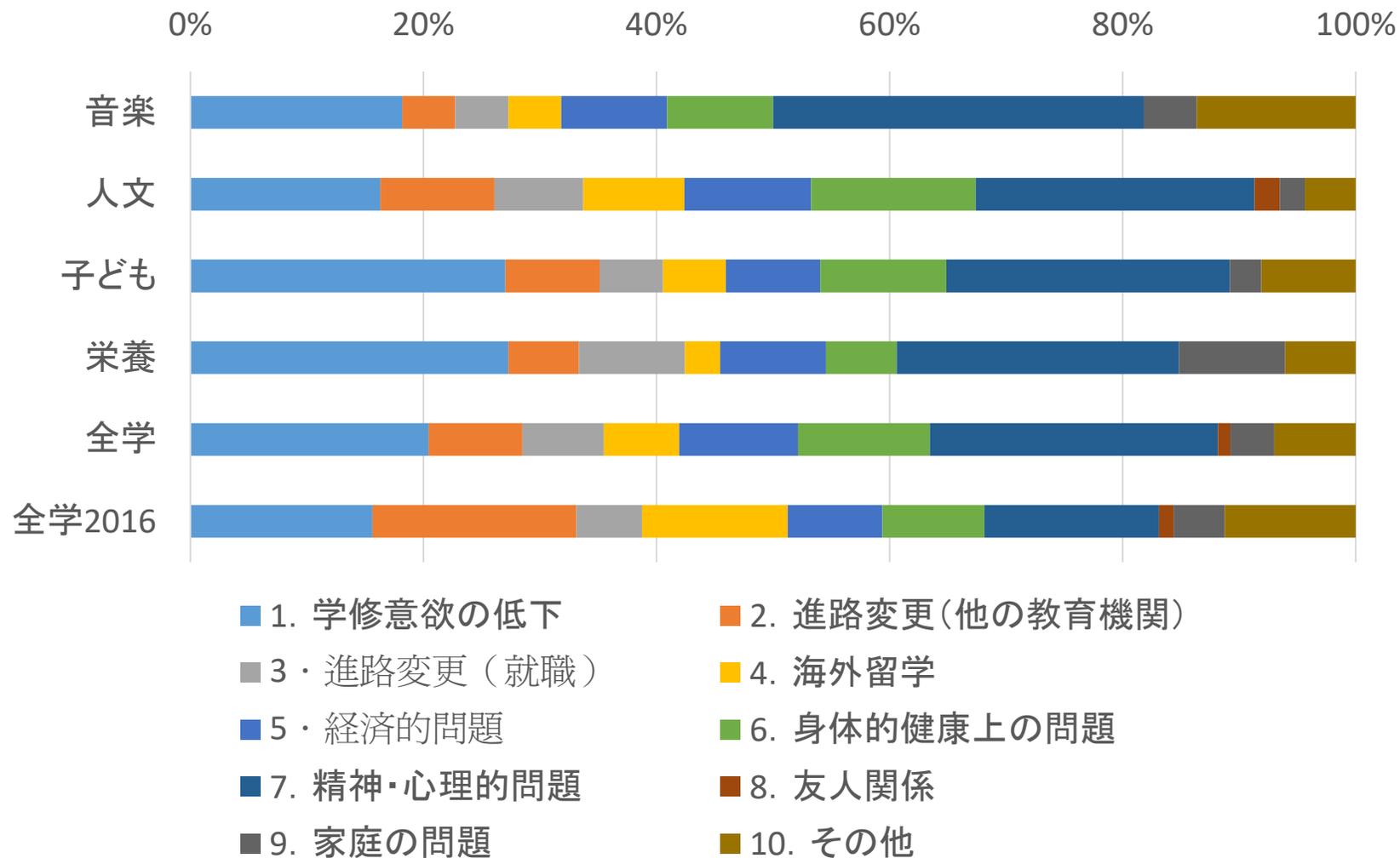
- 1. 話題を途切れずに話すこと
- 2. 初対面でも人見知りせず接すること
- 3. 自分の意見を伝えること
- 4. 相手の意見を聞き入れること
- 5. その場の空気を読むこと
- 6. 相手への気配り、気持ちを理解すること
- 7. 相手に良い印象を与えること
- 8. その他
- 9. 全く苦にならない

かなり回答が分散した結果となった。

「話題を続ける」「人見知りしない」「自分の意見を伝える」「空気を読む」「気配り」「相手への良い印象作り」など、多くの項目それぞれに苦手意識を持つ学生が多いことが読み取れる。

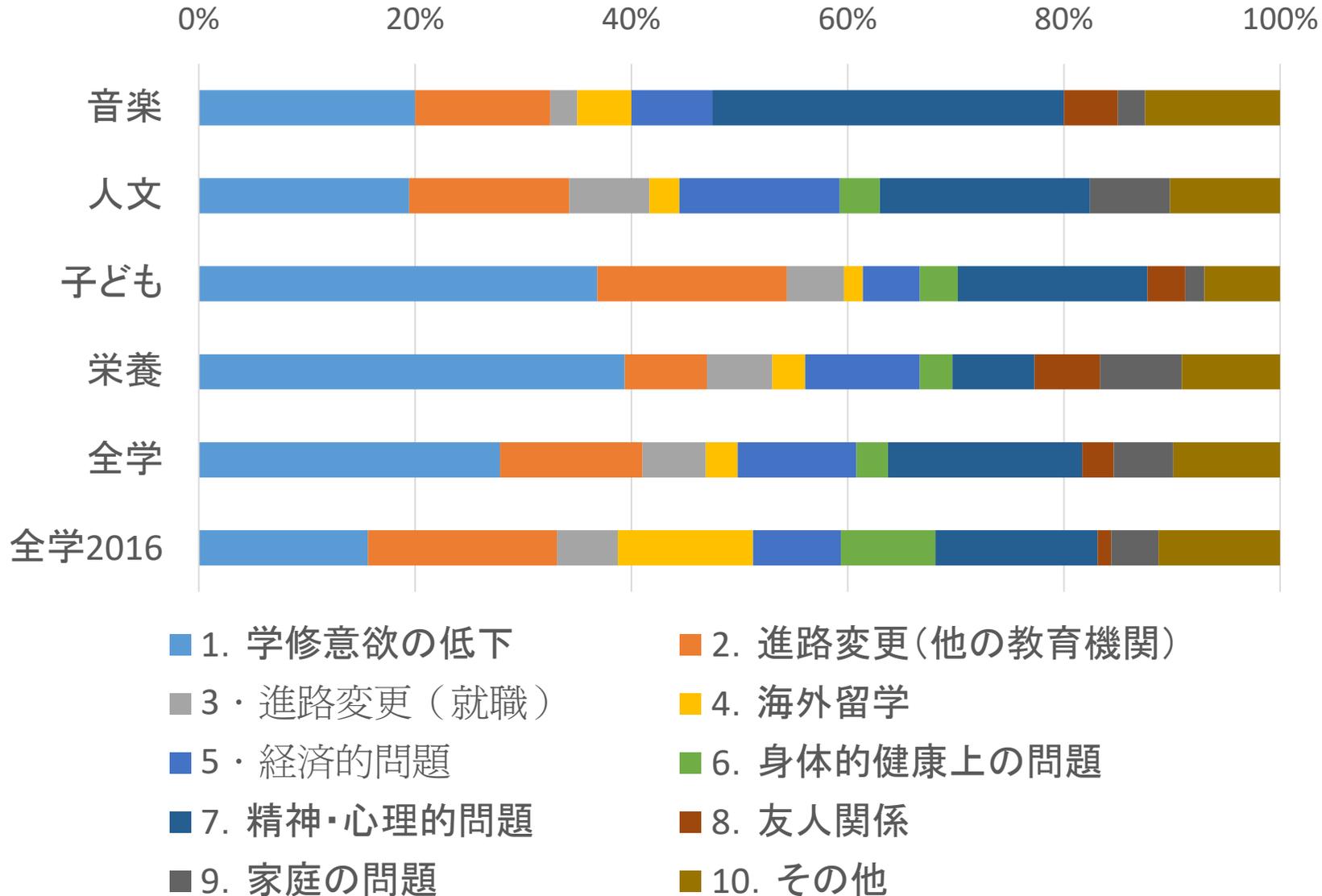
学科ごとの違いはあまりなく、それぞれ似た傾向を示している。

Q42. 休学した理由、あるいは休学を考えている一番の理由（「考えたことない」は除く）



全体的に「精神・心理的問題」が多く、人文・子ども・栄養では、「学習意欲の低下」が多い。人文では他学科に比べ「身体的健康の問題」が多くなっている。2016年と比べると進路変更・経済的問題が微増し、海外留学が微減している。

Q43. 大学を辞めようと考えた一番の理由



音楽では「精神・心理的問題」が最も多い。

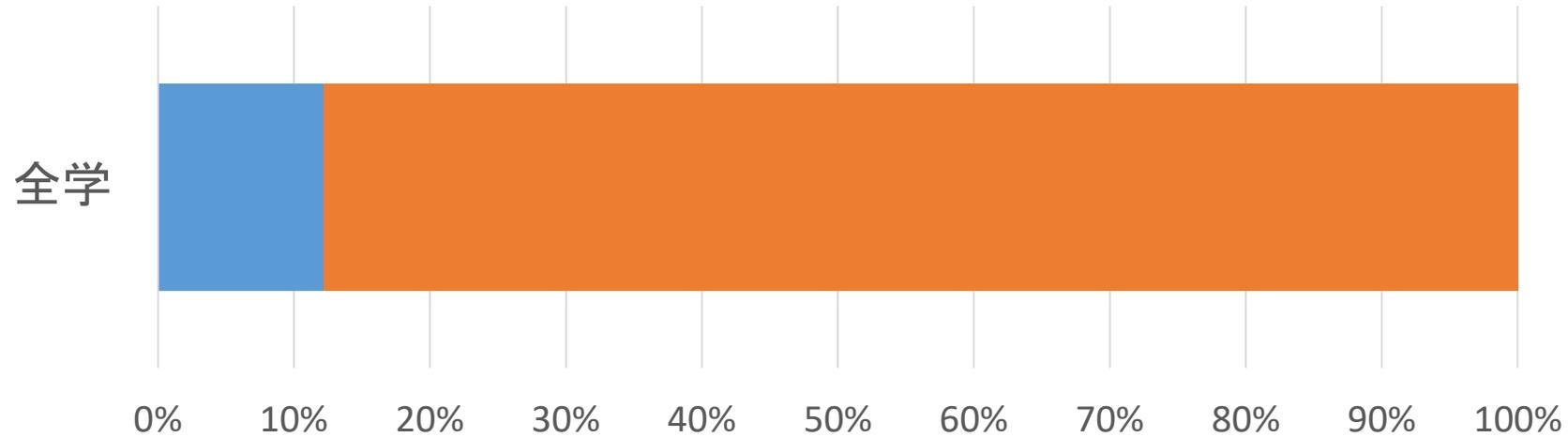
子ども・栄養では「学修意欲の低下」が大きな割合を占めている。

人文は項目間の差が小さく、多様な理由が挙げられている。

2016年と比較すると学修意欲低下が大幅に増加している。

今回の調査は、あくまで在校生の調査であり、実際に退学してしまった学生の意見は含まれていないことに留意。

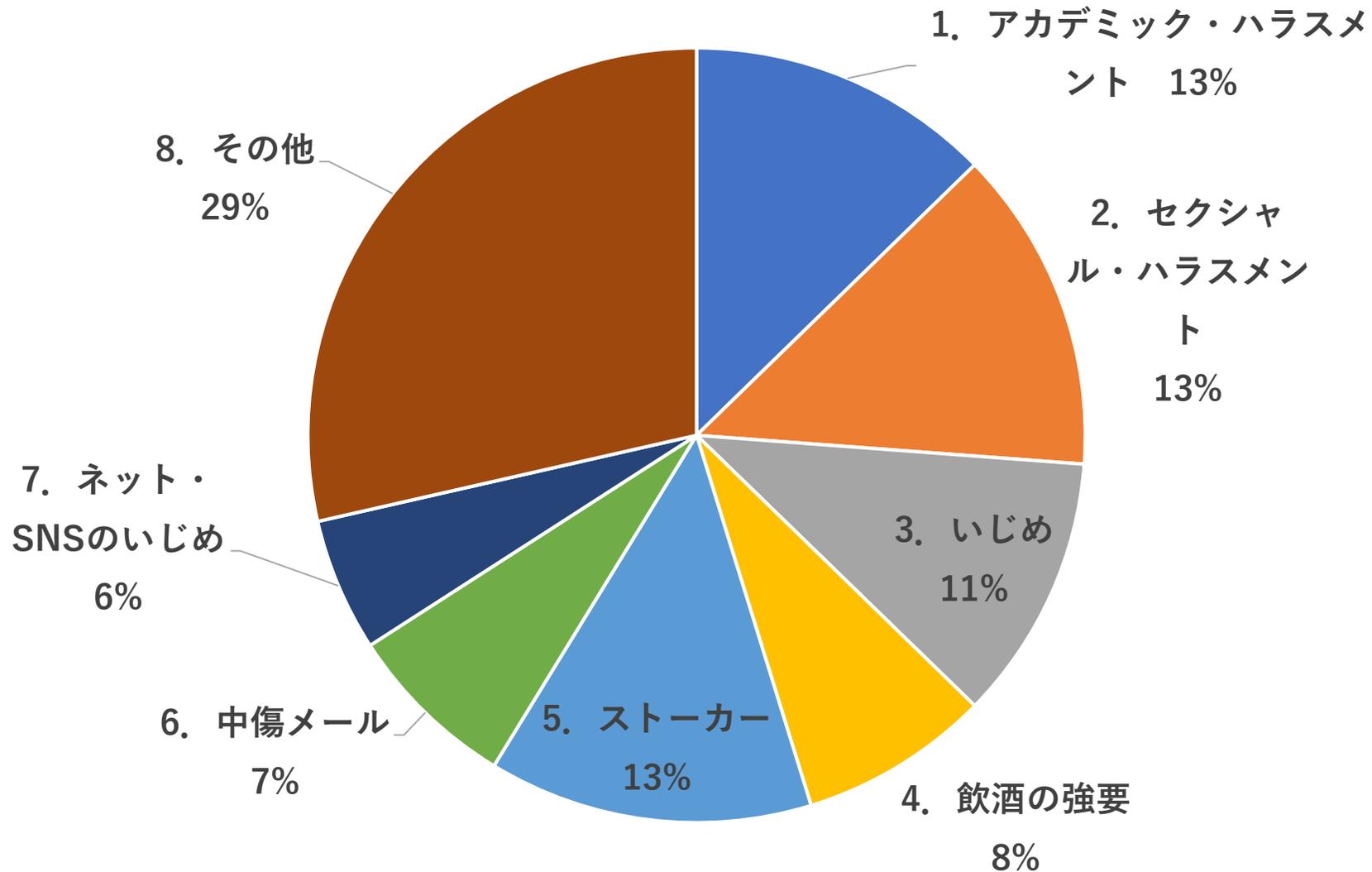
Q44.大学生活でのハラスメント ・いやがらせの有無



大学生活でハラスメントを受けたことがあると回答したのは、約12%となった。

- ハラスメント・いやがらせを受けたことがある
- ハラスメントを受けたことはない

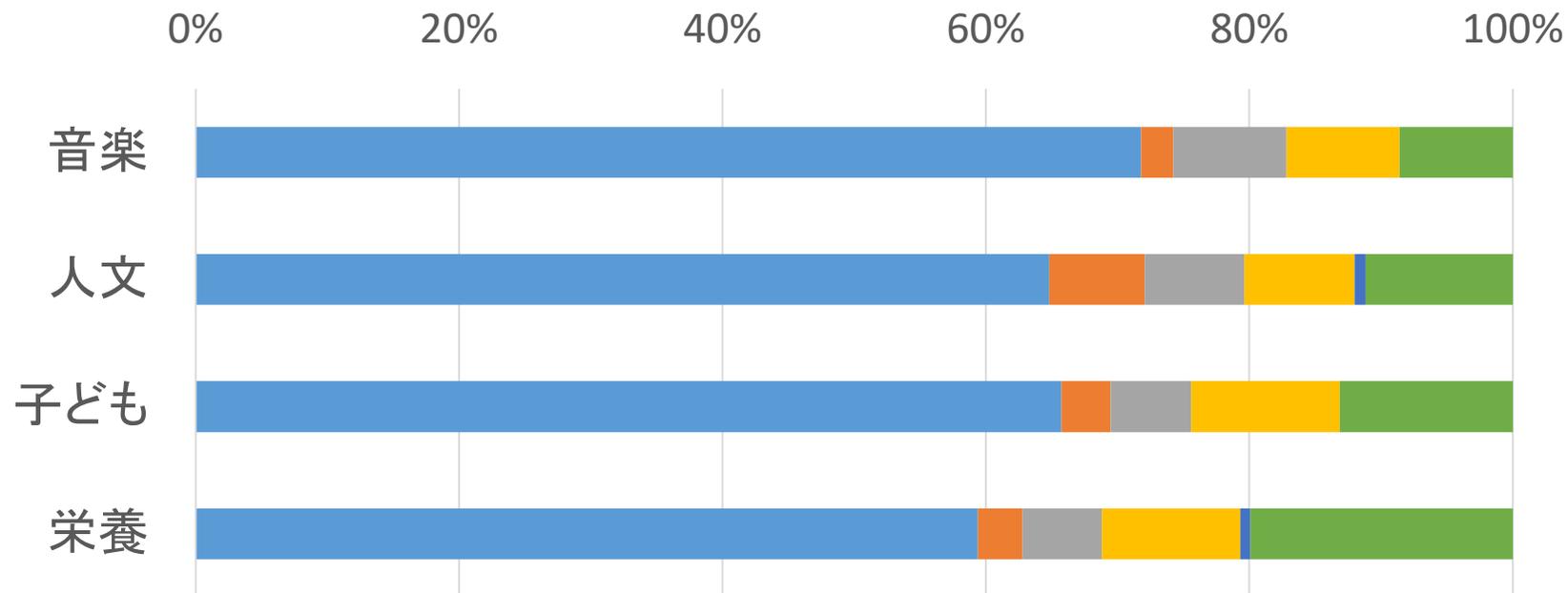
Q44. 「いやがらせ」等の内容



先ほどの問いで、「ハラスメント・嫌がらせを受けたことがある」と回答した人に対して、その内容の内訳を示している。

アカデミックハラスメント・セクシャルハラスメント・ストーカーなどはじめ、多様な項目が回答にあがっており、「いやがらせ」の種類は分散していることがわかる。

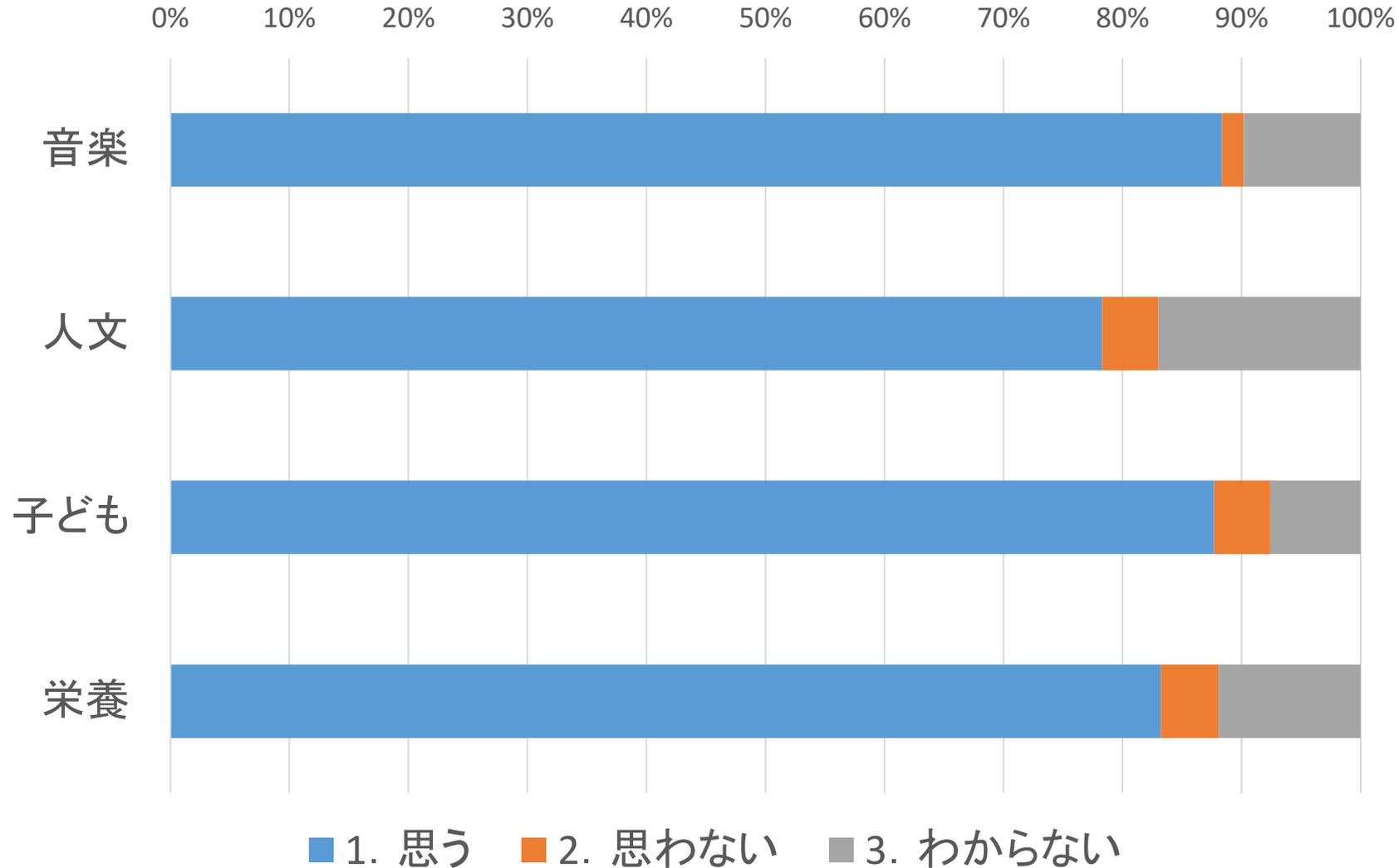
Q45. 学校や職場で、「LGBT」について理解し、配慮があることは大切なことだと思いますか



(この問いは、LGBTについて関心を持ってもらうための一種の啓蒙としての狙いを含む。)

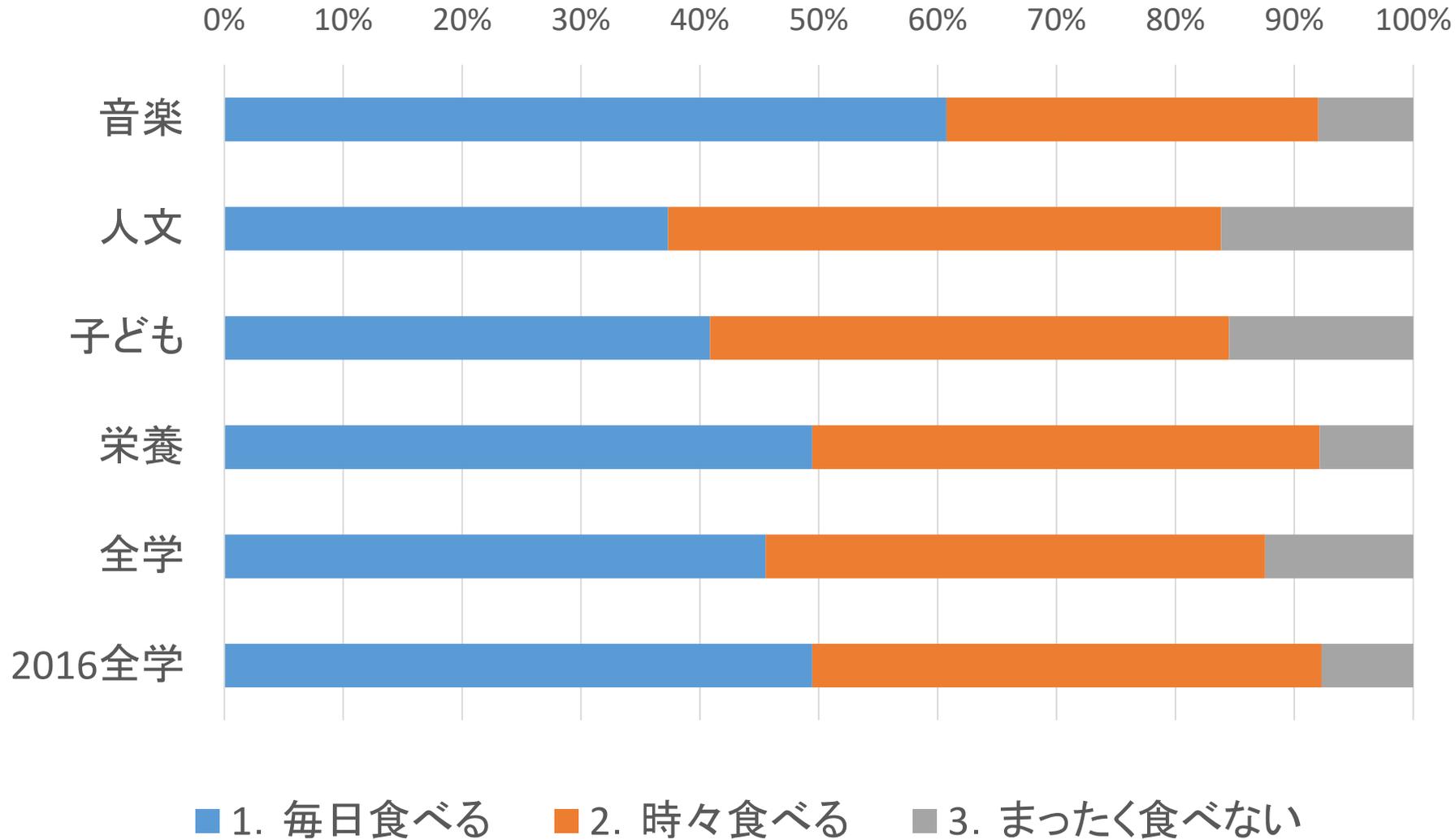
- 1. 内容を理解しているので、大切なことだと思う
- 2. 内容を理解しているが、大切なことだとは思わない
- 3. 内容を理解しているが、よくわからない
- 4. 内容を理解はしていないが、大切なことだと思う
- 5. 内容を理解はしていないが、大切なことだとも思わない
- 6. 内容を理解していないので、よくわからない

Q47. 学校や職場で、「発達障がい」について理解し、配慮があることは大切なことだと思いますか



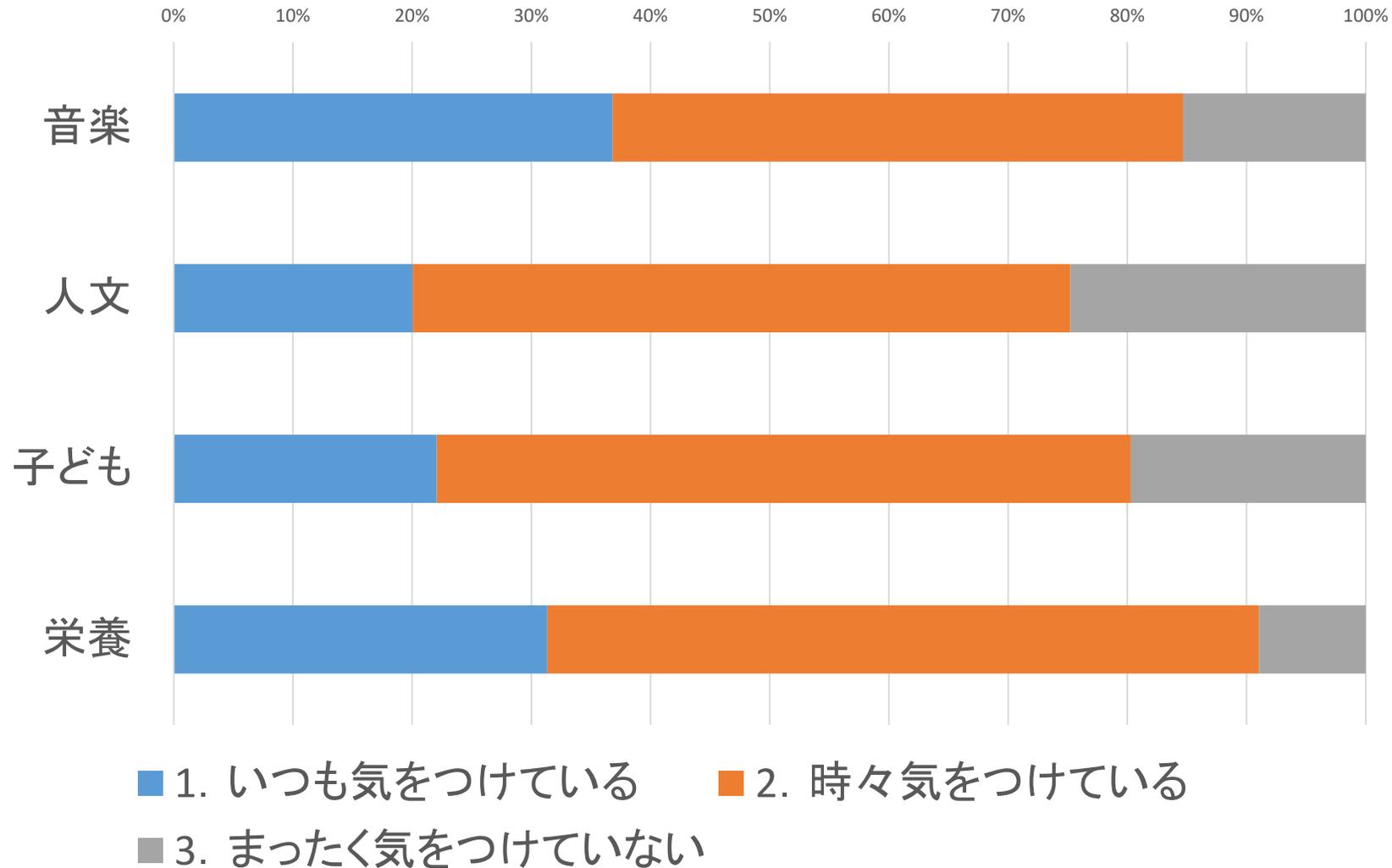
約8割以上が発達障害への理解・配慮の必要性を認識している。
(問い自体に発達障害への啓蒙の狙いを含む)

Q48. 朝食を食べていますか



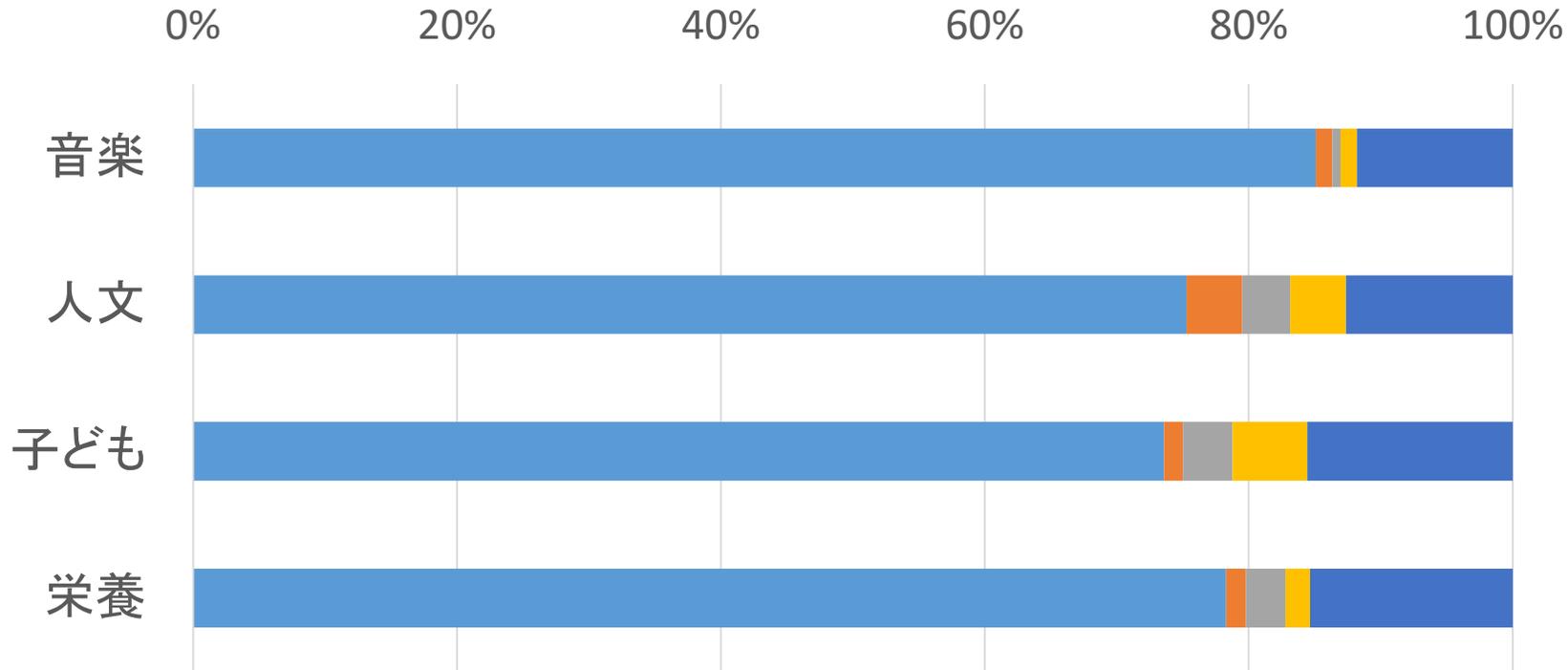
比較的学科間の差異が大きく、まったく食べない割合は人文と子どもが高く、毎日食べる割合は音楽が高い。2016年調査と比較すると、まったく食べない人の割合が増加している。コロナ禍で生活リズムを崩す人が増加した可能性がある。

Q49. 食事の際、健康や栄養に気を使っていますか



音楽・栄養が健康・栄養への意識が高めとなった。

Q50. あなたは、喫煙をしますか。また喫煙している人は卒煙をしたいと思いますか



喫煙者の割合は人文と子どもが音楽・栄養に比べて多い。また子どもの喫煙者が卒煙したいと思っている割合は少ない。

- 1. 喫煙しない
- 2. 止めたいと思っているが、なかなか止められない
- 3. 出来れば止めたいと思っている
- 4. あまり思っていない
- 5. まったく思わない

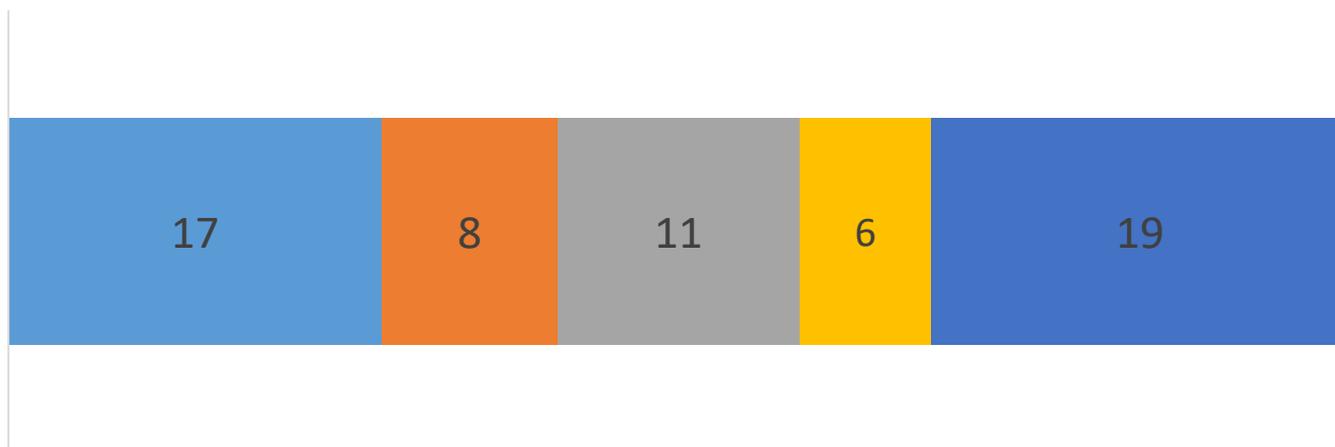
Q51.大麻や覚せい剤、危険ドラッグ

回答の94%が、使用・購入・勧誘経験なし

下記のグラフは、接触があった6.0%の内訳

(グラフ内の数値は回答の実数)

全学



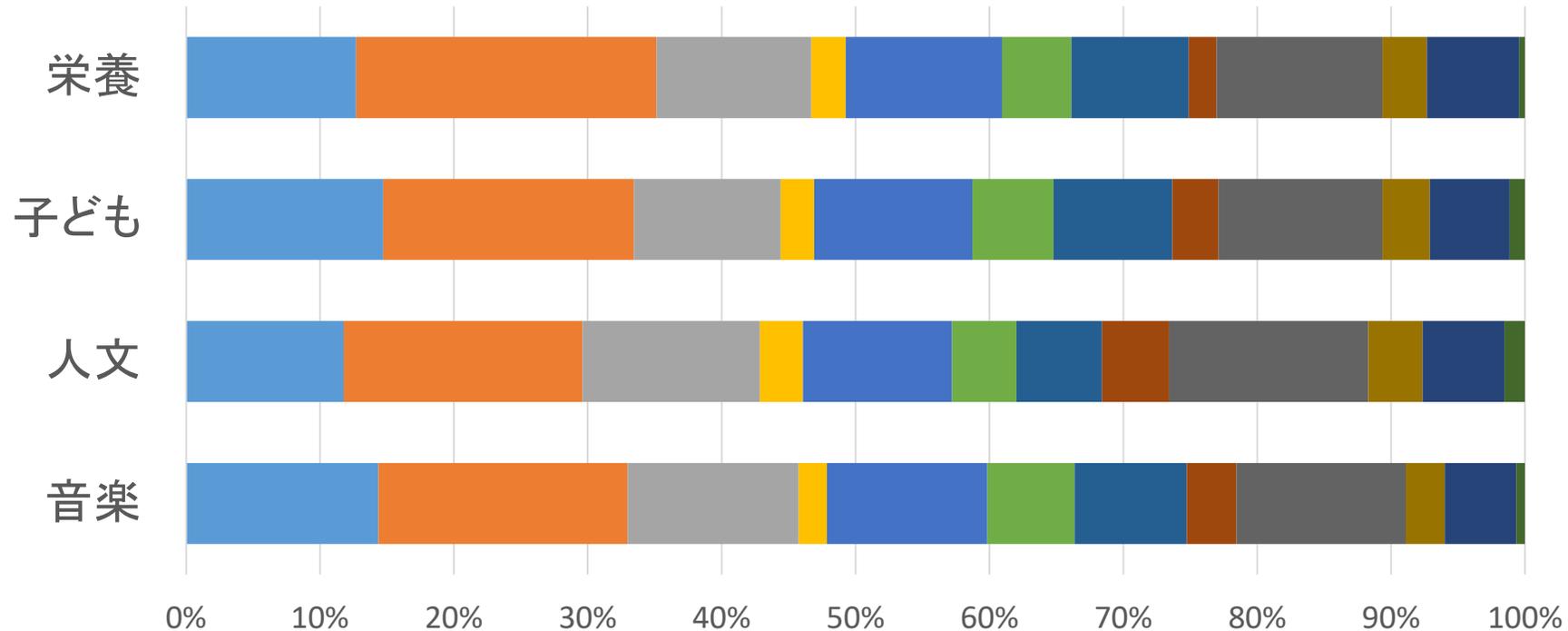
- 1. 使用したことがある
- 2. 使用するために購入したことがある
- 3. 購入も使用も誘われたことがある
- 4. 購入を誘われたことがある
- 5. 使用を誘われたことがある

大多数（94%）が大麻・覚醒剤に接触がなかった。接触・勧誘があったのは全体の6%で、使用と購入の合計が25名。勧誘の経験者が36名となった。前回2016年調査では、接触・勧誘ありが4.1%だった。今回の6.0%は多くないものの、増加傾向あることが確認された。注視が必要。

質問Q52～Q57

情報・危機対応

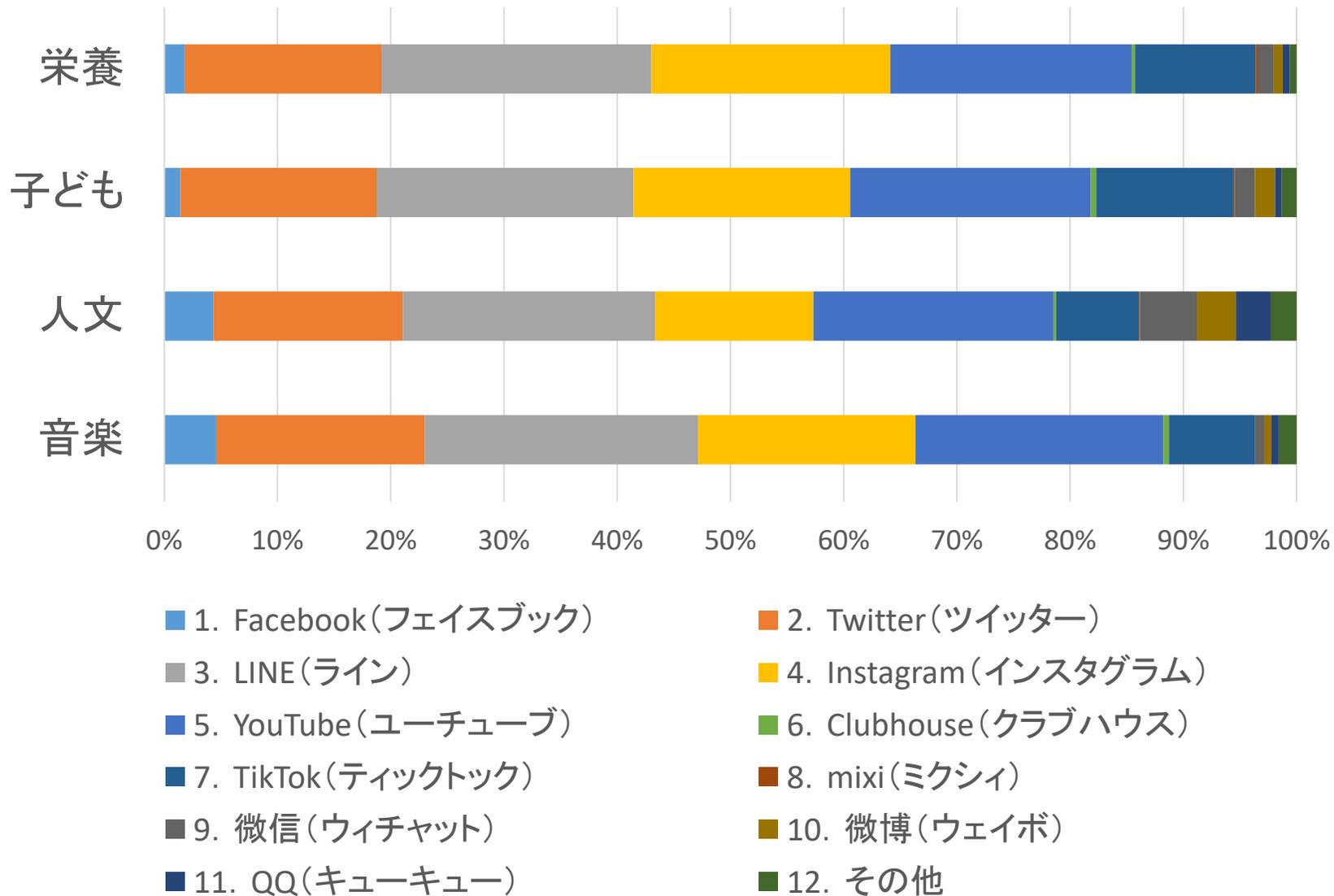
Q52. 携帯端末を使用する目的



学部学科間の差異は少なく、通話・メール、SNS、WEB閲覧、大学ポータルサイト、ゲーム等幅広い用途に使用されている。

- 1. 通話とメール
- 2. SNS (LINE、Facebook等)
- 3. WEB閲覧・情報検索
- 4. 就職活動
- 5. 大学のポータルサイトや課題提出等
- 6. 個人情報管理
- 7. 写真撮影・動画撮影(カメラ等)
- 8. 読書
- 9. ゲーム、ドラマ、スポーツ、音楽鑑賞
- 10. キャッシュレス決済
- 11. ネットショッピング
- 12. その他

Q53.利用しているSNSの種類

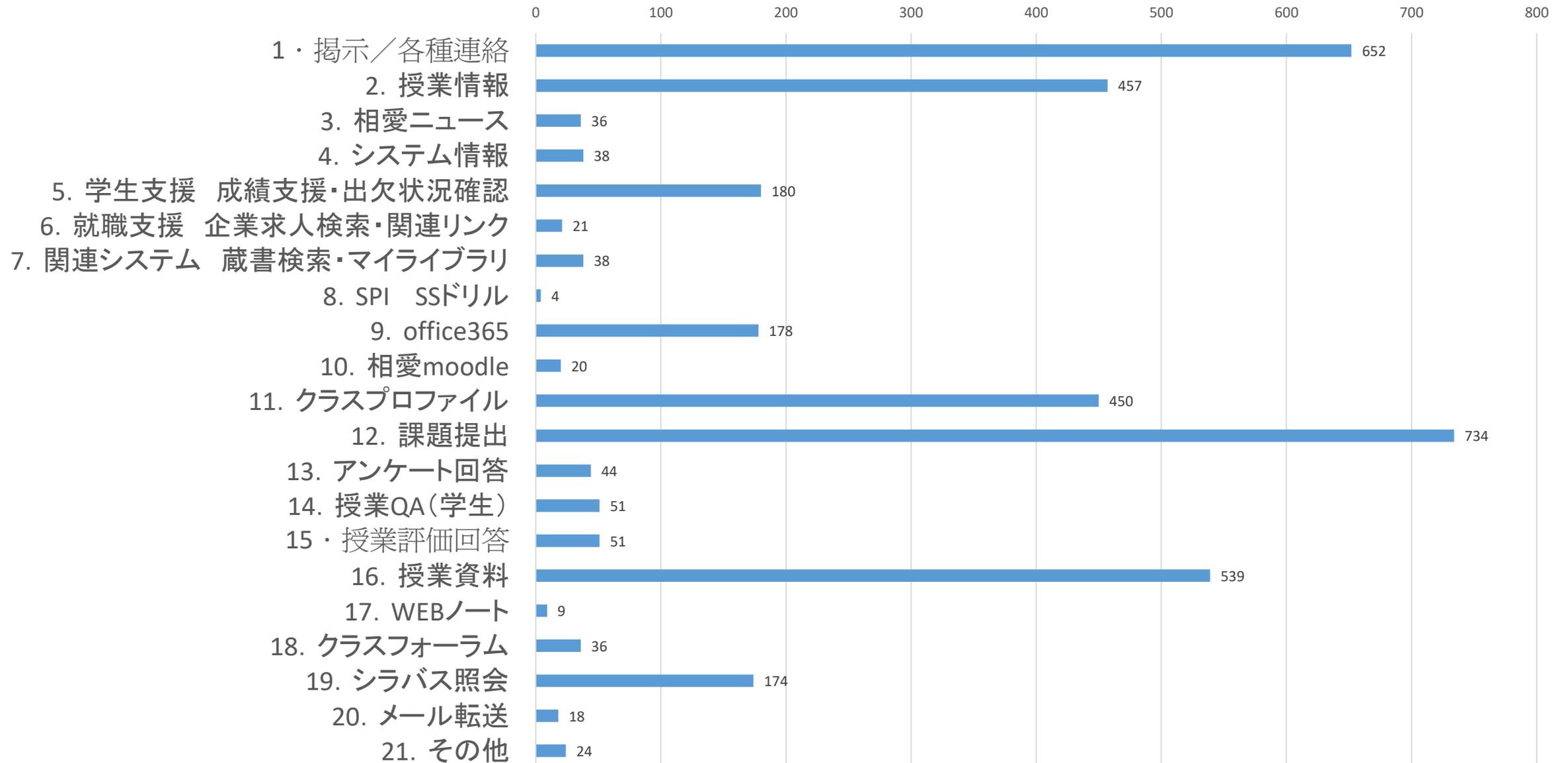


Twitter、LINE、Instagram、YouTube、TikTokの5種が中心となっている。

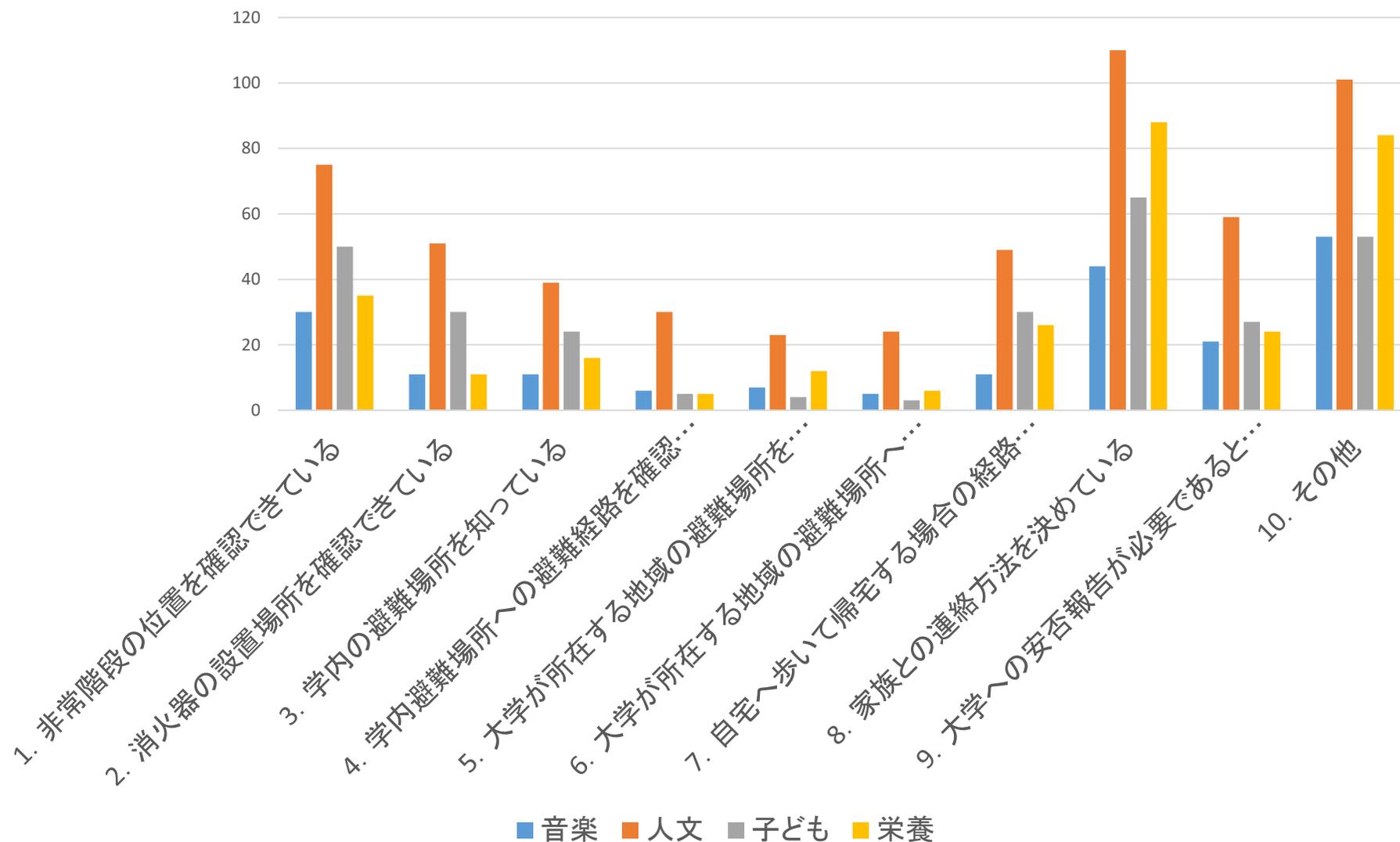
学部間に大きな差異はないが、人文で留学生が多いため、微信（ウィチャット）

、微博（ウェイボ）、QQなどの海外のSNSも一定数の利用が見られる。

Q54. 大学のポータルサイトでアクセス頻度の高いもの

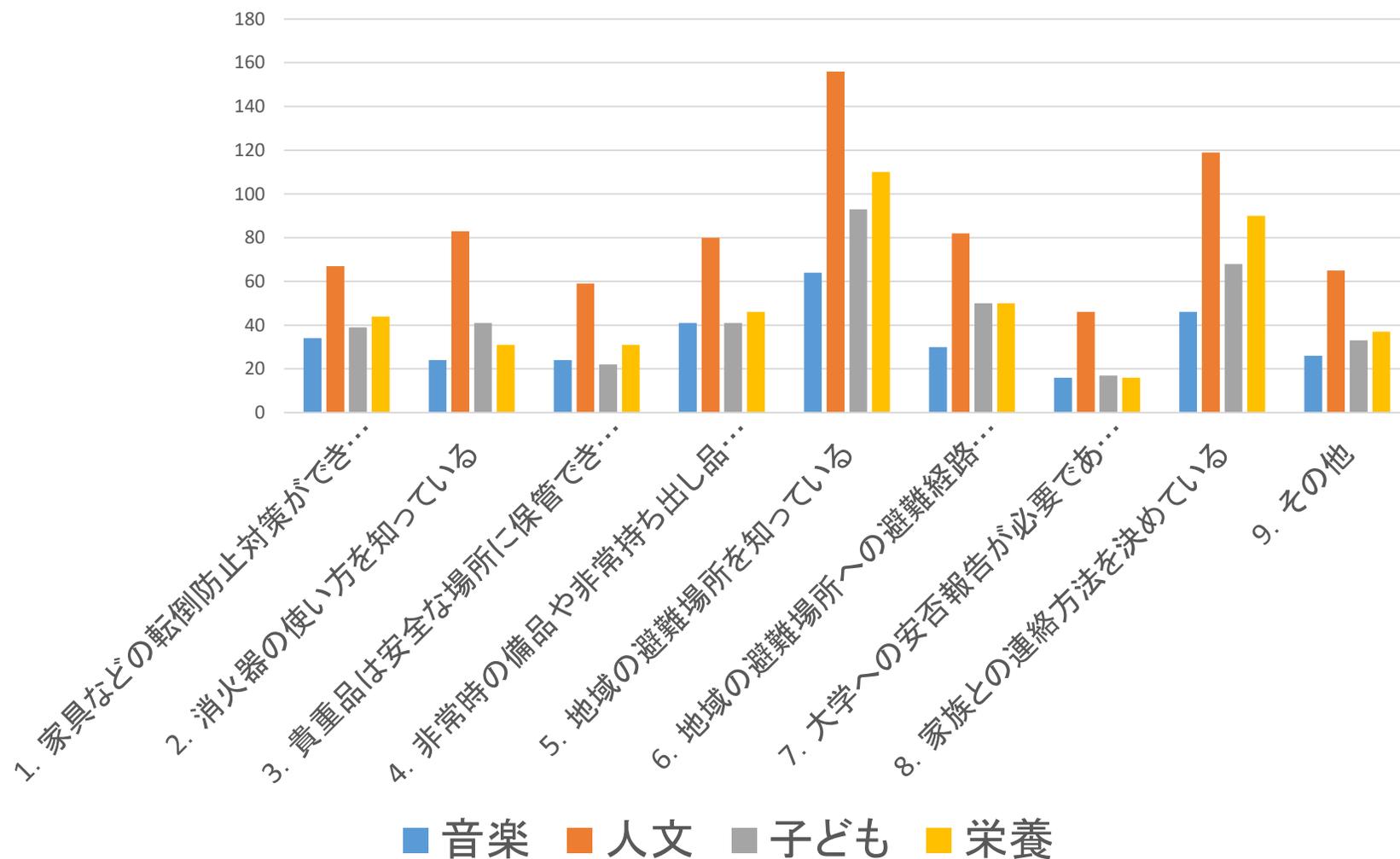


Q55. 大学で災害（地震、津波、火災）にあった場合に備えて準備できていることは何ですか



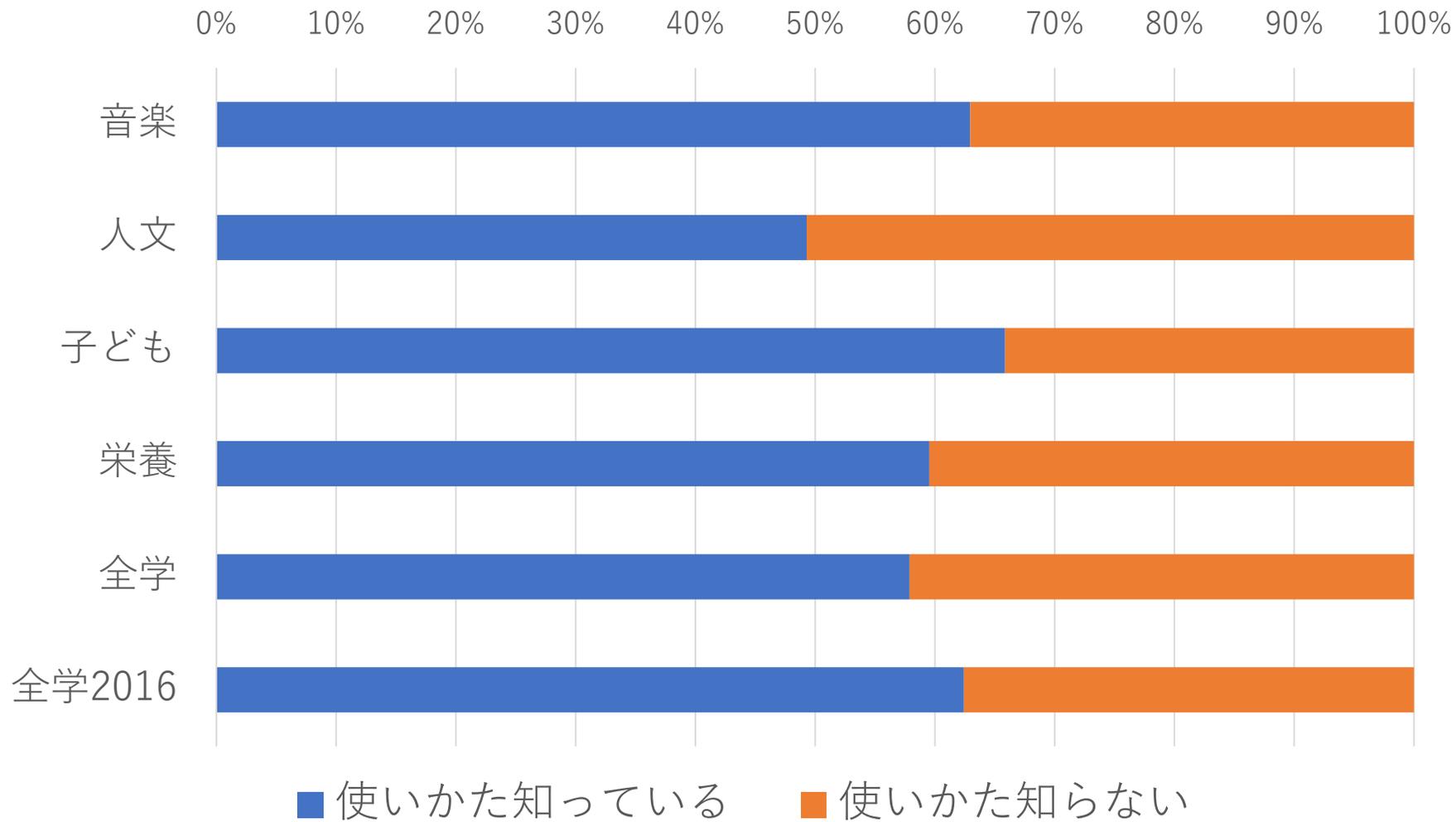
「家族との連絡方法を決めている」
 「非常階段の位置を確認できている」が多く、2016年と比較すると、学内の避難場所を知っている」が微減

Q56. 自宅で災害（地震、津波、火災）にあった場合に備えて準備できていること



「地域の避難場所を知っている」と「家族との連絡方法」の割合が多く、2016年と比べて大きな変化はなく、災害への意識が特に高まっているわけではない。

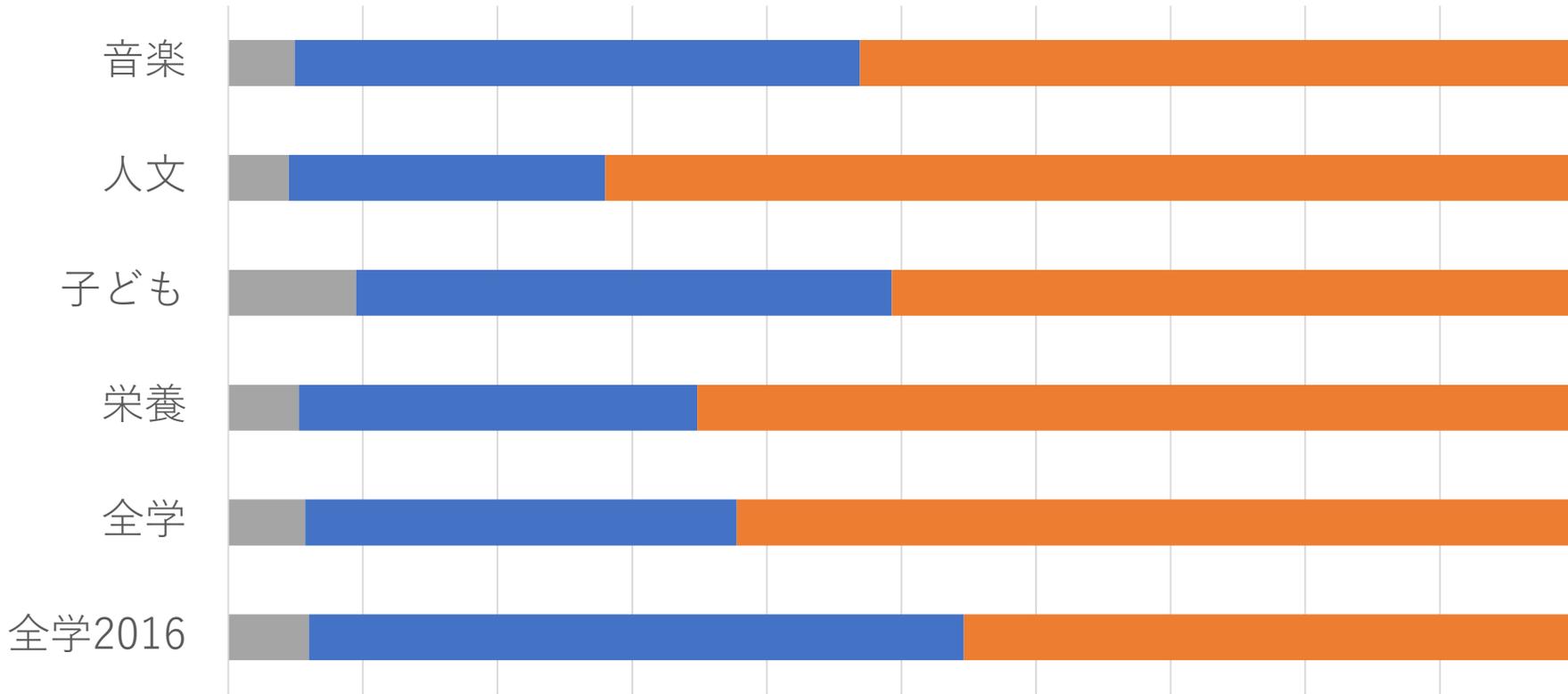
Q57 ① A E Dの使い方を知っていますか



人文が知らないという回答が多め。子どもと音楽が知っている人が多めとなった。

Q57 ② A E D の設置場所を知っていますか。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



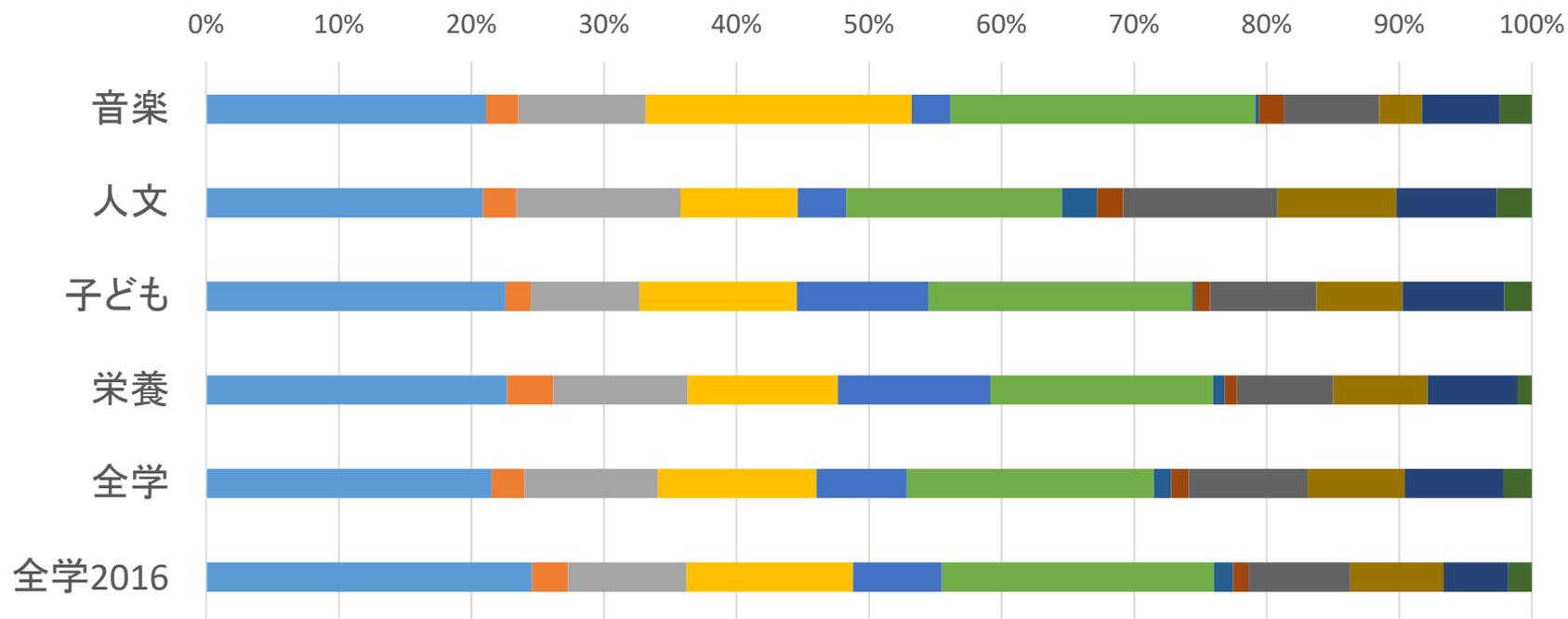
■ すべて知っている ■ 一部知っている ■ 設置場所知らない

こちらは全学3か所にあるAEDの設置場所について尋ねたもの。こちらも人文が低く、子ども・音楽が高めとなった。学部間の差異は先ほどの使いかたより顕著になっている。2016年と比較すると知らない人が増えていることがわかる。コロナ禍でAEDの講習などが実施できていなかったことが影響を与えているを思われる。

質問Q58～Q62

将来像・満足・充実

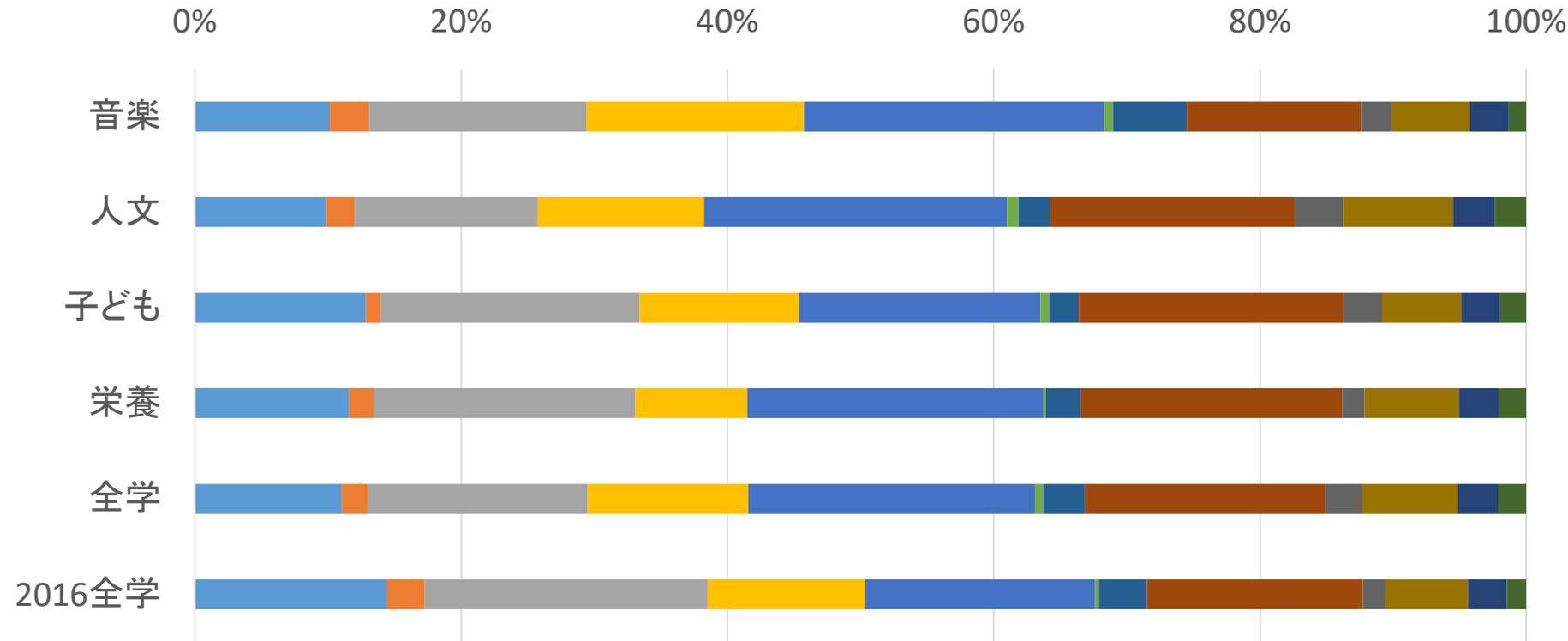
Q58. 職業選択の際に、どういう点を重要と考えますか



「収入」「やりがいを感じる」が全学的に多い。学科間で差が出た選択肢は「学んだ専門を生かせる」というもの。音楽が高く、人文は低い、子ども・栄養はその中間となっている。「5.取得資格が活かせる」は人間発達の二学科で多めとなっている。人文は「企業の安定性」「自由時間や休暇の多さ」などが多めとなっている。2016年と比較した場合、「収入」を重視する回答が減少し、「福利厚生」がわずかに増加している。

- 1. 収入(給与・賞与)が多い
- 2. 社会的評価・知名度
- 3. 企業としての安定性や将来性
- 4. 学んだ専門や能力が活かせる
- 5. 取得資格が活かせる
- 6. やりがいを感じる仕事ができる
- 7. 海外勤務が可能
- 8. 実力で出世も可能
- 9. 自由時間や休暇が多い
- 10. 立地条件がよい、通勤が便利
- 11. 福利厚生施設の充実
- 12. その他

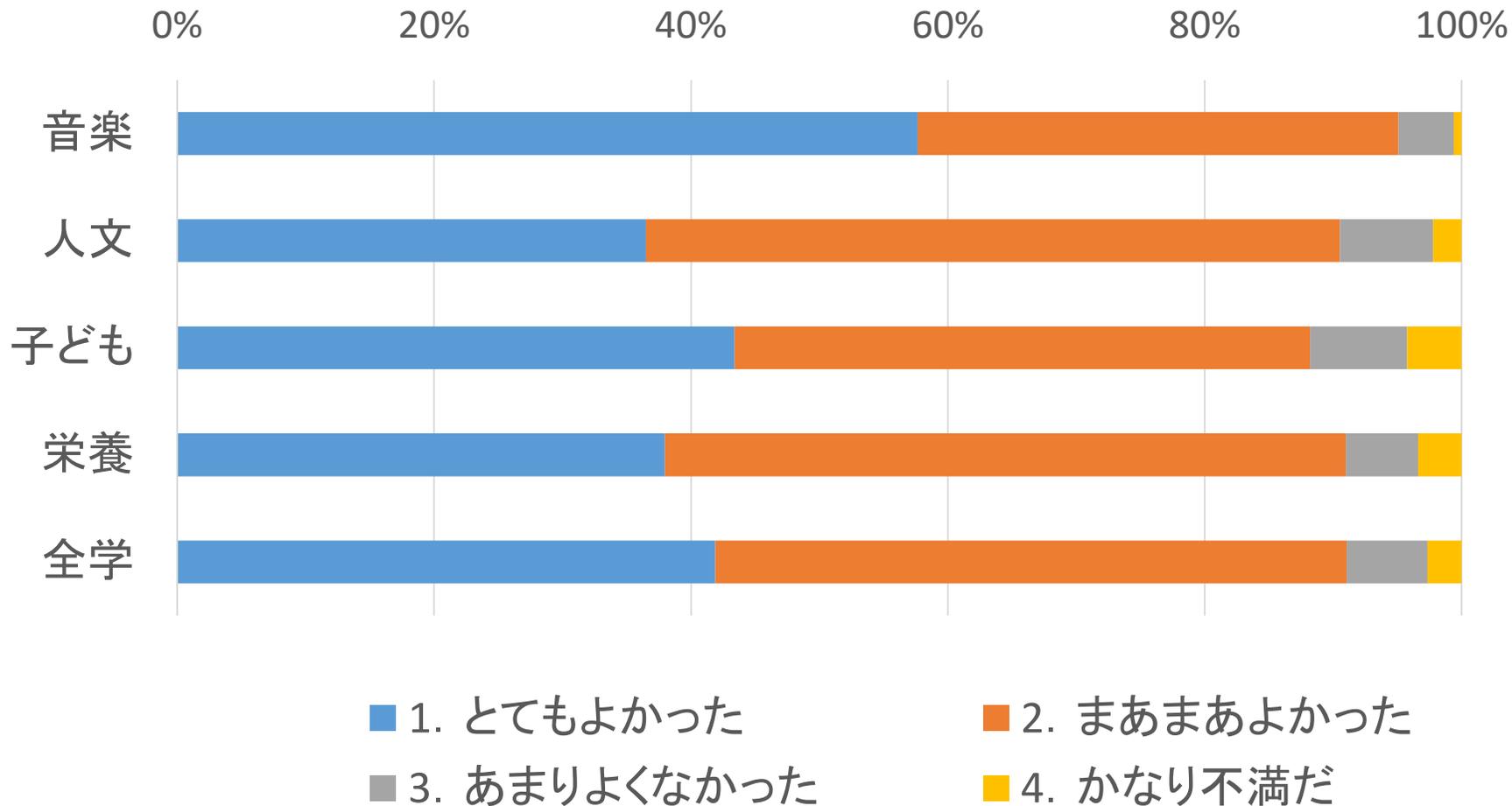
Q59. あなたは将来、どんな生き方を したいと思いますか（3つまで）



全体的に見ると「仕事と趣味のバランス」「平凡でも安定した生き方」「仕事と家庭の両立」の順に多かった。子ども・栄養では「家庭」を含んだ選択肢が多めとなっている。音楽では「仕事と趣味のバランス」が比較的多めとなった。

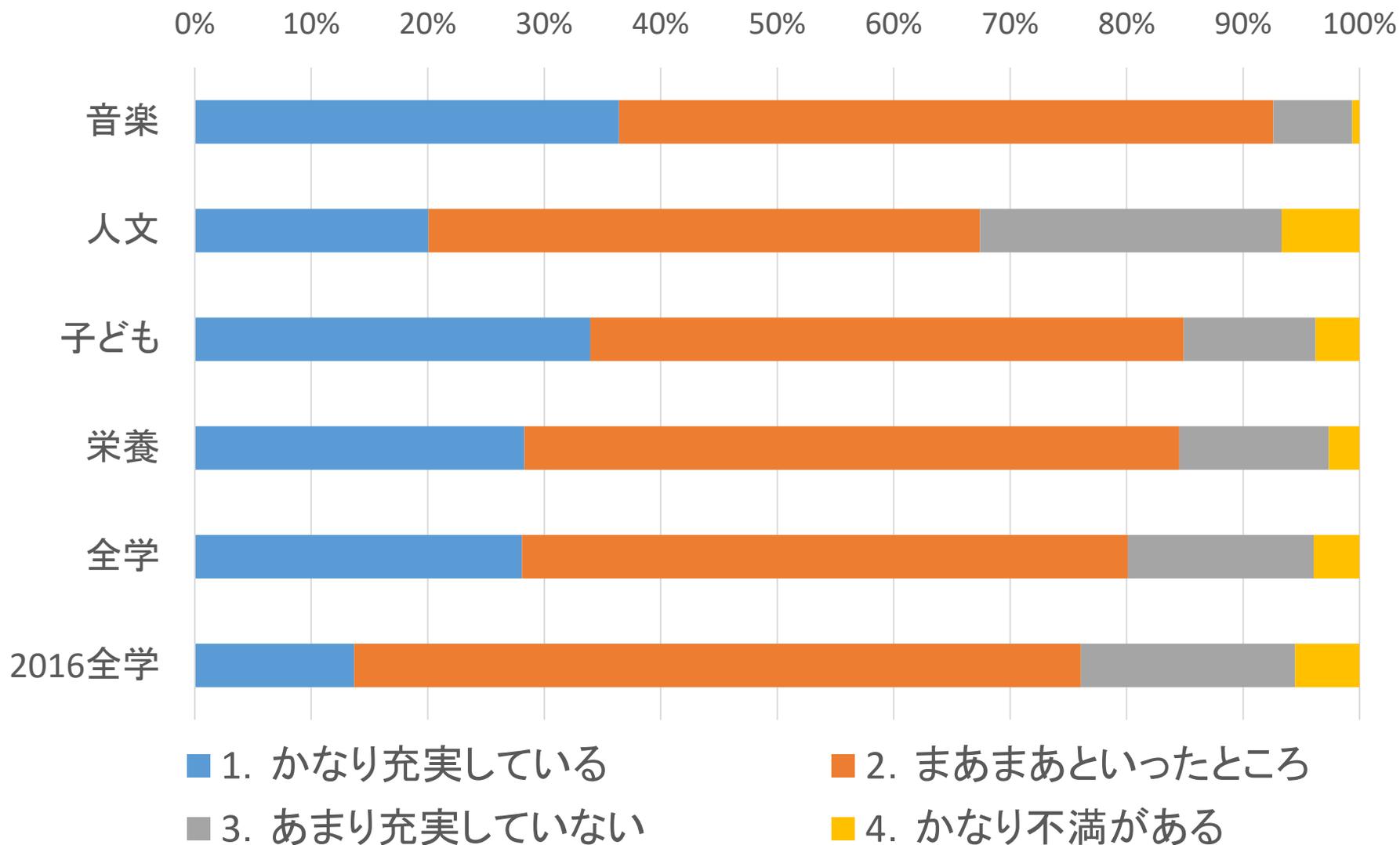
- 1. 家庭を第一
- 2. 仕事を第一
- 3. 仕事と家庭を両立
- 4. 自分の考えや信念を大事に
- 5. 仕事と趣味のバランス
- 6. 会社など組織に依存
- 7. 何かで一流になる
- 8. 平凡でも安定した生き方
- 9. 社会的奉仕、貢献
- 10. 高収入を得て豊かな暮らし
- 11. 明確には意識していない
- 12. その他

Q 60. 所属学部・学科に入学して よかったと思いますか



「まあまあよかった」まで含めると、全学部で9割前後に達しており、おおむね肯定的に感じていることがわかった。「とてもよかった」だけを見ると、音楽が突出して高く、次いで子ども、栄養、人文となっている。全国私学では肯定意見（良かった）が67.5%、否定が4.6%、どちらともいえないが27.9%となっている。

Q61. 学生生活は充実していますか

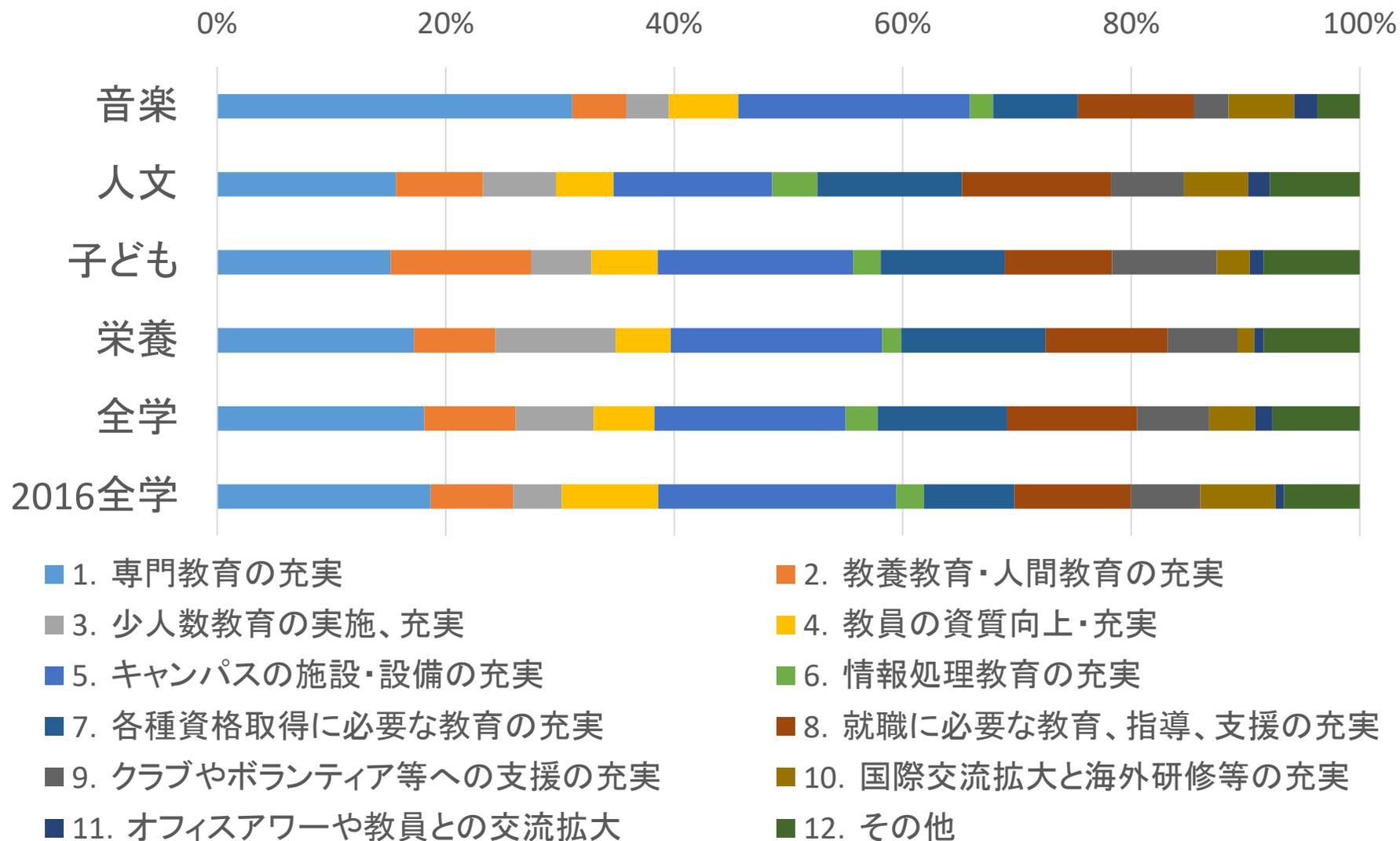


人文が低くなっている。

何を持って「充実している」とするのかは各学生によって異なる可能性があるが、この低さの要因を別の調査で追跡する必要がある。

2016年と比較すると「かなり充実」の回答が増加している。

Q62. 大学の教育や課外活動に関して、
特に要望することは何ですか（3つまで）

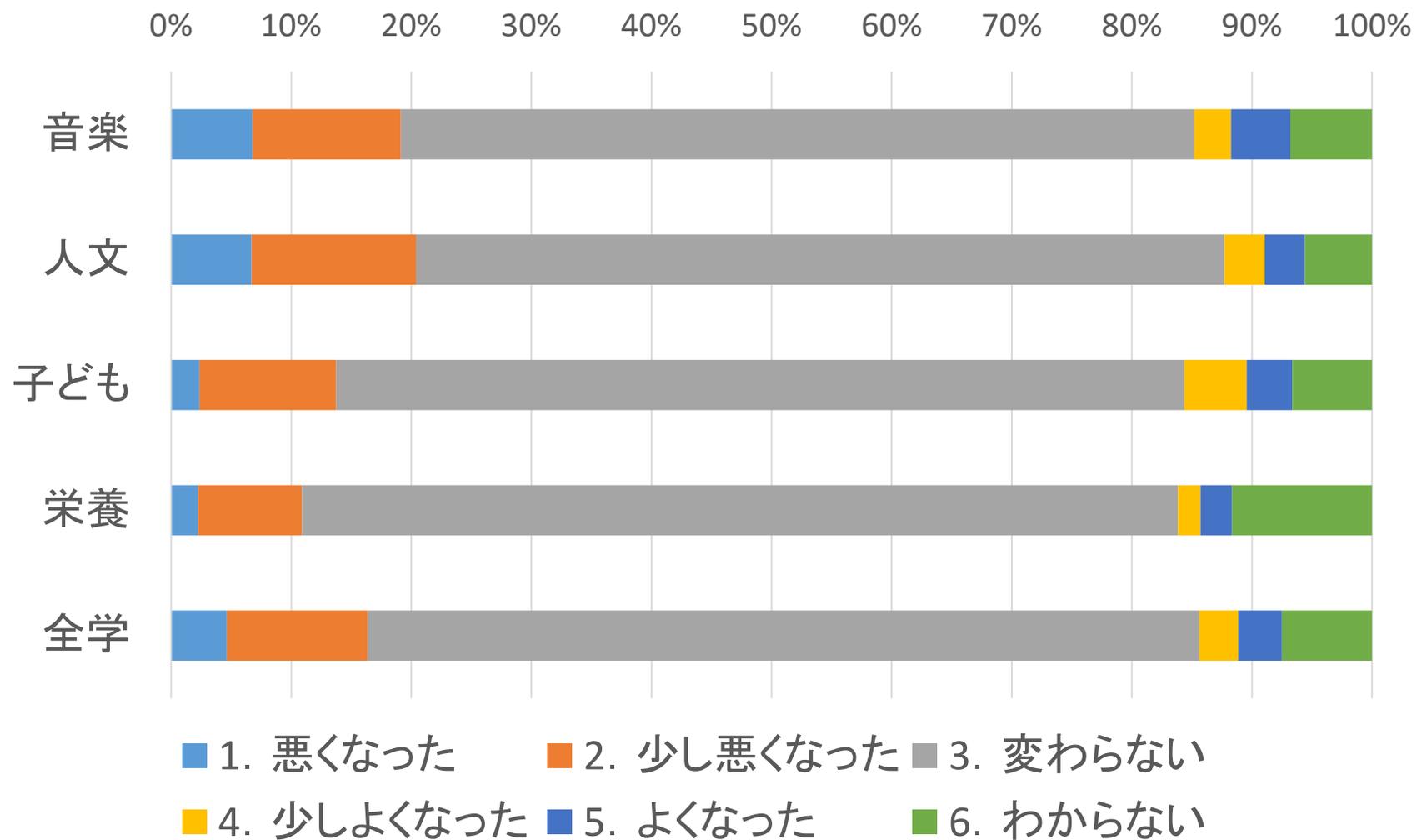


人文では各項目の差が小さく、票が分散している。全体的に「専門教育の充実」「キャンパス施設・施設」が多く、人文と栄養では「各種資格取得に必要な教育」が多く、人文では他の学科に比べ「就職に必要な教育」が多めになっている。

C-Q1~C-Q15

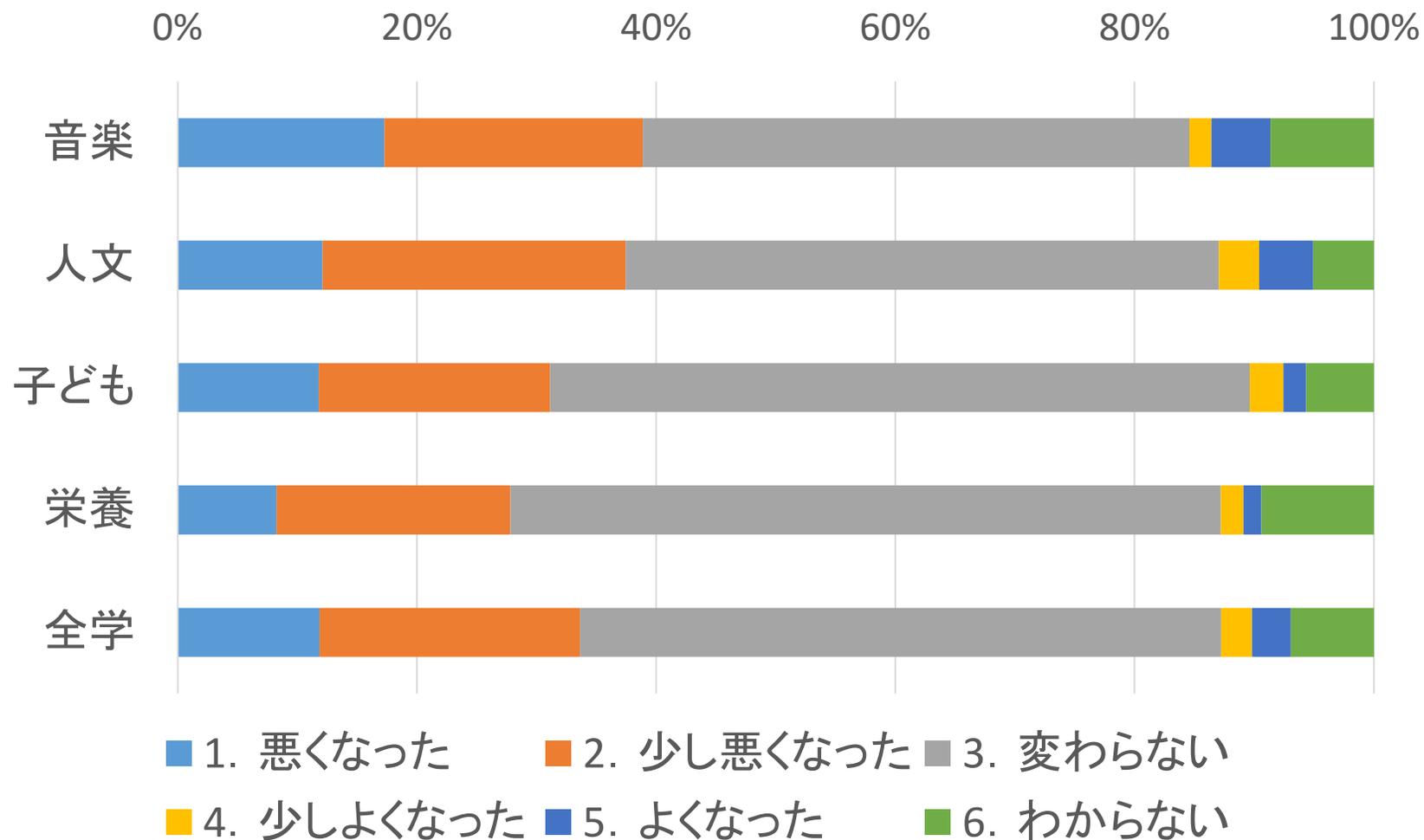
新型コロナ関連

C-Q 1. コロナ以前と比べて、現在（21年度前期）の身体的健康の状況はどうか



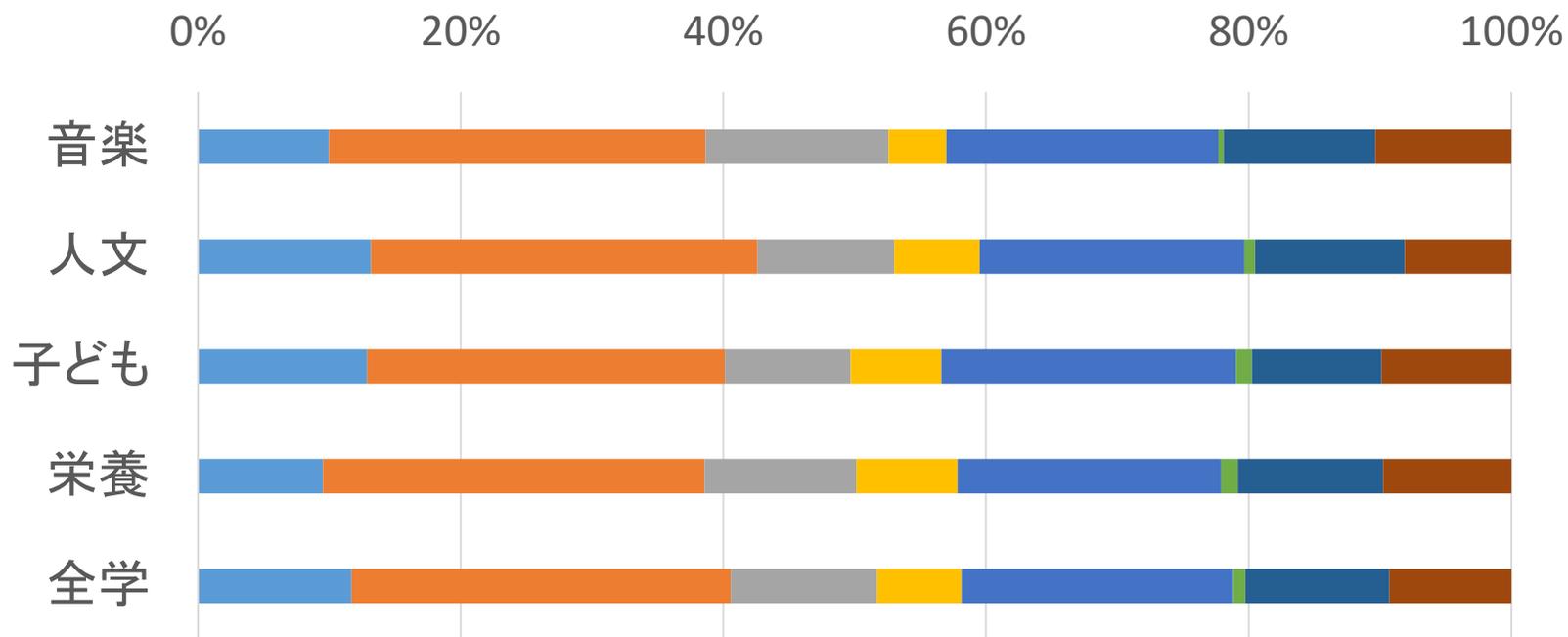
「悪くなった・少し悪くなった」が1割～2割ある。音楽・人文で若干多めとなっている。

C-Q 2. コロナ以前と比べて、精神的健康の状況はどうか



こちらにも音楽・人文でわずかに悪くなった人が多めになっている。身体面より精神面の悪化の割合の方が増加しており、3割～4割が精神面での悪化を感じている。

C-Q 3. 精神的健康の面（こころや精神の変化）で、当てはまるものを選んでください



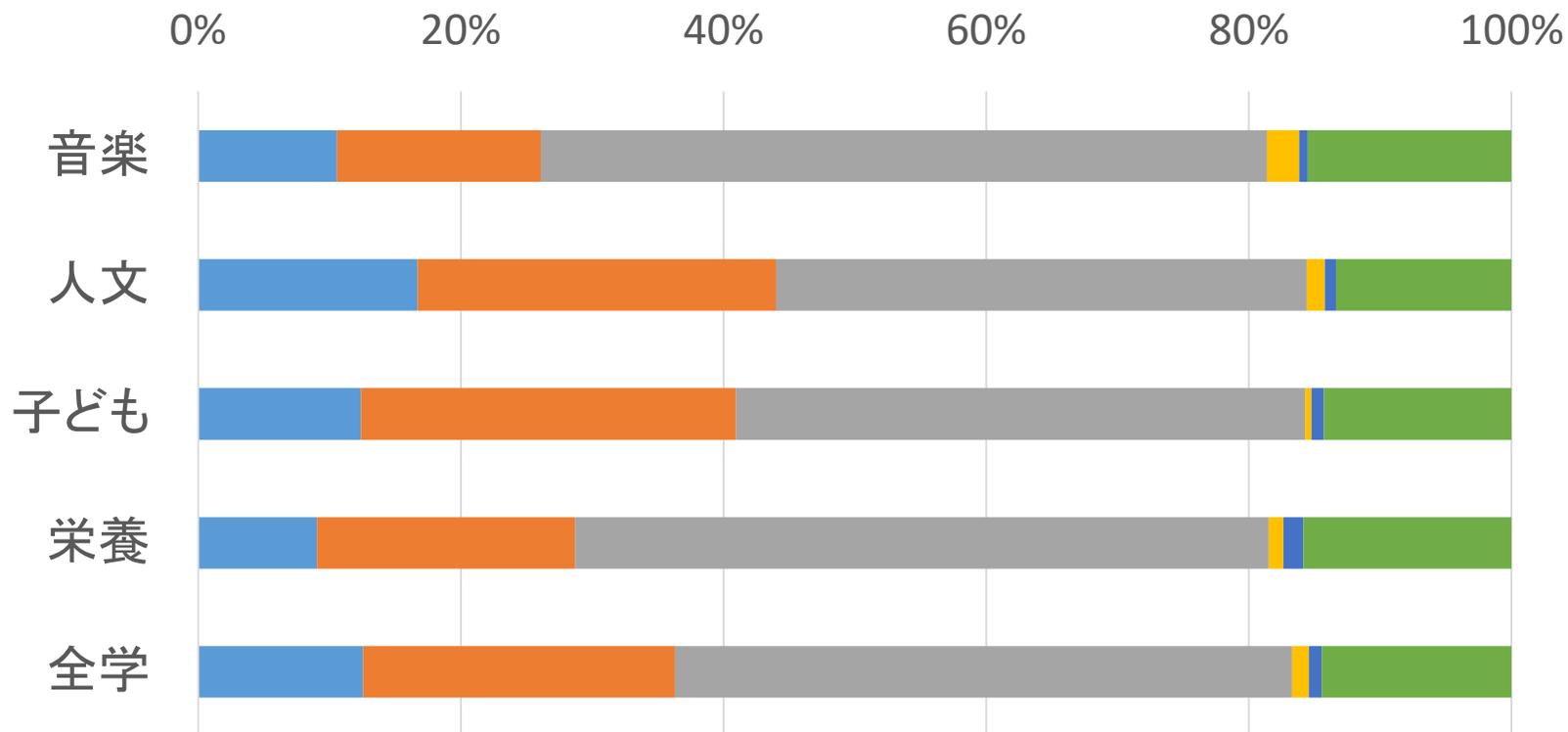
- 1. 孤独感や孤立感を感じる
- 2. 自分の将来への不安を感じる
- 3. 社会的な混乱への不安を感じる
- 4. 医療・病院への不安を感じる
- 5. 生活リズムが狂った
- 6. 暴力的になった
- 7. 無気力・無関心になった
- 8. その他

将来への不安が最も多く、次いで、生活リズムの狂いが挙げられている。

そのほか、無気力・無関心、社会的混乱への不安、孤独感などもそれぞれ一定の票を集めている。多様な不調に目を向けていく必要がある。

学科間の差異は小さい。

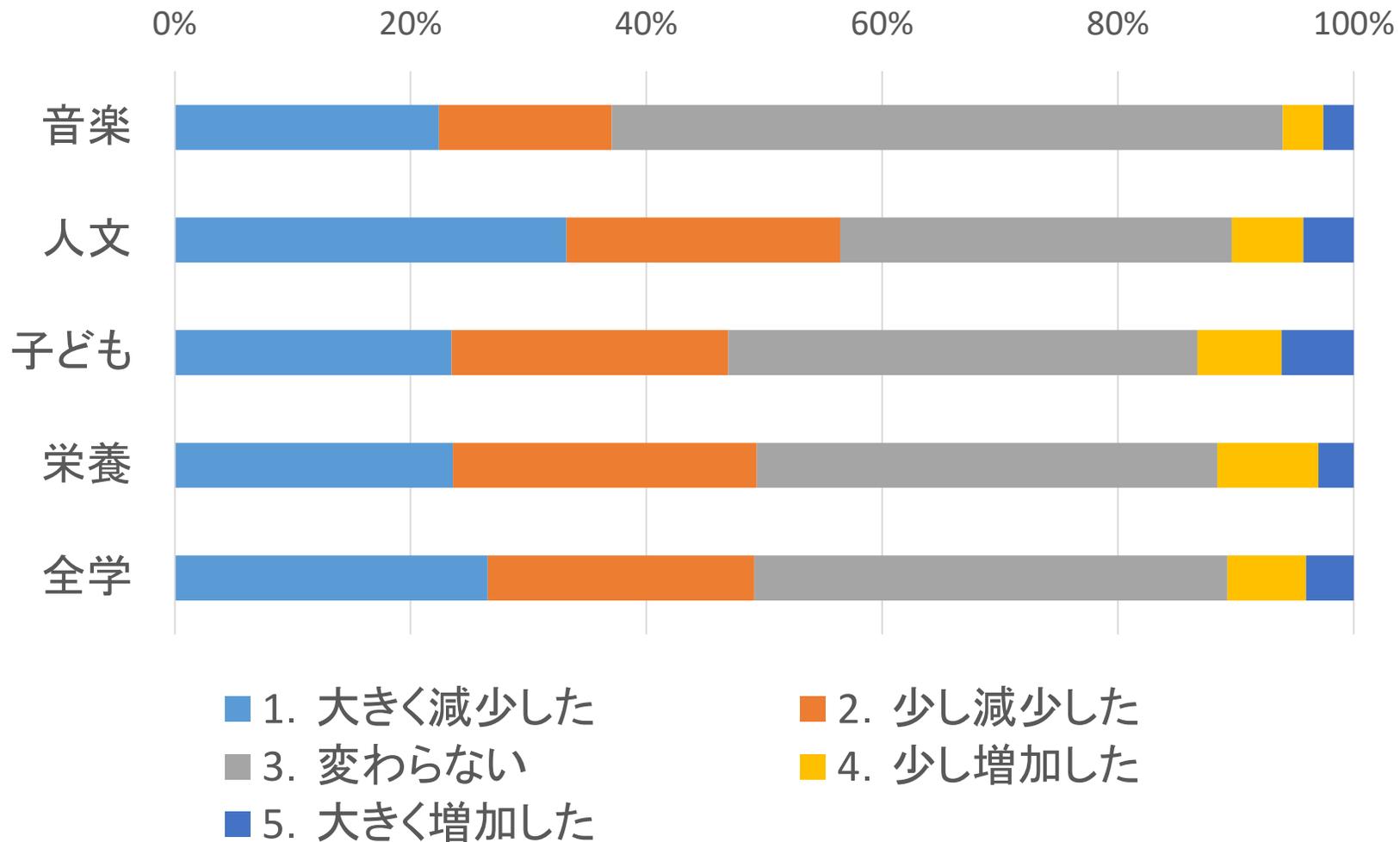
C-Q 4. 保護者の方の経済的基盤に 影響がありましたか



人文・子どもで保護者の経済基盤の悪化が多く見られている。(なぜこの2学科に偏ったのかは不明)

- 1. 悪くなった
- 2. 少し悪くなった
- 3. 変わらない
- 4. 少しよくなった
- 5. よくなった
- 6. わからない

C-Q 5. アルバイトをしている人で、アルバイトの収入が以前と比べて変化したか

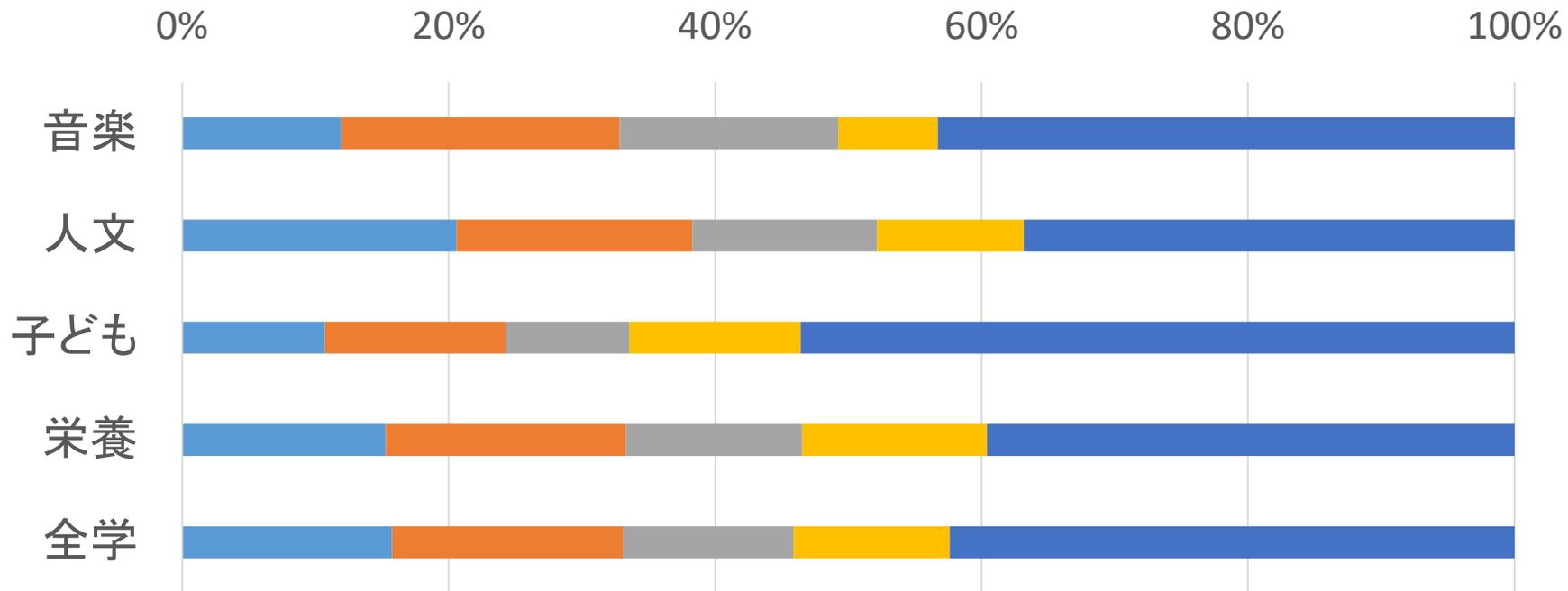


人文が多め、音楽が低めとなっている。

人文はアルバイト関連の回答で、長時間労働・多く収入を得ていた学生が多かったため、その影響も大きく出たと見られる。

C-Q 6. アルバイトを辞めた理由と新型

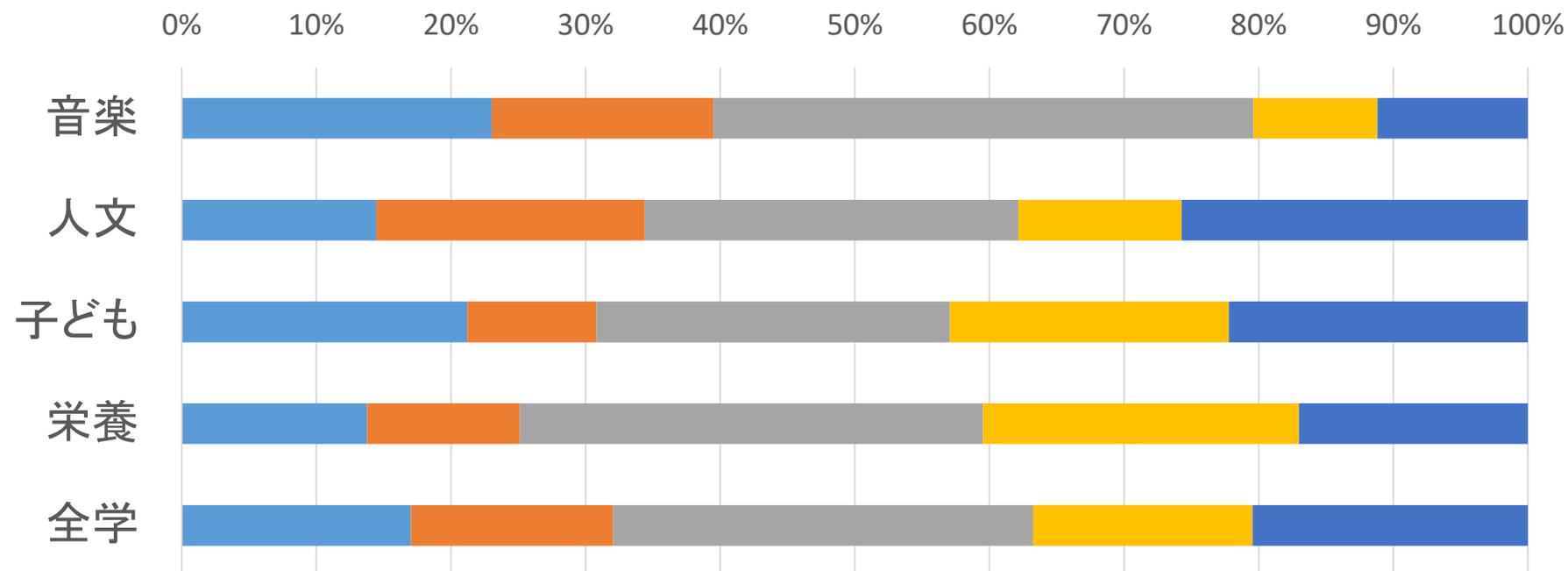
コロナ拡大は関係ありましたか



- 1. コロナが原因でアルバイトを解雇された
- 2. コロナが原因でシフト(収入)が減り、自ら辞めた
- 3. コロナの感染の不安から、自ら辞めた
- 4. コロナ拡大に関連しているが、上記以外の理由
- 5. コロナ拡大とは無関係

コロナ禍でのアルバイトができなくなった学生は5割~6割に上っている。子どもは他学科に比べてコロナに関してバイトを辞めた者が少なく、コロナとは無関係という者が多いという結果が出ている。

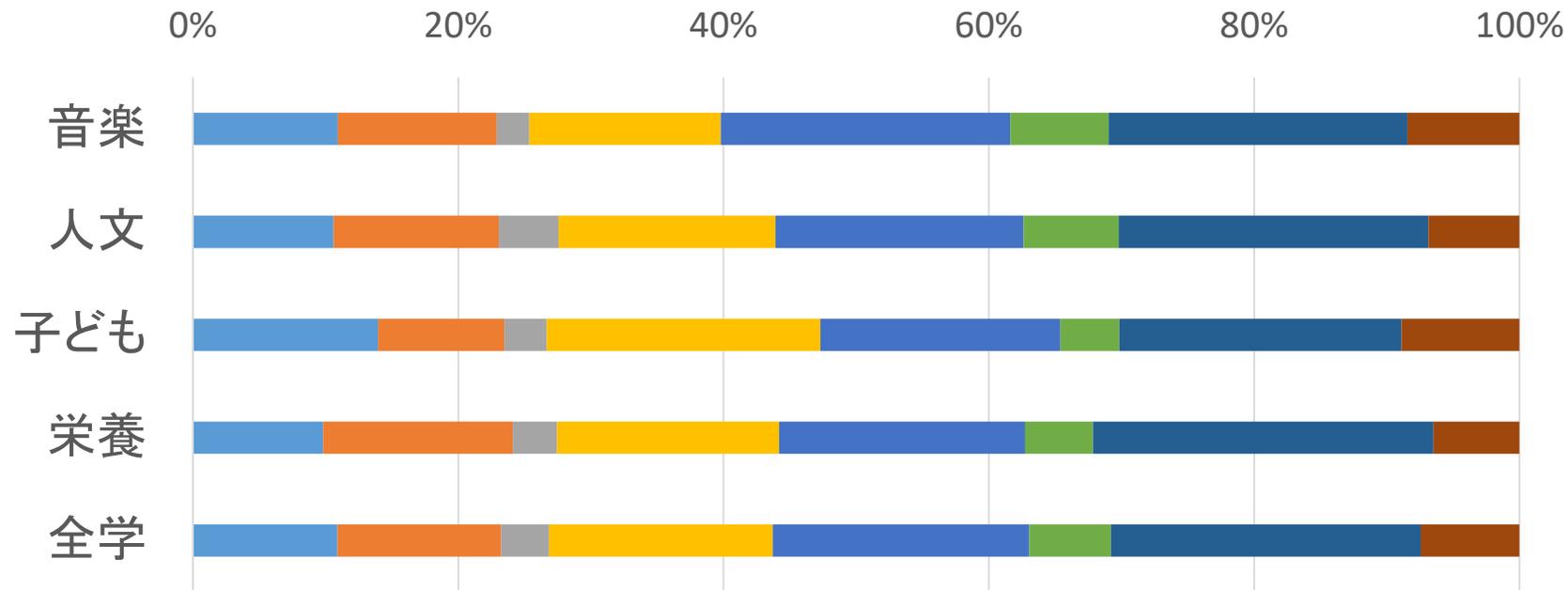
C-Q 7. 今後、対面授業の実施について どのように進めるべきと考えますか



対面を要望する声、リモートを要望する声どちらも各学科で3割~4割ずつ見られる。学科間では、音楽で対面要望派が多く、ほかの3学科ではリモート要望派の方が多い状況となっている。特に栄養では対面よりリモート派の方が多く大きな差になっている

- 1. 全面的に対面授業
- 2. 対面授業を現状よりも増やす
- 3. 現状と同じ
- 4. 対面授業を現状よりも減らす
- 5. 全面的にリモート(非対面)授業

C-Q9. リモート授業に関して、 どのようなことを望みますか



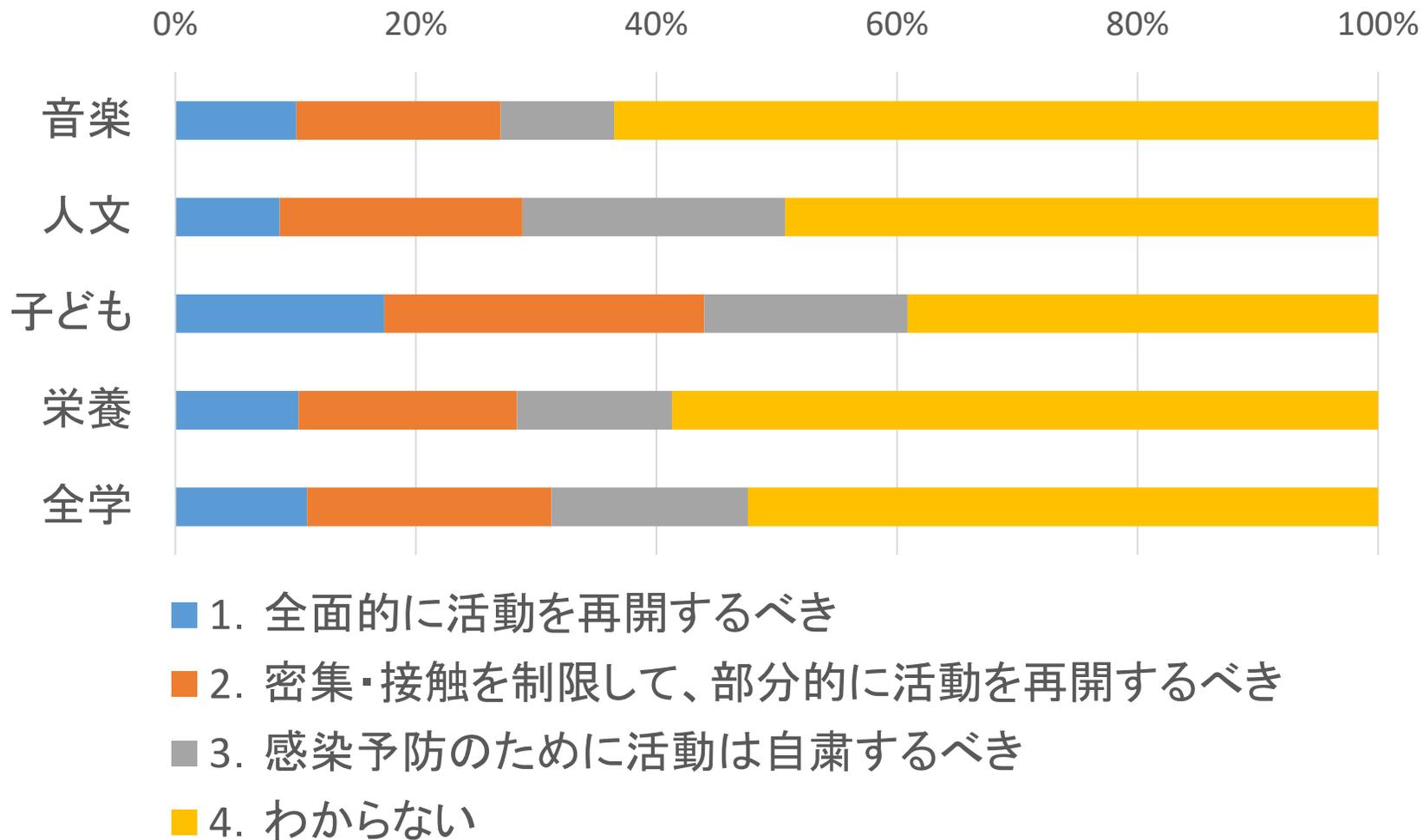
- 1. 操作方法の説明・相談
- 2. 質問への回答
- 3. 授業以外の相談
- 4. 提出物への評価(点数表示)
- 5. 提出物への個別コメント
- 6. 提出者全体への講評
- 7. 課題の解説(模範解答など)
- 8. その他

「授業以外の相談」と「全体の講評」への要望は少なめであったこと以外は、複数の項目に分散している。

どれか一つだけでなく、それぞれの対応が求められていることがわかる。

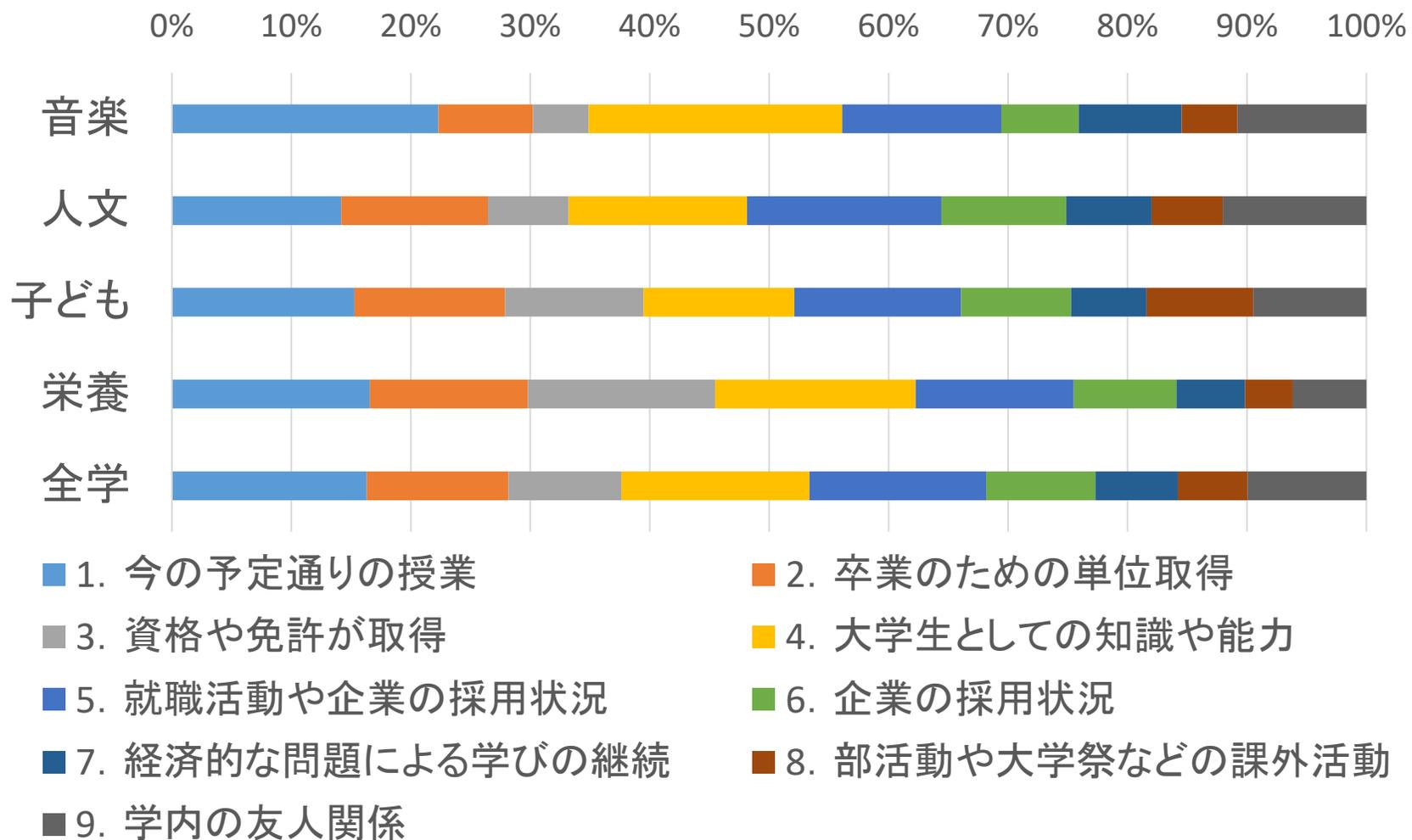
学科間の違いはわずかであった。

C-Q10. クラブ・サークル活動に関して、どのようなことを望みますか



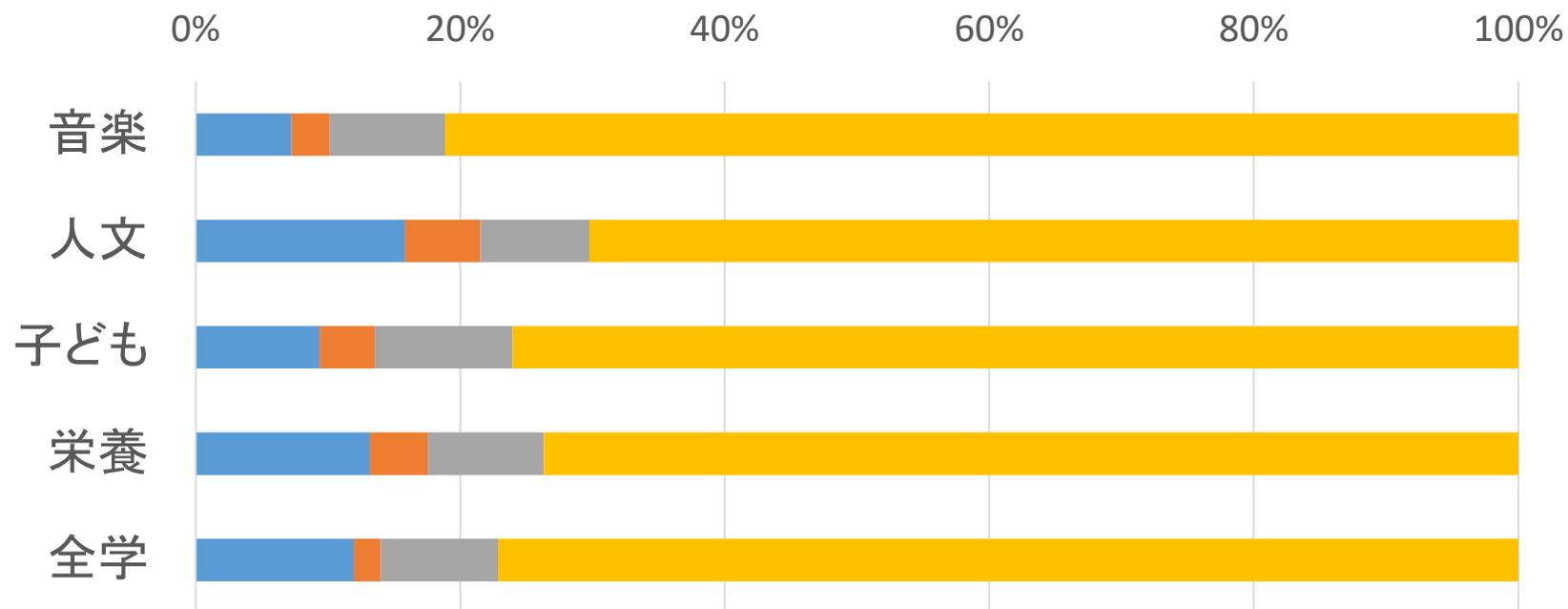
子ども発達の学生が多くクラブ・サークル活動をしているためか、「全面的に再開」と「部分的に再開」という回答が多い。回答が分散しているというより、クラブ・サークル活動をしている学生だけを対象に回答を求めた方が良いのでは。そうすると「全面的に」と「部分的に」という回答が多くなると思われる。

C-Q11. コロナ拡大によって、学生生活で、特に強く不安を感じたもの



音楽では、「予定通りの授業」、「大学生として知識・能力」に不安を感じる学生が多く、人文ではそれらに加えて「就職活動」への不安が多くなっている。子どもは予定通りの授業「卒業のための単位取得」「大学生としての知識・能力」「就職活動」の各項目に均等に分散しており、栄養は「予定通りの授業」「大学生として知識・能力」に不安を感じるに加え、「資格免許取得」「卒業のための単位取得」への不安が多くなっている。

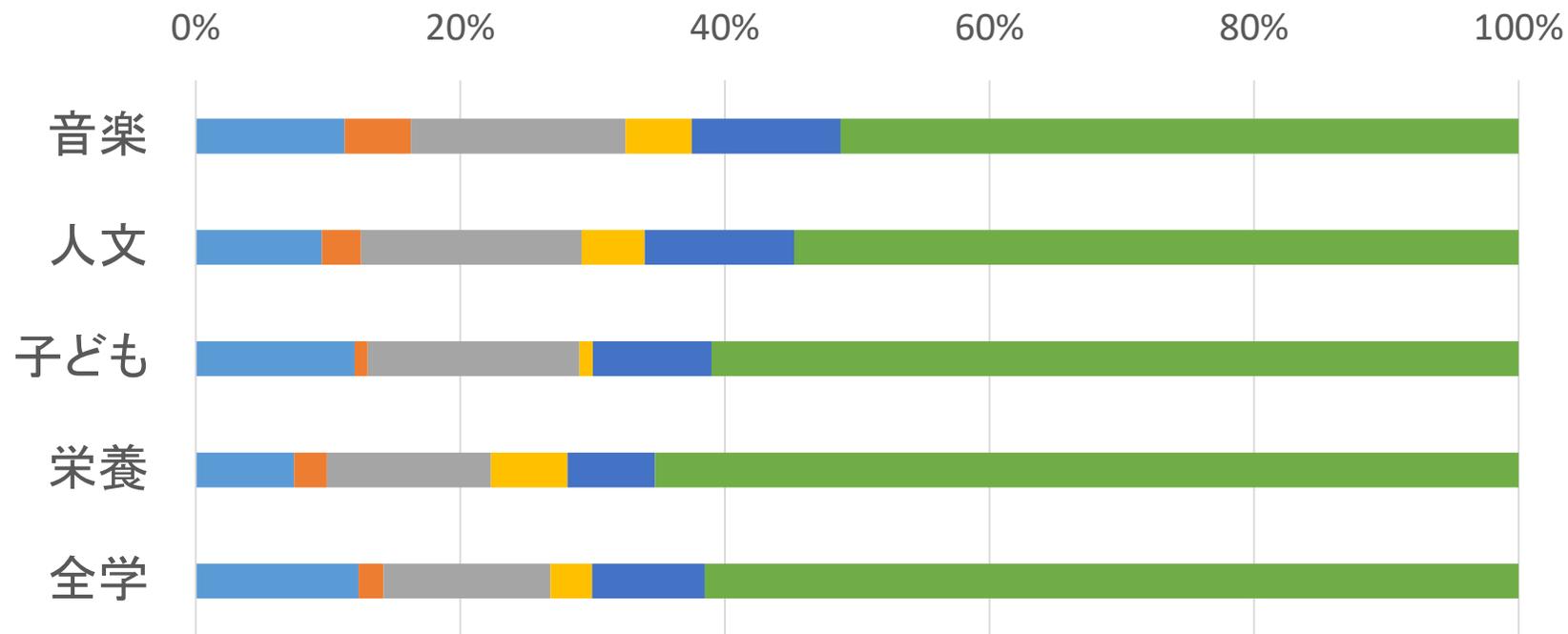
C-Q12. 大学・学部を選び方。コロナ 感染拡大の影響(1回生のみ)



- 1. 自宅から通えるところを選んだ
- 2. 感染の多い地域を避けようとした
- 3. 就職に有利な分野の大学・学部を選んだ
- 4. コロナによる影響はなかった

影響は2割～3割で、7割前後は、相愛への入学において影響はなかったとしている。影響の内訳では、自宅志向と就職（実学）志向が多めとなっている。

C-Q13. 受験勉強について、コロナ感染拡大はあなたにどのような影響をあたえましたか(1回生のみ)



- 1. 高校での授業・指導が十分に受けられなかった
- 2. 塾・予備校での授業・指導が十分に受けられなかった
- 3. オンライン授業でやりにくい部分や混乱があった
- 4. 勉強時間が取れなかった
- 5. 集中できなかった
- 6. 影響はなかった

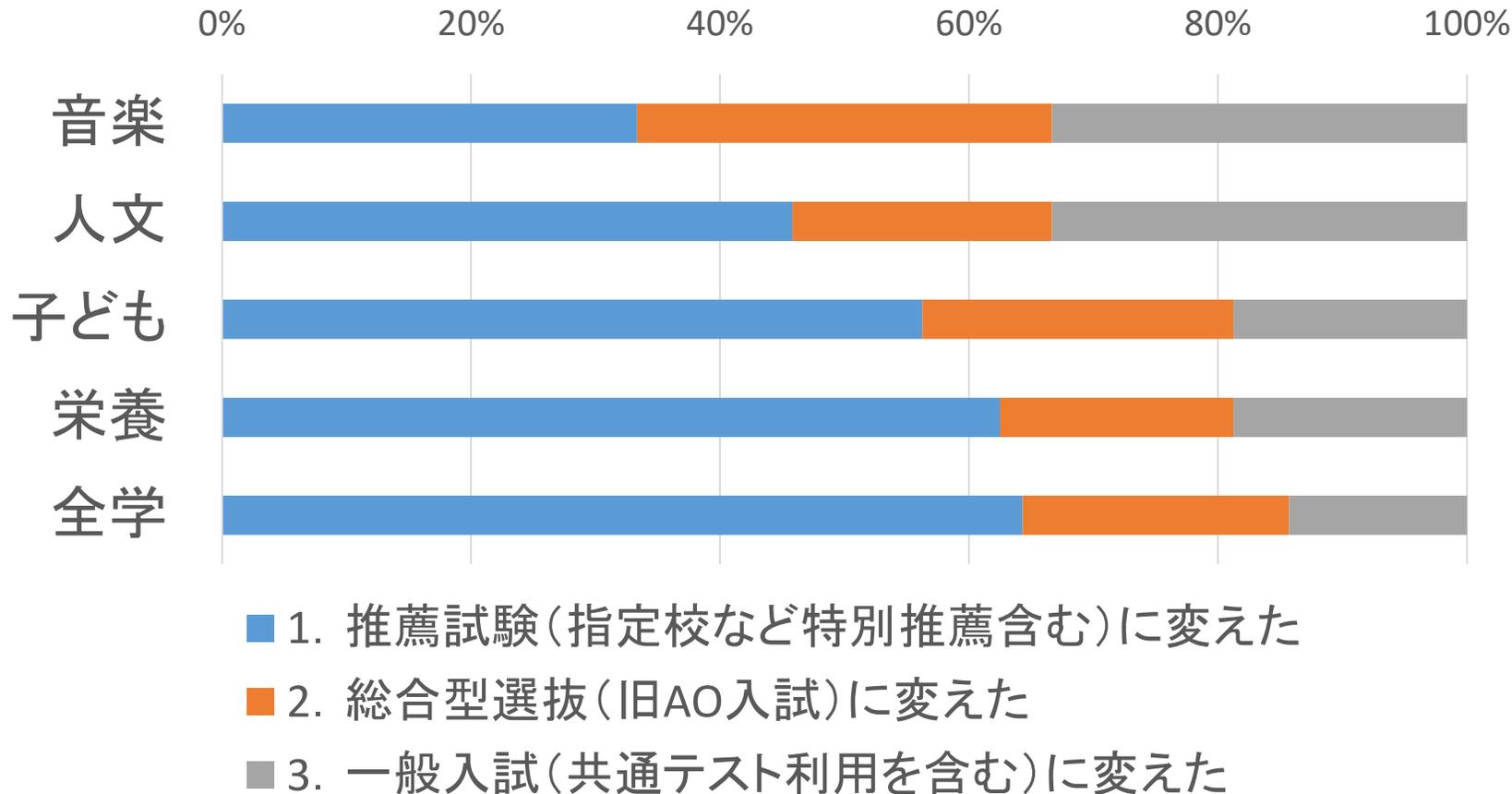
半数以上は影響がなかったと回答している。

影響の内容は、オンライン授業でのやりにくさ、高校の授業が不十分、集中できなかった、などが多くなっている。

C-Q14. コロナ感染拡大は、あなたの

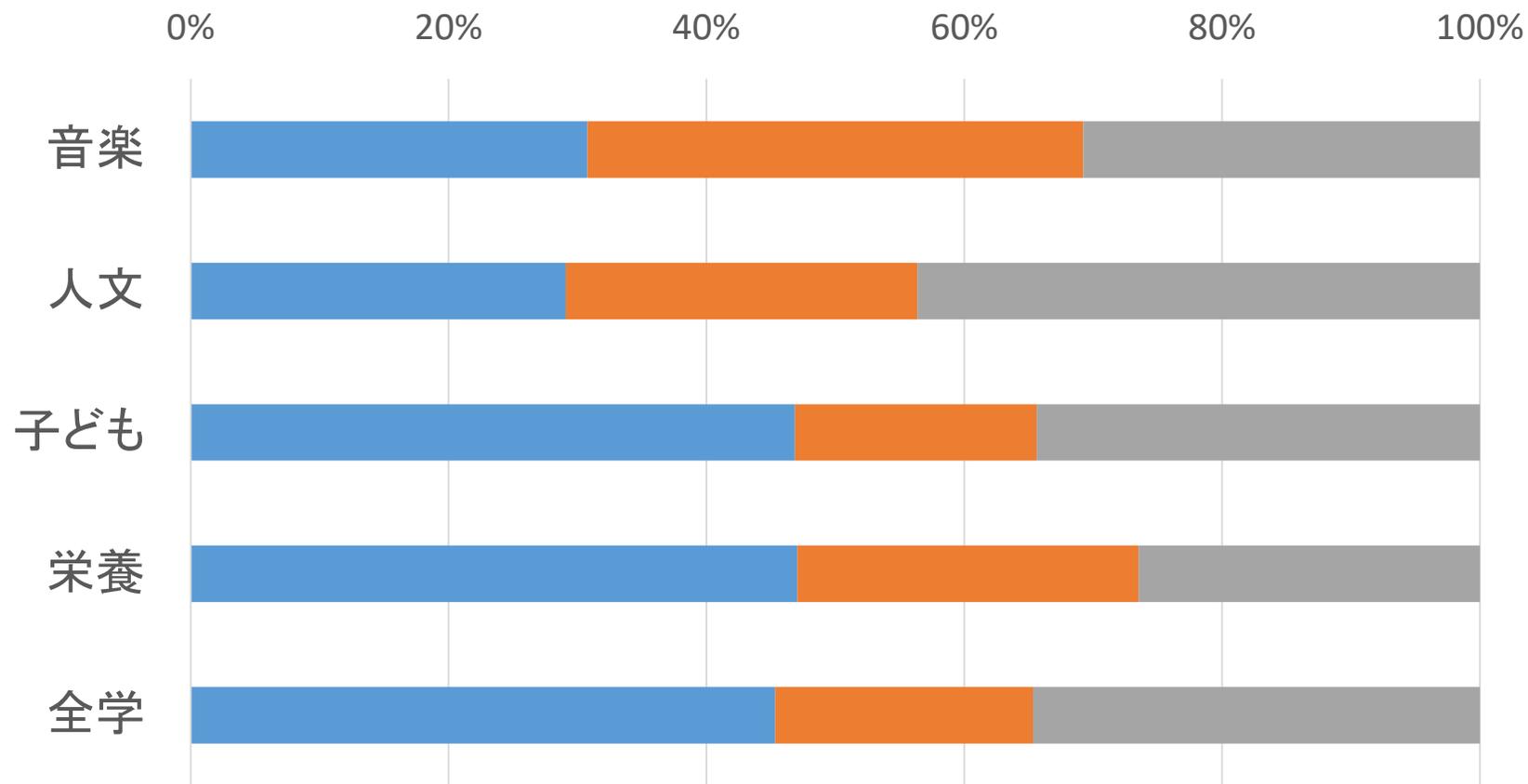
受験の機会について影響をあたえましたか

変更なし（86%）を除いたグラフ



回答の大半（86%）は、コロナ禍での変更はなしと回答している。左記のグラフは、影響のあった人のみをグラフ化して、影響の内訳を示している。音楽・人文は一般入試に変えたという回答が30%を超えているのに対して、子ども・栄養は推薦試験に変えたという回答が半数以上を占める。しかし従来より、この2学科は、推薦試験（指定校など特別推薦含む）が多かったため、コロナの影響が大きかったのかどうかを慎重に検討すべきである。

C-Q15. C-Q14.で受験を変更した理由で、
もっとも近いもの(1回生のみ)



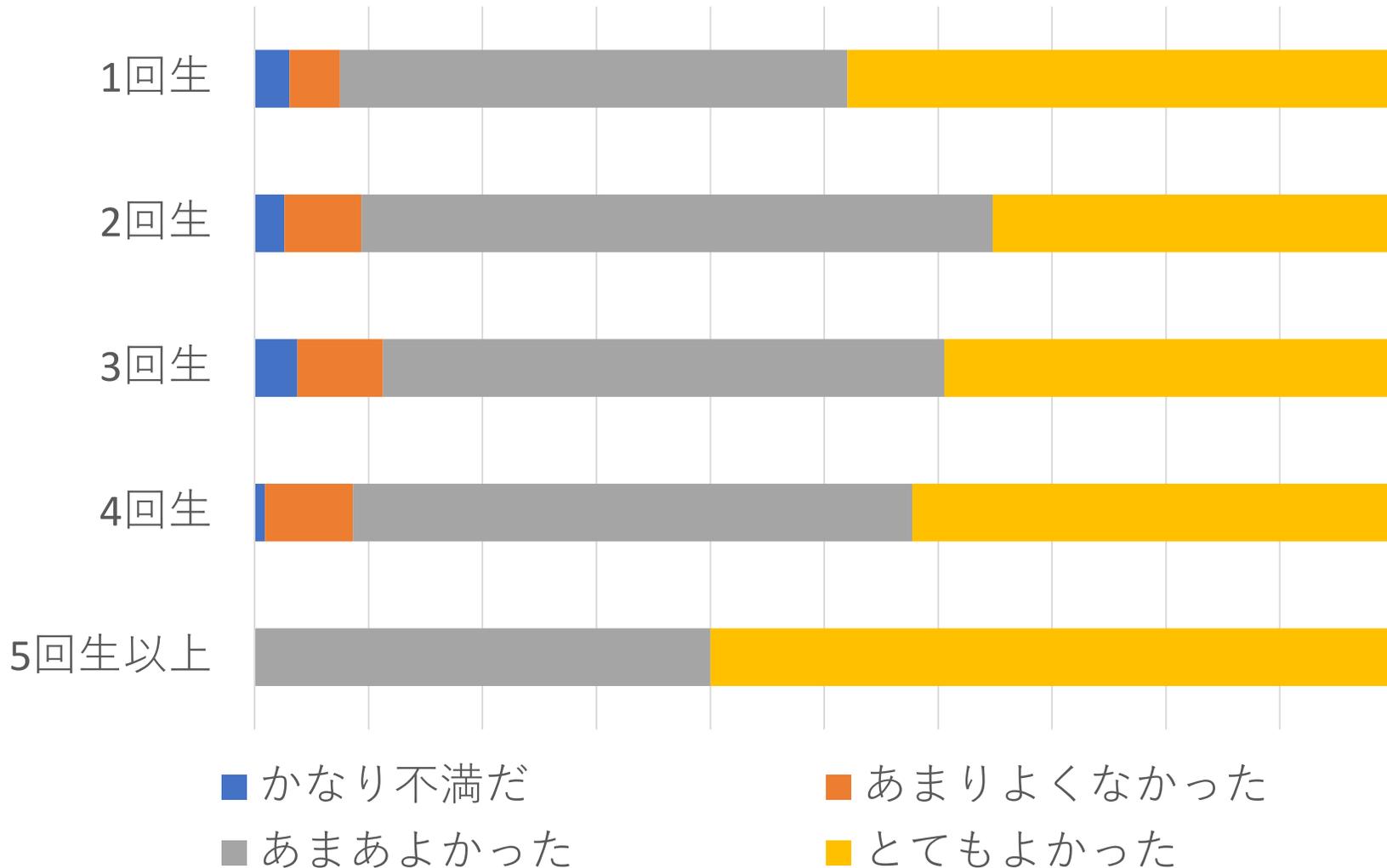
- 1. 十分に受験勉強ができていないと感じたため
- 2. 試験が中止になる・クラスターが発生する可能性をこうりよしたため
- 3. コロナの影響で試験の競争が激しくなると考えたため

それぞれの意見が一定数見られるものの、「コロナの影響で試験の競争が激しくなると考えたため」は人文に多い。「十分に受験勉強ができていない」は人間発達学部の2学科に多い。

学部学科以外のクロス集計

Q60 【満足度】 × 学年

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



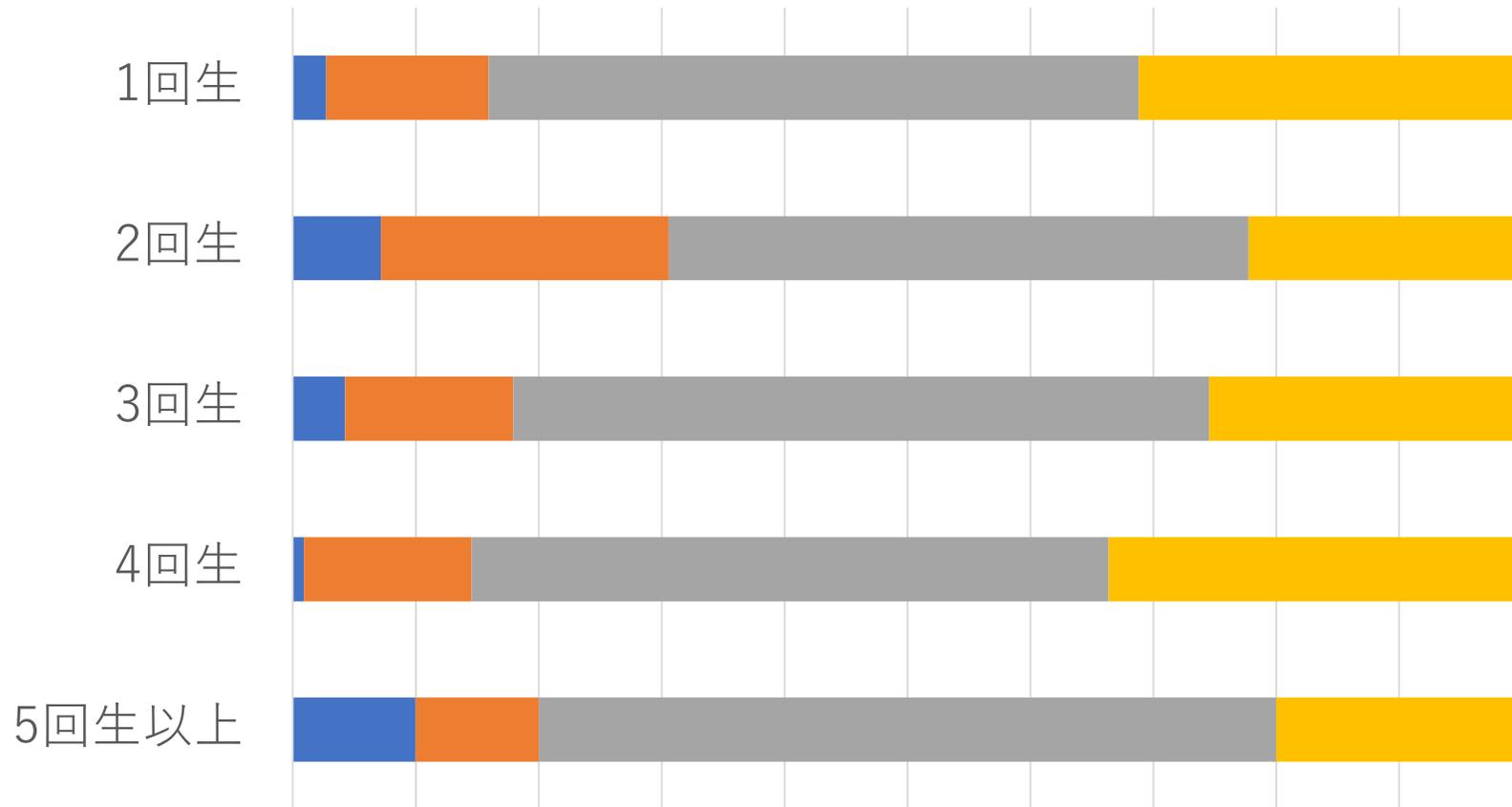
Q60「よかったと思うか」の問い【満足度】を学年ごとに比較したもの。

不満の数に大きな違いがないものの、「とてもよかった」の比率は2回生が最も低く、1回生は比較的高い。

コロナ禍でのリモート主体の授業に対して2回生の満足度が低いことがわかる。1回生は比較的高めなのは、コロナ禍に慣れてからの入学であったため戸惑いが少なかった可能性がある。

Q61 【充実度】 × 学年

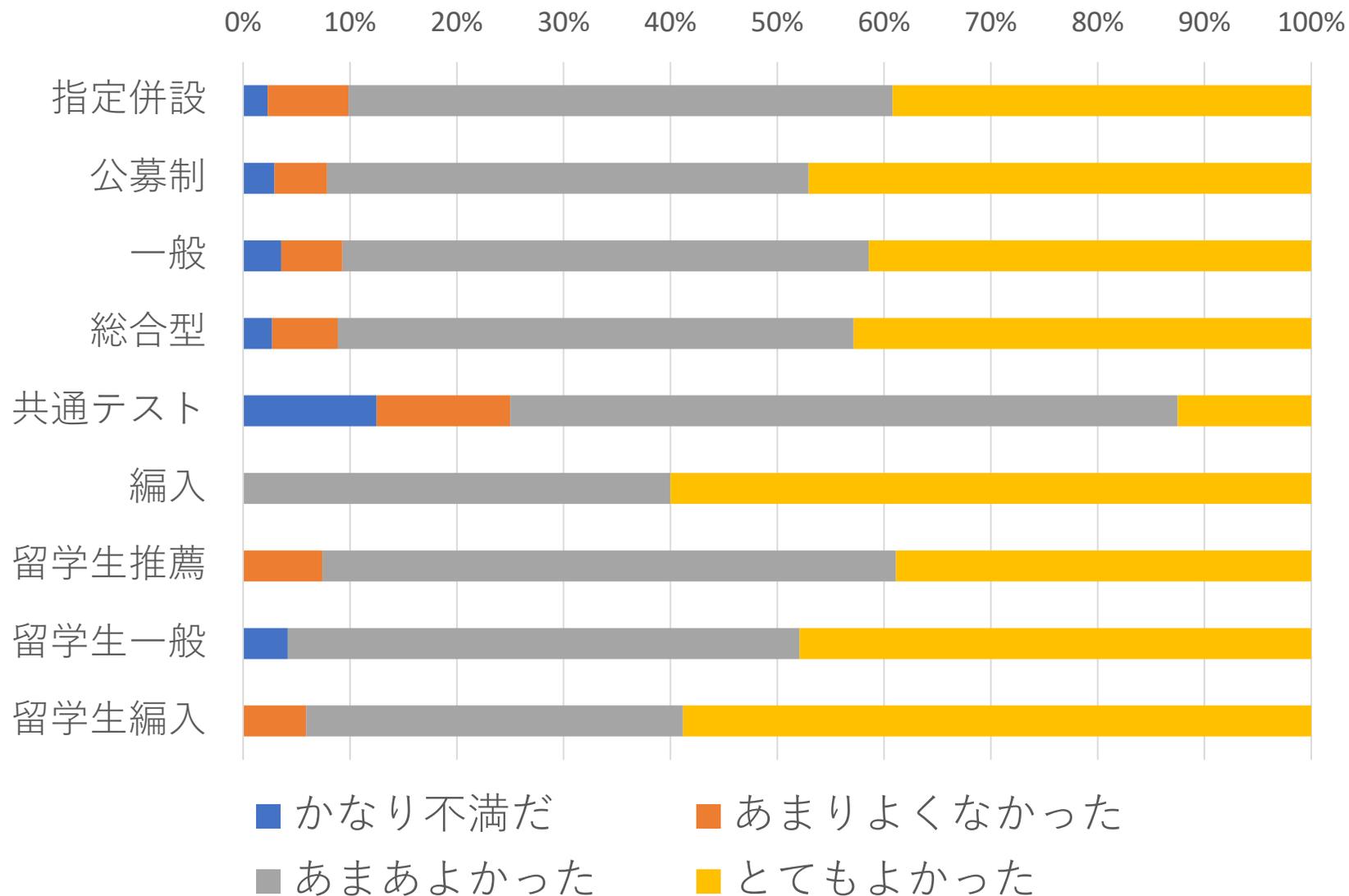
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ かなり不満がある ■ あまり充実していない
■ まあまあといったところ ■ かなり充実している

「5時間以上」の回答では、「かなり充実している」から「かなり不満がある」まで、次第に回答が増えており、満足度×スマホ時間の結果と類似した傾向がある。

Q60 【満足度】 × 入試種別



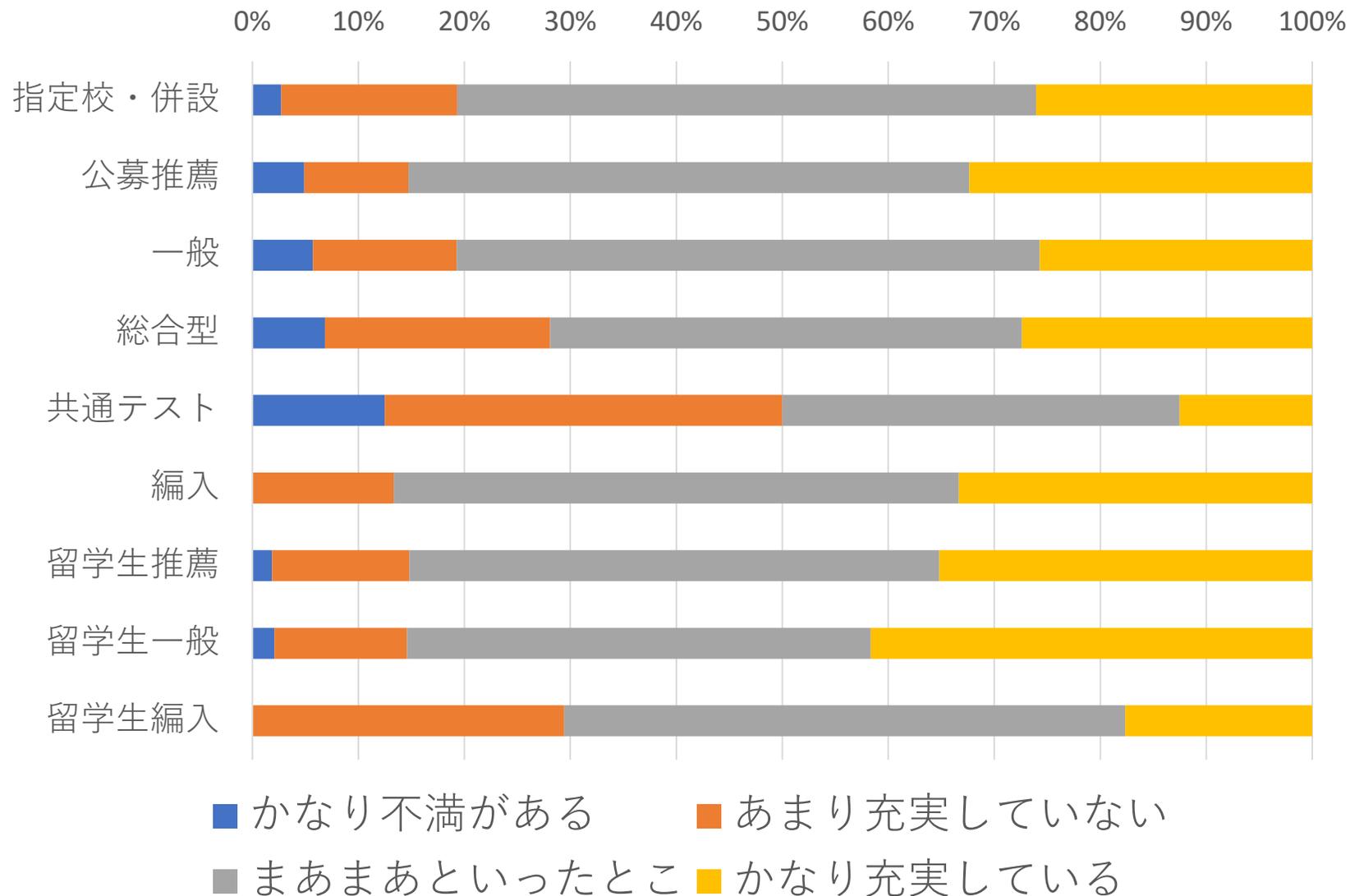
Q60「よかったと思うか」の問い【満足度】を入試種別ごとに分けたグラフとなっている。

全体的にどの入試種別でも似た傾向を示している。

「共通テスト利用」での入学者のみ、不満が多く、とても良かったという回答も低くとどまっている。

共通テストは滑り止めの受験が多く、不本意入学が多い可能性があり、それが不満の多さにつながっていると考えられる。

Q61【充実度】 × 入試種別

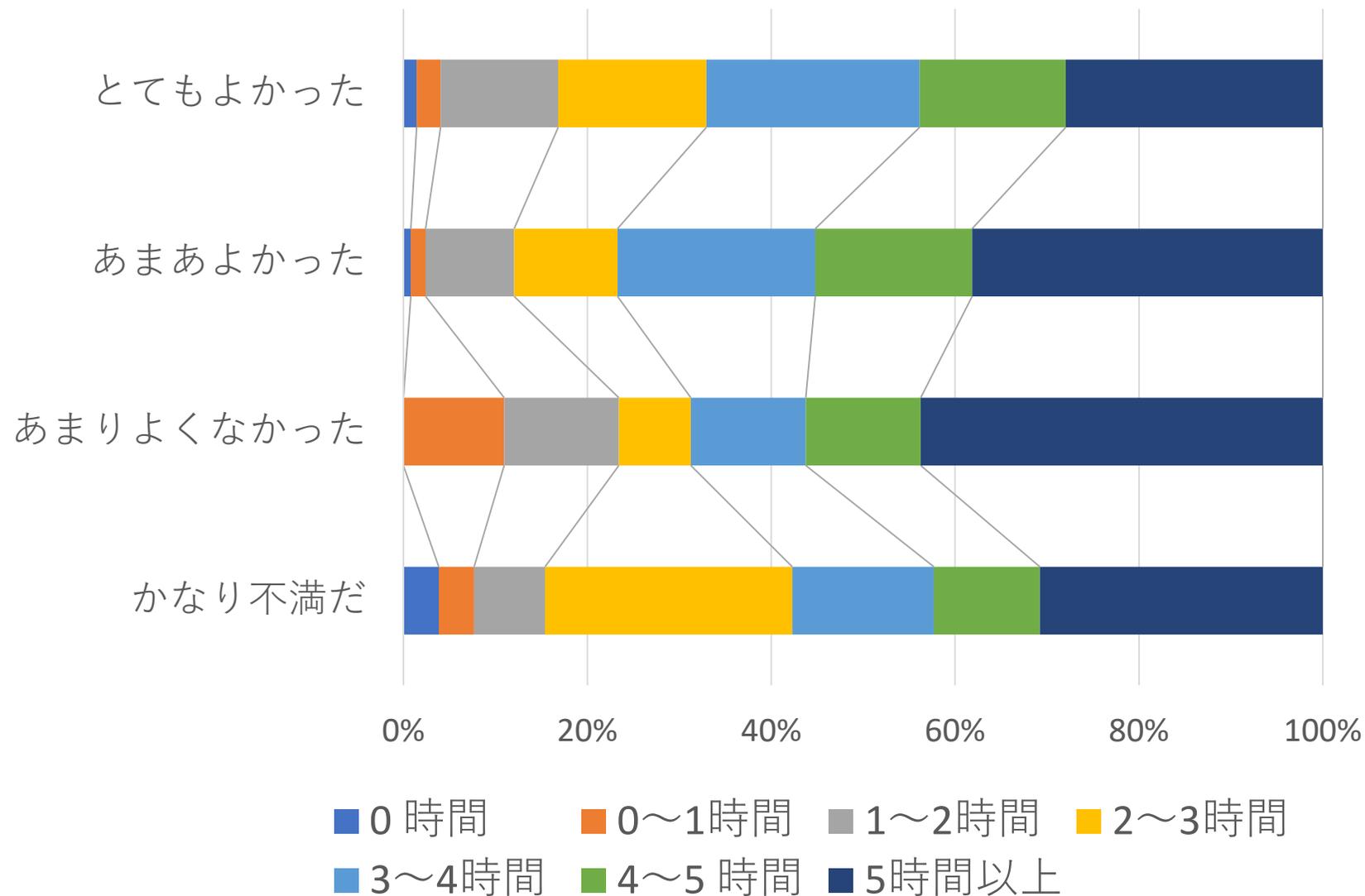


Q61【充実度】を入試種別ごとに分けたもの。

こちらも共通テスト利用で
すこし不満が多い結果と
なった。

そのほかの入試種別では、
目立った違いは見られない。

Q60 【満足度】 × スマホ使用時間

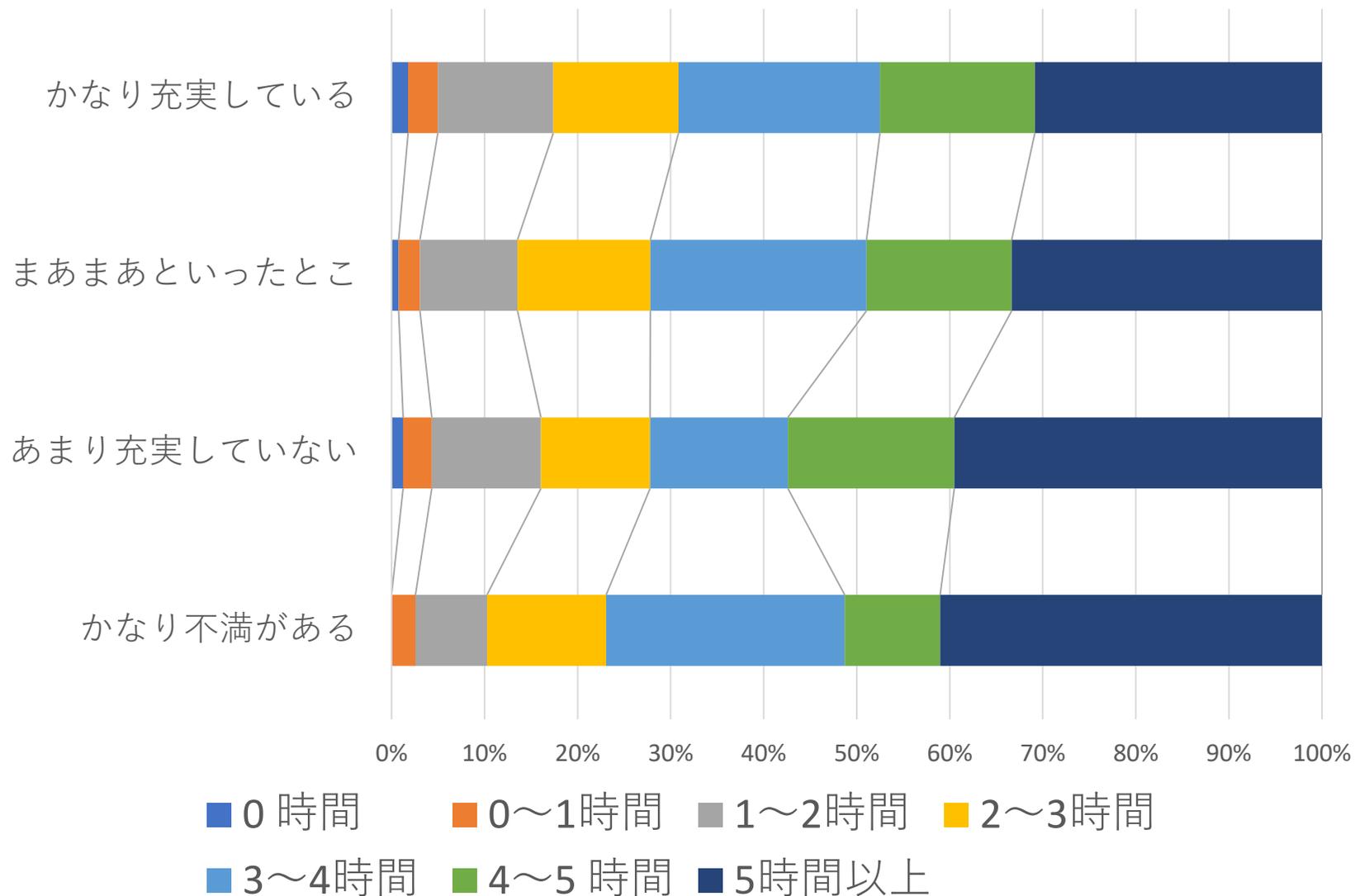


Q60 の満足度の解答の違いとスマホ使用の傾向を調べたもの。

「5時間以上」の回答を見ると、「とてもよかった」から「あまりよくなかった」までは、次第に回答が増えている。満足度とスマホ時間に関連性がある可能性がある。（満足できないからスマホに逃げ込む、あるいはスマホに熱中して大学がおろそかになるなど）

しかし「かなり不満だ」と回答した人は比較的スマホ使用が短い傾向が見られた。これは回答者数が少なく、ばらつきが出た可能性がある。

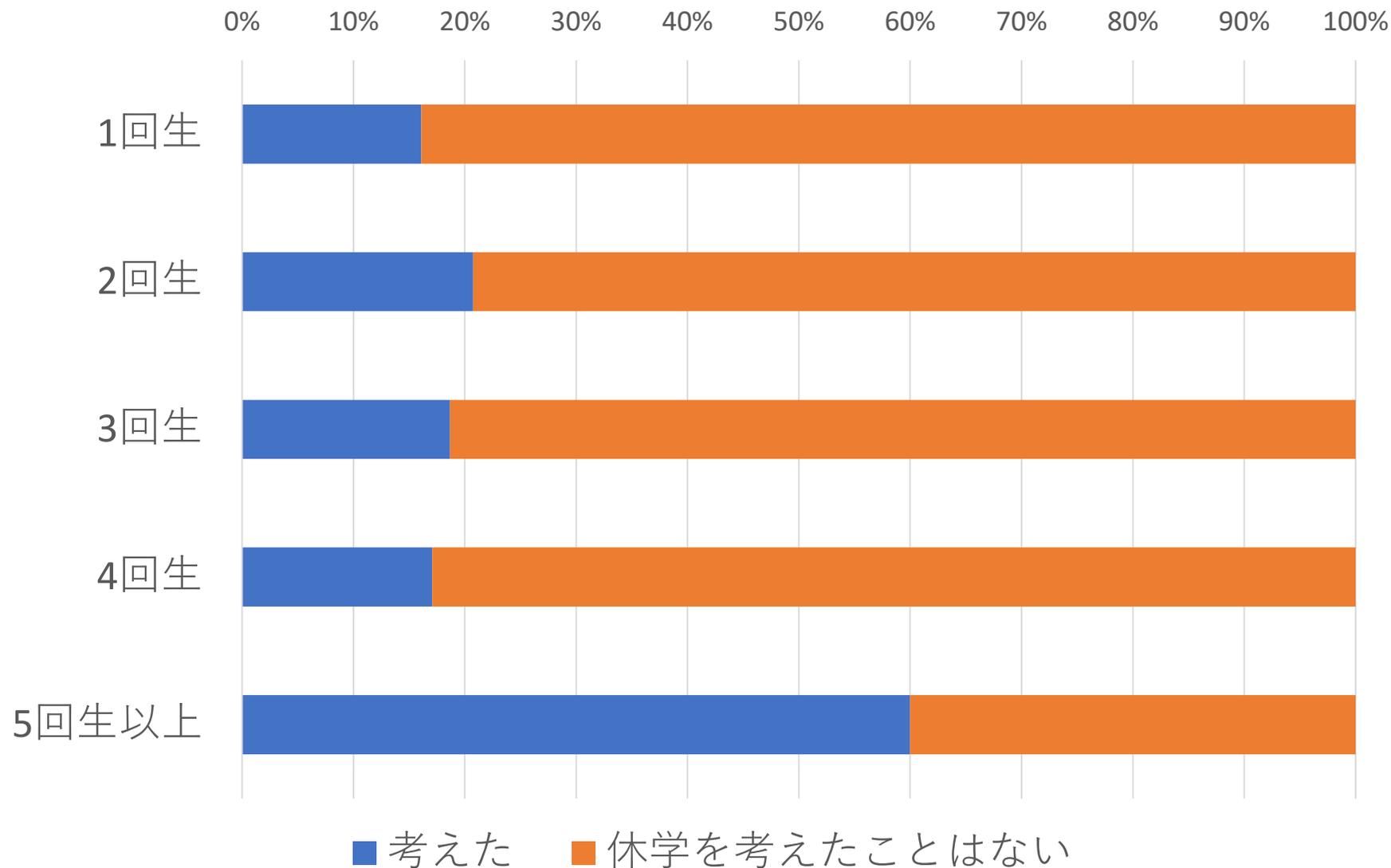
Q61 【充実度】 × スマホ時間



Q61 【大学生生活充実度】の解答別にスマホ使用時間を調べてみたもの。

全体的に似た傾向を示しているが、不満が強くなるに従って、スマホを長時間使用する人が多い傾向が見られる。

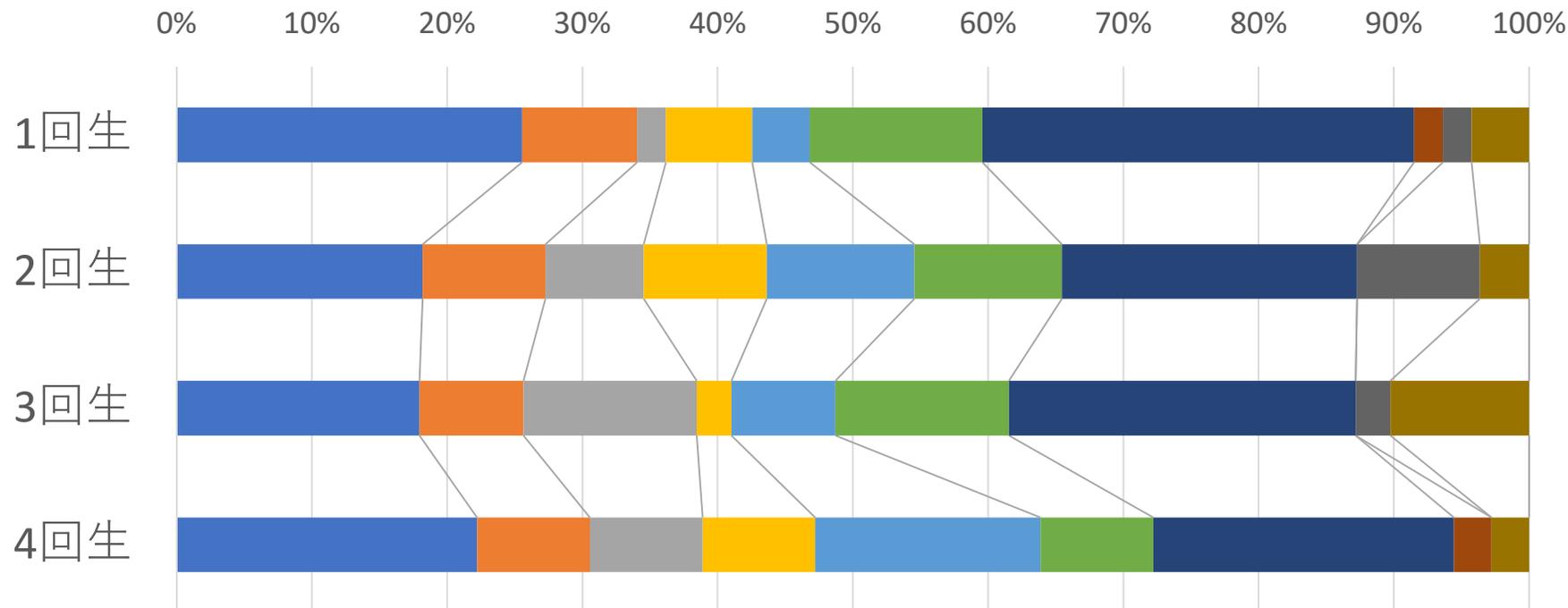
Q42. 休学考えたことがある × 学年



学年ごとの休学を考えた人の割合を示している。1~4回生は15~20%となっている。

Q60の満足度と似ており、2回生がわずかに多い傾向となっている。

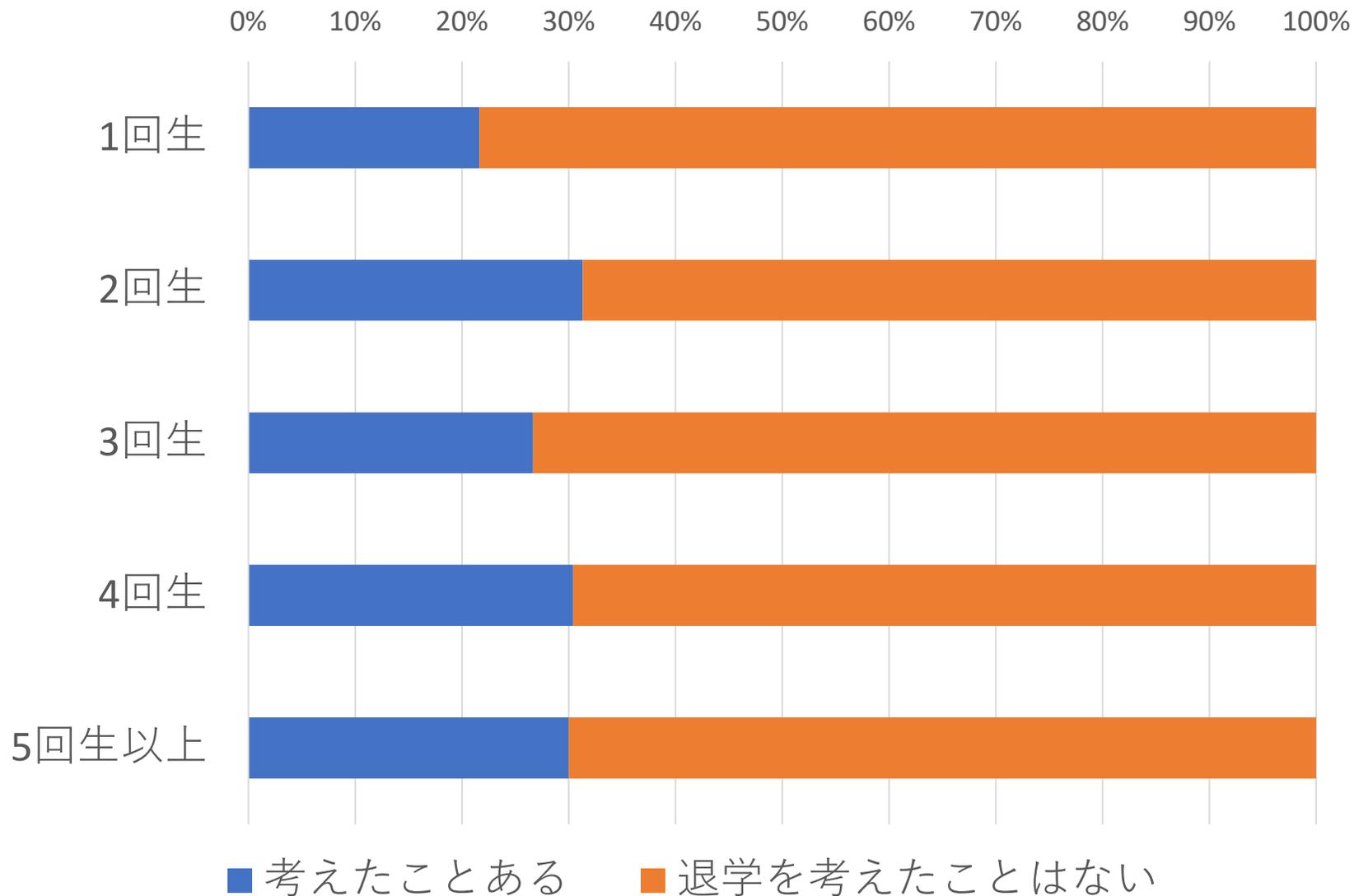
Q42. 休学考えた理由（考えた人のみ）×学年



どの学年においても、精神・心理学的問題と学修意欲低下が多い。2回生では理由が分散している。4回生になると経済的な問題がやや多くなっている。

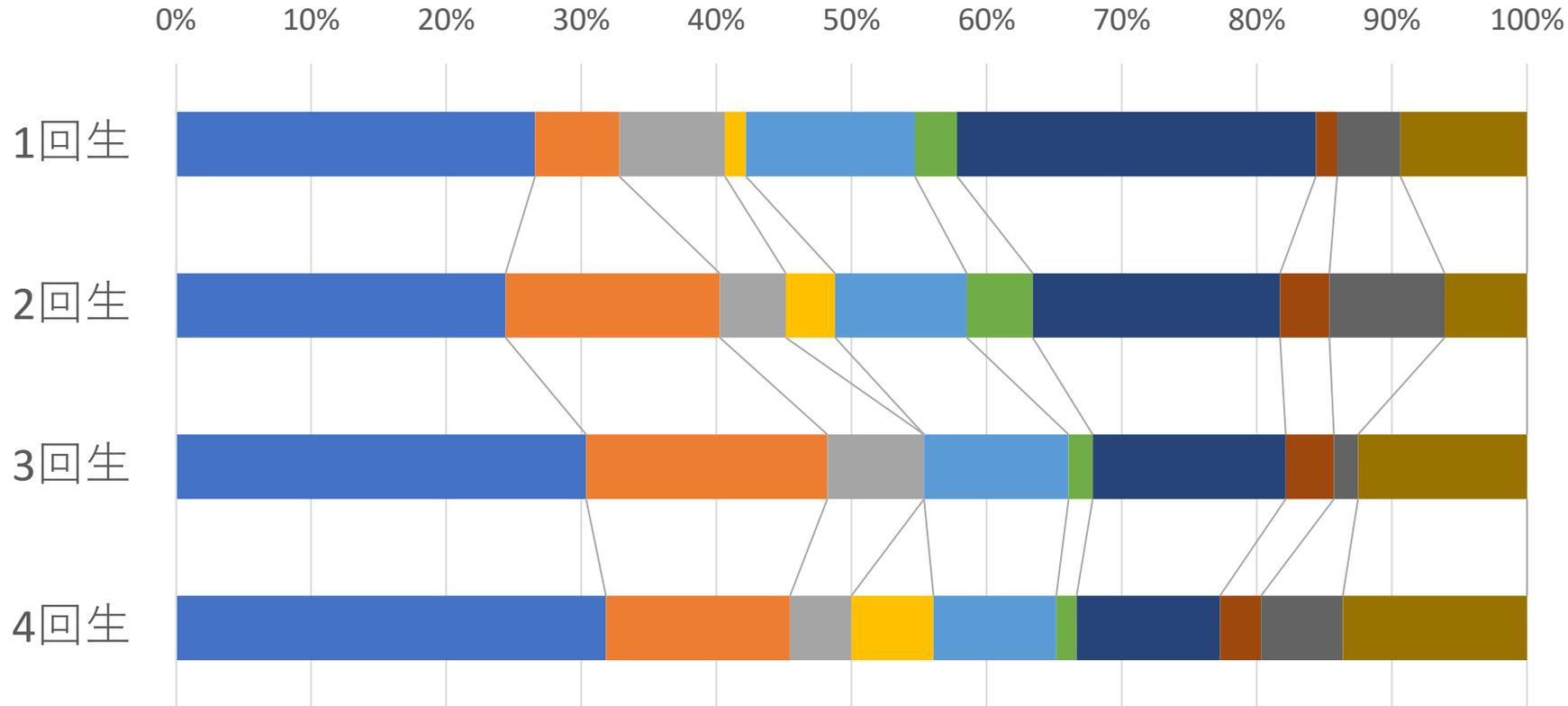
- 学修意欲の低下
- 進路変更（進学）
- 進路変更（就職）
- 海外留学
- 経済的問題
- 身体的健康上の問題
- 精神・心理的問題
- 友人関係
- 家庭の問題
- その他

Q44. 退学考えたことがある × 学年



学修意欲低下、精神心理的問題、進路変更（進学）、経済問題、が多めとなっている。精神心理は学年を追うごとに減少しており、その代わりに進路変更（進学）やその他の割合が増加している。学習意欲の低下の数は学年によって変化がみられない。

Q44. 退学考えた理由×学年



退学を考えたことがある人に絞って、その理由を集計したもの。

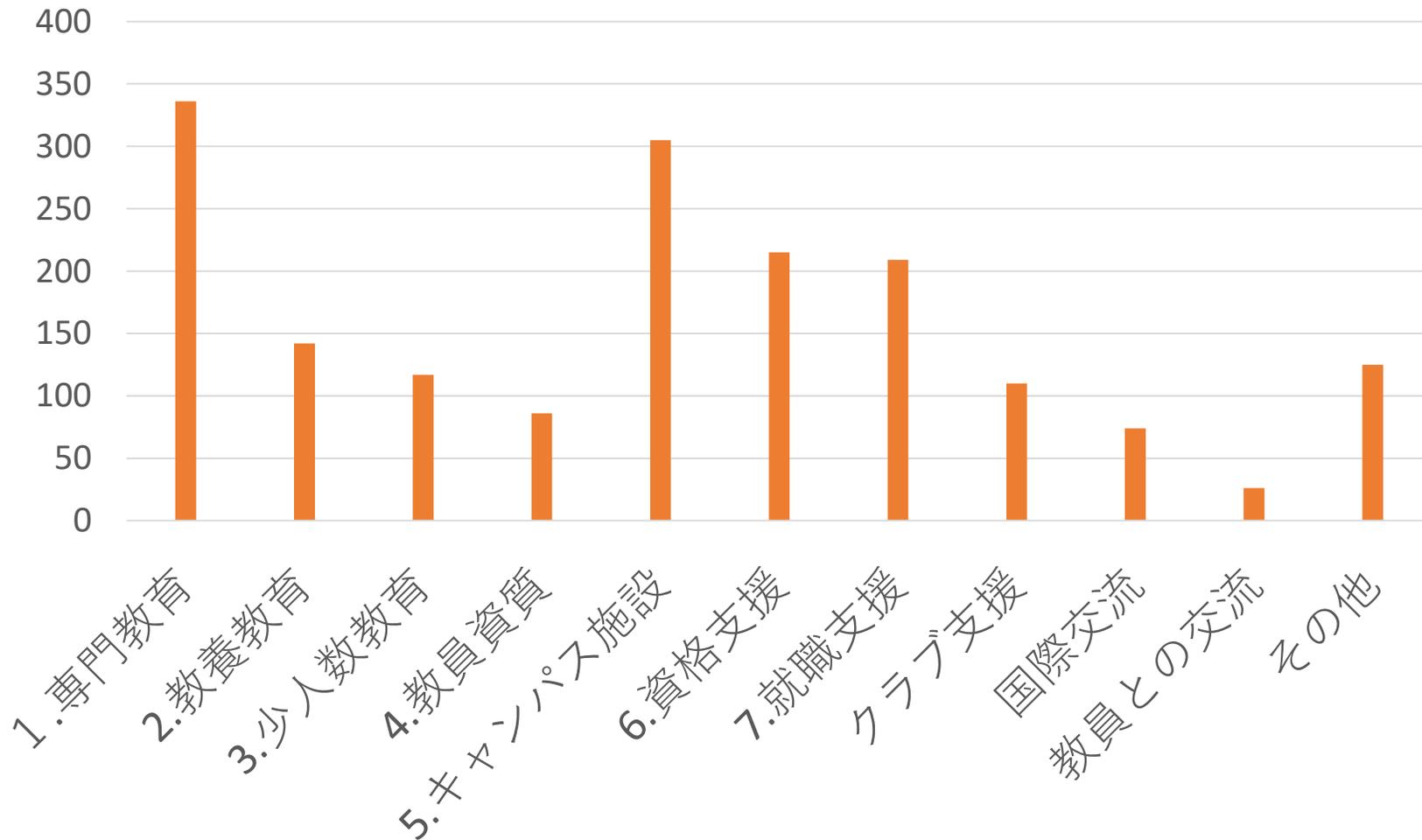
学修意欲低下、進路変更（進学）、経済問題、精神心理的問題が多めとなっている。

精神心理は学年を追うごとに減少しており、その代わりに進路変更（進学）やその他の割合が増加している。

- 学修意欲の低下
- 進路変更（進学）
- 進路変更（就職）
- 海外留学
- 経済的問題
- 身体的健康上の問題
- 精神・心理的問題
- 友人関係
- 家庭の問題
- その他

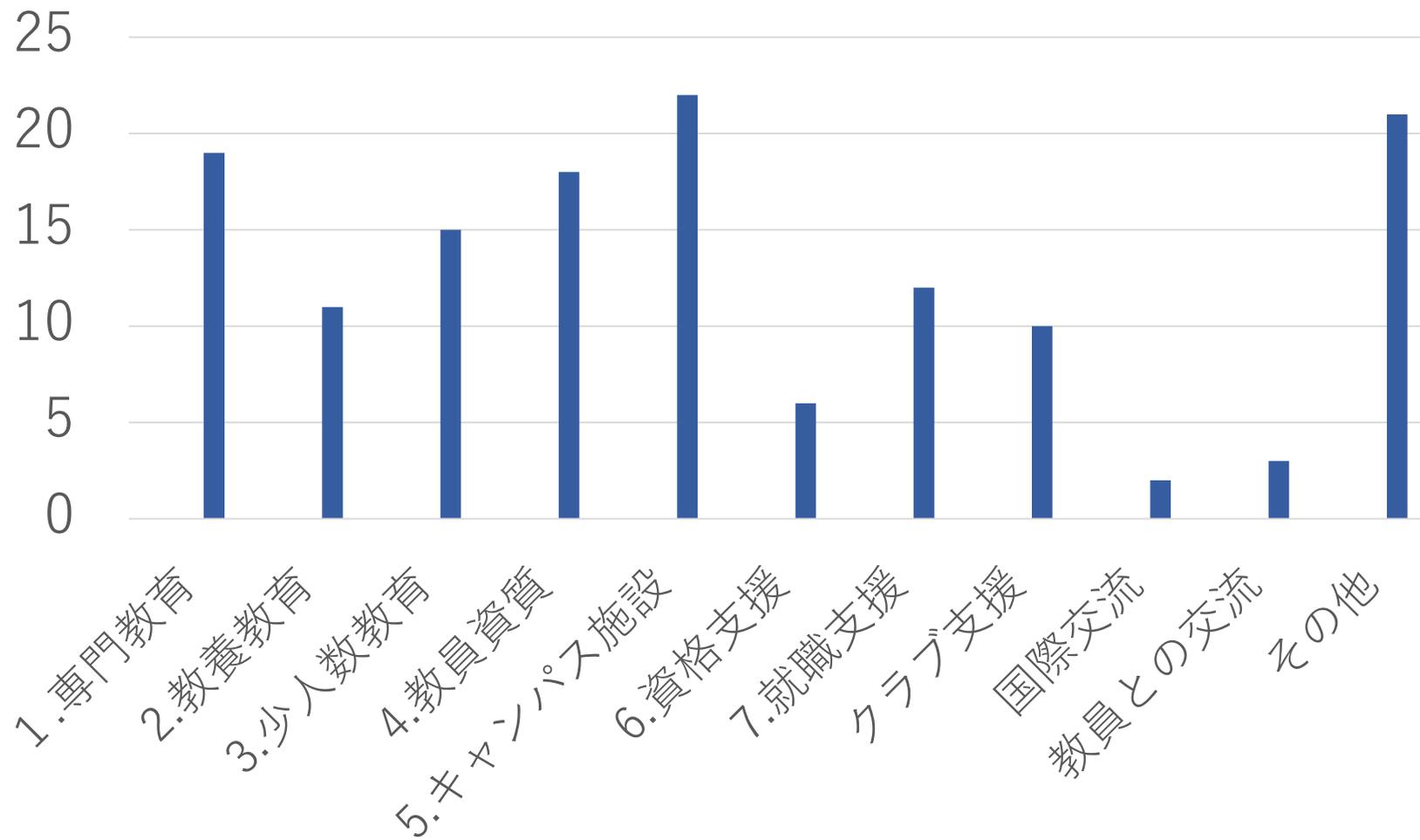
Q60 【満足度】 プラス評価

× Q62 【要望】



マイナス評価をつけた学生（全体の1割弱）の要望は、「その他」を除き、「キャンパス施設設備」が最も多く、次いで「専門教育の充実」が多かった。またプラス評価の学生とは異なり、「教員の資質向上」「少人数教育」、そのほか、の項目への要望が多いことがわかった。これらの改善が、不満を持つ学生からの評価向上につながる可能性が高い。

Q60 【満足度】 マイナス評価 × Q62 【要望】



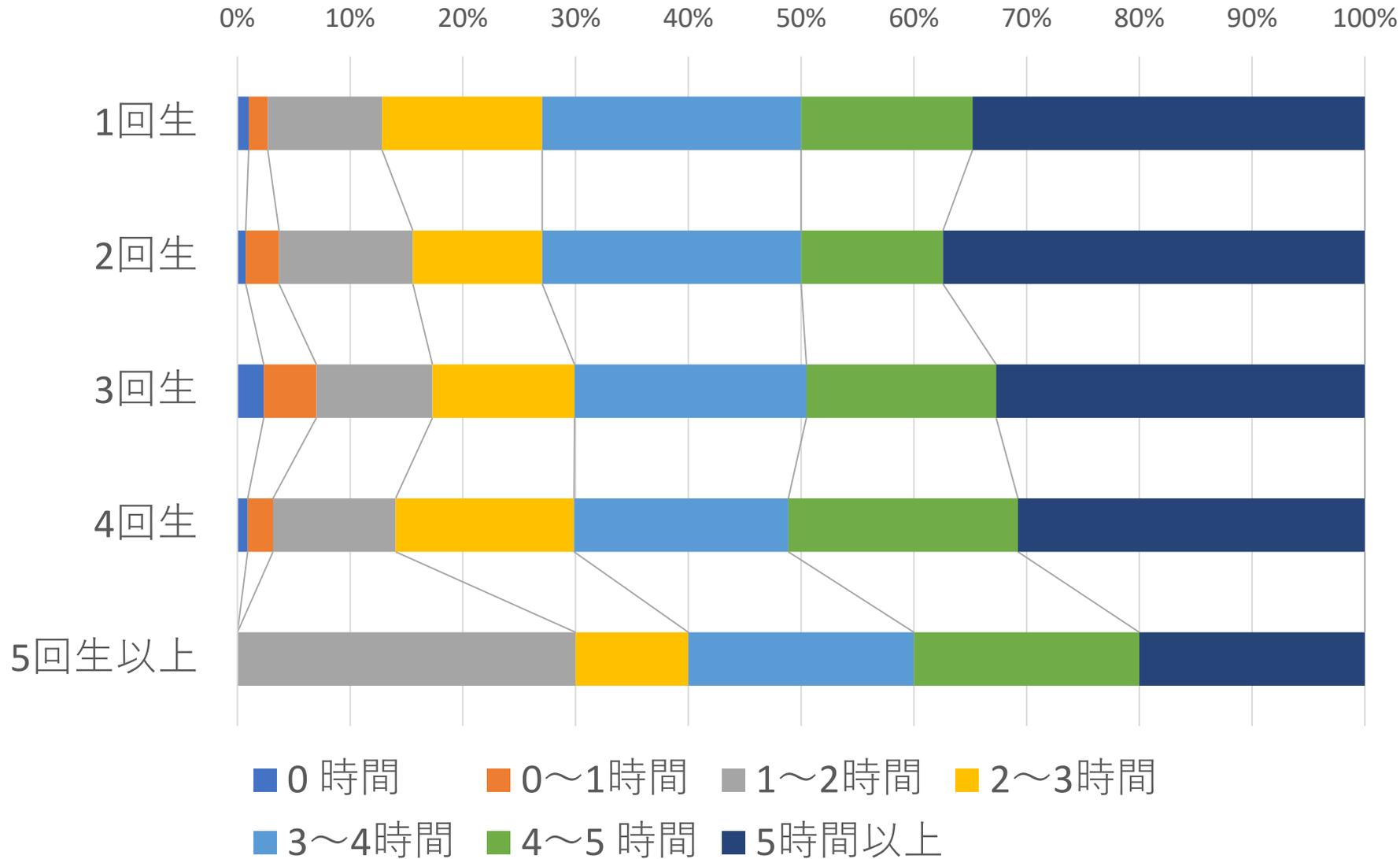
Q60 【満足度】の問いで、マイナス評価をつけた学生（全体の1割弱）が、Q62 【大学への要望】でどのような要望を持っているかを調べた。

マイナス評価の学生の要望は、キャンパス施設設備が最も多く、次いで専門教育の充実が多かった。

そのほかはプラス評価の学生とは異なり、教員の資質向上、少人数教育の充実、そのほか、の項目への要望が多いことがわかった。

これらの改善が、不満を持つ学生からの評価向上につながる可能性が高い。

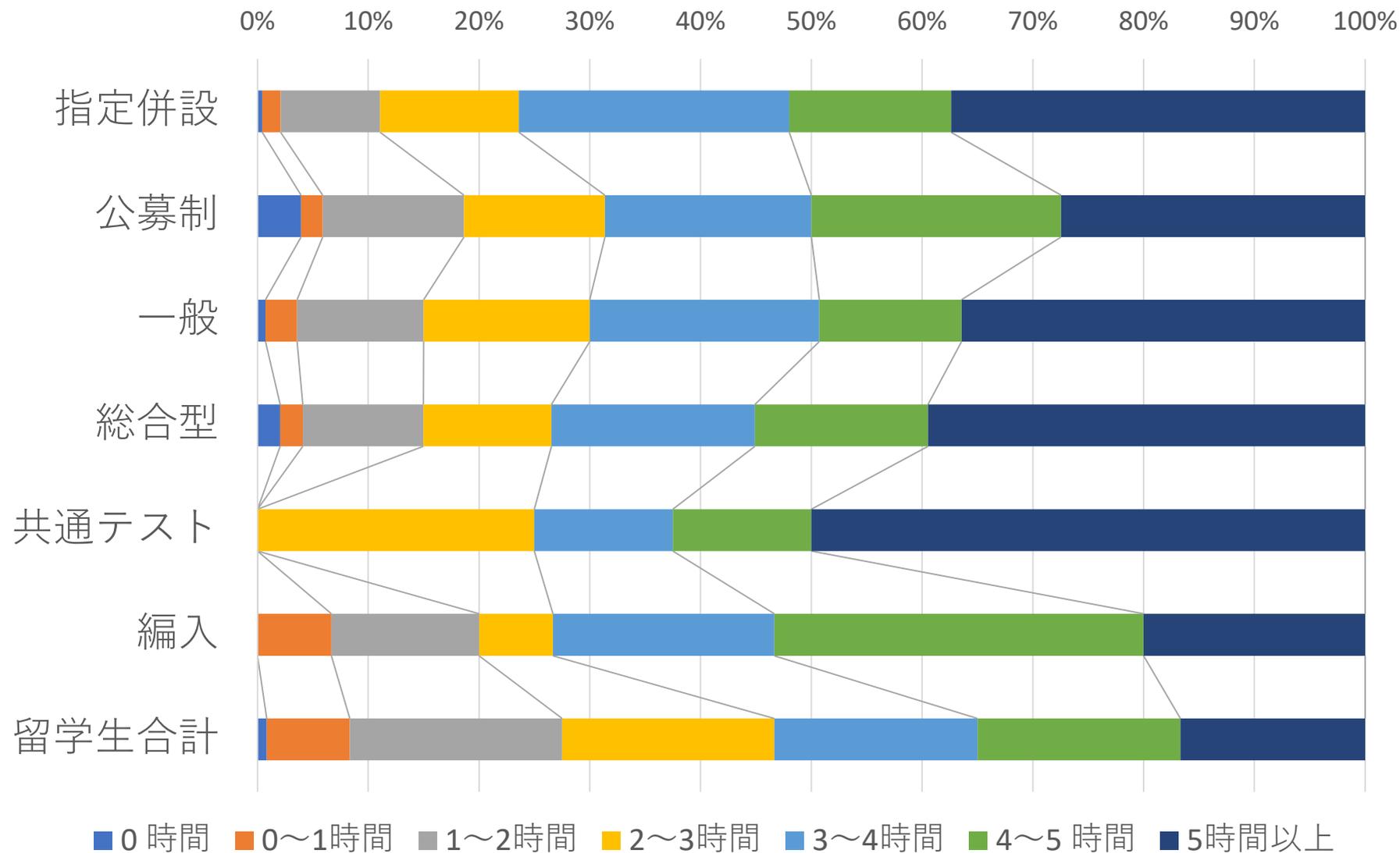
Q13-5. スマホ使用時間×学年



学年とスマホ使用の時間をみたもの。

学年による違いはあまりなく、全体的に似た傾向であることがわかった。

Q13-5. スマホ使用時間×入試種別



こちらあまり違いが見られなかった。5時間以上で、共通テスト利用者が多いように見えるが、数が少ないため、バラついている可能性があり、多いということはい切れない。